

第8回大津市立幼稚園再編等検討委員会 次第

日時：令和8年6月4日(木)

9時30分から12時00分まで

場所：大津市役所

本館4階 第3委員会室

1 開 会

2 議事

(1)大津市立幼稚園再編等計画の策定について

ア) 第7回委員会の振り返り

イ) パブリックコメント及び説明会の実施概要について

ウ) パブリックコメントの結果について

エ) 答申について

オ) 今後のスケジュールについて

3 閉 会

大津市立幼稚園再編等計画 の策定について

令和8年6月4日(木)

第8回大津市立幼稚園再編等検討委員会

目次

1	第7回委員会の振り返り	・・・	2ページ
2	パブリックコメント及び説明会の実施概要について	・・・	3ページ
3	パブリックコメントの結果について	・・・	4ページ
4	答申について	・・・	14ページ
5	今後のスケジュールについて	・・・	15ページ

1 第7回委員会の振り返り

1 主な意見等

詳細については、【資料2】第7回大津市立幼稚園再編等検討委員会議事録（要旨）を参照。

(1) 主な意見等は次のとおり

- ア パブリックコメント案の全体を通して
- ・図表のタイトルやデータの説明などを、分かりやすい表現に修正していただきたい。
- イ パブリックコメント案の第2章について
- ・特別な配慮を必要とする子ども達への対応について、これまでから力を入れて取り組んでいるという旨を表現してもらいたい。
 - ・幼稚園教育は、常に新しい課題などに向かって積極的に取り組んでいることから、「守ってきた幼稚園教育」という表現は訂正していただきたい。
 - ・幼稚園教育のあり方について記載している内容をもう少し分かりやすく整理していただきたい。
 - ・小規模の園での取組など、これまでの検討委員会で出された意見をパブリックコメント案に反映させていただきたい。
 - ・再編後の園の名称については、パブリックコメント案では仮称にした上で、歴史性や地域性、保護者の意見などを考慮して、慎重に検討することという脚注を付けるようにしていただきたい。
- ウ パブリックコメント案の第3章について
- ・公立園同士の再編等を検討する目的を記載した上で、市への提案という形になるように表現を工夫していただきたい。
 - ・中学校区ごとの各園の検討内容について、誤解が生まれないよう、表現方法を工夫していただきたい。
 - ・再編等の方向性一覧の表について、※印の使い方が分かりにくいので、工夫していただきたい。
 - ・幼稚園と中学校区の対応が分かりやすいよう、表現の工夫していただきたい。

2 パブリックコメント及び説明会の実施概要について

令和8年4月にパブリックコメントを実施し、併せてパブリックコメントの説明会を開催した。

	パブリックコメント	説明会
期間等	4月9日（木）～28日（火）	4月16日（木）・17日（金）・19日（日）
開催場所	-	和邇文化センター 生涯学習センター 市役所別館大会議室
対象		市民等
周知方法	・市ホームページ掲載 ・プレスリリース ・自治連合会長宛案内文を送付 ・市立幼稚園、市立保育園、市立認定こども園の保護者宛に案内文を配布 ・民間保育園、認定こども園、幼稚園、小規模保育施設等の施設長宛に案内文を送付 ・子育てアプリ「とも☆育」に配信 ・市公式LINEに配信	
提出方法	メール等、郵送、持参	-
結果	提出者 141者 意見の数 460件 ※具体的な内容は次頁以降を参照	参加者 延べ112名 質問・意見等については、【資料3】パブリックコメント説明会 議事録（要旨）を参照

3 パブリックコメントの結果について

1 意見の内容について

寄せられた意見の内容を分類すると、大きく11種類に分けられる。 ※ () 内の数字は意見の件数

- (1) 再編計画への反対と特定の幼稚園存続の要求 (91件)
・・・ 園の特徴、再編基準、予算削減・効率化、人口推計・園児数推計、検討の目的、アンケート
- (2) 代替案としての「認定こども園化」と「魅力向上策」の提案 (136件)
・・・ 認定こども園、預かり保育の拡大、給食、市外の施設に関すること
- (3) 通園の負担増大と安全性に対する意見 (56件)
・・・ 通園支援
- (4) 少人数教育の価値を軽視しているという意見 (47件)
・・・ 適正規模
- (5) 地域コミュニティや地域文化との関りが無くなってしまうという意見 (80件)
・・・ 地域との関わり、幼小連携
- (6) 計画プロセスの不透明さに対話不足に対する意見 (59件)
・・・ 検討経過、進め方
- (7) 特別な配慮を必要とする子どもに対する「セーフティネット」としての役割に関する意見 (21件)
- (8) 待機児童問題(全国ワースト)に対する意見 (23件)
- (9) 再編を前提とした強引な人事異動に対する意見 (8件)
- (10) 再編を容認する意見や迅速な実行を求める意見 (6件)
- (11) その他の意見 (58件)

3 パブリックコメントの結果について

2 主な意見等

結果一覧については、

【資料4】カテゴリー別の意見数及び主な意見内容と考え方及び

【資料5】大津市立幼稚園の再編等について(案)に対するパブリックコメントでの意見内容と検討委員会の考え方を参照。 ※ () 内の数字は意見の件数

(1) 再編計画への反対と特定の幼稚園存続の要求 (91件)

- | | |
|--------|---|
| 意見の概要 | 歴史や伝統があり、地域の核となっている園の存続を強く求める意見や、園児数や効率化のみを理由とした再編は、各園が持つ教育的価値や地域の心の拠り所としての役割を軽視しているとの意見が挙がっている。 |
| 考え方の概要 | 今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものである。
また、効率化などを目的としたものではない。 |

(2) 代替案としての「認定こども園化」と「魅力向上策」の提案 (136件)

- | | |
|--------|---|
| 意見の概要 | 再編の前に、給食の全面実施や預かり保育の拡充により保護者のニーズに応え、園の魅力を上向きさせるべきだという意見や、待機児童対策として、既存施設を活用した「認定こども園」への移行を求める意見も挙がっている。 |
| 考え方の概要 | 給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承る。
既に平成28年度の検討から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されており、その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、本検討を行っているものである。
認定こども園化については、貴重なご意見として承る。 |

3 パブリックコメントの結果について

2 主な意見等

(3) 通園の負担増大と安全性に対する意見 (56件)

意見の概要	再編による通園の長距離化は、子どもの心身への負担、保護者の送迎負担（時間・労力・コスト）、交通量の多い道路での事故リスクなど、安全性に対する意見が挙がっている。
考え方の概要	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めている。

(4) 少人数教育の価値を軽視しているという意見 (47件)

意見の概要	再編理由とする「適正な集団規模の確保」という考えに対し、少人数だからこそ可能な、一人一人の個性や発達に合わせた手厚い教育の価値が全く評価されていないという意見が挙がっている。
考え方の概要	本来幼稚園は「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を「1学級の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上」としたこれまでの大津市における検討結果を採用した。 適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらいの規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものである。 34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではない。 また、29ページに記載のとおり、「同年齢の集団」と「異年齢の集団」とでは得られるものが異なる点を考慮した教育を展開することを求めている。

3 パブリックコメントの結果について

2 主な意見等

(5) 地域コミュニティや地域文化との関りが無くなってしまおうという意見 (80件)

意見の概要	幼稚園が地域のお祭りへの参加や住民との交流、小学校との連携（幼小連携）など、地域コミュニティの核として果たしてきた重要な役割が、再編により失われるという意見が挙がっている。
考え方の概要	地域との繋がりについては、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えている。 小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではないことから、架け橋プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるよう努める必要があると求めている。

(6) 計画プロセスの不透明さと対話不足に対する意見 (59件)

意見の概要	保護者や地域住民への説明や対話が不十分なまま「再編ありき」で拙速に計画が進められており、丁寧な合意形成プロセスが必要であるという意見が挙がっている。
考え方の概要	関係機関や保護者、地域の方などの代表者で構成される検討委員会において、市全体の方向性として検討を行ったものである。 大津市では、20～21ページに記載のとおり、これまでから部分的に規模の適正化を行ってきたが、10ページに記載のとおり、近年、市立幼稚園の規模の縮小が急激に進んでいることを受けて、改めて全体最適の観点で検討を行った。 なお、54ページには、当事者である保護者への説明会などの機会を通じて、丁寧に進めていくことを求めている。

3 パブリックコメントの結果について

2 主な意見等

(7) 特別な配慮を必要とする子どもに対する「セーフティネット」としての役割に関する意見 (21件)

意見の概要	市立幼稚園が担ってきた、特別な配慮を必要とする子どもを積極的に受け入れる「セーフティネット」としての役割が、再編によって失われるという意見が挙がっている。
考え方の概要	特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討するよう提案をしている。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されている。

(8) 待機児童問題 (全国ワースト) に対する意見 (23件)

意見の概要	大津市が「待機児童数全国ワースト」という状況にありながら、公立の教育・保育施設である幼稚園を削減するのは政策として矛盾しており、理解に苦しむという意見が挙がっている。
考え方の概要	本検討は、待機児童対策とは異なるものである。 なお、待機児童の95%以上は0~2歳児となっており、幼稚園に通われている3歳児以上の待機児童は、ほとんど発生していない。

(9) 再編を前提とした強引な人事異動に対する意見 (8件)

意見の概要	再編対象の園で、多くの教職員が一度に異動となり、これは子どもの心情を無視した再編強行のための地ならしではないかという意見が挙がっている。
考え方の概要	人事に関しては、当検討委員会では関与していない。

3 パブリックコメントの結果について

2 主な意見等

(10) 再編を容認する意見や迅速な実行を求める意見 (6件)

意見の概要	少子化や共働き世帯の増加といった社会情勢から再編の必要性を認め、その上で、基準を明確にし、迅速に計画を進めるべきだという意見や、通園バスの導入といった具体的な支援策を求める意見が挙がっている。
考え方の概要	検討委員会でも早急に進めるほうがよいのではと議論されたが、保護者等への説明に時間が必要なことから、原案のとおりとする。 通園バスの導入といった具体的な支援策については、貴重なご意見として承る。

(11) その他の意見 (58件)

意見の概要	説明会に関する意見 (資料がプリント1枚で分かりにくい、開催案内から日程が短すぎる、市の回答が「検討します」「配慮します」といった抽象的な表現に終始したことなど) 市立幼稚園の魅力や取組などを広く広報し、園児数の増加を図るべきであるという意見 (アピール不足など) 跡地利用に関する意見 統廃合後の園舎を、親子が安心して過ごせる子育て支援の拠点として有効活用してほしいという意見 市立幼稚園に留まらない、就学前教育・保育全般に対する意見 未就園児を持つ家庭や孤立しがちな保護者にとってセーフティネットになっているという意見 幼稚園教諭の処遇問題に対する意見 小学校の再編検討に関する意見
考え方の概要	広報についての課題は、検討委員会でも意見が出されている。 跡地利用及び子育て支援全般については、ご意見として承る。 職員の処遇及び小学校に関することについては、当検討委員会では検討していない。

上記までの、意見に対する考え方について、ご審議をいただきたい。

3 パブリックコメントの結果について

3 ご意見を踏まえ反映しようとするもの

結果一覧については、

【資料4】カテゴリー別の意見数及び主な意見内容と考え方及び

【資料5】大津市立幼稚園の再編等について（案）に対するパブリックコメントでの意見内容と検討委員会の考え方を参照。

(1) 再編計画への反対と特定の幼稚園存続の要求

意見の概要	園庭や自然環境などに特徴があり、残してほしい。
考え方の概要	各園の特徴については、こどもの育ちの観点から、各園の良い環境を継承できないかなどの意見が出ていることから、「第3章基本的な再編等の計画」に追記を行う。
意見の概要	1度10人を下回っただけで第1段階に分類されることはおかしい。園児数の中長期的な傾向を考慮すべきである。
考え方の概要	1度でも10人を下回る場合は第1段階として判断を行った旨を明記する。また、令和8年度以降の推移については、51ページ以降に記載の「検討経過と概要について」の部分で検討を行っていることを追記する。
意見の概要	子どもを増やすために、子育てしやすい街づくりを行うことが本来の行政の役割ではないか。
考え方の概要	ご意見については、今後の参考とさせていただきます、市担当所属とも共有します。

3 パブリックコメントの結果について

3 ご意見を踏まえ反映しようとするもの

(2) 代替案としての「認定こども園化」と「魅力向上策」の提案

意見の概要	認定こども園化を求める意見（市立幼稚園単独、市立幼稚園と市立保育園の再編）。
考え方の概要	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。
意見の概要	市立幼稚園の園児数を増やす取組を行うべきである。
考え方の概要	これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記する。
意見の概要	給食を実施して、預かり保育を拡大すれば園児数は増えるはずである。
考え方の概要	保育園等への申込数は、0～2歳児で約76%を占め、3歳児での申込は約17%（新規申込に限定すると、約10%）に留まっていることから、就労要件のある保護者は子どもが0～2歳児の時に保育園等に入園希望される傾向にあることを追記する。

3 パブリックコメントの結果について

3 ご意見を踏まえ反映しようとするもの

(3) 通園の負担増大と安全性に対する意見

意見の概要 通園バスの導入や近隣保育園等での受け入れなどの代替措置が必要である。

考え方の概要 転園を希望される家庭への対応についてのご意見として、市担当所属とも共有します。

(4) 少人数教育の価値を軽視しているという意見

意見の概要 再編により規模が大きくなった場合、園児数に見合う教員の数を確保する必要がある。

考え方の概要 当然適切な人員配置が必要であり、市担当所属とも共有します。

(5) 地域コミュニティや地域文化との関りが無くなってしまおうという意見

意見の概要 小学校との連携が図られており、小1へのスムーズな接続が可能となっているが、これらが再編により失われる。

考え方の概要 市立幼稚園が中心となって取り組んでいる架け橋プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるよう努める必要があると求める。

(6) 計画プロセスの不透明さ対話不足に対する意見

意見の概要 平成28年度からの検討の経過について明記すべきである。

考え方の概要 検討経過を明記する。

3 パブリックコメントの結果について

3 ご意見を踏まえ反映しようとするもの

(7) 特別な配慮を必要とする子どもに対する「セーフティネット」としての役割に関する意見

意見の概要 特別な配慮を必要とする子どもに対する対応は、市立幼稚園が担ってきた役割である。

考え方の概要 特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討する必要があると考えており、支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要がある。

(10) 再編を容認する意見や迅速な実行を求める意見

意見の概要 市立幼稚園の選択制について、より活用しやすくするべきである。

考え方の概要 市立幼稚園における学校選択制については、現在も実施しているものの、ご意見を参考に、より充実した利用しやすい制度となるように、市担当所属とも共有します。

上記までの反映しようとする内容について、修正案は、【資料6】大津市立幼稚園の再編等についてを参照。

上記までの反映しようとする内容及びその他に反映すべき内容などについて、ご審議をいただきたい。

4 答申について

答申については、下記資料に第8回検討委員会での議論の内容を反映させた上で行う。

【資料6】(修正案) 大津市立幼稚園の再編等について

【資料7】大津市立幼稚園の再編等について(答申)(案)

それぞれの記載内容について、審議をいただきたい。

5 今後のスケジュールについて

今後のスケジュールの想定は、次のとおり。

時期	内容	検討委員会
6月4日(本日)	パブリックコメントの結果報告 答申案の審議	第8回検討委員会
~6月19日(金)	パブリックコメント結果及び答申案修正 検討委員確認	
7月上旬	答申	
~8月末	計画策定	

第7回 大津市立幼稚園再編等検討委員会 議事録（要旨）

- 1 日時 令和8年2月12日（木）14時00分～16時00分
- 2 会場 平野コミュニティセンター 2階 第1会議室
- 3 出席者 委員 山縣委員長、中井副委員長、井上委員、大橋委員、狩野委員、小森委員、佐竹委員、
中森委員、早藤委員
（欠席）藤井委員
事務局 こども未来部次長、こども・若者政策課長、課長補佐、
政策推進係係長、政策推進係主査、政策推進係主任、
幼保支援課長補佐、幼児教育指導監、保育指導監、市立幼稚園園長

4 傍聴者 なし

5 議事

- (1) 大津市立幼稚園再編等計画の策定について

6 会議録（要旨）

- (1) 議事

※議事の公開・非公開については、公開とされる。

委員長：まず最初に前回の振り返りを事務局からお願いします。

事務局：資料に基づき説明

委員長：只今の事務局の説明について、質問や意見があれば、発言をお願いします。
～特になし～

委員長：次に、パブリックコメント案の第1章について、事務局から説明をお願いします。

事務局：資料に基づき説明

委員長：只今の事務局の説明について、質問や意見があれば、発言をお願いします。

委員長：中身とは全く関係ないのだが、形式的なところで、3ページの図1の下に「就学前児童数と…」とタイトルがあり、グラフの上にも同じように「就学前児童数と…」と見出しが残ってしまっている。他にもそういったところがあるので修正してほしい。

また、4ページの図2で「中学校区別の人口推移」とあるが、これは平成26年を起点とした増減比ということだと思うので、表現を見直してほしい。

それから、23ページの表8は「新入園児の推移」となっているが、これを預かり保育の拡大の成果として見ていいのかどうか。タイトルと合っていない表現になっている。新入園児の事実が書いてあるので、ここに書いた方がいいのか、現状のところに書いた方がいいのか。あまり動かすのも大変なので、できればタイトルを変えてこの位置で処理できる

ような形にしてはどうか。

まとめは皆さんの意見が反映されていると思うので、中身の修正の話ではない。

委員：5ページの母親の就労状況について、今回調査が令和5年度だと思うが、前回と前々回が何年くらい前なのか知れたらより分かりやすいと思う。

あと、13ページの5行目のただし書きは、保育園を利用している人は含まない、希望している人は含むという意味なのか。

委員長：いずれも誤解を招かないような表現にしてほしいというご意見ということで、5ページのところは、それぞれに括弧を入れて年度を入れたらいいと思う。

事務局：調査年としては、一番新しいものが令和5年、その前が平成30年、そしてその前は平成25年である。

13ページの「調査対象者が市立幼稚園の利用者や希望者に限定したものではない」というのは、大津市民の方を全数調査ではなく無作為抽出して調査しており、無作為抽出した方が必ずしも幼稚園を利用されている方といったわけではなく、施設に入られていないご家庭もあれば、保育園を利用されている方もおられる、という意味合いで書かせてもらっている。少し表現を工夫させていただく。

委員長：その説明の方がとても分かりやすい。

今のようにいくつかの修正はあるが、本質的な修正ではないので、事務局の方に預けさせていただく。パブリックコメント前に修正版を配布していただくということをお願いしたいと思う。

続いて第2章（1）について、事務局から説明をお願いします。

事務局：資料に基づき説明

委員長：只今の事務局の説明について、質問や意見があれば、発言をお願いします。

～特になし～

委員長：続いて第2章の（2）について、事務局から説明をお願いします。

事務局：資料に基づき説明

委員長：只今の事務局の説明について、質問や意見があれば、発言をお願いします。

委員：29ページの「キ 特別な配慮を必要とする子ども達への対応」のところで、2行目から3行目にかけて「十分に検討する必要があります」と書いてあるが、大津市の幼稚園では特別な配慮を必要とする子どもへの教育にとっても力を入れていたりする。これだと今から何かやるというような表現になってしまっているの、「これまで同様に」といったような形に修正してもらいたいと思う。

委員長：これも事実に基づく指摘であると思う。例えば「実績を踏まえ引き続き検討する」というような、今までもやっているというような表現にしてもらえたらと思う。

- 委員：27ページの「守ってきた幼稚園教育」というところで、守るのではなく、幼稚園教育は常に新しいものを求めながら、国の方針に従ってとても頑張っている。守っていない。そこは少し語弊があるかなと思う。何もしないで前からのことが良いと思ってやってきたというふうにとられるのはとても残念なので、常に国の方針や新しいこと、課題に向かって積極的に取り組んできている幼稚園教育であると訂正していただけると有難い。そうすると下の文章も変わってくるところがあるのかなと思う。
- 委員長：これまで頑張ってきたという事実はしっかり書いた方がいい。そんなふうに委員会は認めてくれているよねというふうに、実績をしっかり認めるという記載にしていればと思う。
- 委員：ア、イ、ウ…の「教師は」が主語になるところで、「提供していく必要があります」となっているが、「提供していきます」ではないのかなと思う。
- 委員長：全体で気になるところがあるのだが、今ご指摘があったところはそのままがいいと思っている。理由は、主語が誰かということ。大津市を主語にすると決意事項として「いきます」、委員会が主語であれば「必要がある」からやってねとなる。市を主語にした方がいいのか、委員会を主語にした方がいいのか。
- 委員：主語が教師なので、少し読みにくいというか、他人事に聞こえないかなと思った。「教師は」なので「していきます」の方がしっくりくるなと思う。
- 委員長：提案型にするか、市の決意表明のようなもので書くかで変わってくる。全部整えるのは難しいなと思う。
- 委員：例えば、力では「取り組んでいきます」と書いている。
- 委員長：両方で読めるものもあるし、どう見ても市で読めるものもあるし、委員会で読めるものもあるしでなかなか難しい。これを今一個一個検討するのは不可能に近いので、考え方だけ意見を聞いてみたい。主語は事務局的にはどうか。
- 事務局：確かに計画を作るときには委員長がおっしゃるように決意表明的な形でいくことが多い中で、このパブリックコメント案では、一般的に、教師はこういう必要がありますよねということを書いている形である。例えば、「一人一人の発達特性に応じた幼稚園教育」のところでは、一人一人の発達特性に応じたことをしようとする、教師はこんな必要がありますよねというのを一般的に書いたような形で、そういう表現になっている。
- 委員長：ここに関しては両方どちらでも読めるということ。
- 委員：大きなくくりで見ると、27ページの4行目に「本市の市立幼稚園としては」と、ここに主語的なものが入っている。
- 委員長：全部市を主語にしてしまうと、基本は100%全部やることになる。これは委員会で提案して、状況によっては市の方で変わることもあるという形で今まで議論してきたと思う。

そうすると、計画に大きく影響するようなところで市を主語にすると、そうしなければいけないとなるのは少し微妙ではないかと思う。これを踏まえてもらって、どうしても叶わないところについては状況によって変化していくのは仕方がないというのが、委員会の今までの進め方だったと思う。

委員：そこがとても難しくずっと悩んでいたのだが、委員会としてすべて責任を持つというのは少しおかしいと思う。ある一つの考え方を精査して、こういうことがいいんじゃないですかと提言をしたり提案をしたりしているのが委員会で、最終的には市が決めるものだと思う。委員会が言ったことを市が全てしてくれるわけではない。最終は行政が、この答申を受けて変わっていくこともあり得るので、委員会が表に出て全部やるんだというのではなく、少しその表現のニュアンスを考えた方がいいと思う。

委員：2ページの「計画を策定するものです」という表現も変えた方がいいのか。

委員長：「策定する必要があります」とすると少し緩やかになる。そうすると、これを踏まえてやったださいねというニュアンスになる。

では、今までの議論を踏まえた形で、委員会の決定を市が最終的にはどう受けとめて判断するか。その際に委員会の意向をあまり軽視してもらったら困るということで、これは事務局の方で全体の文言を精査してもらって修正をお願いしたい。

委員：27ページの文章も少し違うかなというところがあるので、もう少し精査してもらえたらと思う。例えば、「イ 遊びを通した学びを大切にする幼稚園教育」で同じようなことが何度も書いてあるようなところがあったり、社会的スキルの表現だったり、ここはもう少し整理できるかなと思う。

委員長：そのあたりも含めて、委員の意向があるので趣旨は変えないということで、より分かりやすく、適切な表現に見直してもらいたい。かといって専門用語ばかり使うのは、市民向けの報告書でもあるので、難しい言葉は避けながら、そういう形で全体的な修正になるがよろしくをお願いしたい。

続いて第2章の(3)について、事務局から説明をお願いします。

事務局：資料に基づき説明

委員長：只今の事務局の説明について、質問や意見があれば、発言をお願いします。

文末の表現については、先程のように再検討、見直しということでお願いしたい。

続いて第2章(4)から(7)に当たる、32ページから35ページまでについて、事務局から説明をお願いします。

事務局：資料に基づき説明

委員長：只今の事務局の説明について、質問や意見があれば、発言をお願いします。

これは、前までの基準から見方によっては大きく変わるというところを、委員の提案に基

づき整理していただいているところになる。

委員：少し矛盾するかもしれないが、読み方によっては、もしかすると小規模の園の方々は良くない保育をしていたのかと感じられるかもしれないというところがあって、本当は多い方がいいのだけれども、小さいからといって良くない保育をしてきたわけではなく、保育は頑張ってきた、保障しようと努力してきた、けれどもやはり多い方がいいんだという、小規模はだめという表現にならないようにしていただけたらと思う。

委員長：これも前回の委員会で意見が出ていたと認識している。小規模でも頑張っていたいて、一緒に工夫しながら取り組んできたという、そういう現場の方々とか利用された親子に対して否定的にならないような配慮をお願いしたいと思う。

新たな追加意見ということではなく、今まで出ていた意見で、十分表現できていなかった部分を追加いただくという形で修正をお願いできればと思う。

続いて、第2章(8)から(10)に当たる36ページから40ページについて、事務局から説明をお願いします。

事務局：資料に基づき説明

委員長：只今の事務局の説明について、質問や意見があれば、発言をお願いします。

委員：大津幼稚園が138年程の歴史があるが、この計画ではなくなってしまうことになっている。大津幼稚園自身が、中央小学校の横にあり、部屋が拡大できるような立地条件ではない。歴史的には大津幼稚園は日本で3番目か4番目の幼稚園で、その名前がなくなってもいいのかと心苦しく思っている。市としてもそのあたりはどうなのだろうと思う。場所は今あるところでもなくてもいいが、検討する今後の課題の中に、なくなる園をどういうふうに残すのか、平野は平野で残すのかといった色々な議論があると思うが、新しい園に統合される場合の名称について、各園が持つ歴史的な背景をどう捉えたらいいのかなと考えている。事務局としてはどのように捉えているか教えてほしい。

事務局：今、事務局としてこうだという案はないが、今までみたいに、2つの園を1つにして名前を並べるとするのは、例えば3つの園が再編して並ぶとどうなのだろうとは思っている。全国の状況も見ていると、第1幼稚園、第2幼稚園みたいに付けられているところもある。新たな名前を考えて付けるのもなかなか難しいのかなという思いもある。大きい方の園に統合されるということであれば、そちらの園の名前を主たるものにしてやっていったらよいかといった案は市も出せると思うが、やはり保護者の方、地域の方、先生方の考え方もあって、今どうするのかとこの計画ではなかなか言いにくいところかなと思う。書けるとしたら、園の名前についても勘案しながらやっていくような形で答申をいただけたら、市として考えていくという形になるのかなと思う。

委員：近畿のそれぞれの園で歴史のある園はどこですかと聞いたところ、その当時のままの美し

い園舎で残っていて歴史を感じるところもあれば、どこどこ園とどこどこ園が統合して、でも今その園はないんですといったことを言われることもあったりすると、それぞれ地域の方や保護者の方の思いもあるので、ここで結論は出ないかもしれないが、丁寧に考えた方がいいのかなと思うところではある。

委員：名称までは考えにくいですが、各園が持つ歴史的な背景というところを期待したい。地域の方は絶対大津を残してほしいと言われると思う。大津市の幼稚園教育で何かを残してほしいと言ったら大津幼稚園の歴史。今の場所には無理だが、そういったものを何かの形で残してほしいと思う。

委員長：50ページの表のところで、まず仮称にしておくことと、名称については、歴史性や地域性や保護者の方と協議しながら決めてほしいというような脚注を付けてはどうか。もしこれでもハレーションが起こりそうだったら、合体して1つになって片方が吸収されたようにならないように、ABCとか仮称で記載して、欄外で補足しておくか。

委員：大津は県庁所在地で、小学校に大津小学校はないが、幼稚園はせっかく大津の名前が付いているところがあって、統合して一緒になって、今の大津幼稚園の場所では難しかったら、札幌時計台のような記念館的なところで残していくようなこともいいのかなと思った。名前は、そこが大津幼稚園になると、本当にやっている幼稚園の方がどうなのだろうとも思うが、なるとすると大津平野幼稚園とか、少し長くなるが、他にも長い名前のところはあるので、大津の中心部ということで大津という名前を残すのもいいのかなと思った。どの幼稚園も思い入れがあって、なくなることは本当に地元の者にとって悲しいことなので、そういうふうな名前の付け方も検討されてはどうかと思った。

委員長：脚注にコメントを入れて、慎重に良いものを考えていただくというふうにしたい。2つの名前を並べるという前例もあるし、ただこれが3つも4つも並ぶとどうかというところもある。

委員長：第2章をいくつかに分けてご議論いただいたが、2章についてはそのような形で全体を修正していただくということでお願いしたい。

次に、第3章について、事務局から説明をお願いします。

事務局：資料に基づき説明

委員長：只今の事務局の説明について、質問や意見があれば、発言をお願いします。

委員：公立園同士の再編はいつごろから検討するのかがこれを読んで一番気になると思うのだが、そこは書かないということか。

事務局：現状だけお話をさせていただくと、まだ何も決まっていない。一方で、これまでに委員からもご意見があったとおり、ゆっくりしていいのかということはあるので、当然この計画ができ次第、保育園側とも一緒に協議を進めていかないといけないということになる

と思う。

委員：その関連で、こども・若者支援計画の中で、量の見込みが違うブロック割りで書いてあって、それと再編計画との重なりは、どこでどんなふうに生かされていくのか。園児数の推移や人口推移を見れば分かるのかなと思うが、それが今後の公立同士の話に絡まってくるのかなと思った。

事務局：量の見込みの方が7ブロックごとの算出しかしていないので、幼稚園の検討を7ブロックに対応するようにお示しする形かと思う。

委員：再編基準に達していないが、公立園同士の検討を行うという園について、その地域は待機児童があり、人口の減少の傾向から必要があるからという見通しがあると感じるが、このパブリックコメント案だけ見ると、再編基準に達していないのに突然現れてくるのが、初めて見る人に不自然に感じるかなと思った。

事務局：こども・若者支援計画の量の見込みについて、原則として量の見込みが足りていないというのは、中部ブロックなどの保育園の部分である。そこについては、保育園を新設したりして対応していこうとしている。一方で、1号認定が足りていないところはなく、新しく幼稚園の枠を増やすことはない。例えば、公立の幼稚園と保育園を一緒にしても、幼稚園の枠も保育園の枠も増えるわけではない。こども・若者支援計画上は、新しい保育園を公募して対応していくという形をとっている。公立の幼保を一緒にして保育園の枠を増やすと、こども・若者支援計画との整合性が図れなくなる。

委員：公立同士のあり方を検討していくというのは、どのようなイメージか。

委員長：認定こども園化を指しているのでは？

事務局：認定こども園化も含めて検討していくことになる。

委員：認定こども園になれば保育園部分が増えると思っていたが、そうではないのか。

事務局：そうではない。

委員長：待機児童がない状況と、出生数があまり増えない現状から考えると枠の移動にしかすぎず、保護者の方がどの枠を選択するかになり、絶対数は変わらないという前提で考えないといけないと思う。

委員：幼稚園に行こうと思っていた方が、もう少し早くそこに通おうと思うということか。

委員：保護者にとって、認定こども園のメリットは、保育園枠と幼稚園枠を行き来できることである。幼稚園枠の方が、仕事がしたいと思ったときに、施設を変わずに、そのままの施設で保育園に行ける。逆に、保育園枠の方が仕事を辞めたとき、本来は保育園を辞める必要があるが、幼稚園枠に移動できる。それが最大のメリットで、人数的な枠はあまり変わらない。

委員：このパブリックコメント案だけでは何のために検討するのか分からず、ただ隣接している

から一緒にするみたいな表現であるから、今おっしゃった最大のメリットのためにとか、保護者のためにとか、社会的ニーズに応えるためにとかを記載してほしい。

委員：質的なもの、子ども自身が同じ教育・保育が受けられるメリットもある。

委員：少し細かいことになるので、そこまで記載しなくてもいいかもしれない。

委員：48ページと50ページが繋がっていると思う。48ページには各学区の検討内容が書かれていて、50ページの表にも※印が書かれている。勝手に検討委員会がこういうことをする必要があると捉えて出しているのではなく、市全体としてこれを考えないといけない。それをどう表記するか。表の下に再編等の方向性という項目を立ててみるのもいいかもしれない。

委員長：「公立保育園とのあり方を検討することも考えられる」と市に投げかけるという方法もある。市で考えてくださいと。その時に、基準に達していないのでやりませんという判断もあり得るし、基準に達していないが近くに公立保育園があるから認定こども園化もあり得る、それを考えてくださいという形の表現で、委員会として残すこともできる。こども園化もあり得るという立場にできる。時代状況で、おそらく5年後には、保護者の認識が変わってきている可能性が高いと感じる。周りが認定こども園化をしてきて、1号から2号に簡単に変わるんだと、施設変わらなくてもいいんだと、2号になるときにもそんなに長い時間働かなくても保育短時間認定があるのであればやってくださいと、という形で保護者の認識が変わる可能性がある。あまり限定的に書いて、委員会の意向はできるだけ尊重してくださいとなると、変えづらくなる。

委員：長等幼稚園の部分の「環境が素晴らしい」について、素晴らしいという形容詞はいらい
のでは。環境が良いのは、他の幼稚園も全て素晴らしい。

委員長：同じようなところで、大津幼稚園のところ、読み方によっては、「歴史がある」だけを読んでしまうと、他の園にも歴史がある。「最初の幼稚園という歴史」という意図だと思う。歴史や環境のことなどを考えたら、始まる前の部分に、色々共通の部分として、それぞれ与えられた環境の中で工夫しながら、教育・保育をされてきた、歴史を積み重ねてきましたというふうに、共通で表現できるところを一段落くらい書いて、更に、特徴や特筆すべきことを書いていきますというように個々の話に入っていくってはどうか。

委員：大津幼稚園は、大津の幼稚園の発祥の地という表現はどうか。

委員長：表現は内部で検討してもらいたい。

委員：50ページのところ、※印は必要か。なぜ再編しないのかの説明としては理解できるが、確定している訳でもないし、今後の検討課題みたいな形の方が良いと感じる。保育園とのあり方は、具体的に全然議論もされていないから、今後の方向性や検討事項のよう
におくと解釈できると思う。

- 委員長：文末の表現を「考えられる」という表現にしてみるといいかもしれない。
- 事務局：50ページの※印のことを言っていた。幼稚園名の後ろに※印を付け注釈があるという表現は分かりやすいかもしれないが、※印だけが記載されている部分については分かりづらいと思う。
- 唐崎幼稚園と瀬田南幼稚園は再編基準に合致しないので、それぞれそのままの幼稚園名を記載した上で、※印を付ける。
- 逢坂幼稚園は再編基準に合致しているのので、平野幼稚園としておきながら、公立保育園とのあり方も並行して考えないといけないことから、平野幼稚園としておきながら、※印を付ける。そして、欄外の表現の工夫が必要ということで理解をした。
- 委員長：公立保育園1園1園については議論できていないので、保育園名は出さずに、大枠のくくりで考えておく必要がある。
- 委員：表の上に文章を書いて、表を少し下に下げてはどうか。こういうことは検討しなくてはならない喫緊の課題であるとか、こういうことも考えられるというような形のものを記載してはどうか。
- 委員長：表の説明、見方を付けてもらう方向で修正をお願いしたい。
- 事務局：少し前に戻るが、園庭の評価や、歴史の評価などについて、確かにこの表現では、例えば再編される側の幼稚園の関係者の方が、うちだって良い園庭がある、うちだって歴史があるというふうに誤解をされる可能性がある。
- そこはこれからパブリックコメントとして見られた時に、そういうふうに思われる方がいらっしゃる可能性があるのので、現状は皆さんに出していただいた意見を書いたが、少し事務局の方で表現を考えるので、そういう形でパブリックコメント案を修正させていただいてよろしいか。
- 委員長：先程そのように整理したつもりであるから、事務局の説明とおりで問題ない。
- 委員：表の前の部分、48～49ページで詳しく説明しているので、単純な表にしてしまってもいいのかなと感じた。
- 委員長：※印は残す、細かい部分としては第1段階や第2段階の検討タイミングは48～49ページに記載があるから消してしまうという感じか。
- 事務局：48～50を一体的に思っているが、市民の方が見られたとき、市民の方は50ページを見られる。表を前に持っていくのかという検討も言っていたが、密接に繋がって見ていただける表現を検討する。
- 委員長：表の上につけるリード文のようなもので、表の意味を説明していただくことでいいのでは。場合によっては、表が2ページに分かれてしまっても構わないのでは。
- 委員：表が見開きの2ページで見られるような見出しの付け方とかがあればいいと感じる。地域

ごとに表を分けるのもいいかもしれない。

委員長：全体に関心を持たれる市民もおられるかもしれないが、市民の方は自分の地域を一番気にされる。

委員：表15の見出しが一番下にあるのが少し見にくいと感じる。上にあると分かりやすいかもしれない。

委員長：大学の論文では、表は上、図は上か下に見出しを書くことが多い。

委員：部分部分もいいが、全体もあると良いと感じる。

委員長：二重で書くのも一つだと思う。誰目線で届けるか、一覧表は研究者目線ではいいと思う。市民目線では自分の地域が見たいと思う。

委員：委員会としては大津市全体としての形を考えて決めるから、一覧表の方が良いと思う。自分のところがどうなるかを見る人のために作るものではない方が、資料としては良いと思う。それが検討委員会の想いが伝わる方法ではないかと思う。

委員長：委員会目線であればそうなると思う。

委員：一般の家庭の人が、このパブリックコメント案を全部見るかという見ないと思う。自分のところだけを見る。自分のところ、自分の子どもの環境がどうかと見る。大津市がどうしたいかの目標としてこうなった、こういう理由があってこうなったという理由をこの表から読み取っていただきたいと思う。

委員：47～50ページについて、まず地図がある、次に表がある、表の中にアやイを振っておく、アの中学校区は後ろに細かいことが書いてある、という流れが良いのでは。施設の位置図と表を一緒に見られるような形にすると良いのでは。

事務局：分かりやすい資料にしたいと考えている。文章を先にして表を後ろにした理由について補足をすると、表を先にすると、機械的に人数だけで決めたというように思われるかもしれない。そうならないように、中学校区ごとにしっかり議論した結果がこれですという方が良いかと思いこの形にしている。

委員：でも、みんな表を先に見てしまう。幼稚園の名前が出ているので、とっつきやすい。中学校区と書かれていても、幼稚園のことを考えているのに分かりにくいと感じる。

委員：検討委員の想いのところを前に書いてもらっているが、自分の幼稚園の学区がどの中学校区に該当するのかが分からない市民の方もおられると思う。その部分が分かるように表現すると良いと思う。

委員長：見出しをしっかりと付けて、工夫をすること。地図があるところは①市内の教育・保育施設の配置、2つ目に50ページを持ってきて②検討結果として、3つ目に③検討経過と概要などにして表現する。50ページの表には、中学校区との関係を分かりやすくするという形で工夫をすること。47～50ページに3つのことが書いているのに、見出しが一つし

かないのも分かりづらいと感じる。

それでは、第4章実行計画について、事務局から説明をお願いします。

事務局：資料に基づき説明

委員長：これはモデルが示されているだけで、実際の時に市の方で行ってもらうことになる。

委員長：全体を通して意見等あればお願いします。

委員：是非、大津市に子ども達を連れて住みたいと思ってもらえるような市になるように頑張っていたきたい。なくなるだけでなく、呼び込むという視点も持ってもらいたい。

委員：49ページの文末「～こととする」という表現は、検討委員会からの提案という形で良かったか。

委員長：文末については委員会の考え方であるという形で整えてもらう。

今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

事務局：今後のスケジュールについて説明

委員長：パブリックコメントの手法としては、最近の行政が行う一般的な手順だと思う。

(2) 閉会

以上

パブリックコメント説明会 議事録（要旨）**【1日目】**

1 日 時 令和8年4月16日（木）10時00分～11時10分

2 会 場 和邇文化センター

3 出席者 34名

4 議事録（要旨）

主な質疑・意見の内容は次のとおり。

質疑・意見 : 幼稚園は単にたまたまそこにあるものではなく、地域や保護者との繋がりでできている。地域があって長い歴史とともに作り上げてきたもの。今回の再編計画のどこにそういったことが考えられているか。

回 答 : 検討委員の中にも地域との繋がりを知っている方に参加していただいている。その中で、市立幼稚園の範囲だけでなくもう少し大きい範囲での地域との繋がりを築いていければと考えている。

質疑・意見 : 大津市では園児数が急激に減少していると説明があったが、大津市では大雑把である。中学校区で検討しているのはなぜか？

回 答 : 学区ごとによって状況が違うことは認識している。これまで1小学校区1幼稚園としてきたが、人口が減少している状況から、これまでより広い中学校区で検討した。人口は学区ごとに取っている。

質疑・意見 : 園児数見込みはどのような統計を取ったのか？

回 答 : 過去の平均をもとに推計している。マンション建設についても増加数を勘案している。

質疑・意見 : 実際に真野北・伊香立再編時期に子どもを園に通わせていたが、再編対応もあり、幼稚園教諭がバタバタされており、保護者とのコミュニケーションや事務連絡がスムーズではない印象があったが、規模を大きくすると更に問題が出るのではないか。

回 答 : 当初、再編計画を検討するうえで幼稚園教諭の意見も取り入れている。園の長い歴史を保ちつつ集団教育を実現するうえで、これまでに実施した再編のノウハウを参考に検討する。再編地域双方の地域との繋がりができると考えている。

質疑・意見 : 中央学区では抗議文を提出しているが握りつぶしているのか。

回 答 : 握りつぶしていない。再編される地域の保護者や地域の方にはきちんと説明をしていきたいと考えている。

質疑・意見 : 例えば大津幼稚園は小中との連携が密になっている地域がある。小1の壁についてはどう考えていますか。

回 答 : 各市立幼稚園での取り組みを他の就学前施設にも普及していくことで、学校と就学前施設で繋がっていくことにより、様々な困難、壁を親子で乗り越えていってもらいたいと考えている。

【2日目】

1 日 時 令和8年4月17日（金）10時00分～11時20分

2 会 場 生涯学習センター

3 出席者 30名

4 議事録（要旨）

主な質疑・意見の内容は次のとおり。

質疑・意見 : 子どもの数の確保は理解できるが、幼稚園と保育園を別々で考えるからおかしいのではないか。子どもを地域で育てるという観点が必要ではないか。

回 答 : 委員会でも地域の繋がりについては考えられている。民間保育園等全ての就学前施設が大事な施設であると考えており、どこの施設を選ばれてもより良い教育環境が得られるようにしたいと考えている。幼稚園がなくなる地域が出る場合があるが、代わりに保育園等でその役割を担えるようにしたい。

質疑・意見 : コストを重視するという記載が再編資料にあったが、今回の説明会では説明がなかったが。

回 答 : コスト面を考えることも必要であるが、一番大切なことは子どものことを考えることであるため、今回の説明会ではコストについては説明していない。大津市は小規模園が点在しているのに、なぜ何も考えていないのか、と子ども達に将来言われぬように検討している。

質疑・意見 : 再編にあたり通園手段を提示してもらいたい。通園手段も検討段階で示すべきではないか。

回 答 : 通園保障については、委員会でも議論した。例えば通園バスを走らせても長い時間の乗車になる。まだ提示はないが、パブリックコメントで意見が出た場合には、検討委員会で議論をし、答申をいただくことになる。

質疑・意見 : 集団の中で育つということは大事な観点と思う。しかし、子どもの立場にたつということに対して、この再編は本当に子どもの立場にたっているのか。再編後のことについて、どこまで想定しているのか。待機児童問題を解決するために再編をすすめているように思える。認定こども園化すると、保育だけを必要としている子ども、教育を必要としている子どもが一緒になることになるが、それは本当に子どもにとって良いのか。

回 答 : 令和7年度から子どものために取り組む、子どもを専門に扱うこども未来部が編成された。今回の再編では認定こども園化するということは提示していないが、今後、認定こども園化するようなことがあれば比叡平こども園でのノウハウを活かし、子どもの教育に影響を及ぼさないようにしたい。

質疑・意見 : 他の地域から来られている保護者に意見を聞くと、現在の市立幼稚園に満足されている。少人数は何故いけないのか。今まで幼稚園の園児数を増やす施策をしてきたのか。藤尾幼稚園がなくなった原因をしっかりと検証しているのか。

回 答 : 小規模幼稚園を否定はしていない。委員会では一番大事にしているのは子どもの立場にたって考えること。本当に子どもは小規模を望んでいるのか、集団での教育を望んでいるのではないかと考えた。これまでの幼稚園教育の努力として、3年保育、預かり保育、預かり保育の延長を実施し、就労していても幼稚園に通園できるようにしてきたが、それでも幼稚園の園児数は減少している状況。その状況下で大人の責任として子どもの学びの確保をしていきたい。

質疑・意見 : 小規模化は子どもが望んでいない、といった子どものニーズを議論したその根拠となるデータは。子どもや保護者からの意見は聞いたのか。

回 答 : 小規模を否定するものではないが、民間、公立含めた現場の先生方からの意見を聞き、3～4人のグループが複数あることが望ましいとの意見を参考にした。子どもや保護者からの意見は聞いていない。

【3日目】

1 日 時 令和8年4月19日（日）10時00分～11時20分

2 会 場 大津市役所 別館大会議室

3 出席者 48名

4 議事録（要旨）

主な質疑・意見の内容は次のとおり。

質疑・意見 : 待機児童問題があるから再編をするのか。

回 答 : そうではない。再編については以前から検討していること。

質疑・意見 : 再編にあたり何を最も優先して検討したか。

回 答 : 子どもの集団規模を確保すること。現場の先生からも同意見をもらっている。
その上で通園距離や通園保障等については、しっかり検討していく。

質疑・意見 : 幼稚園教諭の処遇との関連は？

回 答 : 検討委員会では議論の対象としていない。

質疑・意見 : 市として再編に係る説明については、今後どのような予定か。

回 答 : 答申を6月頃に受け、その後に計画を策定する。計画策定後、再編に影響のある地域については、順次説明を行う予定である。

質疑・意見 : 推計値はどのように出したのか。

回 答 : 直近3か年の女性子ども比率や就園率の平均から推計を出している。マンション開発については勘案しているが、戸建て開発はどれくらいの就学前人口が含まれるか判断が難しいため勘案していない。

質疑・意見 : 幼稚園と小学校を一体的な教育にするのはどうか。

回 答 : 検討委員会でも議論されたが、その結論には至らなかった。大津市は各地域に市立幼稚園や私立幼稚園、認定こども園が多く点在していることから各地域で子どもを守っていこうとしているため。

質疑・意見 : 配慮を要する子どもに対してはどうか。

回 答 : 検討委員会でも、しっかり考えて進めるよう提案をしている。
再編される場合、事前に説明し交流保育等の対応をしていく。また、今まで再編を実施した際のノウハウを活かしていきたい。

質疑・意見 : 幼稚園児数を増やすための改革は考えたのか。

回 答 : 検討委員会でも幼稚園に来てもらう努力をすべきという議論は行った。
大津市では、これまで、3年保育や預かり保育等の実施を行ってきた。

質疑・意見 : 通園支援の方法について、具体的な例を出して保護者に説明する必要がある。

回 答 : 通園保障について、大切な部分であるため、検討委員会でも検討を行ってきた。できることとできないことがあるが、保護者説明の際、しっかり声を聴いていく。

質疑・意見 : 地域のつながりがなくなるのでは。

回 答 : 地域のつながりは市立幼稚園だけでなく全ての就学前施設で実施することが望ましい。

質疑・意見 : 財政面について、検討しているのか。

回 答 : 再編計画には少し記載しているが、検討委員会では議論の中心とはなっていない。今回の検討については、子どもの集団規模を確保することを第一として検討している。

パブリックコメント カテゴリー別の意見数及び主な意見内容と考え方

大分類	中分類	個数	主な意見内容	検討委員会の考え方の主な記載内容
②代議案としての「認定こども園化」と「魅力向上策」の提案	認定こども園	59	単純な再編に反対し、現代の社会変化や保護者のニーズに対応しつつ、幼稚園の持つ価値を継承するため、幼稚園の「認定こども園化」を求める意見 待機児童対策にもなるという意見 歴史や伝統、地域の繋がりを持つ幼稚園を、園児ではなく「こども園」という形で存続させる意見（大津幼稚園） 市立保育園がない地域（南郷、大石、田上）では、幼稚園が唯一の公立就学前施設であるためこども園化を求める意見	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。
⑤地域コミュニティや地域文化との関りが無くなってしまおうという意見	地域との関わり	56	園児たちの声や姿が地域の活気につながっており、幼稚園の存在が多世代交流の拠点となっているという意見 登下校時に地域住民が子どもたちに挨拶や声かけをすることが日常となっており、地域全体で子どもを見守る安心感が醸成されているという意見 幼稚園が生活圏から離れることで、日常的な交流や地域イベントへの参加が困難になり、子どもと地域のつながりが希薄化するという意見 「再編後の園が複数の地域連携を担う」という方針は、現場の実態を無視した「机上の空論」であるとする意見	地域との繋がりがという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。
③通園の負担増大と安全性に対する意見	通園支援	56	通園距離が伸びることに対して、「保護者の負担」「子どもの安全」「通園手段の確保」「保育中の急な体調不良や災害時のお迎え」などの面から、不安視する意見	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。
④少人数教育の価値を軽視しているという意見	適正規模	47	「4歳児20人以上、5歳児25人以上」「各学年2学級以上」といった数値基準について、その根拠が不明確であるという意見 小規模園の最大のメリットとして、「教員が園児一人ひとりの特性や発達、家庭環境までを深く把握し、手厚く関わることが挙げられ、これにより、子どもも保護者も大きな安心感を得ているという意見 小規模園では、異年齢の関わりが日常的に行われ、年下の子思いやる心や、年上の子への憧れが自然に育まれる環境であるという意見 大規模な集団が苦手な子や、発達に特性のある子にとって、少人数園は安心して過ごせる貴重な居場所としての役割を果たしているという意見 規模が大きくなると、一人ひとりに目が行き届かなくなり、きめ細やかな対応が困難になるだけでなく、園児同士のトラブルや、不適切保育のリスクが増大するのではないかという意見	本来幼稚園は「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を「1学級の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上」としたこれまでの大津市における検討結果を採用したものです。 適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらいの規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものであり、原案のとおりとします。 34ページに記載のとおり、園の体制や教員の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。 また、異年齢との交流による教育的効果はご意見のとおりですが、29ページに記載のとおり、「異年齢の集団」と「異年齢の集団」とは得られるものが異なる点を考慮した教育を展開することを求めています。
②代議案としての「認定こども園化」と「魅力向上策」の提案	預かり保育の拡大	41	園児数減少の対策として預かり保育制度の周知徹底と機能拡充が必要であり、再編を進める前に市が取り組むべきことであるという意見 預かり保育の時間が延長されたのは令和7年度からであり、制度が十分に周知され、保護者に定着するには一定の時間が必要であり、制度が浸透すれば幼稚園の需要は回復する可能性があるため、その検証を待たずに再編を進めるべきではないという意見	23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見があります。 一方で、既に平成28年度の検討から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。

大分類	中分類	個数	主な意見内容	検討委員会の考え方の主な記載内容
⑥計画プロセスの不透明さと対話不足に対する意見	検討経過	38	<p>「園の特色」「施設の老朽化」「地域の状況」なども考慮するとされているにもかかわらず、園児だけで判断しており、「方針と実態が矛盾している」「再編ありきの乱暴な進め方だ」という意見</p> <p>在園児の保護者や地域住民への十分な事前説明がないまま、報道などを通じて計画が公にされたことに対し、「強引で失礼」「住民感情を無視している」といった意見</p> <p>パブリックコメントの前に、まず当事者の意見を聞く場を設けるべきであり、丁寧な議論を求める意見</p> <p>大石・南郷・石山幼稚園の再編ではなく、大石・南郷の再編を求める意見</p> <p>青山・上田上・上田上幼稚園は上田上幼稚園に再編すべきであるという意見</p>	<p>35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけでではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特色などについても慎重に検討しております。</p> <p>新聞報道につきましては、公開の場である大津市立幼稚園再編等検討委員会等の議論や報告を記事にされたものです。</p> <p>再編の方向性については、ご意見として承ります。</p>
②代替案としての「認定こども園化」と「魅力向上策」の提案	給食	33	<p>「給食の未実施」が市立幼稚園の大きな課題であり、保護者の負担増と園児数減少の原因と考えられることから、幼稚園再編を議論する前に解決すべき課題先事項であるという意見</p> <p>アンケート結果から給食へのニーズは極めて高く、この問題への対応が園児数確保に直結するという意見</p> <p>園児数減少を理由に再編を進めるのではなく、まず全園で給食を導入し、その効果を検証すべしという意見</p> <p>給食の導入は、市の掲げる「働いている」「働いている」「働いている」を達成するための不可欠な条件であり、待機児童問題の解消にも寄与する可能性があるという意見</p>	<p>保育園等への申込数は、0～2歳児で約76%を占め、3歳児での申込は約17%（新規申込に限定すると、約10%）に留まっていることから、就労要件のある保護者は子どもが0～2歳児の時に保育園等に入園希望される傾向にあることを追記します。</p> <p>また、給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。</p> <p>なお、待機児童については、95%以上が0～2歳児となっており、幼稚園に通われている3歳児以上の待機児童は、ほとんど発生しておりません。</p>
①再編計画への反対と特定の幼稚園存続の要求	園の特徴	25	<p>園の特徴として、次のような意見が挙げられている</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上田上幼稚園 <p>「豊かな自然体験」として、唯一の全面天然芝の園庭、裸足で駆け回れる環境、地域性を活かした多彩な自然体験活動</p> <p>「地域との強い連携」として、地域の協力で保育が成り立っている、園の存在が地域の活性化にも繋がる</p> <p>「魅力とアクセス」として、他学区からの通園者が多い、小学校に隣接、駐車場がある</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 大津幼稚園 <p>「歴史と伝統」として、創立138年を超える歴史を持つ、日本の幼児教育における先駆的存在である、地域の「心の拠り所」「歴史的遺産」である</p> <p>「文化・地域教育」として、「大津祭」を教育に積極的に取り入れている、地域の歴史や文化に根差した活動が特徴である</p> <p>「小学校との円滑な連携」として、同じ敷地内の小学校との密接な連携・交流が実現されている</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 蓬坂幼稚園 <p>「利便性」として、駐車場がある、駅が近く通勤と送迎を両立しやすい</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 南郷幼稚園 <p>「広い園庭での活動」として、田植え、みかん作り、野菜の栽培・収穫などの自然に關わる充実した活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 晴嵐幼稚園 <p>「のびのびでできる施設環境」として、広い園庭や遊具、子どもたちがのびのびと過ごせる環境</p> <p>「地域コミュニティの拠点」として、降園後の園庭開放が保護者の交流の場になっている、卒園後も地域との繋がりが維持されている</p>	<p>いただきましたご意見にある特徴については、検討委員会で意見が出された上で本検討を行いました。園の特徴については、こどもの育ちの観点から、各園の良い環境を継承できないかなどの意見が出ています。園の特色については、「第3章基本的な再編等の計画」に追記します。</p> <p>今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の間わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであり、効率化を目的としたものではありません。</p>
⑤地域コミュニティや地域文化との関わりがなくなってしまうという意見	幼小連携	24	<p>小学校と隣接していることなどから、幼小の連携が図られており、再編を行うことでこの連携が損なわれるという意見</p>	<p>小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではなくことから、架け橋プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるような努める必要があると求めています。</p> <p>なお、架け橋プログラムは、市立幼稚園が中心となって取り組んでおります。</p>

大分類	中分類	個数	主体意見内容	検討委員会の考え方の主な記載内容
①再編計画への反対と特定の幼稚園存続の要求	再編基準	23	将来的に園児数の増加が見込まれるにもかかわらず、1年でも基準を下回れば再編対象とするなど、短期的で機械的な運用に対する意見 南郷・大石幼稚園の例では、2園の統合で再編基準をクリアするにもかかわらず、さらに基準外の石山幼稚園を加えた3園での再編案が示されていることに反対する意見	35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けています。ご意見にあるとおり、1度でも10人を下回る場合は第1段階目として判断を行いました。明確に記載されていないため、「1度でも下回る場合」と明記します。 3園での再編ではなく、南郷中学校内の南郷・大石幼稚園の統合で十分という点については、ご意見として承ります。 一方で、今回の検討は、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育を実現できるようにすることを目的としています。 近年、規模の縮小が急速に進んでいる現状を鑑み、ある程度の規模の確保が必要であることから、原案のとおりとします。
②待機児童問題（全国ワースト）に対する意見	待機児童	23	待機児童数が、2年連続全国ワーストである現状にもかかわらず、幼稚園の再編を検討していることに対する意見	本検討は、待機児童対策とは異なるものです。 待機児童の95%以上は0～2歳児となっており、幼稚園に通われている3歳児以上の待機児童は、ほとんど発生しておりません。
③特別な配慮を必要とする子どもに対する「セーフティネット」としての役割に関する意見	特別な配慮を必要とする子どもに対する「セーフティネット」としての役割	21	再編により、市立幼稚園が担ってきた「特別な配慮を必要とする子ども」へのセーフティネット機能が失われることに対する意見	特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討するよう提案をしていますが、支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。
④再編計画への反対と特定の幼稚園存続の要求	予算削減・効率化	21	本検討が、予算削減のため効率化のためではないかという意見 民営化の検討に対して、肯定的である意見及び否定的である意見	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討を行ったものであり、効率性や財政面から検討を行っているものではありません。
⑤計画プロセスの不透明さと対話不足に対する意見	進め方	21	全体的なスケジュールが性急すぎるとの意見 在園中や入園直後に再編が行われると、子どもが転園を強いられ大きな精神的負担がかかることや、コミュニケーションが分断されることへの配慮がないという意見 「最低でも5年は状況を注視すべき」「今の園で無事卒園できるか不安」という意見 住民や保護者との十分な協議や合意形成を行う前に、再編対象の園名を公表するなど「すべてが決定済みであるかのような進め方」であり、本来は、まず地域の実態を把握し、当事者（保護者、地域住民、現場職員）の意見を聞いた上で案を作成すべきという意見 「説明会」は一方的な説明に過ぎず、計画策定の段階から当事者が意見を述べられる「協議の場」を設けるべきとの意見 「地域の実態を知らない人が勝手に決めていく」という意見や地域住民、保護者、現場職員への丁寧なヒアリングが不足しているという意見 統廃合の具体的な開始時期や、別途検討される保育園のあり方について、時期や手法を明確にするよう求める意見	既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて検討を行っているものであり、全体スケジュールは原案のとおりとします。 関係機関や保護者、地域の方などの代表者で構成される検討委員会において、市全体の方向性として検討を行ったものであり、個々の中学校区ごとに協議を行ったものではありません。 大津市では、20～21ページに記載のとおり、これまでから部分的に規模の適正化を行ってきたところですが、10ページに記載のとおり、近年、市立幼稚園の規模の縮小が急激に進んでいることを受けて、改めて全体最適の観点で検討を行ったものです。 54ページには、当事者である保護者への説明会などの機会を通じて、丁寧に進めていくことを求めています。

大分類	中分類	個数	主な意見内容	検討委員会の考え方の主な記載内容
①その他	子育て支援全般	14	未就園児を持つ家庭や孤立しがちな保護者にとってセーフティネットになっているという意見 就労後の画会を、親子が安心して過ごせる子育て支援の拠点として有効活用してほしいという意見	図地利用及び子育て支援全般については、ご意見として承ります。
①再編計画への反対と特定の幼稚園存続の要求	人口推計・園児数推計	11	市全体の減少傾向のみを根拠とし、地域ごとの特殊性を考慮していないという意見 園児数減少は、単純な「少子化」だけでなく、「共働き世帯」によって幼稚園が選択肢になりにくいといった構造的な要因によるものであり、幼稚園の需要そのものが無くなったわけではないという意見 令和8年度の実績が反映されていないという意見	人口推計については、マンション建設の予定も勘案した上で、小学校区ごとに実施しています。市立幼稚園の園児数の推計も、該当の小学校区ごとに算出しているため、「将来的な児童数増加の可能性」については考慮しております。 なお、ご指摘の内容を「保育ニーズの高まり」と呼んでいます。 また、令和7年度に検討を行ったものであり、令和8年度の実績は反映されていません。
⑨再編を前提とした強引な人事異動に対する意見	人事異動	8	上田上幼稚園において、10人中7人が異動した件に対する意見	人事に関しては、当該検討委員会では関与しておりません。
①再編計画への反対と特定の幼稚園存続の要求	検討の目的	7	再編で施設を減らす前に、まずは行政の本来の役割として、子育てしやすい環境を整備し子どもを増やす努力をすべきだという意見 市が掲げる「乳幼児期にふさわしい生活」や保護者のニーズ調査で第一位の「自宅の近くにあること」といった理念・要望と、再編による通園の広域化・長時間化が矛盾しているという意見 「園児数が少ない」という理由だけで、長年培われてきた幼稚園の歴史や地域との関わりを軽視して廃園にすることを対する意見	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の間わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであることから、待機児童問題とは異なる内容となります。
⑨再編を容認する意見や迅速な実行を求める意見	再編容認	6	「なぜ今になってこの話なのか」と計画の遅さを指摘し、「もっと早急に進めるべき」という意見 子どもの教育環境を早く確保するため、2段階に分けず4年程度で一気に進めるべきだという意見 市立幼稚園の両編は、社会の変化等を踏まえるとやむを得ないという意見や、限られた税金（財源）をより有効に使うべきという、財政的な観点から容認の意見 学校選択制の導入や小規模特例園の導入、認定こども園化や民営化といった提案や条件を提示する意見	市立幼稚園における学校選択制については、現在も実施しておりますが、いただきましたご意見を参考に、より充実した利用しやすい制度となるように、市担当所属とも共有します。 小規模特例園や認定こども園化、民営化については、貴重なご意見として承ります。
①再編計画への反対と特定の幼稚園存続の要求	アンケート	4	平成26年度から令和6年度にかけて上位を占める項目は変わっており、①自宅近く②職員対応③給食④教育・保育の質であり、それらの条件を満たす施設が公立の幼稚園の存在意義ではないかという意見	13ページに記載のとおり、各調査対象者は、各調査年度において住民基本台帳から未就学児童（0歳～5歳）を無作為抽出したものです。市立幼稚園の利用者や希望者に対象を限定した調査ではなく、かつ複数選択可としていることから、最も重視する項目までを把握することはできませんが、検討委員会での議論の材料としております。

大分類	中分類	個数	主な意見内容	検討委員会の考え方の主な記載内容
②代替案としての「認定こども園化」と「魅力向上策」の提案	市外の施設に関する事	3	京都市へバスで通園している園児を多く見かけるが、京都市の幼稚園等には魅力があつて、大津市立幼稚園には魅力がないのか、どうすれば選んでもらえるかを考えるべきという意見 保育料無償化で大津市民の税金から出ている保育費用が京都市の幼稚園等に多く使われることも残念に思うという意見	市立幼稚園を否定するものではなく、保護者ニーズが多様化している中において、ご家庭のニーズに合った選択をした結果であると考えています。 保育料は個人に給付されるものであり、給付を受ける保護者が、ご家庭のニーズに合った選択をした結果であるとと考えています。
③その他	処遇	2	幼稚園教諭の処遇問題に対する意見。	職員の処遇に関することについては、当検討委員会では検討しておりません。
④その他	小学校	2	小学校の再編検討に関する意見。	小学校に関することについては、当検討委員会では検討しておりません。
④その他	その他	40	説明会に関する意見（資料がプリント1枚で分かりにくい、開催案内から日程が短すぎる、市の回答が「検討します」「配慮します」といった抽象的な表現に終始したことなど） 市立幼稚園の魅力や取組などを広く広報し、園児数の増加を図るべきであるという意見（アール不足など） 跡地利用に関する意見 市立幼稚園に留まらない、就学前教育・保育全般に対する意見	説明会の目的はパブリックコメントの内容をご説明することであるため、ご意見にあるとおりの回答になっていきます。 平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。 なお、広報についての課題は、検討委員会でも意見が出されているところです。 再編後の施設の活用については、個別に検討します。 市の施策に対するご意見として承ります。

連番	案該当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
1	2	【第一章総則】 1 はじめに 2 段落目から全体的に	乳児期から小学校の接続期までを見通したとありますが、今回の再編案では新大津幼児教育・保育共通カリキュラムに則った、本当に見通した改定案にはとも見えないです。 再編案を見ますと、特に「ク」と「ケ」に関しては大石から石山まで朝の時間帯ですと車で15分以上青山から田上まで車で15分とかなりの距離があると思います。私は通園の過程も重要な教育だと思います。車で15分とっていいのが子どもにとっていい環境なのではいまいか？ 大人にとっては15分というのとはとても短い時間ですが、子どもにとっては15分というのとはかなり長い時間です。子どもは15分あれば道端に咲いている花を見て色彩や匂いなどを五感で感じ、昆虫や鳥等の生き物に触れて生命について学び、近所の大人や子どもと関わり社会を学びます。子どもは大人と違い、1日中何かを学んでいます。1日30分、1年間で何分、何時間、何日分の子どもたちの自由な遊びと発見の時間を市は子どもから無くそうとしているのでしょうか？ 上田上はかなりの過疎地域ですが、私は自分の足で上田上を歩きながら実際に上記のことを考え、そんな環境の中で子どもを育てたいと思います。5年前に上田上に引っ越してきました。カリキュラムの基本理念1つ目、乳幼児期にふさわしい生活と遊びを～と書いています。乳幼児期の健やかな育ちと学びというのは、地域を自らの足で歩き、地域の人間と関わりながら年数を経て醸成されるものではないでしょうか。本当に子どものことを考えた政策なのでしょうか？	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ねた検討したものです。 乳幼児期の健やかな育ちと学びというのは、地域を自らの足で歩き、地域の人間と関わりながら年数を経て醸成されるものについては、ご意見として承ります。幼稚園教育として市立幼稚園がこれからも大切にしていきたいことは、28～29ページに記載のとおりとなります。	検討の目的
2	2	【第一章総則】 1 はじめに 2 段落目から全体的に	私にはこれほど市の予算削減案にしか見えません。削減案だとするならば、未来ある子どもたちではなく、別の場所から削減してください。	本検討は2ページに記載のとおり、質の高い教育・保育の提供を目指して検討を行っているもので、予算の削減案ではありません。	予算削減・効率化
3	2	【第一章総則】 1 はじめに 2 段落目から全体的に	共働き世帯の～とありますが、少子化や共働き世帯の増加は通か昔から言われていたことであります。なぜ令和8年になってこの話をするのでしょうか？ 日本は、大津は抗って子どもが増えて、大人は豊かになって1馬力で子育てできるようになると予測していたのでしょうか？	市立幼稚園の再編に係る検討は、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、3年保育の実施と「預かり保育の充実」が提議され、順次実施されています。その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものです。	進め方
4	2	【第一章総則】 1 はじめに 2 段落目から全体的に	幼稚園教育要領解説から抜粋して、さも大津の幼児教育が基準を満たしていないように書かれていますが、解の通いがかなりあると思います。「幼児は多数の同年代の」？ 多数とは、同年代でなければならぬ理由とは、主体性や社会態度が少人数で得られない理由には私には理解できません。実際に我が子は7名のクラスでそれぞれ十分に主体性などを獲得しています。	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を「1学級の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上としたことこれまでの大津市における検討結果を採用したものである」として、適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらいの規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものであり、原案のとおりとします。34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。	適正規模
5	2	【第一章総則】 1 はじめに 2 段落目から全体的に	人間関係の固定化とは、他の園と相互に交流して十分に色々な人間関係を築いていますが、大人と違い、子どもはすぐに友達になりますので、それでも希薄だというのがあれば市が交流できる催しを開催すればいいのでは、1回2、3時間程度はすぐに友達になります。子どもの人間関係を固定しているのは、はっきり言って親です。	市立幼稚園では、「幼児期の生活にふさわしい環境」の観点から、適正な集団規模や教育の質を確保し、小規模な環境では得られない経験などが得られることや、普段の集団とは別の集団に接する機会を確保することを目的として交流保育を実施しております。 検討委員会には、交流保育の成果と課題等として、出会いの機会をもつことが目的の中心となりやすく、日常的な交流ではないことから、多様な個性に馴染みながらの自分づくりや、集団として互いに育ち合うことを求めるためには、更なる工夫が必要であるという資料が提供されております。	適正規模
6	2	【第一章総則】 1 はじめに 2 段落目から全体的に	体験できる遊びが固定化とは？ 20人いないとできない遊びなんて限られていると思いますが、それこそ体験会を市が開催すればいいだけでは、十分に周知されていて、興味があれば子どもは行きます。親は連れていきます。「子どもにとって望ましい教育環境の保証」が再編によって得られるとは、この再編案を見て驚きも感じません。再編する前にできること、沢山あると思います。子どもの安定した環境を壊してまで再編する必要はあるのでしょうか？ もしあるのであれば、それを感じる議案書を大津市には出していただきたいと思えます。	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を「1学級の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上としたことこれまでの大津市における検討結果を採用したものである」として、適正規模については、33ページに記載のとおり、「遊びの最小単位が3～5つ程度構成できる規模」として検討を行っているものです。	適正規模

連番	案談当箇所		意見内容	検討委員会の考え方(各課回答)	中分類
	頁	詳細箇所			
7	5	【第一章総則】 2本市の現状 (2)母親の就業状況について	1つ目のコメントで書きましたが、1日で30分通勤する時間が増えるというのは専業の家庭以外に対してとても負担がかかると思います。結果的に、子育て世代は利便性の良い地域に今後住んでいくことになってしまい、ますます過疎地域は過疎化します。 過疎地域の対策をしている市の他の部署とも政策が矛盾していると思います。	通勤時間の増加が負担に繋がることは検討委員会でも意見が出ております。そのため、再編を検討するにあたって、あまり広域になりすぎることには現実的ではないことも考慮して、中学校区を基本に検討することとなっております。	通園支援
8	7	【第一章総則】 2本市の現状 (3)保育ニーズの高まり	すでに就労者向けの預かり保育があるため保育園なみの就労が可能かと思えます。あまり周知されていないのではないかと感じます。幼稚園のニーズの低下の理由にしていますが、預かり保育の拡大が始まってまだ1年という段階でこの再編案を出してるところに疑問を感じます。早く周知もできていない段階で次のステップに行くのは早すぎませんか？十分に知り渡ってから幼稚園の需要が回復しない等であれば次のステップとして再編案を出すべきではないでしょうか？	23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、13年保育の実施と1日預かり保育の充実1が提案され、周次実施されています。その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとなります。	預かり保育の拡大
9	12	【第一章総則】 2本市の現状 (5)市立幼稚園の運営費等の状況について	現状で市の全体予算の1%も使っていない市立幼稚園に対してコスト意識というのはおかしいと思います。数千万円、数億円を削るために子どもたちの将来や地域の未来を犠牲にする前にもっと別とこあるかと思えます。	本検討は2ページに記載のとおり、質の高い教育・保育の提供を目標として検討を行っているもので、予算削減案ではありません。	予算削減・効率化
10	14	【第一章総則】 2本市の現状 (6)保護者ニーズの変化について 図1.1	このアンケート調査結果を市は無視するということではよろしくありませんか？それそれ理由はありますかと思えますが、80%が自宅近くを希望しているという現状を。	13ページに記載のとおり、各調査対象者は、各調査年度において住民基本台帳から未就学児童(0歳～5歳)を無作為抽出したものであることから、市立幼稚園の利用者や希望者に対象を限定した調査ではなく、かつ複数選択可としていることから、最も重視する項目まで把握することはできませんが、検討委員会で議論の材料としております。	アンケート
11	14	【第一章総則】 2本市の現状 (6)保護者ニーズの変化について 図1.1	上田上の子育て世代は過疎地域の家を購入したり相続したりして住んでいる現状です。部会の方からすると、何故わざわざ田舎に、と思われませんか？表5のとおり少なくとも10年ほど一定数の子どもがおります。これは何故か？上田幼稚園出身者や、私のような移住者が実際に感じて、上田幼稚園の魅力を知っているからだと私は思います。それは通園する園が変わってしまうとなると上田に住む必要がなくなります。Uターンを考えている若年層も増えていると考えられます。すると子育て世代は過疎地域からいなくなり、将来の農業の担い手をさらに減らし、最終的には上田上には誰も住むことになりかねません。そういう政策を市は行おうとしている。過疎地域を潤そうとしているように感じます。なぜ全てマイナスの施策なのでしようか？プログラムの施策はできないのでしょうか。市の在り方そのものを検討していただく必要があるかと思えます。	市の施策に対するご意見として承ります。	地域との関わり
12	25	【第一章総則】 4市立幼稚園が果たしてきた役割 (2)幼稚園と保育園のつながり (3)地域の特徴を活かした幼稚園教育の推進	ここについては再編を行うことによりいくつかの地域は従来通りの役割を享受できなくなる環境ではなくなるかと思えます。	地域との繋がりがという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との関わり
13	25	【第一章総則】 4市立幼稚園が果たしてきた役割 (2)幼稚園と保育園のつながり (3)地域の特徴を活かした幼稚園教育の推進	小学校の総務も進められてはいますが、幼稚園の再編を先に進めるも納得できません。大規模な再編になりますので、入園の子が小学校卒業後となる年に同時に行い、先に募集停止するのが筋かと思えます。大々的に統合後の園が、どの小学校かを告知し続けてもそもそもから入園・入学をするようにすればいいと思えます。上田上の未来はそこを無くりますが、市の一存で子どもが振り回されることのないように、幼小中を他の地域に移ることなく過こせる環境をお願いしたいと思います。	小学校に関することについては、当検討委員会では検討しておりません。小学校に関することについては、当検討委員会では検討しておりません。	小学校
14	47	【第三章基本的な再編等の計画】 2再編等の方向性について (4)施設状況及び園の特徴について	上田上幼稚園は珍しい全面天然芝であり、その環境で3年間過ごすというのはけががえのないものだと思います。実際に住む場所の選定の際に幼稚園が天然芝という点はかなり重視しました。幼少期に満足で天然芝を駆け回れる環境は市立幼稚園にはなかなか無いので、再編されて上田上幼稚園がなくなるというのは非常に勿体ないかと思えます。	検討委員会では、この育ちの観点から、各園の良い環境を継承できないかなどの意見が出ています。このことから、「第3章基本的な再編等の計画」に追記を行います。	園の特徴

連番	案談当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
15	47	【第三章基本的な再編等の計画】 2 再編等の方向性について (4)施設状況及び園の特徴について	また、上田上幼稚園では地域の方のご厚意でいただいた園打ちや収穫、菜の花や各種野菜を育てたり収穫したり、たけのこ餅り等この地ならではの体験が山ほどあります。そういった体験があることも重要視して園を選んでいます。今後再編が進み、人数が多くなっていくような体験のできる場所のない園や、自然の少ない環境の幼稚園に行かざるを得なくなるようなことは避けたいと考えています。 対人間の成長も大事ではあるが、自然を学ぶことは壊せられる勉強の少ない幼少期が一番適していると思えます。 遠隣地域の幼稚園を選んでいくにはそれだけの理由があることを分かっていただきたい。 上記のコメントにも書きましたが、全体スケジュールが性急すぎる。再編が実施された場合1年間田上幼稚園に満員、そこから上田上小学校に通う年代が出てくる。子どもの精神的負担や各地でのコミュニティの分断等への心配等が一切ないようにならないように感じる。上記のコメントで書いたように幼稚園を選んでいくのは認めますと、その1年は完全に無駄であると思う。 44頁の推移予想は預かり保育の周知等が十分済んでいない段階での予想に過ぎず、参考資料にもならないと思えます。 最低でも今後5年間状況を注視し、遠隣地域にプラスとなる施策を行ってから再編案を出していただきたい。このスケジュールに関しては再考の余地が十分にあると考えます。 大津市が掲げている「第2次大津市子ども、若者支援計画」では、地域社会全体で子どもを育む環境づくりを語っていますが、この再編案はそれに反していると感じます。 上田上では、幼稚園や小学校といった施設は子育て世代のみならず地域住民のコミュニティの核として存在しています。 今回の再編案は市が掲げる地域共生社会の実現を、自ら放棄しているように感じます。	地域との繋がりの面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き継ぎ、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との関わり
16	54	【第三章基本的な再編等の計画】 4 全体的なスケジュールについて	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を「1学級の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上」としたこれまでの大津市における検討結果を採用したものです。 適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらいの規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものであり、原案のとおりとします。	既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、全体スケジュールは原案のとおりとします。 なお、54ページには、当事者である保護者への説明会などの機会を通じて、丁寧に進めていくことを求めています。	進め方
17		全体を通して	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を「1学級の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上」としたこれまでの大津市における検討結果を採用したものです。 適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらいの規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものであり、原案のとおりとします。	地域との繋がりの面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き継ぎ、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との関わり
18		全体を通して	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を「1学級の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上」としたこれまでの大津市における検討結果を採用したものです。 適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらいの規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものであり、原案のとおりとします。	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を「1学級の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上」としたこれまでの大津市における検討結果を採用したものです。 適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらいの規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものであり、原案のとおりとします。	適正規模
19		全体を通して	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を「1学級の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上」としたこれまでの大津市における検討結果を採用したものです。 適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらいの規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものであり、原案のとおりとします。	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を「1学級の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上」としたこれまでの大津市における検討結果を採用したものです。 適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらいの規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものであり、原案のとおりとします。	適正規模 地域との関わり
20	50	【第三章基本的な再編等の計画】 3 検討経過とその概要について (2)再編等の方向性後討の結果について	この度、大石幼稚園、南郷幼稚園、石山幼稚園が統合される話を聞きました。そこで疑問なのですが、なぜ3園の中心にある南郷幼稚園を廃園して石山幼稚園を選択されるのか、また、統合に当たり順での送り迎えを承擔される家庭があるにも関わらず狂車場の新しい石山幼稚園を選ぶのか、これも違和感が元気に走り回りながら元気に育つ環境を築く理由にも納得できません。 総合的な理由を考えれば3園統合するのであれば南郷幼稚園を廃園し、大石幼稚園、石山幼稚園のどちらかを保育園として稼働させるなどの対策を望みます。 このような一方的な廃園には反対します。	地域との繋がりの面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き継ぎ、ご協力をお願いしたいと考えています。	検討経過

連番	家談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
21	50	【第三套基本的な再編等の計画】 3検討経過とその概要について (2)再編等の方向性検討の結果について	<p>反対です。絶対反対です。</p> <p>今まで積み上げてきた歴史があるのに、人数が揃ってからの再編成するというのは深く悲しいです。ご年配の方も、長等幼稚園出身だった！と言う声を良く聞きます。</p> <p>そんな長い歴史があるのに、長等幼稚園がなくなってしまうのはとても反対です。絶対に反対です。</p> <p>地域の方との関わりや、小学校との関わりを大事にしている長等幼稚園が大好きです。子どもたちも大好きです。</p> <p>人数が少なくなるからといって、そんな簡単にしないでほしいのは大津市に住んでいる者としてとても残念です。これからもずっと長等幼稚園は残ってほしいし、今までみたいに地域の方との関わりを大事にしている長等幼稚園に通いたいと思っています。</p> <p>絶対にずっとと長等幼稚園はあってほしいと思います。</p> <p>私の個人的な意見にはなりますが大人の事情、社会の変化等の事情から考えると今回の再編案はやむを得ないのかも知れません。</p> <p>しかし子供のたちの本当の気持ちはどうなのでしょう？</p> <p>もし仮に保育園と幼稚園の入園体験へ動向へ行かせた場合に少なくとも私の知る子供たちは園庭も広く自由に走り回れプールもあり園庭内で運動会等の行事も出来る幼稚園を全員が選びました。</p> <p>保護者も本音は子供たちが遊び行きたい幼稚園へ行かせてやりたいが家庭の事情で保育園しか選択肢がない保護者も多岐あり1番大切な子供たちの考えや意見を二の次にしているもしくは聞いてやる事も出来ない環境ではないのでしょうか？</p> <p>私立幼稚園の28園を17園まで10年かけて減らす再編案が出ておりますがもう少し市や行政の協力を頂き保育園しか選択肢がない子供たちの考え、意見を聞いてやれない家庭への市や街づくりを考えて欲しいです。</p> <p>確かに大津市は2年連続待機児童ゼロという現実もあり市や行政も多方面でのご協力は頂いておりますが非現実的ではあるかも知れませんが協力添えを頂けると幸いです。</p> <p>宜しくお願い申し上げます。</p>	<p>今回の検討は、本来幼稚園が集団生活を営む場所であり、集団生活の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね、検討の目的を検討したものであることから、原案のとおりとします。</p>	中分類
22		全体を通して	<p>私立幼稚園の28園を17園まで10年かけて減らす再編案が出ておりますがもう少し市や行政の協力を頂き保育園しか選択肢がない子供たちの考え、意見を聞いてやれない家庭への市や街づくりを考えて欲しいです。</p> <p>確かに大津市は2年連続待機児童ゼロという現実もあり市や行政も多方面でのご協力は頂いておりますが非現実的ではあるかも知れませんが協力添えを頂けると幸いです。</p> <p>宜しくお願い申し上げます。</p>	<p>28～29ページに記載のとおり、大津市では、「大津市幼児教育・保育共通カリキュラム」に基づき、就学前の子ども達が過ごす場所が異なっているにもかかわらず、子どもにとっての質の高い教育と保育が保障されるよう取り組んでおり、検討委員会においても、大津市の全ての子どもが子育て支援全般も選べるように求めているところです。</p>	<p>両編審認 子育て支援全般</p>
23		全体を通して	<p>今の時世給与を下げるのとは考えられない。 まず、議員、市職員から下げるべき。</p>	<p>議員の処遇に関することについては、当検討委員会では検討しておりません。</p>	処遇
24		全体を通して	<p>私は現在、子どもを幼稚園に通わせている保護者です。</p> <p>現在検討されている幼稚園の再編について、慎重な判断を求めます。</p> <p>特に少子化や保育ニーズの変化は理解できますが、幼稚園には保育園とは異なる重要な役割があります。</p> <p>特に、私の子どもが通う幼稚園のように、少人数で一人ひとりに丁寧に丁寧に関わることができる環境、自然の中で遊びと過ごせる環境、年齢を超えた関わりやゆったりとした時間の中で育つ経験といった教育環境は、大規模化や統廃合では失われてしまう可能性がります。</p> <p>統廃合では「集団の確保」が課題として挙げられていますが、小規模であること自体が価値となる教育も存在します。</p> <p>すべてを一律に統廃合するのではなく、小規模園の価値を評価する視点、自然体験型や少人数教育といった特色を活かした存続、保護者ニーズに応じた多様な選択肢の確保を検討していただきたいです。</p> <p>子どもにとって本当に良い環境は「効率」だけでは測れません。私の子供の上の子はこの幼稚園に通い考え方や人との接し方様々な事を学ばせて頂きました。先生方にも本当に感謝しています。この環境で育つ子供達がいなくならないで欲しいです！！！！</p> <p>多様な育ちの場を残していただくことを強く希望します。</p>	<p>34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。</p> <p>一方で、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの発達に影響を与えない、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関わりを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものであり、効率化を目的としたものではありません。</p>	<p>適正規模 予算削減・効率化</p>
25		全体を通して	<p>今回の件には関係ないかもしれませんが、今回10名中7人の先生が移動されました。これもとても悲しく思っています。卒園した子供達がランドセル姿を見せにきても知らない先生ばかりで落ち込んでいました。今残っている園児達もこんなにも変わると嬉しいな子供達には願っています。</p>	<p>人事に関しては、当検討委員会では検討しておりません。</p>	人事異動

連番	乗談当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
26		全体を通して	私は上田上幼稚園の卒園児であり、現在は保護者として自分の子どもを預けています。上田上幼稚園は、少人数だからこそ一人ひとりに丁寧に丁寧に、子どもたちのびのびと道が広がる自分の「好き」や個性を育てている、非常に貴重な教育環境です。このような環境は、単に規模の効率性では測ることのできない価値であり、他の施設で簡単に代替できるものではありません。地域の方々が行事等にに関わり、日常的に子どもたちを見守ってくださっている点も大きな特徴です。幼稚園と地域が一体となって子どもを育てるこの環境は、地域コミュニティの維持・継承という観点からも重要な役割を果たしています。	34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の備品を否定するものではありません。一方で、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの発達に影響を与え合い、切磋琢磨した、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関わりを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものであり、効率化を目的としたものではありません。	適正規模 地域との関わり
27		全体を通して	さらに、今回の人事異動についても大きな不安を感じています。多くの先生方が一度に異動となったことで、在園児は混乱し、これまで築かれてきた信頼関係が急に断たれてしまっています。卒園児にとっても、成長を見守ってくれている先生方とのつながりが失われている現状は看過できません。		
28		全体を通して	幼稚園と保育園は役割や教育方針が異なるものであり、単純に統合するのではなく、それぞれの価値を尊重した上で順番に検討されるべきです。	人事に関しては、当該委員会では検討しておりません。	人事異動
29		全体を通して	上田上幼稚園でしか得られない教育環境が失われることを強く懸念しており、本計画には強く反対いたします。現場の子どもたち、保護者、地域の声を十分に踏まえた再検討を強く求めます。	認定ことも園化については、貴重なご意見として承ります。	認定ことも園
30		【第一章総論】 2本市の現状 (5) 市立幼稚園の運営費等の状況について	わたしも大津幼稚園の卒園生なので、大津幼稚園が無くなることは残念ですが、大津幼稚園の輝かしい歴史より、現在、そして未来に向けて考えることが大切だと思います。	ご意見として承ります。	予算削減・効率化
31		【第一章総論】 2本市の現状 (5) 市立幼稚園の運営費等の状況について	世の中全体の少子化もありますが、一方で待機児童が増加しているという実態もあります。	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を「1学級の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上」としたこれまでの大津市における検討結果を採用したものです。	適正規模
32		【第一章総論】 2本市の現状 (6) 保護者ニーズの変化について	幼稚園が増えれば、保育のニーズは減る一方です。また、幼稚園の運営は当然予定されていることだとお考えいただけます。	両方面についてのご意見については、今後の参考とさせていただきます。	予算削減・効率化
32	13～15	【第一章総論】 2本市の現状 (6) 保護者ニーズの変化について	共働き世帯が増えれば、今のような短時間保育、給食もない、送り迎えも必要、という市立幼稚園では対応していない、ということではないでしょうか。	13ページに記載のとおり、各調査対象者は、各調査年度において住民基本台帳から未就学児童（0歳～5歳）を無作為抽出したものであることから、市立幼稚園の利用者や希望者に対象を限定した調査ではなく、かつ複数選択可としていることから、最も重視する項目まで把握することはできませんが、検討委員会での議論の材料としております。	アンケート

連番	案談当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
33	34	【第二章基本的な方針と考え方】 4適正規模・再編基準について (2) 再編基準について	「13年連続で5人を下回った場合は、原則近隣の幼稚園等との再編を行います。にもかかわらず、滋賀県南部は現在若者人口が増えているが、全国的にも減っている現状から、今後子どもが減り、民間保育所も補助金が減っていくと経営難になり事業継続や閉園が増える局面になった場合、その学区に残された数人は物理的に近くにある学区に引っ越す必要があるでしょうか。」	大津市における就学前児童の人口は、4ページの表2に記載のとおり、一部の学区を除いて、減少傾向にあります。なお、通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
34	37	【第二章基本的な方針と考え方】 5再編基準等の方向性検討について (1) エリアの考え方について	中学校区の地区単位で再編となった場合、中学生と近い幼稚園は自分で幼稚園に行くことはできないので、送迎が困難になる保護者に対して、送迎サービスは考えておられますでしょうか。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
35	47	【第二章基本的な方針と考え方】 (4) 施設の状態及び園の特徴について	現在の幼稚園の特徴で、地域との交流が盛んな幼稚園もありますが、再編された場合、その地域から幼稚園がなくなるので、地域との交流がなくなりますが、その地域住民に対して、どのようにお考えでしょうか。	地域との繋がりがという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との関わり
36	54	【第三章基本的な再編等の計画】 4全体のスケジュールについて	昨年度3月の幼稚園職員総会が下がる条例改正を組合と話し合ってきた通り、(3年保育もかり)でも、しかしこの全国的な動きに関して、なぜか当分の大津市の行政の動きは鈍かったです。(3年保育もかり)でも、大津市の幼稚園に対して社会的に注目されており、不安や疑念を抱いている人も多いため、無理やり再編を行うのではなく、地域住民や保護者、職員に対して丁寧にとアポイントの上、全体を進めていただきたいです。	54ページには、当事者である保護者への説明会などの機会を通じて、丁寧に進めていくことを求めています。	進め方
37		全体を通して	※大津市の就学前教育・保育について 少子化が叫ばれ始めた20年以上前から、新たな保育ニーズに対応するために、関係法の改正に始まり、施設統合や民間園等のことも進化、保育時間の延長、幼稚園教員と保育士の共通採用等が始まりました。ただ多くは、経費や人的配達の効率化、合理化が先行し、その裏側に、一人ひとりの子どもや保護者の声や喜びにつながる「保育の質」が隠れてしまっている現状があります。 しかしこの全国的な動きに関して、なぜか当分の大津市の行政の動きは鈍かったです。(3年保育もかり)でも「鈍かった」として、当時では県内外から、大津市は、子どもの未来を大切に考え、公的な保育施設が守られていくべきという声をよく目にしました。私達はそんなことを誇らしく思う一方で、幼稚園の在り方について危機感をもち、「幼稚園教育の基本は不易のもの」としながら、時代の変化におおした幼稚園の新たな姿を考えようと、園長会等で研修を始めていました。具体的には、子どもの育ちを守っていくために、3年保育の実施や集団確保に向けた統合、公立幼稚園の幼稚園型認定こども園化等の実現に向けたものでした。(なかなか行政には届かなかつたのですが…)	本検討にあたっては、「保育の質」が隠れてしまわないよう、丁寧な検討を進めてまいり、また認定こども園適正規模	
38		全体を通して	※行政への期待 行政が関わって幼稚園の在り方を変える取組は、預かり保育の実施や比較平保・幼幼一体化、平成25年3月にまとめられた「公立幼稚園の在り方基本計画」や平成27年5月に策定された「大津市立幼稚園・保育園の在り方の方針」になるでしょうが、そこから今回の再編計画に至るまで長すぎる感もありません。 一方で、その後、全国的にも読まれる幼児教育・保育共通カリキュラムが策定され、一時は公立保育園と幼稚園の保育士と教員が互いの施設を行き来して研修する場もあったようで、このような、現場の先生方と共に取り組んだ例は、先進的で評価すべきことだと思います。再編に向けてさらに充実発展させていかなければならぬでしょう。そのためには行政が、「子ども中心」な方針がしっかりと丁寧に現場とやり取りして条件や環境を整える必要があらうと思います。 週日、幼稚園教育職と保育職の給与問題が全国的にも話題になりましたが、給与は再編等と切り離して考えられるものではないと認識しています。給与の統一だけが先行し、再編とは別物のように感じました。 そこからは、行政の中にいまだ、大津市の未来を担う人材育成を見据えた、就学前教育の重要性についての理解と認識が薄いと感じ、怒りや憤りを感じました。今回の再編計画は、保育に関わる人材の待遇も含めて、子どもの育ちが豊かに担保されるものとなるよう、本気度を上げて取り組んでいただきたいです。	ご意見として承ります。子どもの育ちが豊かに担保されるものとなるよう検討します。	進め方

案談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類	
番号	頁				
		詳細箇所			
39	全体を通して	※中学校区単位の協議 再編の方向性の検討は、中学校区を単位としてとらえられているようです。南北に長い大津市の公立幼稚園は、人口動態をはじめ地域課題や地域要望の差異が大きいためそれは理解できます。示された案は、実際に中学校区ごとの、関係機関や保護者、地域の方々などを交え、聞き取りや協議を経たものなのでしょうか？計画案の中からそれが読み取れませんでした。 また幼稚園と保育園は、両方共に子どもが選べない施設ですが、子どもの過ごし方や保育者の働き方には大きな違いがあります。学区によっては幼児の一体的な運営も考えられるから、瀬田南や比叡亭、他市の例をもとに幼稚園と保育園双方の現場との協議を重ねる必要があるでしょう、そのうえで学区ごとの独自の再編計画ができてくると思います。（教員の配置数やバス運行、給食等の具体的な課題も出てくるでしょう。）説明会が実施されるようですが、説明会ではなく、ポトムアップが大切だと思います。 移行や統合が、単に数値分析や大人側の利害だけで単純に行われることのないようにしていただきたいのです	関係機関や保護者、地域の方々などの代表者で構成される検討委員会において、市全体の方向性として検討を行ったものであり、種々の中学校区ごとに協議を行ったものではないと見られます。 大津市では、20～21ページに記載のとおり、これまでから部分的に標準の適正化を行ってきたところですが、10ページに記載のとおり、近年、市立幼稚園の規模の縮小が急激に進んでいることを受けて、改めて全体最適の観点で検討を行ったものです。	進め方	
40	25～32	全体を通して	※大津市の公立幼稚園教育の継承とさらなる充実へ P25からP32に示された内容のとおり、これまで、長い歴史の中で大津市の公立幼稚園のはたしてきた「子ども一人ひとりの深い幼児理解に基づいた質の高い教育内容と方法」をこれからも継承し、変形は変わってもさらに充実発展させていくものであってほしいです。どうか、本計画を、何より、「人間としての子どもの幸せ」を最優先し、そこに携わるエキスパートとしての保育者が十分に役割を果たせる条件と環境を、全国に誇れるような形で考えてくださることを願っています。	ご意見として承ります。	
41	全体を通して	先生の異動について、10人中7人の先生が異動されました。年長、年中の子どもたちはメンタルが不安定になっていると保護者の方から聞きます。	人事に関しては、当該検討委員会では関与しておりません。	人事異動	
42	全体を通して	子どもにとって望ましい教育環境と云えるでしょうか？市は無理やり再編を進めているように感じます。現在のことも進めるべきか？無理に進めるのはやめていただきたいです。 先生方も地域の方々との縁を切って上田、上幼稚園を譲りやすくしようとしているように感じました。 田上幼稚園との合併、例年は田上幼稚園との交流は園生活に慣れている年中、年長だけでした。今年は年少から交流するらしいです。また園生活に慣れてなくて親と離れる時に大泣きしている3歳児にとってあまりにもつらいとおもいます。また自分の担任にも慣れていないです。なのにほかの園の子どもたち、先生はほんとに怖いでしょう。これも将来的に田上に合併するための準備ですか？無理やり感じます。	検討委員会では、個別の園の取組に対して意見しておりません。いただきましたご意見は担当所屬に共有します。	その他	
43	全体を通して	保育のニーズについて、今は保育園は待機児童がいて、保育園が足りないです。幼稚園は全然子どもたちが集まらないです。働いても幼稚園に預けられずよと市がもっとアパウンスするべきなんじゃないですか？親が自分から情報を取りに行かないとあまり知ることができない情報もたくさんあります。たくさん幼稚園を譲って行く前にもっと市がやるべき事があると思いませんか？	検討委員会においても周知に課題があるという意見が出ていることから、23ページにより具体的な方策について追記を行います。 一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。	預かり保育の拡大	
44	全体を通して	パブリックコメントについて、プリントは枚数減らして、まずこのアクセスしづらいのが分らないし、説明会の日にちもプリントもらった日から短い。行きたくても仕事休めません。行けません。あと、説明会の回数が少なすぎる。オンラインでみんな見られるようにするのはいいですか？広く市民の意見を聴くためにと書いてありますが、あまりそうは思えないです。市のホームページのQRコードつけてアクセスしやすくするか工夫してほしいです。	今後、実施する場合はご意見として承ります。	その他	
45	全体を通して	特性の強い子について、市立の幼稚園は誰でも入園出来る。保育園はつかりになってしまっって家の近くに市立幼稚園がないと、子ども無理させてしまっってでも近くの保育園に入園させるのが無くなる家庭も多いと思います。うちの長男は特性が強く幼稚園には本当にお世話になりました。 4月から小学校の支援級に行きます。そんな子ども達も受け入れてくれる市立の幼稚園を無くして合併するなんて本当に子どもたちの為になるのでしょうか？	特別に配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討する必要があると考えます。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要が特別に配慮があるという意見も出されています。	特別な配慮	

ページ	案当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
52	40	【第二章基本的な方針と考え方】 5 再編等の方向性検討について 認定こども園に関する箇所	大津市の認定こども園の数が充分満たされていないという見解ですが、今後、大津市が子育て世代の転入増加を推進する以上、万全の環境を用意すべきであると考えます。私の周囲でも、自然環境が良く、J・Rの利用が便利であり、京都より地価の安い、大津市に転入を希望する、子育て世代が多くなります。また、大津市内のこども園一律に考えるのではなく、個別の学区の状況を見、特に大津市中心部である、打出中学区においては、現在の全ての幼稚園において、認定こども園にして、子育て世代が安心して、転入できる環境にもすべきだと思います。	認定こども園については、貴重など意見として承ります。	認定こども園
53	12、 25、 26、 47	【第一章総則】 2 本市の現状 (5)市立幼稚園の運営費等の状況について 【第一章総則】 4市立幼稚園が果たしてきた役割 (3)地域の特色を生かした幼稚園教育の推進 (4)地域の子育て支援の推進 【第三章基本的な再編等の計画】 2再編等の方向性について（上田上箇所） から全体的に	大津市の一般会計に占める教育費は約8%程度であり、そのうち市立幼稚園に係る経費は1.3%程度と推計されます。この規模の財政負担を理由として、地域の幼児教育環境を縮小、統廃合することには慎重であるべきと考えます。 特に、私の住む上田上は自然環境に恵まれた地域であり、幼稚園では全面天然芝生の園庭を活かした保育に加え、地域の方々の協力のもと、里山体験やしつけの園打ち、湯内峠での散歩、ピーナッツ畑の体験、大戸川での川遊び等都市部では得難い貴重な体験活動が日常的に行われています。 また、周辺にはコスモス畑や菜の花畑が広がり、四季の移ろいを感じながら育つことができる環境は、子供たちの情操教育や主体性の育成において非常に重要な価値を持っています。これらの地域資源を活かした保育は、単なる施設の統合では代替えが難しく、地域と共に築き上げてきた教育の質そのものです。再編により通園距離が短くなることは、園児や保護者の負担増にもつながり、特に小さなこどもにとっては大きな影響があります。効率性や財政面のみを優先するのはなく、地域の愛情や教育の質、子育て支援の観点を総合的に考慮し、加速な統廃合ではなく、現状の価値を維持、活用する方向での検討を強く求めます。以上の理由から、本再編案については見直しを要望致します。	今回の検討は、本系幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね、事前に審議を重ね、検討を行ったものであり、効率性や財政面から検討を行っているものではありません。	予算削減・効率化
54	2	【第一章総則】 1はじめに	本章において、幼児期の教育が人格形成の基礎であり、良好な環境の整備が重要であること、また地域や発達段階に応じた質の高い教育、保育の提供を目指す点については、深く共感します。また、乳幼児期から小学校への接続までを見直し、等しく質の高い教育・保育を一体的に提供するという理念は非常に重要であり、今後も大切にされるべきであると考えます。 しかし、今回の再編案においては、こうした理念が現場でどのように実現されているかという視点で十分に反映されているとは言い難いです。特に、地域の自然環境や住民との関わりの中で育まれている体系的な学びや、少人数だからこそ実現できている丁寧な保育環境は、まさに本章で述べられている「良好な環境」や「質の高い教育・保育」の具体的な姿であると考えます。これらの実践は、単に施設を統合することによって代替できるものではなく、こどもたちの育ちにとってかけがえのないものです。計画では少子化や園児数の減少が課題として挙げられているが、少人数であることは一概に不利な条件ではなく、一人ひとりに寄り添った教育の充実という観点からはむしろ重要な価値を有しています。 市が掲げる理念を真に実現する為には、既に各地域で実現されている教育の実態を丁寧に評価し、それを維持、発展させる視点が不可欠です。現在の教育環境の中で、こどもたちは、確かに育ち、地域の中で見守られながら日々成長しています。実際、年中になつた息子は裸足で芝生の園庭を駆け回り、友達や先生と虫とりをして園庭で一緒に遊べたのが嬉しかったり、四季の移ろいを感じながら、園庭で田んぼの様子を見てトラクターや田植え機、コンバインにも興味を持ち、お米の収穫までの過程を知ったり、この一年で大きく成長している。未来あるこどもたちから、この貴重な学びの場を奪わないで頂きたいです。 以上のことから、本再編案については、理念と整合性の観点からも慎重に見直しを行うことを強く求めます。	34ページに記載のとおり、園の林業や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。 一方で、33ページの道正操棟に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関わりを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものです。	道正規模
55	7～	【第一章総則】 2本市の状況 (3) 保育ニーズの高まりについて	資料では、共働き世帯の増加により保育ニーズが高まっているとされています。しかし、近年は市立幼稚園においても預かり保育が開始される等保育ニーズへの対応が進められています。こうした取り組みにより、幼稚園においても教育と保育の両立が可能となりつつあります。したがって、保育ニーズの高まりを理由として幼稚園の統廃合を進めるのではなく、既存の幼稚園機能を活かしながら対応していく視点が必要です。 幼稚園は本来の教育機能に加え、保育ニーズにも対応し始めている段階であり、その過渡期において機能を縮小することは、選択の幅を狭めることにつながります。多様化するニーズに対しては、施設の増設ではなく、機能の充実によって応えるべきであると考えます。	23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見があります。 一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。 これまで実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行っているも	預かり保育の拡大

ページ	要談当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	番号	詳細箇所			
56	14	【第一巻総則】 2本市の状況 (6) 保護者ニーズの変化について 図11	資料において、幼稚園等を運営が際（自宅の近くにあること）を重視する割合が約8割と最も高いことが示されています。これは、通園のしやすさが保護者・子ども双方にとって極めて重要な要素であることを示しています。しかし、再編成により統合が進められることで、これまで自宅近くの幼稚園に通っていた子どもが遠方の園に通うこととなる可能性があります。これは、市民ニーズとして最も重要とされている要素に反するものであり、計画との整合性に疑問があります。 特に幼児期においては、長時間の移動は身体的・精神的負担となり得ます。また送迎に係る保護者の負担増加は、子育て支援の観点からも望まれないものではありません。利用者が最も重視している条件が満たされなくなる再編成は、本来の目的に反する可能性があります。	13ページに記載のとおり、各調査対象者は、各調査年度において住民基本台帳から未就学児童（0歳～5歳）を無作為抽出したものであることから、市立幼稚園の利用者や希望者に対象を限定した調査ではなく、かつ複数選択可としていることから、最も重視する項目までを把握することはできませんが、検討委員会での議論の材料としております。	アンケート
57	25～	【第一巻総則】 4市立幼稚園が果たしてきた役割 (2) 幼稚園と小学校の滑らかな接続 (3) 地域の特徴を生かした幼稚園教育の推進	市立幼稚園ではこれまで、小学校との滑らかな接続を重視し、学区ごとの連携を通じて子どもの育ちを支えてきたとされています。しかし、幼稚園のみを先行して統合することで、現在の学区とのつながりが弱まり、小学校との連携にも影響が生じる可能性があります。	小学校に関することについては、当該検討委員会で検討しております。	小学校
58	25～	【第一巻総則】 4市立幼稚園が果たしてきた役割 (2) 幼稚園と小学校の滑らかな接続 (3) 地域の特徴を生かした幼稚園教育の推進	市は、地域の特徴を活かした教育や地域との関わりの中で子どもを育てることの重要性を示しています。市立幼稚園では、地域住民との交流や自然体験などを通して、まさにその実践が行われています。しかし、再編により通園区域が広がり、地域外の園へ通うこととなれば、これまで築かれてきた地域との関係が希薄になる可能性が高まります。地域とのつながりの中で育つ経験は、子どもの社会性や郷土への愛着の形成にとって重要であり、容易に代替できるものではありません。 幼稚園段階で地域とのつながりを弱めることは、その後の小学校教育や地域コミュニティとの関係にも影響を及ぼす可能性があります。一時的な教育を掲げるのであれば、幼稚園のみを切り離して再編するのではなく、小学校との関係も含めた長期的な視点での検討が必要であります。	地域との繋がりがという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き継ぎ、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との関わり
59	47	【第三章基本的な再編等の計画】 2再編等の方向性について (4) 施設状況及び園の特徴について	幼稚園段階で地域とのつながりを弱めることは、その後の小学校教育や地域コミュニティとの関係にも影響を及ぼす可能性があります。一体的な教育を掲げるのであれば、幼稚園のみを切り離して再編するのではなく、小学校との関係も含めた長期的な視点での検討が必要であります。市立幼稚園では、地域住民との交流や自然体験などを通して、まさにその実践が行われています。しかし、再編により通園区域が広がり、地域外の園へ通うこととなれば、これまで築かれてきた地域との関係が希薄になる可能性が高まります。地域とのつながりの中で育つ経験は、子どもの社会性や郷土への愛着の形成にとって重要であり、容易に代替できるものではありません。 幼稚園段階で地域とのつながりを弱めることは、その後の小学校教育や地域コミュニティとの関係にも影響を及ぼす可能性があります。一時的な教育を掲げるのであれば、幼稚園のみを切り離して再編するのではなく、小学校との関係も含めた長期的な視点での検討が必要であります。	いたしまして意見にある特徴については、検討委員会でも意見が出された上で検討を行いました。園の特徴については、ごも育ちの観点から、各園の良い環境を継承できないかなど意見が出ています。園の繋がりがという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き継ぎ、ご協力をお願いしたいと考えています。 また、54ページに記載のとおり、当事者である保護者などへの説明会などの機会を通じて、丁寧に進めていくことを求めています。	園の特徴 地域との関わり
60	48	【第三章基本的な再編等の計画】 2再編等の方向性について (4) 施設状況及び園の特徴について 表15	市立幼稚園では駐車場がないとされていますが、実際には地域から借用している駐車場が存在します。再編にあたり、園舎の規模や駐車場の有無が判断材料とされるのであれば、こうした実態も踏まえて評価されるべきではないでしょうか。	地域の実態に合わせて駐車スペースを利用されていることは存じ上げておりますが、駐車場の敷については、48ページ下部に記載しているとおりに幼稚園敷地内にある駐車場のみに計上しております。	通園支援
61	54	【第三章基本的な再編等の計画】 4全体的なスケジュールについて	再入園予定の娘はこの5年以内に在園期間と計画が分かっています。途中で統合が決まった場合、市立幼稚園へ移動したあとまた市立幼稚園に通うことになると意味があるのでしょうか？この計画では様子見できる余裕があります。 余裕がなければ、子どもの精神的負担や地域への配慮も考えて最悪でも5年は状況を注視し、十分な改善案が出てから政策を行っていただきます。	できる限り早く周知を行うため、市全体として後述を行っているものです。 なお、54ページには、当事者である保護者への説明会などの機会を通じて、丁寧に進めていくことを求めています。	進め方
62		その他	今回四月の教職員の人事異動で、市立幼稚園では教職員が10名中7名異動となり、教育体制が大きく変化しています。 幼児期においては、信頼関係を築いた教職員との継続的な関わりが重要であり、短期間での大幅な人員入れ替えは教育の質や安定性に影響を及ぼす可能性があります。実際には子どもたちの間でも不安や戸惑いが見られおり、環境変化への影響は少なからずあります。幼児にとって安心できる人的環境は、生活や学びの基盤であり、監視すべきではありません。これまで、教職員の方々が大津市の教育に誇りをもち、丁寧かつ的確な保育・指導を行ってくださっていただくと保護者としても感じています。そのような中で大幅な異動は、保護者としても教育の質が維持されるのが強い不安を感じます。このような大規模な人事異動が再編成と連動しているのであれば、段階的かつ子どもへの影響を最小限に抑える配慮が必要と考えます。教育環境の変化は施設統合だけではなく、人的体制も含めて慎重に行って頂きたいです。	人事に関しては、当該検討委員会では関与しておりません。	人事異動

連番	案談当園所		意見内容	検討委員会の考え方(各課回答)	中分類
	頁	詳細園所			
63			①ホームページで拜見した結論として、この計画に反対します。もともと基準を明確にし、早急に進めるよう修正すべきです。子どもは大きく伸びます。我が子の教育のためにより良い環境を早く確保してください。 ②16ページのこれまでの取組をみました。 10年前から取組を進めているのに、ほとんど進んでいない。この10年間の幼稚園児に対する幼稚園教育を大津市と幼稚園は放棄してきたのでしょうか。 この10年間再編を進めなかった反省を記載すべきです。	検討委員会で早急に進めるほうがよいのではと議論されましたが、保護者等への説明に時間がいることから、原案のとおりとします。	再編否認
64	16	【第一審総則】 3これまでの取組	③園児数が減少しているが複数園所に記載されていますが、それはわかりませんでした。 ある程度の団体規模が必要なことくらい理解しています。子どもが少なくなると、共働きが増える。それがわかってきたのでこれまで再編すれば保証できた幼稚園教育、待機児童対策に使用できた人件費と幼稚園の光熱水費などの予算は例にたつたのでしょうか。	ご意見については、今後の参考とさせていただきます。 今後、ご意見にあるとおり、10年間のこれまでの反省を踏まえた計画案を求めてまいります。	進め方
65		全体を通して	④基準について、再編は2段階などいわずに一気に進めるべきです。 子どもたちのことを考えれば断言はできません。保育園にしてもいい、公園でもいい。幼稚園教育を保証するならば基準を明確にし、4年程度で進めるべきです。	検討委員会で早急に進めるほうがよいのではと議論されましたが、保護者等への説明に時間がいることから、原案のとおりとします。	再編否認
66		全体を通して	⑤地域性の考慮について、今は排除すべきです。	ご意見として承ります。	進め方
67	42	【第二章基本的な方針と考え方】 5再編等の方向性検討について (3)地域性の考慮について	幼稚園の歴史は子どもの教育に一切関係ありません。幼稚園教育を確保するといふ観点で子どもと保護者以外 の事情を考慮すべきではありません。	長い歴史のなかで培ってきた幼稚園教育を活かしていく必要があると考えていることから、原案のとおりとします。	園の特徴
68	50~	3検討経過とその概要について (2)再編等の方向性検討の結果について (3)検討経過と概要について	⑥50ページ以降にも園の歴史や地域性、または地域の方への説明ということが記載されています。 幼稚園の歴史や地域性(住居)の意見は子どもへの教育に一切関係ありません。我々一般人は小学校の教育に口出ししません。幼稚園も一緒です。教育は教育がかんがえる。園の施設は市役所が考える。 それでも意見を聞くなら保護者やこれから子育てをする妊婦や家庭であり、子育てを終えた世代ではありません。聞通っても地域の世話役や声の大きい地域のまとめ役と呼ばれる人の意見を尊重すべきではありません。その方々は正当な地域の代表ではない。選んだ覚えもない。また当然ながら選挙で選ばれた人でもない。 我々子育て世代はそれらの人に即圧され、意見が言えないという現実を知ってください。	ご意見として承ります。	地域との関わり
69	12	【第一章総則】 2本市の状況 (5)市立幼稚園の運営費等の状況について	令和6年度の大津市における歳出額と大津市内にある幼稚園の諸経費を比較してみたいところ。全体に対して割合が低いのに優先的に再編しないといけないのでしょうか。歳出額を見ても、幼稚園再編のほかに削減できる部分があるのではないのでしょうか。その議論もなく、幼稚園再編と報告されても納得はできません。	本検討は2ページに記載のとおり、質の高い教育・保育の提供を目標として検討を行っているもので、予算削減案ではありません。	予算削減・効率化
70	43	【第三章基本的な再編等の計画】 1再編等の検討の流れについて	大津市が掲げる再編フローを見ても、確かに園児数のほかに施設状況、園の特徴、地域の状況など様々な観点から再編を判断するとの記載はありますが、結局のところ、幼稚園再編に関しては園児数の数でしか判断していかないような資料に読み取れます。園児数だけで判断せず、それ以外の項目も慎重に検討してください。	35~36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数として園児数による再編基準を設けています。また、通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	検討経過
71	48	【第三章基本的な再編等の計画】 2再編等の方向性について (4)施設状況及び園の特徴について 表15	施設状況なのですが、幼稚園の健全度、築年数ポイントが下がる園への再編は園児への安全性考慮にかけられています。また、田上幼稚園を除き、再編先の幼稚園では道幅が狭く、遠方からは車での通園には向かないです。この再編は本当に市民や子供への安全を考慮してない再編にとらわれます。 再編される幼稚園から再編先の幼稚園までの経路検索をしたところ、最小でも2.3km、最大で8.1kmも距離があります。車でこればいいと思うかもしれませんが、子供のいる世帯が必ず車をもっているとは限りません。また、父母のどちらかが通勤で使用して、普段は家に車がないと、通園には徒歩が自転車になります。そういう場合、これだけの距離は事故が暗る原因になりませんか。 再編先の幼稚園をGoogleマップから航空写真を見ましたところ、住宅街の真ん中に位置してたり、交通量の多い場所に幼稚園が存在していることから、駐車場や改修による園地拡大や道路幅の拡大等は近隣住民からの賛同は得にくく、実現するまで数年必要になり、再編したのに結局お金がかかる結果になると考えています。	35~36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数として園児数による再編基準を設けています。また、通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	検討経過 通園支援

ページ	家談当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
72	その他	上田上幼稚園の運営に関する要望 今年3月に上田上幼稚園を卒園した保護者です。 在園中は、自然に囲まれた環境の中で四季を感じながら様々な体験をさせていただき、子どもにとっても、保護者である私にとっても非常に充実した3年間を過ごすことができました。先生方も親身に子どもたちに接してくださり、子どもたちが安心して通える環境を整えていただいたこと心から感謝しております。 しかし、卒園後に多くの先生方が異動され、園の雰囲気が大きく変わってしまったと聞き、大変残念に感じております。現在在園している子どもたちの中には、「幼稚園に行きたくない」「楽しくない」と感じているという声も耳にしています。 教育方針や組織運営について様々な事情があることは理解しようと思っておりますが、何よりも優先されるべきは子どもたちの安心と成長ではないでしょうか。 再編や人事異動を行う必要がある場合でも、在園している子どもたちへの影響を最小限に抑える配慮が必要だと感じます。例えば、在園児が卒園するまでは大きな環境変化を避けるなど、段階的な移行も一つの方法ではないでしょうか。 現在の急激な変化は、子どもたちや保護者にとって受け入れがたいものであり、戸惑いや不安が広がっています。これまでの園の良さが失われてしまふことを強く懸念しております。 子どもたちが安心して楽しく通える環境を守るためにも、今一度、現場の声に耳を傾けていただき、より良い形で運営を検討していただければ幸いです。	人事に関して、当該検討委員会では関与しておりません。	人事異動	
73	2	「幼稚園において、幼児は多数の同年代の幼児と関わり（中略）主体性や社会的態度を身に付けていく」	今回の幼稚園再編は、後ろのページに記されていますが、この文書の認識事務市民の理解を得られたものであります。その情勢の概要が「はじめに」に記されていますが、この文書の認識事務市民の理解を得られたものであります。再編ありきで構成されていません。 特に、「学校教育法第23条における幼稚園教育の目的を達成するための多数の同年代の幼児と関わり、言語ですが、これを達成させるため本当に子どもたちに必要なのか、検討を仕直してほしい。少人数のグループでも子どもの成長発達には関係されるのではないかな。」 またこのも保護者との関係も再編した幼稚園で対応されるのか、ご教示をお願いいたします。 まず、この幼稚園再編計画には、反対である。	34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。 一方で、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関わりを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものです。	適正規模
74	4	表2小学校区別の就学前児童の人口推移	本県において、大津市全体の就学前の子どもの人口が減少しているのは理解できます。全体の人口が増加し子どもの数が増えないのは、大津市が子どものために住みよい街でないことと表れたこととないかな。子育てしやすい街になるようにするが本来の行政の役割ではないかな。 特定の学区以外減少していることは表のとおりですが、まずどの学区の子どもたちが通園できる保育園数や幼稚園数が公立私立問わずあるのでしょうか。通園できる施設があるにもかかわらず、最初に幼稚園などを再編する必要があると思います。 地域の施設を活用することが大切だと思いますが、いかがでしょうか	全国的に少子化が進んでおり、大津市も同様であります。ご意見については、今後の検討とさせていただきます。市担当所属も共有します。 なお、今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるような、慎重に審議を重ね検討したものです。	検討の目的
75	12	図10特別な配慮を必要とする子どもの推移	「(5) 運営費の状況に、非納の必要な子どもを入れるのは、人権に違反するものである。そもそも、就学前の子どものためには費用を増やすべきであり、この再編計画の中でそのコストを記すのは、予算ありきとらえるものである。それ自体も問題であるにもかかわらず、配慮の必要な子どもは教諭の人数的に施設面にも費用のかかるものである。それをこの項でのみ記すのは問題である。 この欄を削除すべきである。	ご指摘のコスト面については本市の状況を記載したところであり、12ページには、コスト面のみでは幼稚園教育を評価できない旨を記載しております。 また、特別な配慮を必要とする子どもも数についても、本市の現状を示すものであり、かつ、30ページに記載の市立幼稚園が今後担っていくべき役割としての根拠資料にもなるため、原案のとおりとします。特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しつかり検討する必要があると考えます。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。	予算削減・効率化 特別な配慮
76	16, 33	(1) 適正規模について	1学級の園児数4歳児20人以上、5歳児25人以上で、各学年2学級以上の基準がありますが、ある程度の人数がアイル施設での基準であって、一人一人の保育や教育に当たっては検討すべき基準ではありません。どの人数でも子どもに合わせて保育を集団的に個別別に行うべきです。それが教諭の仕事であり、自己確立が行えるものです。 よって、人数に合わせた、再編を行うものでありません。 本再編計画の撤回を求めます。	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を「1学級の園児数が4歳児20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上」としたこれまでの大津市における検討結果を採用したものです。 適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらい規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものであり、原案のとおりとします。	適正規模
77	49	品の教育・保育施設の配置について	図20市内の主な就学前施設一回において、幼稚園関連及び公立施設のみ記載されているが、子どもの就学前施設全体を記載すべきである。民間保育園や一時保育所なども記入して、それで子どもたちの発達への権利が保障されるかをビジュアル化すべきである。 これでは、再編ありきの図になっている。	市立幼稚園に通われている子どもは「1号認定子ども」であることから、図20には1号認定子どもが入園できる施設を提示したものであり、原案のとおりとします。 なお、市立保育園や市立中学校については、関連性を加味し記載しました。	検討経過

提案当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類	
連番	頁				
		詳細箇所			
78	52	南郷幼稚園再編	<p>南郷幼稚園卒園生で、在園児の父でもあります。南郷幼稚園は自然あふれる素晴らしい園です。春には桜が咲き、夏にはセミが止まり、秋には芋ほりしたり焼き芋をしたりできます。近隣の住民の方にもご理解を得てできる行事ばかりです。いわば田舎だからできる素晴らしい体験ではないでしょうか。学区内に幼稚園が有る、無いではこれから移り住まれる方への配慮でもと考えると、確かに入園される方の数は減少傾向であることは重々理解できますが、「少ないから無くす」というのは合理的である一方で、地域住民への理解が得られないのではないのでしょうか。また、幼稚園の再編により、教員の雇用減少にも影響があると考えます。子供の遊び場が減り、地域のコミュニティが狭まるというものは合理的ではないでしょうか。子供は日本の宝です。大人が大人の事情(合理性)でその子供たちの遊び学ぶ場を減らすことはいかがなものでしょうか。</p> <p>共働き世帯が増え、こども園の需要が高まっていることは承知の通りですが、需要が減少しているから幼稚園を減らすは安易な考えだと考えます。</p> <p>上記内容から25ページに挙げられている市立幼稚園がはたしてきた役割の(2)幼稚園と小学校の滑らかな接続(3)地域特色を生かした幼稚園教育の推進(4)地域の子育て支援の推進(5)平等に教育の機会を提供し誰もが学び成長できる環境の保障、の維持継続はできないと考えます。</p> <p>27ページ就学前教育・保育のあり方の方のドジョンにある「保育環境の充実」(就学前の子供の育ちの場を確保するとともに、～)に反するのではないかと感じます。</p> <p>「大津市立幼稚園の再編等について」を拝読しましたが、これは一休誰のための物かと感じております。子供のため、地域のための文書ではなく、あくまでも財政のためという意図が見え隠れしている次第です。</p> <p>上部でも記載しましたが、子供は日本の宝です。宝から大人の都合により学ぶ場を削減することは、目先の小利を負い未来の大利を逃すことかと考えます。</p> <p>そのため慎重の考えを意見いたします。</p>	<p>34ページに記載のとおり、園の体制や教師的指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。</p> <p>一方で、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨した、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関りを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考えたいと承知しております。</p> <p>また、ご指摘の市立幼稚園が果たしてきた役割については、再編を賛成したとしても継承していきたくはありますが、「地域」の考え方としては、これまでの小学校区よりも広域なものとして捉えていただきたいと思います。</p>	<p>中分類</p>
79			<p>ご意見として承ります。</p> <p>33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関りを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討しているものであり、財政的見地や効率的観点から再編を検討しているものではありません。</p> <p>また、市の予算の投資先についての検討を行ったものでもありませんので、ご意見のとおり明記を行うことについては差し控えさせていただきます。</p>	<p>予算削減・効率化</p>	
80			<p>ご提案の「こどもセンター」については、今後の施策の参考とするため、市の担当所属に共有させていただきます。</p> <p>子育て支援全般については、ご意見として承ります。</p>	<p>子育て支援全般 待機児童</p>	

連番	案談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
81		全体を通して	<p>全国でも少しずつ増えてきている恵まれた大津市にもかかわらず、幼稚園用編は待機児童を解消させ保育料を増やすことが考えられない不安な計画だと思えず、激しい憤りを感じます。</p> <p>地域から長年支えられてきた、歴史ある幼稚園を廃園させることは、その地域に住む方々の思いや希望を奪うことです。地域の繁栄が、活性化が大切な時代に逆行した計画です。</p> <p>幼稚園は教育です。実際に私の子供も通わせましたが、幼児教育に対する先生の意識の高さ、熱心さに感心し、親子共に大変な時期も励まされ本来心に強く、心から通わせてよかったですと感じています。これからの時代を担う子ども達に必要な教育現場です。</p> <p>そんな幼稚園教育の待遇も、この給与が上げられている時代に逆行しており、幼稚園が減るだけでなく待遇まで削がれ、教員の尊厳が無視されたと考えられないものです。</p> <p>とはいっても幼稚園の人数が減少しているのは事実です。</p> <p>私はこの転換期をもっと前向きに考えていただきたいと思います。</p> <p>ネガティブな観望会ではなく、今あるこの素晴らしい公立幼稚園を、宅配給食の導入や延長保育で働いていても通えるというところ（ご存知ない方が多すぎます）を大津市から全面的に広報してほしいと思います。</p> <p>その期間を経て、それでも幼稚園の人数が増えず保育料が増え続けるのが出てしまふのであれば、例えば就業時間の少ない家庭は保育料の希望額を出すと、幼稚園を1つ希望選択版に加える制度に変更するなど、原園の前に出来ることは色々あると思います。それを何もせず、いきなり廃園というのは断じて納得できません。</p> <p>公立幼稚園の統廃合をしないでください。統廃合したら、もう全ての幼稚園が無くなると思います。近々どうなるかわからない幼稚園に我が子を行かせたいと思いませんか？</p> <p>お願いします、もう一度考え直してください。我が子の大好きな園を廃園しないでください。どうかよろしくお願ひいたします。</p>	<p>大津市全域で考えると、全国の傾向と同様、少子化は進んでいる状況です。</p> <p>また、23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見があります。</p> <p>一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。</p> <p>その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、待機児童対策を目的としたものではありません。</p> <p>これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行っています。</p> <p>給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。</p>	<p>待機児童 預かり保育の拡大 給食</p>
82		全体を通して	<p>このような計画は統合対象となる幼稚園の地域住民と十分に協議し、合意を得てから統合する幼稚園名の公表や年次計画を発表すべきであり、すべてが決定済みであるかのような今回の案は検討の順番が間違っているとしか評価できない。</p> <p>また、諮問案の段階で統合される幼稚園名まで挙げられていることで、今後の園児募集の実質的評書となりうる見通しのできない危険な発表である。</p> <p>これらを考慮するとこの諮問案は一旦撤回し、丁寧な進め方を再度行うべきである。</p>	<p>検討委員会において意見の取りまとめを行った計画（案）について、パブリックコメントにより意見を聴く段階にあり、決定したものではありません。</p> <p>今後、パブリックコメントの結果を踏まえ、市に対して答申を行います。</p> <p>計画の策定に当たっては、答申の内容を踏まえ、市が検討を行います。</p>	進め方
83	36、44	統合の人数基準と統計	<p>第1段階の統合は「3歳児の園児数が10人を下回る」場合止まっているが、4ページの統計によれば大津幼稚園が10人を下回るのは令和6年度だけである。この点について和歌山文化センターでの説明会で質問したところ担当課長から「1年下回っている第1段階です。上の回答があった。つまり1年でも下回っていればその後の動向など考慮する必要もよく自動的に統合の対象にするという、統合を進めるための検討に評価できない。</p> <p>説明会では、数だけでは不十分との説明があったが、統合ありまで数字のみを一人歩きさせていると思えない。</p>	<p>35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けています。ご意見にあるとおり、1度でも10人を下回る場合は第1段階として判断を行いました。明確に記載されていないため、「1度でも下回る場合」と明記します。</p> <p>また、令和8年度以降の推移については、51ページ以降に記載の「検討経過と概要について」の部分で検討を行っておりますので、その旨を追記します。</p>	再編基準
84			<p>説明会において様々な質問が出たが、担当課長の回答は質問者が聞きたい内容に対して、「配慮する」「丁寧に進めていく」「しかり対応する」などに終始しており質問者の疑問や不安に対する回答になっていなかった。このような状況では市として十分な検討ができていないと思えない。</p>	<p>検討委員会において意見の取りまとめを行った内容について、パブリックコメントにより意見を聴く段階であること、説明会の目的はパブリックコメントの内容をご説明することであるため、ご意見にあるとおりの回答になっていきます。</p>	その他
85	25、43 他	地域とのかかわり	<p>計画では、地域との関係を考慮したようになっているが、それは近隣に保育所があるといった物理的地理的な点に限られており、公教育にとって重要な観点である「地域とのかかわり」「地域の中での位置づけ」といった要素が全く考慮されていない。</p> <p>これは公教育の危機である。市は一体公教育の使命をどう考えているのか疑問である。</p>	<p>幼稚園等における就学前教育については、幼稚園教育要領等に基づき実施されていることから、官民幼保開かず、本市の就学前施設で実施されているものと考えております。</p> <p>なお、33ページに記載のとおり、市立幼稚園がこれまで培ってきた幼稚園教育を継承していけるよう求められています。</p>	地域との関わり
86	24他	園児数の推移	<p>計画には園児数の推移（現象していること）が示されているが、その分析が不十分である。</p> <p>保育ニーズの高まりは大きな要因であろうが、市立幼稚園の園児数の減少はそのこのみが必要因ではない。</p> <p>他の大きな要因として、市立幼稚園では給食が無いこと、またそのため帰宅時間が早いこと等により保護者の負担感が大きいことが挙げられる。</p> <p>単に園児数が減ったから統合するという方針は、公教育を司る市としてあまりに浅慮の至りか免れない。</p>	<p>既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。</p> <p>その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、待機児童対策を目的としたものではありません。</p> <p>なお、園児数の推移の原因分析については、保育料等への申込は0歳児から2歳児で約76%を占め、3歳児の申込は約17%（新規申込に限定すると、約10%）に留まっていることを追記します。</p>	<p>預かり保育の拡大</p>

案談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁			
87	24他	園児数の推移	<p>潜在的なニーズを掘り起こすための方策を真剣に検討すべきである。例えば付属幼稚園ではテリトリー方式による給食を実施しているが、同様の措置は比較的経費負担も少なく実現できるものであり、公教育として真剣にニーズの掘り起こしを検討すべきである。</p>	給食
88	25、29	架け橋プログラム（大津幼稚園）	<p>大津幼稚園と隣接する中央小学校の間では、教員の共同研修などによる交流や5、5交流を始めとする児童・幼児の交流が活発に行われており、住民から見ても理想的な幼小連携が図られている。</p> <p>また、近隣の私立施設とも活発な交流を行っている。</p> <p>そのため、小1プログラム、小1の壁といった問題は見受けられず、架け橋プログラムの成果は十分に達成されている。</p> <p>このような各園における教育内容の評価は具体的にされているのか？ 答申案ではその部分は見当たらず、検討内容に不足があるかと思えない。</p>	幼小連携
89			<p>大津幼稚園は自主通園であるが、そのため、幼児の心配事や園の様子等が通園時（待園時）に保護者と教員が直接目を合わせる形で共有でき、子供の日々の成長にとって即応性や的確な指導の適時性が担保されている。統合されることの密接な関係は望めず的確な判断・指導が働かざるを得ない。</p> <p>大津幼稚園は、地域の先人たちによって地域で設立された歴史的背景を有する園である。</p> <p>今年で創立138年の歴史を誇り、日本の幼児教育の先駆的存在であり、その長年にわたる実績は大津市が誇るべき教育資産である。</p>	通園支援
90	25他	地域との関係（大津幼稚園）	<p>大津幼稚園が、最初の市立幼稚園であるという歴史については検討委員会でも意見が出されたところである。その上で、子どもの育ちの場、集団規模を確保することを第一として検討してまいります。</p> <p>また、地域との繋がりがという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。</p>	園の特徴 地域との関わり
91			<p>前述のように大津幼稚園は大津市として誇りうる成果を挙げている。これは常に幼稚園教育に先頭に立ってきた伝統と先取の気性に基づくものであり、だからこそ園長の交代等の変化に関わらず引き継いでこられたものである。</p> <p>しかしながら一方で、現在大津幼稚園の園児数が減少していることは事実であり、何らかの方策が必要であることも否めない。</p> <p>そこで、これまで述べてきた大津幼稚園の教育実績を活かし、引き継いでいくため、大津幼稚園を認定こども園化し、その教育資産を受け継ぎ発展させていくべきであると考える。</p>	認定こども園
92	50	表16再編等の方向性一覧	<p>選択制を取り入れていただきたいと考えています。</p> <p>例を挙げて選択制の必要性を述べます。</p> <p>大石に在住の方は再編後、石山幼稚園に通園することになります。大石から石山幼稚園に通園するには、手前は自家用車または公共交通機関のバスになると考えられます。しかし、隣の中学校区にあたる田上幼稚園に通園できるとなれば、地理的に自転車を利用しての通園も可能となります。つまり再編によって、通園範囲が広域になることで、各家庭の自家用車の有無や保有台数によって、通園しやすい幼稚園の場所が家庭によって異なってくる考えられます。</p> <p>このように各園から、幼稚園にも選択制の導入が必要ではないかと、私は考えています。</p>	再編容認 通園支援

案談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
ページ	詳細箇所			
93	37(1) 527 エリアについて	<p>南郷中学校区（南郷・大石幼稚園）と石山区（石山幼稚園）の3園による再編に反対 ・再編の基本方針については、基準については園児数とし、エリアは中学校区が基本とされている。 南郷中学校区の南郷・大石幼稚園については、園児数の基準から統合されることについては致し方ないと思うが、南郷・大石幼稚園が統合されればこの3年間の実績でも令和12年度までの推計園児数でも15人以上の規模となり、再編の対象となる3年連続して15人を下回る場合も除外されるはずである。それにも関わらず、現状でも再編の検討対象である石山幼稚園と3園併せての再編を考慮する理由は何か。3園での再編ではなく南郷中学校区内の南郷・大石幼稚園の統合で十分であるし、基本方針にも沿うのではないか。 それでもなお南郷中学校区（南郷・大石幼稚園）と石山中学校区（石山幼稚園）の3園による再編が強く行われるのであれば、幼稚園再編の実績による幼稚園職員の削減や中学校の統廃合まで見越しているのではないかと強い懸念がある。 同じ中学校区の大石幼稚園と統合すると園児の数は15人以上になります。安心、安全で自然豊かな子どもたちの教育環境を考えると南郷幼稚園を残すべきだと思います。石山幼稚園への統合は反対です。</p> <p>石山幼稚園 ・園門すぐ、交通量の多い国道。車の出入りのため、ガードレールもない。歩道の縁石がなく、白線が引いてあり、所々にガードレールがあるのみ。 ・際に送電線塔がある。 ・園門が開いていると園児の飛び出すリスクがある。 ・園門が開閉されていると、スムーズな入園ができます。道路渋滞の原因が予想される。 ・駐車場が少ないため、近隣の路駐や、近隣店舗への路駐問題が予測される。 幼稚園前にバス停があり、上記問題があれば、バスの運行にも支障をきたす可能性がある ・園児数が増えるのに園庭が狭く、十分な活動ができない。運動会等も保護者は側で見守れず、園舎からの見守をしている。 ・遊戯室が二階にある</p> <p>南郷幼稚園 ・保育園や小学校、中学校との交流がある。 ・園内駐車場に加え、イベント時には京都市立南郷高等学校のグラウンドや駐車場をお借りしている ・幼稚園前の道路の交通量は石山幼稚園ほど多くない。 ・縁石のある広い歩道がある。 ・近くに広い南郷公園があり、交通ルールを学びながら徒歩で移動し、公園で遊ぶ機会がある ・遊戯室が一階にある ・広い園庭(3園の中でも一番)があり、3クラスとも園庭に面していて交流を持ちやすい。 ・園舎も園庭も広く、統合し園児数が増えた場合でも併ひ伸び過ぎる ・園庭には虫もたくさんいて生き物と触れ合える。砂場の別に畑で、お米や野菜を育てる機会がある ・石山幼稚園、南郷幼稚園、大石幼稚園の3か所の地理的に中央に位置するため南郷幼稚園への集約を望む。 ・統合のメリットがわからない。学区内に預けられる所もほほほなのに、園を減らすのは大人の事情の押し付けがましい ・大津市の待機児童数は全国的に見ても多くにも関わらず園児数が少ないという理由だけで、公立幼稚園を減らすと直近でこのような検討が進むことに憤りを感じます。そもそも保育園数は増えていますか？目に見えた実感が市民にないのにこの取り組み自体反対です。ますます待機児童増えます。のびのびとした南郷幼稚園をなくさないでください。 ・統合する事で通園が速くなる</p>	<p>3園での再編ではなく、南郷中学校区内の南郷・大石幼稚園の統合で十分という点については、ご意見として承ります。 一方で、今回の検討は、15人を上回る規模にすることを目的としているのではなく、集団規模の確保による子ども同士の間わりの中で社会的な態度を育む教育を実現できるよう再編基準にすることを目的としています。 併せて、近年、規模の縮小が急速に進んでいる現状を鑑み、ある程度の規模の確保が必要という意見があったことから、原案のとおりとします。</p>	再編基準
94	42(3) 地域性等の考慮について	<p>35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。 再編の方向性については、ご意見として承ります。</p>	検討経過	
95	13(6) 保護者ニーズ	<p>今回の検討は、本系幼稚園が集団生活を営む場所であり、集団規模の確保による子ども同士の間わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ねて検討したものであることから、待機児童問題とは異なる内容となります。 なお、待機児童の95%以上は0～2歳児となっており、幼稚園に通われている3歳児以上の待機児童は、ほとんど発生しておりません。</p>	<p>検討の目的 待機児童</p>	

家談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁			
96	その他	<p>私のもと大津市民で現在は他市在住ですが、大津市の幼稚園の統廃合案があると娘から話を聞いて重きどりまなな遺いが出てきます。</p> <p>大津幼稚園は中央小学校のすぐ隣にあり小学校との連携も図ることができて卒園から入学へと子どもも頼も安心して移行することができます。</p> <p>また伝統ある大津祭とも深い関わりがあり、恥ずかしながら大津に二十年以上住んでいて一度も行ったことのない大津祭の山に孫が乗って木登をたがせてもらっている姿を見て感動しました。</p> <p>これは大津幼稚園だけの特権だと聞きましたが、このような伝統ある文化に幼い頃から触れることは素晴らしいと思います。お祭りや近隣住民の方とも顔なじみになって挨拶を交わしたり、敬老の日のイベントで歌を歌ったりと地域の関わりを大切にされていると感じました。</p> <p>近頃はほとんどの家庭が核家族なのでお年寄りに優しい子どもに成長したり、お年寄りの方はかわいい子ども達から元気をもらったり、高齢者と小さな子どもとの交流は双方にとってもいい影響を与えたいと思います。</p> <p>一方小さい子どもを育てる世代は仕事をすする母親が多い中、やはり自分の手で子育てしたいという母親もおられます。</p> <p>そこで大津幼稚園の保育時間を延長してことも園にしたいだけではないでしょうか。</p> <p>そうすれば保育園の待機児童もなくなり、大津幼稚園の園児も増えることは間違いないと思います。</p> <p>小学校の際にあり伝統文化、地域住民との交流を大切にすると大津幼稚園がなくなるのは大変もったいないと思います。</p> <p>どうか大津幼稚園に通わせている保護者の意見や近隣住民の方の意見も聞いてもらえませんか。</p> <p>よろしくお願ひいたします。</p>	<p>地域との繋がりの面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した地域との関わり園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。</p>	
97	その他	<p>今回、子どもや周りの保護者から多数の方々から声がありメールさせてもらっています。</p> <p>現在、上田上幼稚園の年中組に園子が進んでいます。</p> <p>昨年度は、とても楽しく通っていて私も私の親も嬉しく思っていました。</p> <p>そして、この4月、今年度の人事異動で園子の好きだった、先生は異動になりました。それはよくある話ですが、今回の異動で上田上幼稚園の先生が10人中、7人の異動がありどう考えても異常な移動率です。</p> <p>このように思い切った人事異動になった経緯はどこにあるのでしょうか。幼稚園が大好き、先生が大好き、友だちと遊ぶことが大好きだった我が子が幼稚園が楽しくないと言っています。</p> <p>私も4月、幼稚園を訪れた際、知らない先生だらけで別の幼稚園に来たような気持ちになりました。明らかに今回の人事異動に不信感が湧きます。7割の職員が入れ替わったことを知り合いや教職に詳しい方などに尋ねても聞かれたような反応ばかりです。今更、異動された先生を動かすことは難しいと承知してはいます。しかし、現在上田上幼稚園に勤めてる先生方に今一度促すことはできると思います。</p> <p>もっと子どもたち1人ひとり大津にできる先生であってほしい。</p> <p>第7回議事録P5「本当は多い方がいいのだけれども、小さいからといってよくない保育をしてきたわけではなく…」を受けて、まさにその通りであると思う。人口自体が少ない学区では、他所にはない密度の濃い自治に根差した教育環境の元で、小規模であること自体が幼稚園の取り組みの特色や強みとなっていた。しかしながら、現在、地域性に問わず多すぎる数の園が少人数になっており、そのことを特色としてすべての市立幼稚園が取り組んでいくことは無理があると感じる。</p> <p>よって今回の再編案は大津市立幼稚園の在り方として必然性があり一歩踏み出したと思うのと同時に、地域性と小規模の良さとが繋がる園については、園児数の適正規模で一律に進めるのではなく、小規模特例園として機能させることも大津市教育行政のアド・ポイントの一つになるのではないかと考える。</p>	<p>認定こども園 待機児童</p>	
98		<p>人事に関しては、当該検討委員会では関与しておりません。</p>		人事異動
99	42 (3) 地域性などの考慮について		<p>小規模特例園について、貴書のご意見として承ります。</p>	再編容認

家談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
番号	頁			
100	55	<p>これまでの市立幼稚園の実践や取り組み、果たしてきた役割について明確に示され市民に広く周知されたことで、更なる早期教育や経営主義的保育に備えることなど、子どもにとって本当に高い幼児教育が継承されたいことを強く願う。</p> <p>また、実行計画を進めるにあたり、是非和衷合後の園舎園庭の活用についても積極的に検討を進めてほしい。子育てに悩む保護者は多く、また孤立しており、子育てを支える方策はなかなか困難である。そこで園の遊地を、親子が安心して過ごせる場として他機関と機能を融合させるなど有効に活用できるよいのではないかと考ええる。また昨今では、保護者自身の生きにくさや子どもの発達の問題など複合的なしんどさを抱えているケースも大変多い。行政と就学前教育の現場、そして子どもに関わる専門職が共に夢と希望のある施策を打ち出し、今回の再編案が就学合すること留まらず、大津市では魅力的で革新的な就学前教育の取り組みが打ち出された、という発信となるように願っている。</p>	<p>これまで市立幼稚園が培ってきた幼稚園教育を、今後も継続して、大津市の全ての子ども達に提供できるよう検討を行っているものです。</p> <p>遊地利用及び子育て支援全般については、ご意見として承ります。</p>	子育て支援全般

連番	家談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細園所			
101	その他	我が子が上田上幼稚園に通園している保護者です。上田上幼稚園は、自然豊かな環境の中で子どもたちがのびのびと過ごせるだけでなく、地域のの方々とのつながりも深く、他にはなかなかない価値を持つ園であると感じております。この環境に魅力を感じ、選択している家庭も少なくありません。以前、市長が上田上幼稚園を訪問された際、「少人数であることが良い」と評価されていたと認識しております。そのように評価されていた園が、今回の再編案では統合対象とされていることについて、方針の一貫性に疑問を感じております。	34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。一方で、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関わりを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものであり、効率化を目的としたものではありません。	適正規模	
102	その他	また、園舎整備が行われてからまだ数年程度であるにもかかわらず統合を前提とした議論が進められている点についても、これまでの設備との関係性を含め、納得できる説明が必要だと考えます。現在、大津市では待機児童問題が依然として課題となっている中で、市立幼稚園の預かり保育時間が増えられたのはごく最近のことです。この制度が十分に周知され、利用者の選択肢として定着するには一定の期間が必要であり、導入から約1年という短期間でその効果を判断し、幼稚園の統合・縮小に進心するには疑問があります。幼稚園という選択肢を広げることが、結果的に保育需要の分散につながる可能性もあるのではないのでしょうか。また、統合先として田上幼稚園が想定されていますが、通園距離や利便性の観点から、保護者の負担は確実に増加しますし、上田上幼稚園の環境を理由に通園している家庭が多く、統合を機に保育園等へ進路変更を検討するとの声も複数聞いております。結果として、待機児童の増加につながる可能性も否定できません。さらに、統合場所の選定についても疑問があります。上田上・田上・青山の3地域を対象とするのであれば、地理的な位置関係や施設環境を踏まえ、上田上幼稚園を拠点とする選択肢も十分に検討されるべきではないでしょうか。上田上幼稚園は各学年の教室に加えホールを有し、天然芝の園庭や近隣の駐車場など、受け入れ環境としても一定の優位性を備えていると考えます。また、実態として上田上幼稚園には田上・青山地域から通園している家庭も多く見られる一方で、その逆はほとんど見られません。このような現状を踏まえ、統合先の選定については、より実態に即した検討が必要ではないでしょうか。各園には、それぞれの環境や保育方針に共感し、意向を持って選択している保護者がいます。単なる効率性や規模の観点だけでなく、子どもたちの育ちや地域との関係性、保護者の実情を踏まえ、上で、再編のあり方について再検討していただくことを強く求めます。	園舎整備については、平成28年度の検討において、園児数を増やす取り組みとして、「3年保育の実施」が提案されたことを受けて整備したものです。近年、意識的に園児数が減少している状況を受け、改めて再編に係る検討を行っているものです。同じく、預かり保育についても、平成28年度の検討において、園児数を増やす取組として拡充を行ったことですが、23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見があります。待機児童については、95%以上は0～2歳児となっており、幼稚園に通われている3歳児以上の待機児童は、ほとんど発生しておりません。また、再編の方向性については、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。	預かり保育の拡大 待機児童 検討経過	
103		現在大津幼稚園に通っている子供がいます。下の子は2年後の入学になりますが大津幼稚園に通わせようと思っておりますが、再編等の話を聞いてとても不安な気持ちです。平野幼稚園との統合の案を見ました。一帯に思ったことは、速く通うのが大変ということです。平野幼稚園までは大人の足で約30分かかります、それを入園してまもない子供と一緒にとなると1時間近くかかってしまいます。それを毎日通わせるのは正直しんどいです。もしこのままの案で進むのであれば園バスを導入していただきたいです。それも嬉しいのであれば定期券購入の補助金などお願いしたいです。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援	
104		公立幼稚園を道ばないな埋田としてお弁当を負担している方は多いです。統合をする前に給食導入していただきたいです。それでどれだけ園児数が獲得できるのか見ても良いかと思えます。それでも園児数があまり聞えない場合は統合を断念するしかないかと思えます。市長はお弁当を推奨されています。もちろんお弁当は素敵です。ただお弁当を作る側の意見を言わせていただきます。レバーソーがかなり少ないです。子供の好き嫌いなど考えたら毎日同じようなお弁当になってしまうと思います。給食だと家では出てこないような食材、料理に触れることができます。そしてお友達と一緒に時間を食べるだけで嫌いなものも不思議と食べたりします。家では嫌いなもの食べないけど給食では食べるというのを見聞します。これらことから給食導入も視野に入れていただきたいです。	給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。	給食	

家談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
ページ	詳細箇所			
105	<p>そして幼稚園には広々とした園庭があります。これは保育園ではあまりなく、私的にはすごく良い所だと思います。大津幼稚園に通っている子ども達はマンション住まいが多いです。広々とした園庭で目一杯身体を動かせることは本当に感謝しています。マンションだと騒音問題やスペース的に狭いというのもあり身体を動かさせないのも本当に助かっています。</p> <p>こんな素敵な園庭があるのに保育園になってしまふのは非常にもったいないです。保育園になった場合の園はどうなるのかも気になります。</p> <p>また大津幼稚園は地域の方たちとの関わりが非常に密です。特に大津駅では湯立山に乗せてもらうという貴重な体験をさせていただいております。もし平野幼稚園と統合されるのならこのような伝統的なお祭りに参加できる機会もなくなってしまうと思います。息子は湯立山に乗ることを毎年楽しみにしています。こんな貴重な体験できる幼稚園は他にないのではないかと思っています。そのような機会から地域の方と直接触れて、顔見知りになると見守られる感じもとても安心できます。</p> <p>そして何より在園児の保護者として一番不安なのは、無事今の園で卒業できるかどうかです。途中から別の幼稚園に転園になってしまうと環境の変化で子どもにとってはどうもないストレスになります。大人の都合に振り回されるのは子どもたちです。本当に子どもたちのことを一番に考えての行動なのか疑問に感じます。</p> <p>実際いつから統合をはじめるのが具体的な時期も教えていただきたいです。</p> <p>コスト面、大人の都合よりもまずは子どもたちのことを一番に考えていただきたいです。よろしくお願ひします。</p> <p>小学校の中に併設される幼稚園です。小学校とも連携をとって下さっています。休み時間も併設して小学校に行っている子ども達が先生に会いに来たりもしています。一年生にとっては特にそれだけでも安心できるのではないのでしょうか。卒業してからも安心して小学校に送り出せる素敵な場所です。</p> <p>そして下の子どもも大津幼稚園卒業させたいです。どうか残せるなら残してほしいです。</p> <p>どうかよろしくお願ひします。</p>	<p>平成28年度には、最も大きな要望として、「3年保育の実施」、次いで大きな要望として「預かり保育の充実」が提案され、順次実施してきたところですが、その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて再編に係る検討を行っているものです。</p> <p>なお、地域との繋がりがという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。</p> <p>また、小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけでなく、市立幼稚園が中心となって取組んでいる親げ橋プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるような努めが必要であると求めています。</p> <p>なお、54ページには、当事者である保護者への説明会などの機会を通じて、丁寧に説明していくことを求めています。</p>	<p>子育て支援全般 地域との関わり 進め方 幼小連携</p>	

連番	案談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細園所			
106		その他	<p>稍田幼稚園の保護者です。子は2人おり、上の子は私立保育園卒、下の子が現在幼稚園に通園中です。下の子は未就園児の頃から発達障害で大津市の制度にお世話になってきました。大津市の未就学児の支援はありがたいと感じており、大津市の公立の赤ちゃんや幼児に関わるお仕事をされている方々は皆さん温かい方が多いので、大津市独自の雰囲気をお伝えしたいと思います。私立保育園が全て悪いとは思いませんが、子供にとって本当に良い環境かどうか考えると大津市の幼稚園は私立に比べてはるかに優れていると感じます。未就学児の段階で詰め込み教育を行ったり、ただ預かってあげているだけの様な保育、園庭が狭い、先生とのコミュニケーションが全くない、園が保護者に対して閉鎖的、子を預かってあげている北のスタンス、1年保育、2年保育、3年保育という先生が選んで見ている様な保護者に寄り添いのない対応、などを私立保育園で感じる。大津市のレベルの高さを先生方がこのままではとんざんされて、しよもない保育園が増えて大津市の未就学児の環境レベルが下がってしまうのは本当に悲しいです。</p> <p>大津市は希望する者がいないに切り捨てられておらず、希望する人が増える対策をとって欲しいです。大津市に幼稚園が誕生して15年以上と聞きましたが、その歴史を大事に大津の子供たちの為に努力されてきた先生方ももっと輝けるようにしてはいただけませんか？今のやり方では、利益が無いから切り捨てられているだけに見えないですし、お金を使う所を大津市は完全に間違っています。草津に人が流れて近い所は大津市過疎化すると心配です。</p>	民間保育園等を含めて、全ての就学前施設が大切な施設であるとされており、どこか施設を減らしても、より良い教育環境が得られるようにする必要がありと考えています。23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。	預かり保育の拡大 予算削減・効率化
107			<p>4月19日のパブリックコメント説明会に出席しました。コスト面についての質問をさせていただいた者です。</p> <p>再編、統廃合に賛成です。</p> <p>該当員48ページを見ますと、築年数がかなり経っている園も多く、その修繕やメンテナンスもかなり費用が必要かと思えます。</p> <p>市立保育園と統合して認定こども園にする。</p> <p>大津市立にこたわることなく民営化していくことも検討されてはいいかでしょうか。</p> <p>公立幼稚園、公立保育園を民営化していくのは世の流れです。</p> <p>自治体は補助金を出す形で構わっていくのが良いと思います。</p> <p>大津市民として種々わがやがはありますが住民税を納めている者として、税金を有意義に使っていただきたいと思えます。</p> <p>幼児教育の大切は、保護者支援の大切はよくわかります。</p> <p>しかし限られた財源の中でどうやぐくんでいくのかは、大津市民全員にとって非常に大切なことです。</p> <p>最後に私は他県ではありますが30年近くに渡り、幼児教育、保育の現場に携わってきた者であることをお伝えさせていただきます。</p>	認定こども園民営化については、貴重なご意見として承ります。	再編承認 認定こども園 予算削減・効率化
108	23	(8) 市立幼稚園における就労している保護者に対する支援拡大の取組について	<p>令和7年度から預かり保育の時間を延長し、…～広く周知しました。とありますが、本当に広く周知活動に努められたのでしょうか。実際の所、幼稚園に転園を検討するまで預かり保育の存在は知りませんでしたし、令和7年からの実施でやっと1年経ったばかりなのに、効果検証の期間が不十分すぎると思われ、もう少し効果検証を経てからの再編案としてほしいものです。</p>	23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。	預かり保育の拡大
109	32	3地域の実情に応じた通園支援の方法を模索していく	<p>「原則「徒歩」による通園」としていますが…～通園方法の見直しを行う必要があります。とありますが、現在うちの子供は富士見幼稚園に通っており、それが再編案にある様に隣所幼稚園への統合となると、車通りの多い大通りをわざわざ歩かせることになるのではないのでしょうか。自転車で渡るにしても危ないですし、車で通園したら隣所幼稚園は駐車場が3台分しかなく、朝の通園が困難を極めることが想定されており、バス通園にしても、隣所幼稚園の前の道は狭く、大変難しく思われます。</p>	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援

連番	案談当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
110	32	4より良い教育・保育環境を大津市の全ての子ども達に提供できるように検討していく	「……施設の新朽化への対応など、大規模修繕を含めた施設整備の計画的な推進について検討していきます。一方で、施設整備のためには莫大な経費が必要となってくることから、再編等の検討も併せて、設備投資先の選定についても検討を行います。北ありますが、うちの子が通っている富士幼児幼稚園は、10年前に大幅な改修が行われており、建屋はヒカビカでも新しく感じています。ところが反対に、統合予定先の藤所幼稚園は改修されたのは37年前で、「旧築時は改修」とあります。富士幼児幼稚園の様に改修した上で、ヒカビカの幼稚園を古い建屋の幼稚園に統合するの、いかがなものかと思われれます。しかも藤所幼稚園の改修にもお金がかかりましたし、もった幼稚園再編の他に費用削減できる部分があるのではないのでしょうか。	再編の方向性は、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特長・検討経過などについても慎重に検討しております。	検討経過
111	25	第1章 4 市立幼稚園が果たしてきた役割	○大津市立幼稚園の再編について 各中学校区毎に公立幼稚園を一つの園に再編していくという計画は、これまで大津市立幼稚園が培ってきた「子どもの主体性を育て、一人一人を大切に育てる教育」を継承していくためには有効な一つの方法であると考えます。しかし実際に統廃合された際に、現在公立幼稚園に通われている親子ごとの程度公立を選ばれるか？と考えた時、さらなる園児減少を引き起こさないか心配です。これまで大津市の公立幼稚園は各小学校区に設置され、自宅から歩いて通える範囲内にあったことも通いやすさから選ばれた大きな要因であったと思われれます。現小学校区から離れた学区に通いやすくなるためには再編に伴う通園バスや駐車場整備が必須になると思われれます。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
112	25	第1章 4 市立幼稚園が果たしてきた役割	またもう一つ公立離れを引き起こしている大きな要因は給食の有無と考えられ、保護者負担を軽減するために不足給食も導入していただき、公立幼稚園へのハードルを下げていただければと思います。	給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。	給食
113	25	第1章 4 市立幼稚園が果たしてきた役割	さらに現在の保育時間ではフルタイムで働く保護者のニーズには応えられず、待機児童の解消という意味でも預かり保育の保育時間を拡大することが求められています。	預かり保育の時間延長については、今後の施策の参考とさせていただきます。	預かり保育の拡大
114	27	第2章 1 教学前教育・保育のあり方について 3 基本的な方針について 5 再編等の方向性検討について	○大津幼稚園の再編について ・大津市立大津幼稚園の創立と歴史は大津市立幼稚園の中でも特別なものであり、教育遺産として残していく価値のあるものであるということ。 ・中央小学校の敷地内にあり、今日の教育に求められている密な幼小連携を可能とする理想的な立地条件にあり、これまでも実践を重ねてきたこと。 ・大津祭などの伝統行事に継ぎ、保育にも取り入れる等、常に地域の中の幼稚園として地域の活性化に必要とされている存在として存在してきたこと。 ・小規模園のよさを生かし、支援の必要な親子にとっても安心できる一人一人に丁寧な保育を実施してきたこと。 ・以上のような特色を生かし、大津幼稚園を大津市の一つの財産として大切に残しながら、さらに質の高い幼児教育を目指していけるよう、認定こども園もしくは幼小一貫校等のモデル園として整備・存続させることは不可能でしょうか？ 数による平野幼稚園との統廃合でその希少な価値をなまきものとしてしまいか、是非再度ご一考いただければと思います。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。 なお、検討委員会では、幼小一貫校についての意見も出ておりますが、集団規模の確保という目的を達することができないことから、計画案には含めておりません。 また、小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではなくことから、市立幼稚園が中心となり取り組んでいる架け橋プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるような努める必要があると求めています。	認定こども園 幼小連携
115			大津市が示している幼稚園再編成について、以下の理由から反対いたします。 1. 地域の子育て環境が大きく損なわれる 大津幼稚園は、地域の子どもたちが身近な環境で安心して通える重要な教育拠点です。統廃合により通園距離が伸びること、保護者の負担が増えるだけでなく、地域で子どもを見守る環境が弱まり、子育てしやすいまわりの理念にも反します。 2. 子どもの安全確保への懸念 通園距離は、交通事故リスクの増加や、悪天候時の移動負担など、子どもの安全面で大きな不安があります。現時点で安全対策の具体的な計画が示されておらず、安心して子どもを預けられる環境が維持できると思えません。 3. 再編の必要性や効果が十分に説明されていない 再編の根拠となる園児数の推計や財政的な理由について、詳細なデータが示されていません。また、統廃合以外の選択肢（既存園の改善、複合施設化、地域連携の強化など）についての検討状況も不透明です。住民が納得できるだけの説明と対話が不足しています。	ご意見として承ります。 通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	地域との関わり 通園支援
116			教育の質については、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合いい、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られるような、子ども同士の関わりを十分に持たすために、一定の集団規模が確保できることが望ましい」と考え検討を行ったものであります。	教育の質については、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合いい、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られるような、子ども同士の関わりを十分に持たすために、一定の集団規模が確保できることが望ましい」と考え検討を行ったものであります。	予算削減・効率化 再編基準

連番	案談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
117			4. 教育の質の低下が懸念される 統合により園児数が増加した場合、きめ細かな教育・保育が維持できるのが疑問です。教職員の配置や施設整備の計画が不十分のまま再編を進めることは、子どもたちの教育環境に悪影響を及ぼす可能性があります。以上の理由から、現行の再編案には賛同できません。地域の実情を踏まえ、子どもと家庭にとって最善の環境を守るためにも、迅速な統廃合ではなく、より丁寧で開かれた議論を求めます。	33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関わりを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものです。	適正規模
118	52	「か打出中学校区大津幼稚園の再編について」	<p>園児：大津幼稚園の再編について反対です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徒歩圏内で幼稚園があるため子どもを3人連れての送迎が教わられている現状である。遠くなるその分の労力が必要になる。 ・小学生との交流ができる環境であるため、進学した時に安心して通学ができる。 ・幼稚園だけで厳しいと言っているのが、幼稚園と保育園が併せている子ども園をつくってほしい。 ・たくさん園児があると思いますが、ご検討をよろしくお願ひします。 <p>子どもが大津市立の公立幼稚園に通っています。私は長時間パートを週5日しているので、預かり保育事業はとても魅力があります。しかし、周囲の求職園児もママからは「幼稚園でも働くことができないの」や「預かり保育があるの」など幼稚園の預かり保育事業を知らない人が多い。「働いていても幼稚園」もっと周知すべきである。共働きでも幼稚園に通えることを周知してもらいたいです。</p> <p>今年度は、幼稚園教諭の異動が多かったと聞いた。ひとひ人事です。質の高い幼児教育を求めて幼稚園をえらんでいるのに、教諭の余裕がないと、保育の質の低下につながると思う。実際、園での様子をみていても、先生たちはとても大変そうです。園庭開放があっても、親子で子どもを話すことはあまりなく、すぐ職員室で事務をしている。悲しい。</p>	認定こども園については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
119	15		子どもが大津市立の公立幼稚園に通っています。私は長時間パートを週5日しているので、預かり保育事業はとても魅力があります。しかし、周囲の求職園児もママからは「幼稚園でも働くことができないの」や「預かり保育があるの」など幼稚園の預かり保育事業を知らない人が多い。「働いていても幼稚園」もっと周知すべきである。共働きでも幼稚園に通えることを周知してもらいたいです。	23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。	預かり保育の拡大
120	15		今年度は、幼稚園教諭の異動が多かったと聞いた。ひとひ人事です。質の高い幼児教育を求めて幼稚園をえらんでいるのに、教諭の余裕がないと、保育の質の低下につながると思う。実際、園での様子をみていても、先生たちはとても大変そうです。園庭開放があっても、親子で子どもを話すことはあまりなく、すぐ職員室で事務をしている。悲しい。	人事に関しては、当該検討委員会で問われておりません。	人事異動
121	15		子ども園や保育園にもそれぞれ特色があるように幼稚園にもそれぞれ特色がある。例えば、自然豊かな環境であるなど、虫とやりや花つみを楽しんだり、地域の方々との交流など。こども園や保育園は子どもを預けるための場所だが、幼稚園は教育の場だと思っている。子どもにとって最初に経験する小さな社会です。	選択制の周知については、担当所属に共有します。	その他
122	52	「か打出中学校区大津幼稚園の再編について」	<p>1. はじめに 本市における少子化の進行、保護者の就労状況の変化、保育ニーズの高まり等により、市立幼稚園を取り巻く環境が大きく変化していることについては十分理解しております。 また、子どもたちにとってより良い教育・保育環境を確保するため、市全体として持続可能な体制を構築する必要があることについても異論はありません。</p> <p>その上で、本計画において大津幼稚園が第1段階の再編対象として位置付けられている点については、判断根拠および評価プロセスの観点から重要な疑義があるため、慎重な再検討を要望いたします。</p> <p>2. 再編段階区分の妥当性に関する疑義 本計画では、再編の時期として第1段階（令和8年度～令和12年度）および第2段階（令和13年度～令和17年度）が設定され、その区分基準として「園児数が10人を下回るか否か」が示されています。</p> <p>しかしながら、資料中の園児数推移（表12）によれば、大津幼稚園は令和6年度において一時的に10人を下回る（8人）ものの、その後は再び10人以上の水準（10～12人程度）で推移する見込みととなっております。すなわち、継続的に10人未満の状態にあるとは言えないにもかかわらず、第1段階に区分されている点については、その判断の妥当性に疑義があります。</p> <p>短期的な変動ではなく中長期的な傾向に基づいて評価すべきであり、一時的な数値の不振れをもって早期再編の対象とする場合には、その判断基準および考え方を明確に示す必要がございます。しかしながら、現行資料からはその説明が十分に読み取れず、基準と運用の整合性および判断過程の透明性に課題があると考えます。</p>	35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、ご意見にあるとおり、1度でも10人を下回る場合は第1段階として判断を行いましたが、明確に記載されていないため、「1度でも下回る場合は」と明記します。 また、令和8年度以降の推移については、51ページ以降に記載の「検討経過と概要について」の部分で検討を行っておりますので、その旨を追記します。	再編基準

連番	案談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
123	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	<p>3. 園児数減少要因の構造的・分析的必要性 本計画では園児数減少の主因として少子化および保育ニーズの高まりが挙げられていますが、資料の内容からは以下の構造が読み取れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●保護者の就業状況により利用希望施設が大きく異なること ●保育所・認定こども園の利用が増加する一方、幼稚園のみが減少していること ●預かり保育の利用が年々増加していること <p>これらは、幼稚園需要そのものの消失ではなく、共働き世帯において幼稚園が選択肢として十分認識されていないことによる構造的な選択制約の存在を示唆しています。</p> <p>4. 制度改善と需要回復の可能性 本市では令和7年度より、預かり保育時間の延長（8:30～17:30）等、働く世帯にも対応可能な制度整備が進められています。</p> <p>また、預かり保育の利用割合が増加していることから、一定の潜在需要の存在が確認できます。しかしながら、これらの施設は令和7年度開始と比較的最近の取組であり、その効果については十分な検証がなされていません。</p> <p>したがって、現在の園児数減少は制度移行期における一時的な状況である可能性があり、制度の認知向上および利用環境の改善により、需要が回復すると考えます。</p> <p>5. 大津駅周辺における地域特性の考慮 市全体では就学前児童数が減少傾向にある一方で、大津駅周辺においては近年マンション開発が進み、子育て世帯の流入が見られます。</p> <p>このような地域においては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●将来的な児童数増加の可能性 ●駅近立地による通園利便性 ●小学校併設による教育環境の連続性 <p>といった固有の価値が存在しており、全市的な平均値のみで判断することは適切ではありません。</p> <p>6. 大津幼稚園の教育的・地域的価値 大津幼稚園は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●公立園としての安定した教育環境 ●小学校との円滑な接続 ●伝統が育んできた地域との情緒的な関係性 <p>といった、単なる園児数では測れない重要な価値を有しています。これらは地域に根差した教育資産であり、将来的にも維持・活用されるべきものです。</p> <p>7. 結論および要望 以上を踏まえ、以下の点について強く要望いたします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 再編段階の区分について、中長期的傾向に基づく評価および基準との整合性を明確に示すこと 2. 将来推計や地域要因を含めた評価プロセスの透明化を図ること <p>3. 令和7年度開始の施策（預かり保育等）について、十分な検証期間を設けること</p>	<p>ご意見として承ります。 ご指摘の内容を「保育ニーズの高まり」と呼んでいます。</p> <p>23ページに記述のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見があります。</p> <p>一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。</p> <p>その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。</p> <p>これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。</p> <p>人口推計については、マンション建設の予定も勘案した上で、小学校区ごとに実施しており、市立幼稚園の園児数の推計も、該当の小学校区ごとに算出しているため、「将来的な児童数増加の可能性」については考慮されているものと考えております。</p> <p>なお、「駅近立地による通園利便性」及び「小学校併設による教育環境の連続性」については、これまでも変わらない条件であることから、過去の園児数の推移の傾向に反映されているものと認識しております。</p>	人口推計・園児数推計
124	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」			預かり保育の拡大
125	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」			人口推計・園児数推計
126	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」		ご意見として承ります。	園の特徴
127	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」		ご意見として承ります。	再編基準
128	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」		ご意見として承ります。	検討経過
129	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」		3点目については、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 <p>その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。</p>	預かり保育の拡大
130	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」		4点目については、ご意見として承ります。	人口推計・園児数推計
131	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」		5点目については、ご意見として承ります。	その他

連番	家談当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
132	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	<p>反対です。</p> <p>主な理由は以下の3つです。</p> <p>①様々な理由から大津幼稚園が大好きなこと</p> <p>②初年度により幼稚園が遠くなる</p> <p>③2024年から2年連続で機軸児童全国最多の大津市がなげ市立幼稚園統合し子どもの居場所を減らすのか。</p> <p>④様々な理由から大津幼稚園が大好きなこと</p> <p>様々な理由については</p> <p>小学校と同じ敷地内、「5・5交流」があること</p> <p>自分が小学校1年生になった時の、6年生との思い出はありますか？ 私自身は覚えていません。しかし3月、1年生の息子は「6年生さんのことをおぼれたいくない、僕のことをおぼれたいくない、卒業しないでほしい」と話していました。</p> <p>昨年このように記事がありました。</p> <p>この間と小学校が同じ敷地に鳥取県米子市に幼保小連携型施設完成(朝日新聞2025年4月10日)</p> <p>同じ敷地内に認定こども園と小学校を設けて保育と小学校教育の連携を図る「幼保小連携型施設」が今月、鳥取県米子市内に完成した。市内では初めての施設で、園児が小学生と交流することにより、小学校にすぐになじみやすい「小1ギャップ」の解消などを目指す。</p> <p>7日にあった完成式典で、伊木隆司市長は「小1ギャップ」は課題で、環境の変化に適応出来ない子もいるが、ここでは入園からあかも小学校に来たかのような雰囲気を感じることが出来る」と意義を強調した。</p> <p>まるで大津幼稚園と中央小学校のことかと思いました。</p> <p>朝日新聞さんが取り上げるくらい素晴らしい通学路のことを長きにわたりに行っている大津幼稚園を大津市長はもとアピールするべきではないでしょうか。</p> <p>大津幼稚園には同じ敷地内からこぞできる5・5交流があります。年長5歳児と中央小5年生が1年間定期的に交流します。</p> <p>息子にとつて5・5交流があったことが、小学校生活最初の1年間をどれだけ心強いものにしてくれたことか。</p> <p>現在2年生になる息子は入学式翌日の初登校日には手先が冷たくなり、歩き方もロボットのようになるほど緊張していました。</p> <p>しかし帰って来た息子は笑顔で「〇〇ちゃんに会えた！！」と5・5交流で出会い大好きになった6年生さんのことを話してくれました。それ以降も1年生の給食や掃除には6年生が補助で付いてくれるそうです。そこに毎日知っている6年生の誰かが来るから楽しみ、自分の名前を呼んでくれる、顔を撫でてくれる。休み時間6年生と鬼ごっこした。</p> <p>「5・5交流」があったからこそ、息子はすぐに小学校の仲間入りが出来たとように感じます。私も息子も6年生さんが大好きでした。</p> <p>また、現在生中の息子君まだ0歳の時、当時の5歳児さんから「また5・5交流で5年後会おうね！」北声をかけてもらいました。</p> <p>・憶元の思い出</p> <p>大津幼稚園は長い歴史があり地域の方との交流も盛んです。</p> <p>大津市ホームページに掲載されている、「大津祭の曳山行事」のユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」への記載を受けての大津市長コメントでも、「このたび大津祭の曳山行事」が、ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」へ追加記載されるのが正式に決定しましたことを大変喜ばしく思います。400年という長い年月にわたって大津祭を守り伝えてこられた先人をはじめ天孫神社、大津祭保存会、特定非営利活動法人大津祭曳山連盟、各曳山町など関係者からのご支援を感ずる次第です。今も大津祭は、湘国三大祭の一つとして多くの市民に親しまれ、本市を代表する観光資源になっております。また、国指定重要無形民俗文化財に指定されるとともに、それぞれの曳山は大津市指定有形民俗文化財でもあります。</p>	<p>ご意見として承ります。</p> <p>小学校1年生におられるのは市立幼稚園の卒園生だけではないことから、市立幼稚園が中心となつて取り組んでいる飛び橋プログラム等を通して、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるように努める必要があると求めています。</p>	<p>幼小連携</p>
134		133の続き		<p>ご意見として承ります。</p>	<p>地域との関わり</p>

家談当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
番号	詳細箇所			
135	134の続き	<p>本市においては、平成24年（1994年）、北郡山延徳寺が世界文化遺産「古都京都の文化財」、令和5年（2023年）に圓融寺（三井寺）の「智証大師円珍関係文書典籍－日本・中国の文化交流史－」が「世界の記憶」に登録されましたが、今回、「大津市の曳山行事」が無形文化遺産となったことによりまして、ユネスコに関連する文化財は3件を数えることが出来ました。引き続き、本市の誇る歴史文化遺産を関係者の皆様と力を合わせて後世に受け継いでいくとともに、文化財の活用による地域活性化に力を尽くしてまいります。北ありますが、最も関心の深い大津幼稚園を無くすことは、コメント内容に反しているのではないのでしょうか。</p> <p>大津幼稚園は中央学区内にある天養神社にお散歩も行くし、曳山屋元館に親子連立に行くし、曳山立山さんに象山体験もさせていたたいしていますし、これぞ大津市長のコメントにある「後世に受け継いでいく文化財による地域活性化」ではないのでしょうか。</p> <p>親として、親子たちが大津幼稚園時代に、地元の歴史や伝統に触れる機会が多くあることが、とても願っています。それは、事情が私自身幼少期を過ごした「地元」の土地に入ること出来ないことも理由の一つです。地元も経つのに、夢みやお神輿、毎日遊んだ公園や幼稚園、死ぬまでもう一度食べたい地元のレストランのハンバーグ、何年か折れそうなのに戻ります。それは戻れない寂しさではなく、楽しかった思い出として、です。仕事でうまくいかない時、育児で心が折れそうなお母さん、自分にも「楽しかった子ども時代があった」その地元の思い出がよみがえり、小さな朝しなる瞬間があります。しかし私はそこに戻れないし、親子たちを連れていってやることも出来ません。いつか親子たちと今後の人生の中で何かがつまづき自分を見失いそうになった時、ふと思い出して泣きつたあの瞬間とあったことと、と僕が今でも笑顔になったり、そしてまた頑張ろうと思ってしまう。そんな小さな支えが今生まれ育った地元で地元で過ごす今、功もありません。</p> <p>私は、家から離れたたくさんのお友達と過ごす幼稚園環境よりも、今こうして家から近い地元の幼稚園で地元色の濃い園生活を送ってくれたことにはないし、家からの近さだけで良い思い出を決めたいとは思っていませんが、とにかく大津幼稚園は楽しい園です。それと引き換えに、 ①新築舎に100名以上の保育士が働く ②ワンオペ育児の救い 子どもが泣けてくれた時に、親の私が救われています。 私は親子が産まれ、大津幼稚園の「すずめクラブ（0～3歳児親子通園事業、現在の名称はたんぼクラブ）」と「こりクラブ（2～3歳児親子通園行事）」に行くまでは、孤独でした。 引越した後の知り合いのいない土地での妊娠出産となり、夫は休みのない仕事、お互いの実家には頼れない環境で理解りせず初めての育児が始まりました。 0歳の息子を抱っこして散歩しながら「こんなところに幼稚園があるんだ」と思っていた程度でしたが、たまたま子育て総合支援センター役目を利用中に出会ったママから大津幼稚園の親子通園行事の存在を教えてもらおう機会があり、ドトールしながら初めてすずめクラブに行った日を覚えています。いつも親子で過ごしていた私にとって、毎週すずめクラブに行くことはとても楽しみで、子どもの刺激になることほもちろん、いつかの子ども幼稚園に行く日が来るのと同じく子育てのイメージが膨らんだり、先輩ママから情報をもらったり、とても心強い安心感をもたらしました。「中央学区で子育てをしているに心が強く、あの日通園に引越した先のマンションを決めた自分を後悔しませんでした。「大津に引越してきてよかった」「大津で子育てができてよかった」と思えることは大津幼稚園と、そこで出会えた方々のおかげです。子どもが繁けてくれた場を支えられて私は今充実した毎日を送っています。 ・徒歩圏内に幼稚園があること 診断は受けていませんが、私は産後うつだったと思います。育児イロ－ゼにもなっていた（なっていたかも知れません。それだけ知識豊富な育児は死をイメージしてしまうほど早く早く終わりのない世界でした。今こうして笑っていられるのも、PTA役員に立候補したと思つたのも、大津幼稚園が子育だけからです。大津幼稚園に預けられたあの時の私のように、苦しんでるママババがいるお母さんに立ちたいと思えるからです。もし、あの時大津幼稚園がなかったら一途に怖くて考えたくありません。 在園児にとっては、通園距離はバスなどで解決できるのかもしれませんが、 しかし、自宅から徒歩圏内に、赤ちゃんを連れてお散歩できる距離に「幼稚園」がある、それだけで救われた命がここにあります。</p>	<p>ご意見として承ります。</p> <p>地域との関わり</p>	
136	135の続き	<p>子育て支援全般については、ご意見として承ります。</p>	<p>子育て支援全般</p>	

連番	頁	家談当箇所	詳細箇所	意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
137	136の続き		<p>③2024年から2年連続待機児童全国最多の大津市がなぜ市立幼稚園統合し子どもの居場所を減らすのか。</p> <p>-街に暮らす子どもが増えているのに、なぜ幼稚園を減らすのか。</p> <p>ことも家庭庁が2025年8月29日に発表した全国の待機児童調査で、2025年4月1日時点の待機児童数が多い上位10自治体に、大津、草津、近江八幡の滋賀県内3市が含まれました。大津市は132人で、2年連続の全国最多。するべきことは逆ではないでしょうか。</p> <p>園児数の減少は子どもの数が少ないことが原因ではなく、共働きなどで幼稚園を選択できる家庭が減っていることにあるのではないかと思います。</p> <p>私が大津に住み始めた9年前から現在まで中央学区内だけでも、ファミリー向け分譲マンションが8棟建設され、現在建設中が2棟あり、中央学区に暮らす子どもが増えているのは明らかです。子どもが少なくないのは、幼稚園を選択できる家庭が減っているのだから、園児数を確保する術は統廃合だけではないはず。幼稚園の教育力を最大限にアピールしたり、共働きの家庭も幼稚園を選択できる様々な可能性を提示したり、そうした幼稚園の魅力を発信することが園児数増加につながるのではないのでしょうか。</p> <p>以上の点から、大津市幼稚園再編計画には反対です。</p> <p>大津市の幼稚園再編について、反対いたします。理由が大きい二つあります。</p>	<p>③2024年から2年連続待機児童全国最多の大津市がなぜ市立幼稚園統合し子どもの居場所を減らすのか。</p> <p>-街に暮らす子どもが増えているのに、なぜ幼稚園を減らすのか。</p> <p>ことも家庭庁が2025年8月29日に発表した全国の待機児童調査で、2025年4月1日時点の待機児童数が多い上位10自治体に、大津、草津、近江八幡の滋賀県内3市が含まれました。大津市は132人で、2年連続の全国最多。するべきことは逆ではないでしょうか。</p> <p>園児数の減少は子どもの数が少ないことが原因ではなく、共働きなどで幼稚園を選択できる家庭が減っていることにあるのではないかと思います。</p> <p>私が大津に住み始めた9年前から現在まで中央学区内だけでも、ファミリー向け分譲マンションが8棟建設され、現在建設中が2棟あり、中央学区に暮らす子どもが増えているのは明らかです。子どもが少なくないのは、幼稚園を選択できる家庭が減っているのだから、園児数を確保する術は統廃合だけではないはず。幼稚園の教育力を最大限にアピールしたり、共働きの家庭も幼稚園を選択できる様々な可能性を提示したり、そうした幼稚園の魅力を発信することが園児数増加につながるのではないのでしょうか。</p> <p>以上の点から、大津市幼稚園再編計画には反対です。</p> <p>大津市の幼稚園再編について、反対いたします。理由が大きい二つあります。</p>	待機児童 待機児童	
138	52	[カ]打出中学校区大津幼稚園の再編について]	<p>【1つ目】</p> <p>学区内の未就園児家庭、特に母親にとってのセーフティネットとしての役割があるためです。</p> <p>現在の議論では在園児にとっての課題が中心となっており、未就園児家庭への影響については書かない点に、強い懸念を抱いています。</p> <p>私は、子ども自身の健康上の問題で、1年以上にわたり外出や他者との交流をほとんど持てない状況にありました。相談できる相手も限られ、精神的に非常に不安定な状態に陥った経験があります。</p> <p>そのように中で、学区内の幼稚園による少人数の親子登園事業(こどろクラブ)に参加できたことは、子どもの発達面だけでなく、保護者である私自身の精神的な安定にも大きく寄与しました。</p> <p>ずっと自宅保育で何もしやれていないと悔み続けていましたが、「お母さん、この子は2歳なのに、もう3歳で歩をつける力を習得していますよ。大切に育ててくれたんだです」と先生方に言ってもらった時、どんなにホッとしましたが、今思い出しても涙が出ます。保育の7割の意義は絶対で、やと味方ができると思いました。</p> <p>このように、未就園児家庭は状況によって簡単に孤立し得る存在です。学区内から幼稚園がなくなくなることは、こうした家庭の支えを失うことにつながり、見過ごすことのできない問題であると考えます。</p> <p>一方で、「明日朝のゆめこがあるため代替可能ではないか」との意見も検定されますが、実態には役割が大きく異なっています。</p> <p>児童館は自由利用が中心であり、日によって利用者数が増えるため、精神的に不安定な状況にある保護者にとっては利用のハードルが低い側面があります。</p> <p>これに対し、幼稚園の親子登園は登録制で人数が把握されており、安心して参加できる環境が整っています。1時間半程度の短時間で構成されており、通いやすい工夫がされています。また、教職員が主体的に関わることで、子どもの成長を実感できると同時に、保護者自身の自己肯定感の回復にもつながります。同年代の子どもの悩みや悩みを見ても見てきたことは間違っていないと自覚になりました。</p> <p>精神的に余裕のない状況にある家庭にとって、生活圏外の施設へ通うことは大きな負担となります。</p> <p>負担どころか、選択肢としてなくなる可能性があります。そのため、学区内に幼稚園が存在する意義は極めて大きいと考えます。</p> <p>【2つ目】</p> <p>大津小学校との就学前交流が失われ、小学校に隣接して運営されている意義が大きく損なわれるためです。</p> <p>現在、当該幼稚園では小学校高学年との継続的な交流が行われており、就学前の子どもたちにとって貴重な学びの機会となっています。異年齢との関わりを通じて、社会性や協調性、他者への思いやりを自然に育むことができてきた点は、大きな教育的価値を持つものです。こうした環境は、兄弟姉妹の有無に関わらず、すべての子どもにとって重要な意味を持ちます。我が家では一人っ子のつもりだが、きょうだいがないと大切な社会性が身につかないんじゃないか…と心配していました。が、この交流の存在は、子どもの成長環境に対する不安を軽減し、入園を求める要因の一つとなりました。</p> <p>しかしながら、統合により小学校との物理的・日常的な距離が生じることで、このような密接な交流の継続は困難になることが想定されます。それは単に一つの行事が失われるというだけではなく、地域の中で子どもが育つという環境そのものの魅力を低下させることにつながります。</p> <p>以上の点から、再編には反対いたします。</p> <p>一方で、園児数の減少等により再編が避けられない事情があることも理解しております。</p> <p>その場合においては、単なる統合ではなく、大津幼稚園の認定こども園化などを含め、現在の施設を持つ子育て支援機能を維持・発展させる方を検討していただくことを強く望みます。</p> <p>本地区においては、保育ニーズと幼稚園教育双方のニーズが依然として存在しており、それらを両立させる拠点が不可欠です。地域の事情に即した柔軟な運営設計により、子どもたちと保護者にとって最適な環境を維持していただくことを求めます。</p>	<p>1つ目については、子育て支援に係る市全体に対する意見として承ります。</p>	子育て支援全般	
139	52	[カ]打出中学校区大津幼稚園の再編について]	<p>大津小学校との就学前交流が失われ、小学校に隣接して運営されている意義が大きく損なわれるためです。</p> <p>現在、当該幼稚園では小学校高学年との継続的な交流が行われており、就学前の子どもたちにとって貴重な学びの機会となっています。異年齢との関わりを通じて、社会性や協調性、他者への思いやりを自然に育むことができてきた点は、大きな教育的価値を持つものです。こうした環境は、兄弟姉妹の有無に関わらず、すべての子どもにとって重要な意味を持ちます。我が家では一人っ子のつもりだが、きょうだいがないと大切な社会性が身につかないんじゃないか…と心配していました。が、この交流の存在は、子どもの成長環境に対する不安を軽減し、入園を求める要因の一つとなりました。</p> <p>しかしながら、統合により小学校との物理的・日常的な距離が生じることで、このような密接な交流の継続は困難になることが想定されます。それは単に一つの行事が失われるというだけではなく、地域の中で子どもが育つという環境そのものの魅力を低下させることにつながります。</p> <p>以上の点から、再編には反対いたします。</p> <p>一方で、園児数の減少等により再編が避けられない事情があることも理解しております。</p> <p>その場合においては、単なる統合ではなく、大津幼稚園の認定こども園化などを含め、現在の施設を持つ子育て支援機能を維持・発展させる方を検討していただくことを強く望みます。</p> <p>本地区においては、保育ニーズと幼稚園教育双方のニーズが依然として存在しており、それらを両立させる拠点が不可欠です。地域の事情に即した柔軟な運営設計により、子どもたちと保護者にとって最適な環境を維持していただくことを求めます。</p>	<p>2つ目について、本検討の内容は、本来幼稚園が「集団生活や遊び場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の間わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよ</p> <p>う、園児に書かれた後評したものであります。</p> <p>また、小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではなく、市立幼稚園が中心となって取り組んでいる葉ヶ橋プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるよう努める必要があると求めています。</p> <p>なお、認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。</p>	幼小連携 認定こども園	

連番	案談当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
140	52	「か打出中学校区大津幼稚園の再編について」	以下の点から反対です ①通園方法 ・雨の日の安全性、4月から自転車の規制も厳しくなり事故、事件通園距離の増加と安全面の不安 ・通園距離が長くなり、送迎の負担が大きくなるまた、保護者の就業状況によっては送迎が困難になるケースも考えられる ②小学校との交流が減る可能性 ・子どもたちが進学前に環境に慣れる機会が減ること、小学校生活への不安が大きくなることへの懸念（通園訓練で体育館へ行っていましたが、交流だけでなく、実際に行くだけでも慣れに繋がる） ③少人数保育の良さが失われる可能性 ・異年齢での交流が豊富であり、年中・年長になれば下の子供たちを思いやる姿がみられる ・進学すれば知っているお兄ちゃんやお姉ちゃんがいることで、不安が減るのではないかと ④兄弟姉妹がいるが家庭への負担 ・小学校と幼稚園に兄弟姉妹が在籍している場合幼稚園が遠くなることで送迎の負担が大きくなる ・緊急時や行事の対応もどうなるのか影響が懸念される ⑤統廃合ではなくとも園舎化して待機児童解消 [反対です] 大津幼稚園と中央小学校が同じ敷地内に有り、子ども同士の交流が持てることはもちろんのこと、今後も連携を深めていくと聞かれています。 我が家は他学区から転入してきました。この幼稚園と小学校が近くにあると言ったのも引っ越しを決めた理由の一つであり、この魅力的な施設が再編対象となっていることが信じられません。 しかしながら園児数の減少は否めないため、立地を活かしたことも園舎化は有効かと思えます。 反対です。 私が今感じる懸念点を（歴史や伝統には詳しくないので、実情ベースで）挙げてみました。 【懸念点】 ①通園方法について ・園までの距離が遠くなる家庭が増え、送迎や子供の負担が大きくなる ・通園バスの有無、運行範囲、安全面の配慮は？（通園バスや登下校中の事故もよく聞かれます） ・雨天時や災害時などの対応が心配 ②小学校への進学について ・近隣小学校との交流機会が減り、就学時の環境の変化に適応しにくくなるのでは？ ③規模について ・子供達ひとりひとりに寄り添った丁寧な細やかな教育ができるのか ・園舎、園庭、トイレなどの施設や設備の整備は？	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。 小学校との連携については、29ページに記載のとおり、架け橋期の教育の推進を図ることを求めています。 園の規模については、34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。 一方で、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関わりを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものです。 ④については、今後の参考とさせていただきます。 ⑤の認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	通園支援 幼小連携 適正規模 通園支援 その他 認定こども園 認定こども園 通園支援 幼小連携
141	52	「か打出中学校区大津幼稚園の再編について」	大津市立幼稚園の再編について、反対の意見をお伝えたくご連絡いたしました。 今回の再編により、通園距離が長くなり、日々の送迎や子どもの負担が大きくなることを懸念しております。特に小さな子どもにとっては、通園時間の増加や環境の変化は大きなストレスに変わりかねません。 また、学区の変更により進学先の小学校が変わる可能性がある点にも不安を感じています。地域のつながりの中で築かれてきた友人関係や見守り体制が分断されてしまうことは、子どもにとっても保護者にとっても大きな影響があります。	小学校との連携については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。 また、学区の変更により進学先の小学校が変わる可能性がある点にも不安を感じています。地域のつながりの中で築かれてきた友人関係や見守り体制が分断されてしまうことは、子どもにとっても保護者にとっても大きな影響があります。	通園支援 幼小連携
142	52	「か打出中学校区大津幼稚園の再編について」	大津市立幼稚園の再編について、反対の意見をお伝えたくご連絡いたしました。 今回の再編により、通園距離が長くなり、日々の送迎や子どもの負担が大きくなることを懸念しております。特に小さな子どもにとっては、通園時間の増加や環境の変化は大きなストレスに変わりかねません。 また、学区の変更により進学先の小学校が変わる可能性がある点にも不安を感じています。地域のつながりの中で築かれてきた友人関係や見守り体制が分断されてしまうことは、子どもにとっても保護者にとっても大きな影響があります。	小学校との連携については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。 また、学区の変更により進学先の小学校が変わる可能性がある点にも不安を感じています。地域のつながりの中で築かれてきた友人関係や見守り体制が分断されてしまうことは、子どもにとっても保護者にとっても大きな影響があります。	通園支援 幼小連携
143	52	「か打出中学校区大津幼稚園の再編について」	大津市立幼稚園の再編について、反対の意見をお伝えたくご連絡いたしました。 今回の再編により、通園距離が長くなり、日々の送迎や子どもの負担が大きくなることを懸念しております。特に小さな子どもにとっては、通園時間の増加や環境の変化は大きなストレスに変わりかねません。 また、学区の変更により進学先の小学校が変わる可能性がある点にも不安を感じています。地域のつながりの中で築かれてきた友人関係や見守り体制が分断されてしまうことは、子どもにとっても保護者にとっても大きな影響があります。	小学校との連携については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。 また、学区の変更により進学先の小学校が変わる可能性がある点にも不安を感じています。地域のつながりの中で築かれてきた友人関係や見守り体制が分断されてしまうことは、子どもにとっても保護者にとっても大きな影響があります。	通園支援 幼小連携
144	52	「か打出中学校区大津幼稚園の再編について」	大津市立幼稚園の再編について、反対の意見をお伝えたくご連絡いたしました。 今回の再編により、通園距離が長くなり、日々の送迎や子どもの負担が大きくなることを懸念しております。特に小さな子どもにとっては、通園時間の増加や環境の変化は大きなストレスに変わりかねません。 また、学区の変更により進学先の小学校が変わる可能性がある点にも不安を感じています。地域のつながりの中で築かれてきた友人関係や見守り体制が分断されてしまうことは、子どもにとっても保護者にとっても大きな影響があります。	小学校との連携については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。 また、学区の変更により進学先の小学校が変わる可能性がある点にも不安を感じています。地域のつながりの中で築かれてきた友人関係や見守り体制が分断されてしまうことは、子どもにとっても保護者にとっても大きな影響があります。	通園支援 幼小連携
145	52	「か打出中学校区大津幼稚園の再編について」	大津市立幼稚園の再編について、反対の意見をお伝えたくご連絡いたしました。 今回の再編により、通園距離が長くなり、日々の送迎や子どもの負担が大きくなることを懸念しております。特に小さな子どもにとっては、通園時間の増加や環境の変化は大きなストレスに変わりかねません。 また、学区の変更により進学先の小学校が変わる可能性がある点にも不安を感じています。地域のつながりの中で築かれてきた友人関係や見守り体制が分断されてしまうことは、子どもにとっても保護者にとっても大きな影響があります。	小学校との連携については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。 また、学区の変更により進学先の小学校が変わる可能性がある点にも不安を感じています。地域のつながりの中で築かれてきた友人関係や見守り体制が分断されてしまうことは、子どもにとっても保護者にとっても大きな影響があります。	通園支援 幼小連携
146	52	「か打出中学校区大津幼稚園の再編について」	大津市立幼稚園の再編について、反対の意見をお伝えたくご連絡いたしました。 今回の再編により、通園距離が長くなり、日々の送迎や子どもの負担が大きくなることを懸念しております。特に小さな子どもにとっては、通園時間の増加や環境の変化は大きなストレスに変わりかねません。 また、学区の変更により進学先の小学校が変わる可能性がある点にも不安を感じています。地域のつながりの中で築かれてきた友人関係や見守り体制が分断されてしまうことは、子どもにとっても保護者にとっても大きな影響があります。	小学校との連携については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。 また、学区の変更により進学先の小学校が変わる可能性がある点にも不安を感じています。地域のつながりの中で築かれてきた友人関係や見守り体制が分断されてしまうことは、子どもにとっても保護者にとっても大きな影響があります。	通園支援 幼小連携
147	52	「か打出中学校区大津幼稚園の再編について」	大津市立幼稚園の再編について、反対の意見をお伝えたくご連絡いたしました。 今回の再編により、通園距離が長くなり、日々の送迎や子どもの負担が大きくなることを懸念しております。特に小さな子どもにとっては、通園時間の増加や環境の変化は大きなストレスに変わりかねません。 また、学区の変更により進学先の小学校が変わる可能性がある点にも不安を感じています。地域のつながりの中で築かれてきた友人関係や見守り体制が分断されてしまうことは、子どもにとっても保護者にとっても大きな影響があります。	小学校との連携については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。 また、学区の変更により進学先の小学校が変わる可能性がある点にも不安を感じています。地域のつながりの中で築かれてきた友人関係や見守り体制が分断されてしまうことは、子どもにとっても保護者にとっても大きな影響があります。	通園支援 幼小連携
148	52	「か打出中学校区大津幼稚園の再編について」	大津市立幼稚園の再編について、反対の意見をお伝えたくご連絡いたしました。 今回の再編により、通園距離が長くなり、日々の送迎や子どもの負担が大きくなることを懸念しております。特に小さな子どもにとっては、通園時間の増加や環境の変化は大きなストレスに変わりかねません。 また、学区の変更により進学先の小学校が変わる可能性がある点にも不安を感じています。地域のつながりの中で築かれてきた友人関係や見守り体制が分断されてしまうことは、子どもにとっても保護者にとっても大きな影響があります。	小学校との連携については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。 また、学区の変更により進学先の小学校が変わる可能性がある点にも不安を感じています。地域のつながりの中で築かれてきた友人関係や見守り体制が分断されてしまうことは、子どもにとっても保護者にとっても大きな影響があります。	通園支援 幼小連携
149			大津市立幼稚園の再編について、反対の意見をお伝えたくご連絡いたしました。 今回の再編により、通園距離が長くなり、日々の送迎や子どもの負担が大きくなることを懸念しております。特に小さな子どもにとっては、通園時間の増加や環境の変化は大きなストレスに変わりかねません。 また、学区の変更により進学先の小学校が変わる可能性がある点にも不安を感じています。地域のつながりの中で築かれてきた友人関係や見守り体制が分断されてしまうことは、子どもにとっても保護者にとっても大きな影響があります。	小学校との連携については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。 また、学区の変更により進学先の小学校が変わる可能性がある点にも不安を感じています。地域のつながりの中で築かれてきた友人関係や見守り体制が分断されてしまうことは、子どもにとっても保護者にとっても大きな影響があります。	通園支援 幼小連携
150			大津市立幼稚園の再編について、反対の意見をお伝えたくご連絡いたしました。 今回の再編により、通園距離が長くなり、日々の送迎や子どもの負担が大きくなることを懸念しております。特に小さな子どもにとっては、通園時間の増加や環境の変化は大きなストレスに変わりかねません。 また、学区の変更により進学先の小学校が変わる可能性がある点にも不安を感じています。地域のつながりの中で築かれてきた友人関係や見守り体制が分断されてしまうことは、子どもにとっても保護者にとっても大きな影響があります。	小学校との連携については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。 また、学区の変更により進学先の小学校が変わる可能性がある点にも不安を感じています。地域のつながりの中で築かれてきた友人関係や見守り体制が分断されてしまうことは、子どもにとっても保護者にとっても大きな影響があります。	通園支援 幼小連携

連番	案該当箇所		意見内容	検討委員会の考え方(各課題回答)	中分類
	頁	詳細箇所			
151			さらに、園児数の増加により、一人ひとりに目が行き届きにくくなるのではないかと心配しております。現在のようなかゆやかな保育環境が維持されるか疑問です。加えて、長年地域に根ざしてきた幼稚園がなくなるとは、地域の活気や安心感の面でも大きな損失だと感じています。	園の規模については、34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。一方で、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨した、様々な感情体験の機会が得られるような、子ども同士の間を十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましい」と考え検討を行っています。	適正規模 地域との関わり
152			また、保育園利用者の増加を理由に幼稚園を縮小・廃止するのではなく、幼稚園を利用しやすくなる取り組み(預かり保育の充実や利用時間の柔軟化など)によって、幼稚園という選択肢を広げていくことも検討すべきではないでしょうか。	既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。	預かり保育の拡大
153	19	検討経緯	平成28年度からの議論は承認しているが、令和3年に一旦凍結したと理解している。「再編基準の見直し」に沿って令和6年から検討を開始したというのであれば、そこが議論のスタート。「3年連続して5人を下回った場合」以外には、「再編する」ではなく「検討をしておく」という理解で良いか?	35～36ページに記載のとおり、再編基準としては、第1段階又は第2段階で再編等を行うとしています。なお、再編基準以外の要素については、51ページ以降に記載のとおり、別途検討を行っています。	再編基準
154	説明会	議論の進め方	パブリックの前に地元の意見を聞くべきであり、住民感情を無視した再編方針は決して受け入れられるものではない。	色々な立ち場の委員により検討を行い、意見をとりまとめた結果に対してパブリックコメントを実施しているものであり、計画として決定されたものではありません。	検討経過 再編基準
155	25	地域との関係	地域コミュニティの重要な拠点のひとつであり、日ごろの挨拶等はもちろんのこと、作品展や音楽会等を通じて、老人を中心とした住民と、園児、保護者が一体となって健全な子どもを育成しており、集団規模よりはお互いに支えあっている。	地域との関わりについてはご意見のとおり検討委員会でも議論がありましたが、本来幼稚園は「集団生活を営む場所」であることから、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を習得する教育を実現できるようにすることが重要なこととして検討しています。	地域との関わり
156	25	大津祭との関係	地域住民の心よりどころであり、健康で明るい生活につとめるためにも、大津幼稚園は大きな要素である。	ご意見として承ります。	地域との関わり
157	19	将来性	30年前から園児を奥山に粟山体験をさせるなど、ユネスコ無形文化遺産大津祭の魅力を体感できる幼稚園教育で、将来の大津祭の担い手を育てている。粟山体験をした子どもたちは大津祭に大きな興味をもち、作品展でも多くの園児が奥山に関する作品を作っている。豊かな文化財の一つである大津祭の将来のためにも大津幼稚園卒園児(大津祭ファン)の存在は極めて大きい。	人口推計については、マンション建設の予定も勘案した上で、小学校区ごとに実施しており、市立幼稚園の園児数の推計も、該当の小学校区ごとに算出しているため、「将来的な児童数増加の可能性」については考慮はされているものと考えております。また、再編の方性については、その他総合的に判断して検討しております。	人口推計・園児数推計
158	説明会	歴史・伝統	設立経緯、歴史、1万人を超える卒園者、大津幼稚園は大津の幼稚園のルーティンな幼稚園であり、80歳を超える卒園者が懐かし訪問されるなど、その歴史や伝統を考え、極めて特殊な幼稚園である。	地域との関わりについてはご意見のとおり検討委員会でも議論がありましたが、本来幼稚園は「集団生活を営む場所」であることから、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を習得する教育を実現できるようにすることが重要なこととして検討しています。	園の特徴
159	説明会	特別な配慮を必要とする子	特別な配慮を必要とする子に対しては、地域全体で支援する必要があるが、中央学区では実施できていない。あたたかい目で子どもたちを見守ることができるとは、わが地域の大きな誇りのひとつである。	特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討する必要があると考えています。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。	特別な配慮
160	33	集団規模について	集団規模が前年度との説明だったが、地域で大切に育てた大津幼稚園卒園児が、小学校に入学後「集団に溶け込めない」「社会的・協調性が劣る」等の問題点が実際にあったのか?	適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれ、どのようなことを経験してほしいか、そのためにどれくらい規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものです。	適正規模
161	23	集団規模について	私を知る限りでは、そのような事例はないと思うし、一般論だけで地域の重要な教育の場を破壊すべきではない。	既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。	預かり保育の拡大

連番	案談当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
162	23	集団再編について	認定こども園化等、住民の思いに合致した施策を遂行することが行政の役割であり、住民感情と乖離した「再編」などに努力を要すべきではない。	認定こども園 認定こども園	認定こども園
163	説明会	集団再編について	早朝、大津の中心部にバスが来て、京都の幼稚園に子供を連れていく。 京都の幼稚園はそんなに魅力があるのか？大津の幼稚園では何故たのめなのか？この実態を大津市はどのように考えているのか？	市立幼稚園を否定するものではなく、保護者ニーズが多様化している中において、ご家庭のニーズに合った選択をした結果であると考えています。	市外の施設に関すること
164	説明会	特徴・地域性	「各園の特徴や地域性を総合的に勘案」と言っているが、大津幼稚園の特徴や地域性を誰がどのように勘案したのか？大津幼稚園の特徴をどのように理解しているのか？地元のことをいかに知り聞いているのか？魅力ある市立幼稚園を存続させるために官民一体となって知恵を出し合おう。	検討委員会で大津幼稚園やその他の園についての意見は多く出ておりますが、それも踏まええた上での検討結果としてフィードバックコメントを実施しております。	園の特徴
165		1.通園環境の激変による就労継続への影響について	本再編案による園の統合・輸入は、保護者の就労環境に深刻な支障をきたします。現在、私の妻は「幼稚園」に子供を送りつけてから仕事に向かっている生活リズムを確立していますが、立地条件が変更されることで、物理的にこのスタイルの維持が不可能となります。	実際に検討を進める際には、54ページに記載のとおり、当事者である保護者への説明会などの機会を通じて、丁寧に進めていくことが必要であるとしています。	子育て支援全般
166		2.子育て支援施策の方向性と逆行する市政への疑義	先日、NHKの報道でも指摘されていた通り、大津市は子育て世代の流入が多い一方で、待機児童問題がいまだ解消されていない自治体（全国ワースト1位）として全国に知られるところとなっています。このような状況下で、子育て関連のリソースを削減・縮小する方針は、市民の期待を裏切る行為であり、到底理解を得られるものではありません。	待機児童対策及び職員の出退に関する事項については、当該検討委員会で検討しており、待機児童は発生していません。	待機児童 処遇
167		3.大津幼稚園における独自の教育的価値の継承について	現在の再編案をそのまま進めるのではなく、保護者の就労実態、待機児童問題の深刻さ、そして既存の優れた教育環境の価値を十分に再考し、白紙撤回を含めた慎重な議論を継続することを強く求めます。	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の間わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ねて検討したものであり、効率化を目的としたものではありません。	園の特徴
168			再編を検討する場合は、敬儀基準を設定すること自体は否定しないが、目安とすべきであり、地域事情等の個別事情を考慮に入れず機械的に判断するのは、市立幼稚園の数を減らすことありきの乱暴な進め方であり、住民本位の行政とは思えない悪行である。地域住民の声を傾け、地域ニーズ・保護者ニーズに沿った幼稚園・保育園のあり方を検討すべきである。	ご意見として承ります。	その他
169	34～37	再編基準	「市立幼稚園が果たしてきた役割」に記述の5点は、大津市において今後とも堅持されるべき重要な役割であり、大津幼稚園は、まさにその先駆けとして、長年、同じ敷地内に密に連携しながら教育活動を展開されている。また、地域の祭りであり、ユネスコ無形文化遺産に登録された大津祭を積極的に関与し、取り入れられており、子どもが地域への愛着や感謝の気持ち、誇り、憧れを抱く貴重な機会となっており、保護者も含め地域コミュニティの活性化に大きな役割を果たしている。これは大津幼稚園が現在地に存続してこそ継承される価値である。平野幼稚園に再編されては実現しえないものであり、廃園となれば地域に与える損失は計り知れない。	35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。	検討経過
170	25 52	市立幼稚園が果たしてきた役割 打出中学校区		地域との繋がりがという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との関わり
171	2 19～ 21	総則 認定こども園への移行の検討	保育ニーズの高まりを受け、大津市立幼稚園の園児数は毎年減少を続けています。一方で、令和7年4月1日の大津市の保育所等待機児童数は132人となっており、令和6年度が52人減っているものの依然全国的に見ても高い数字である。 「大津市立幼稚園の再編等について」が示されたが、市立幼稚園の再編だけでは、保育所等待機児童対策も含めて検討されるべきであり、再編の対象とされる幼稚園については、認定こども園への移行も含めた検討を行い、それを再編案として示すべきである。	認定こども園化については、慎重なご意見として承ります。 今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の間わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ねて検討したものであることから、待機児童問題は異なる内容となります。 なお、待機児童の95%以上は0～2歳児となっており、幼稚園に通われている3歳児以上の待機児童は、ほとんど発生しておりません。	待機児童 認定こども園

連番	案談当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
172	4	就学前児童人口推移 大津幼稚園児数推移 幼児一元化の取組 再編等の方向性	中央学区の就学前児童人口は増加傾向にあるが、大津幼稚園の園児数は減少傾向にある。一方、「大津市立幼稚園・保育園のあり方方針」では、「幼児一元化の取組」として園児数が少ない地域を中心として、認定こども園への移行などの取組の促進」が明記されている。保育ニーズの高まりがあることを考慮すると、大津幼稚園を「幼児連携型認定こども園」として存続させることは、中央学区住民の保護者ニーズにも応える対応であり、是非とも前向きに検討していただきたい。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
	11		大津幼稚園や連坂幼稚園について、安易な統合ではなく、こども園への再編を望みます。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
	16		学区内に幼稚園がなくなるとは、隣接する小学校との幼少連携・就学前教育の柱を失うことになる。平野幼稚園への安易な統合は永年培われた地域の教育力の低下に繋がり、大津まつりなど地域文化の伝承が困難になる。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
	46		息子達は滋賀県で就労している子育て世代であるが、待機児童数全国ワースト1の大津市を避け、草津市と栗東市に住居を構えた。大津市は子育て世代から魅力がなく、生産年齢人口の激減が危惧されるが、こども園への再編によって改善されるのではないだろうか。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の事情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援 給食
174		大津市の幼稚園再編案について、少子化が進む中で、教育環境の質を維持・向上させるためには、一定の集約や効率化は必要だと考えます。	また、23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。	預かり保育の拡大	
175		先日説明会に参加致しましたが再編の方向での説明要疑応答では検討します。はっきりした返答はない。園児数が減少しているのは大津市がもっと積極的に幼稚園の良い所を宣伝するとか何か方法があるはず。歴史ある大津幼稚園を統合すべきではないかとも感じています。	検討委員会において意見の取りまとめを行った内容について、パブリックコメントにより意見を多く段階であること、説明会の目的はパブリックコメントの内容をご説明することであるため、ご意見にあるとおりの回答になっています。	認定こども園 その他	
176		<ul style="list-style-type: none"> ■ はじめに 現在の成長を育てている母で、子どもは保育園に通っています。 出産を機に初めて保育園や幼稚園について調べ、今後の選択として幼稚園も検討したいと考えています。 また、本検討が平成26年から始まっていることを知り、市が長期的な視点で取り組まれている点には安心と意義を感じました。一方で、今まさに対象となる保護者にとっては、私のようにこれまで自分ごととして捉える機会が少なかつたのではないかと感じています。 ■ 感じている矛盾 幼稚園を利用しやすくする施策（働いていても幼稚園！）と、幼稚園を減らす施策（今回の再編案）が同時に進められている点に、矛盾を感じています。 ■ 背景にある実態 ・認識の問題 働いていたら保育園、専業主婦なら幼稚園という認識は、今も多くの人のの中に残っていると感じます。私自身も出産するまでそう考えており、育休復帰時は自然と保育園を遊ぶ流れになりました。 ・ルーシーの実態 【5・6頁母親の就労状況と家庭類型区分の考え方に対する意見】 資料では「フルタイム」と「パート・アルバイト」という区分がありますが、実態とは必ずしも一致していないと感じます。私は正社員でありながら短時間勤務制度を利用していますが、子どもは結果的に長時間保育を利用しています。また、中小企業で働く環境においては、時短制度自体がない、あるいは期限付きである場合も少なくありません。「パート・アルバイト」短時間勤務は家庭に余裕がある状態ではなく、将来を見据えて保護者の就労を調整している状況だと感じています。 ・本音と建前 認識では長時間保育のニーズがあるように見えますが、本音としては、子どもと過ごす時間ももう少し確保したいと感じている保護者が多いのではないだろうか。実際には、仕事や経済的な事情により、そうせざるを得ない状況にあると感じています。私自身がつうです。これは大津市に対する意見というより、社会全体の気運だと思えますが…。（働き手不足の言葉にあらわれるような） 	<p>子育て世代の貴重なご意見として承ります。</p> <p>また、23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。</p> <p>なお、今回の検討については、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が順次実施されているにも関わらず、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているのもです。</p> <p>これまで実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。</p>	預かり保育の拡大	

連番	家談当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
177	176の続き	177の続き	<p>・通園の現実 【14・15頁保護者ニーズの変化に対する意見】 「自宅の近く」は減少傾向にあるとありますが、全体の割合を占める1位であることに変わりはありません。このデータだけでは、納得は得づらと思います。 もし自宅近くの幼稚園で長時間預かりが利用できるのであれば、保育園を転園し、幼稚園も現実的な選択肢になると感じます。しかし再編によって、通園に準で10～20分かかる、あるいはバス等の時間に縛られる状況になると、現実的に利用は難しくなり、結果として保育園を選ばざるを得なくなると思います。</p> <p>■懸念されること 「働いていても幼稚園」という取組のみはとも良いものだと思いますが、周知や理解が十分に進む前に幼稚園の再編が進むことで、かつて幼稚園を遊びにくくなってしまっているのではないかと懸念しています。また、幼稚園は単なる預け先ではなく、今後の働き方や子育てのあり方を考える上での選択肢の一つであり、場合によっては転園や働き方の見直しを後押しする存在にもなり得ると感じています。（大津に住みながら京都大阪で働いている人が、大津市内で働く選択をとする等のメリット。） その意味で、幼稚園は子育て世帯にとっての「最後の砦」や、生活を支える「インフラ」の一つとも言えるのではないのでしょうか。そうした存在が利用しにくくなる方向に進んでしまうと、不安を感じています。</p> <p>■提案 ・時間をかけた周知と検証 新たな取組のみについては、周知や理解、実態の利用に至るまで時間がかかると感じます。まずは一定期間、効果の検証や周知を丁寧に行うことが必要ではないでしょうか。 ・保護者が関われる仕組みの検討 3歳未満児については保育料を負担していますが、3歳児以降については、例えば月5,000円～1万円程度であれば負担してもよと感じる保護者も一定数いるのではないかと思います。 そのような形で子育て世代自身が支える仕組みや、寄付・応援金のような形で保護者が関われる仕組みについても、一つの選択肢として検討できないでしょうか。（一度無償化されたものをもう一度…というのとはとても難しいことで突飛な意見であると思いますが、ただ保育給付を受ける保護者としては、今まで払っていたものが軽減されるのはうれしい反面、3歳児以降も給付が少なくなってしまうことは可能だと思います。その収入がきつち保育園・幼稚園の運営に反映されるしくみと実績が明示できれば、理解も深まると思います。意見させていただきます。） 4/17（金）の生涯学習センターのパブリックコメントに参加させていただきました。地域の方や、幼稚園に携わってこられた方の熱いご意見に圧倒されました。一番、自分事としてとらえないといけない世代の人は少なく（平日だったからかもしれませんが…）市としても様々な意見を取りまとめるのは、現実的に難しいのだと目撃したりしました。実際、市民の方の意見の中でも、対極的な部分もあったと思います。私もすべては賛成できませんでしたが、就労との両立を考えると、現実的には難しいとも感じていました。預かり保育があることで、働きながらも幼稚園に通わせることが可能となり、大変ありがたく感じています。 その一方で、現在の預かり保育の時間帯である8時30分から17時30分まででは対応が難しい家庭もあること、また、お弁当やおやつ準備にかかる保護者の負担も小さくないことは事実です。今後、こうした支援がさらに拡充されれば、共働き家庭であっても「幼稚園に通わせたい」と考える保護者が、より安心して幼稚園を選択できるようになると思います。</p>	<p>子育て世代の貴重なご意見として承ります。 23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。 一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとなります。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。</p>	<p>預かり保育の拡大 給食</p>
178	177の続き	177の続き	<p>子育て世代の貴重なご意見として承ります。 23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。 一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとなります。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。</p>	<p>預かり保育の拡大 その他</p>	
179	23	就労している保護者への支援の拡大について	<p>ご意見として承ります。 給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承りません。 また、預かり保育拡大のご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>	<p>預かり保育の拡大 給食</p>	

連番	家談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
180	31	幼稚園のこれからの在り方について	<p>私は大津市立幼稚園に通う子どもの保護者であると同時に、保育者養成に携わる大学教員としての立場から、本案について意見を述べさせていただきます。私は、大津市立幼稚園は保育・教育の質が高く、環境を通じた教育や、子ども一人ひとりの思いを大切に丁寧な実践が行われていると感じております。先生方も熱意と専門性をもって子どもに関わっておられ、このような幼稚園教育は大変貴重なと考えます。</p> <p>そのため、今回の再編案が幼稚園を縮小する方向に重きを置いていることについて、本当に子どもにとって最適なのか、疑問を抱いています。少子化や共働き世帯の増加といった社会的背景については理解しておりますが、だからこそ単独に幼稚園を減らす方向ではなく、質の高い幼稚園教育をどのように今後も維持・発展させていくのかという視点が必要ではないでしょうか。</p> <p>また、本案においては「集団の適正化」や「施設の老朽化」が再編の理由とされているのは理解しております。一定規模の集団の中で子どもが育つことの意義や、安全な施設環境は重要なことです。しかしながら、園児の減少については、幼稚園教育のニーズが低下しているというよりも、共働き世帯の増加に伴い、就労しながら利用するには制度上の制約が多く、結果として選択されにくくなっている側面もあるのではないかと考えます。多様な保育施設が存在する中で、公立幼稚園が果たしている役割は大きく、質の高い幼稚園教育が将来にわたって維持されていくことを望みます。</p> <p>現在、全国的にも少子化や共働き世帯の増加を背景に、幼稚園から認定こども園への移行が進んでいます。こうした実態を踏まえるならば、大津市立幼稚園についても、幼保連携型認定こども園への移行という方向性も、ぜひ前向きに検討していただきたいと思えます。</p> <p>子どもたちにとってよりよい育ちの場を守りつつ、保護者にとっても利用しやすい仕組みを整えていく視点から、慎重にご検討をお願い申し上げます。</p>	認定こども園	

連番	案談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
181	34 35	(2) 再編基準（基準とする年齢及び人数） (3) 再編基準に則った検討の進め方について (4) 再編基準について	再編の基本方針について、基準については園児数とし、エリアは中学校区が基本とされている。南郷中学校区の南郷・大石幼稚園については、園児数の基準から統合されることについては致し方ないと思うが、南郷・大石幼稚園が統合されればこの3年間の実績でも令和12年度までの推計園児数でも15人以上の規模となり、再編の対象となる3年連続して15人を下回る場合も除外されるはずである。それにも関わらず、現状でも再編の検討外の規模である石山幼稚園と3園併せての再編を考へる理由は何か、3園での再編ではなく南郷中学校区内の南郷・大石幼稚園の統合で十分であるし、基本方針にも沿うのではないか。それでもなお南郷中学校区（南郷・大石幼稚園）と石山中学校区（石山幼稚園）の3園による再編が強行されるのであれば、幼稚園再編の実績による幼稚園職員の前減や中学校の統合合まで見越しているのではない幼い強い懸念がある。	ご意見として承ります。 なお、今回の検討は、15人を上回る規模にすることを目的としているのではなく、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育を実現できるようにすることを目的としています。 併せて、近年、規模の縮小が急速に進んでいる現状を鑑み、ある程度の規模の確保が必要という意見があったことから、原案のとおりとします。 なお、再編基準以外の要素については、51ページ以降に記載のとおり、別途検討を行っています。	再編基準 検討経過
182	42	(3) 地域性等の考慮について	(ア) 園庭の広さ 南郷幼稚園→1962㎡ 石山幼稚園右→700㎡ (イ) 延年数 南郷幼稚園→41年 石山幼稚園→49年 (ウ) 駐車場の有無や台数、周辺道路の台数 南郷幼稚園→駐車台数7台 石山幼稚園→駐車台数3台 周辺道路についても南郷幼稚園は道路に面していないのに対し、石山幼稚園は道路に直接面しており交通量も多い。 (エ) 園舎について、石山幼稚園はコの字型に園舎が立ち並び遊戯室は2階にあり園庭を見渡すときに死角になって目が行き届きにくくなる。 対して南郷幼稚園は園舎自体はコの字型になっているが学年が横並びとなっており、遊戯室も一階で遊戯室で遊ぶながらも園庭が見渡せ、安心で、園庭自体も広く自然も豊かで子供たちがのびのびと遊ぶ。また周辺の交通量が多い立地であることから日常の園生活における安全面にも不安を感じる。交通環境の違いが事故のリスクになる可能性も否定できない。 以上の点から南郷幼稚園への合併が検討されているが疑問である。	35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけでなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。 再編の方向性については、ご意見として承ります。 なお、再編基準以外の要素については、51ページ以降に記載のとおり、別途検討を行っています。	再編基準 検討経過
183	51 52	検討経過と概要について 石山中学校区・南郷中学校区	南郷幼稚園及び大石幼稚園ともに園児数が少ないことから、子供達の育ちの環境を考慮し、石山幼稚園に再編を行うこととする。 なお、石山幼稚園に再編する前に、南郷幼稚園と大石幼稚園が再編をすれば1クラス15人以上という数字はクリアする。石山幼稚園に再編する必要はない。 以上の点を踏まえて、3つの園の統合を進めるのではなく、まずは南郷幼稚園と大石幼稚園の2つの園を統合を求め、石山幼稚園への再編を反対します。 対象の幼稚園への保護者や先生方の意見にしっかりと耳を傾けて頂きたいです。 また子供たちの安全と成長環境を最優先に慎重な検討を求めます。	ご意見として承ります。 なお、今回の検討は、15人を上回る規模にすることを目的としているのではなく、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育を実現できるようにすることを目的としています。 併せて、近年、規模の縮小が急速に進んでいる現状を鑑み、ある程度の規模の確保が必要という意見があったことから、原案のとおりとします。	再編基準 検討経過
184	52	が打出中学校区 大津幼稚園の再編について	☆大津幼稚園と平野幼稚園の統合に強く反対します!! 大津幼稚園は、同敷地内で公立小学校と隣接する敷地が少ない幼稚園であり、幼小連携がとりやすく、接続期間とも連携した保護者にとって理想的な立地の保育施設であると考えます。 しかしながら、共働き世帯が子どもを預けるには条件が合わず、『選抜制に入れない』というのが現状です。 現在大津幼稚園に通園中の家庭は、隣接する中央小学校にまようたいがいいる家庭も多く、行事の際や学期始めと学期終わり等、午前保育と半日授業で上の子の下校時間と下の子のお迎え時間が重なる時期も、この立地からこそ上の子にも負担をかけるように思っています。 また、3年間通う道がそのまま通学路となること、合同の遊園地や沢山の幼小連携カリキュラムのおかげで、小1へのスムーズな接続が可能となっています。 検討されている平野幼稚園との統合は、中央学区の親子にとって望ましいものではありません。 通園保障においても、徒歩通園を希望して近隣幼稚園を選んでいる母子にとっては毎日の電車通園は負担であり、バス通園も事故が心配です。加えて、平野幼稚園の園舎の劣化も気がかりです。	小学校1年生になるのは市立幼稚園の空園生だけではなく、市立幼稚園が中心となって取り組んでいる集げ橋プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるように努める必要があると求めています。 再編の方向性については、ご意見として承ります。	幼小連携 検討経過
185	52	が打出中学校区 大津幼稚園の再編について	通園保障においても、徒歩通園を希望して近隣幼稚園を選んでいる母子にとっては毎日の電車通園は負担であり、バス通園も事故が心配です。加えて、平野幼稚園の園舎の劣化も気がかりです。	通園保障については、今後、再編により通園距離が長くなる場合があることが想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援

連番	家談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
186		幼稚園の園児減少について(要因)	公立幼稚園が選ばれない主な理由は2つあり、1つはお弁当作り、もう1つは保育時間の短さにあると考えます。	ご意見として承ります。 給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承りません。	給食
187		幼稚園の園児減少について(要因)	数年前に比べれば延長保育拡大により、預けられる時間が少なくなりましたが、それはアルバイト・パート向けの託児時間であり、共働きの世帯を呼び込む施策としては、保育園と同レベルの託児時間を設ける必要があると考えます。 労働者から幼稚園というキャッチフレーズはとても魅力的ですが、実際に子どもを預けながら職業に就くと、現状の保育開始時間では送迎の負担が重なり、母親の社会復帰を後押しするにはまだまだ不十分であるという現実を直視しています。	預かり保育拡大のご意見については、今後の参考とさせていただきます。	預かり保育の拡大
188		歴史ある大津幼稚園の存続を希望!!	大津幼稚園の存続を強く希望します!! 学区内において中央小学校へのスムーズな接続においては唯一無二の園です。 創立140周年を目前に控え、歴史がある大津幼稚園ですが、大規模修繕がされ、園舎はともなわれます。周辺にはマンションもたくさん建設され、今後も子育て世帯の流入が一定数見込まれると推測できます。我が子が入学予定の小学校と隣接する大津幼稚園は、中央学区の未就園児の保護者にとっても魅力的な幼稚園です。	ご意見として承ります。 小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではなくことから、市立幼稚園が中心となって取り組んでいる架け橋プログラム等を通して、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるような努める必要があると求めています。	幼小連携
189		歴史ある大津幼稚園の存続を希望!!	多くの母が負担と感じる毎日のお弁当作りが無くなるだけでも今後の入園園児数は変わっていくと願います。 給食開始や保育時間の延長、また、3歳児からの幼児園・こども園化で2歳児クラス終了時に保育園からの転入を呼びかけるなど、この立地を至ることなく、中央学区の親子が地元で通える保育施設を残す方法を再検討頂きますようよろしくお願い申し上げます。	給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承りません。 また、預かり保育拡大のご意見については、今後の参考とさせていただきます。	給食 預かり保育の拡大 認定こども園 その他
190		統廃合が進けられない場合の周知期間について	保護者は大切な我が子を預ける先をたくさんさん悩んで選んでいます。 どうしても統廃合が進けられないとするなら、せめて入園前の幼稚園選択の際に周知すべきであると考えます。 やっと慣れ親しんだ幼稚園を途中で変更することは子どもにとっても負担になります。 学区外である平野幼稚園との統合が事前にかわかっていなければ他の選択も考えたいと思います。 園児数を増やすための施策(給食と保育時間の延長)を熱望しますが、大津幼稚園の存続が叫びたいのであれば、現在通っている園児たちには他園との交流を増やすなどでサポートしつつ、卒園まで園が存続できるように配慮したいと思います。	できる限り早く周知を行うため、市全体として検討を行っているものです。 なお、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を憂い、改めて本検討を行っているものでもあり、原案のとおりとします。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行っております。	進め方 給食 預かり保育の拡大
191	52	打出中学校区大津幼稚園の再編について	本再編案は、少子化を前提とした合理化施策として一定の理解はできるものの、以下の点で重大な問題を有している。 第一に、人口動態の地域差を考慮しておらず、将来的な児童増加への不可逆的な対応不能リスクを生み出している点。	給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承りません。 1つ目について、人口推計については、マンション建設の予定も勘案した上で、小学校区ごとに実施しており、市立幼稚園の園児数の推計も、該当の小学校区ごとに算出しているため、「将来的な児童数増加の可能性」については考慮されているものと考えております。	人口推計・園児数推計
192	52	打出中学校区大津幼稚園の再編について	第二に、保育需要増加を理由とした幼稚園削減は短絡的であり、本来は機能転換による対応を検討されるべきである点。	2つ目について、認定こども園化のご提案と考えられますが、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
193	52	打出中学校区大津幼稚園の再編について	第三に、小規模園の教育的価値を過小評価し、多様な教育環境の確保という観点から欠落している点。(現在は、多様な発達レベルに応じた教育を可能としているが全ての均質な教育への移行は短絡的)	3つ目について、34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。 一方で、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの発達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関わりを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものです。	適正規模
194	52	打出中学校区大津幼稚園の再編について	第四に、通園距離の増加による安全性および保護者負担への影響が懸念されている点。(共働きの時代に通園距離は非常に重要であり、子育て世代の負担を軽減し、子育てに魅力的な街づくりにより多くのファミリー層を取り込むことが大津市にとって重要である中で政策が逆行しており、短絡的)	4つ目の通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
195	52	打出中学校区大津幼稚園の再編について	第五に、歴史的資産である園の廃止が地域コミュニティに与える影響への配慮が不足している点。	5つ目について、地域の繋がりと関係が重要であり、再編後も引き続き、地域としてご協力をお願いしたいと考えています。	園の特徴

連番	案談当箇所		意見内容	検討委員会の考え方(各課回答)	中分類
	頁	詳細箇所			
196	52	打出中学校区大津幼稚園の再編について	第六に、再編基準の適用に一貫性が見られず、政策決定過程の透明性に疑義がある点。(大津幼稚園は、園児が一時的に10人を下回った時期はあるものの基本的に10人以上の園児を有している)以上より、本計画は迅速であり、再検討を強く求める。	6つ目について、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けています。ご意見にあるとおり、1度でも10人を下回る場合は第1段階として判断を行い、明確に記載されていないため、「1度でも下回る場合は北明記します。また、令和8年度以降の推移については、51ページ以降に記載の「検討経過と概要について」の部分で検討を行っておりますので、その旨を追記します。	再編基準
197	52	打出中学校区大津幼稚園の再編について	反対です。大津駅前という絶好の立地であり、歴史ある幼稚園をなくするのは大きな価値の損失です。保育園の特児児童が湧いている問題を解決しながら、幼稚園を存続させるために、「子ども園化」をして大津幼稚園を残すことを望みます。 大津市立幼稚園の再編等について私達は反対いたします。 広報おまつ市の佐藤市長による夢まち通信vol.25や親和会の議会により2026、3vol.28にも書かれていましたが、権が幼稚園の園児が増えていることは実感しております。 ですが、いきなり再編とする選択ではなく、幼稚園＝フルタイムで働いてはいられない、そのためのイメージ・体制を変えなくてはならないものではないでしょうか。 自身の子は現在小学校3年生、大津幼稚園出身です。 専業主婦ではありますが、大津幼稚園を選んだ理由はこうです。 ごわがまだ3歳の誕生日を迎える前に、突然決まった夫の異動。初めての土地・情報も少ない中でいずれかの園への入園を数日決めていない状況でした。そんな中、最初に出身園を訪れ、年少から年長まで様々のつながりがあり、歴史文化や自然に触れあえ、学びのプログラムも充実し、過度な広さの園庭で、身体を動かせる、のびのびと遊べる園に惹かれました。そして、すぐに入園を決めました。 毎日お迎え時には、保護者の方にもお会いでき、知り合いがいちでお話しができることはとてもありがたい環境でした。通い慣れた通園路がそのまま、小学校の通学路になることも今でもとても強みになっています。実際に通園目なしに、1年生の下校プログラムで、こどもたちの様子を見ていても、同じ幼稚園出身のこどもたちは、しゃがんでいて、ことごとく気軽に挨拶がきます。 5、5交流という、小学校5年生と幼稚園5歳児が1年を通して交流するという取り組みもとても強みとして広まればいいのと思います。小学校やお兄さんお姉さんとして、小学校に通うことへの準備・慣れ・期待などが持てるのではないのでしょうか。笑顔に自身の子も楽しかった。手作りの○○ももらえたと嬉しそうに話してくれていたのを今でも覚えています。 子ども親も大好きな園です。 大津市としての考えもあることは十分承知ですが、大人だけで決めるのではなく出身の園がなくなってしまうことは決して望みません。 思い込みを数立てもうらまはしません。	認定子ども園化については、貴重なご意見として承ります。 なお、本検討委員会では、待機児童対策については議論しておりません。	認定子ども園
198			ご意見として承ります。 小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではないことから、市立幼稚園が中心となって取り組んでいる架橋プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるような努める必要があると求めています。		幼小連携
199	52	打出中学校区大津幼稚園の再編について	第一に、統合による通園距離が増加する児童が発生します。日常的な送迎負担を大きくし、子どもおよび保護者双方にとって通園にいく環境をみみます。移動時間の増加や交通量の多い経路の利用は、交通事故等のリスク増大にも直結する問題であり、安全面への影響を軽視すべきではありません。 第二に、地域との関係性の希薄化が懸念されます。大津幼稚園は135年以上にわたる長い歴史を持ち、大津警察、地域行事への参加を通じて、子どもが地域社会の一員として育つ重要な拠点となっています。統合により生活圏と園の結びつきが弱まれば、地域文化や伝統の継承にも影響が及ぶ可能性があります。大津市総合計画の第3期実行計画を見直したところ、基本方針の1つとして、「自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創ります」とあります。大飯所や京都府などで勤務する人々のタクトダウンとして機能している昨今、新たに引っ越してきた若世代並びに子どもたちが、大津市の貴重な文化に触れる機会が減少することは損失であると考えます。	1つ目の通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを通園支援と求めています。	通園支援
200	52	打出中学校区大津幼稚園の再編について	第三に、幼稚園は教育施設であると同時に、地域におけるソーシャル・ネットワークとして機能しています。児童の病気や家庭の事情により保育園を利用できない世帯や、待機児童問題により入園できない家庭にとって、未就園児教室やプレ参加は社会とのつながりを維持できる極めて重要な機会です。孤立を防ぐ役割を担う場を縮小することは、子育て支援政策の方向性とも整合しませんが、さらに、大津市では保育園の待機児童問題が深刻化している状況にあります。そのような中で、地域の受け皿となりが得る幼稚園を減少させることは、長期的な高給児通しの観点から慎重であるべきと考えます。加えて、現在は隣接する小学校校の日常的な交流により、子どもが自然に就学準備へ適応できる仕組みが形成されています。学区を越えた統合が行われた場合、小学校進学時に再度環境変化を経験することとなり、子どもの心理的負担や通園上の課題が生じる可能性があります。以上を踏まえ、単純な統合・廃園のみを前提とするのではなく、幼稚園と保育園の機能を統合した認定子ども園化など、多様な選択肢を十分に検討していただくことを強く要望いたします。地域の実情と子ども・保護者双方の生活実態に即した、持続可能な教育・保育環境の維持を望みます。	2つ目について、地域との繋がりの強い園におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との関わり
201	52	打出中学校区大津幼稚園の再編について		3つ目について、子育て支援に係る市全体に対する意見として承ります。 また、認定子ども園化については、貴重なご意見として承ります。 なお、待機児童については、95%以上は0～2歳児となっており、幼稚園に通われている3歳児以上の待機児童は、ほとんど発生しておりません。	待機児童 認定子ども園 子育て支援全般

家談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
番号	頁			
202		<p>反対します。</p> <p>理由 中央小学校2年生と大津幼稚園年中の孫がいます。娘夫婦に頼まれ、孫の送迎で幾度も大津幼稚園を訪れました。 近隣住区でない私にとっても、徒歩で行けるこの距離だから大切に孫を預けられました。 人も場所も良い環境にあることは娘嫁成を見て分かっていましたが、送迎をするうちにそれは実感として安心感と、時に感動もさせてもらえました。 少し早めに園庭に書いた年度始めのこと、小学校の敷地内にあることで、幼稚園よりも早く終わって小学校から出てきた子供達が幼稚園前を通るときに皆が幼稚園を眺めています。 先生方に手を振る子供に、気をつけて！と伝える先生、その様子を幼稚園児達は、無意識にも前に感じ心強 い思いを抱くと思わせてくれる温かい雰囲気がありました。 また孫と行き帰りに地元の方達が声を掛けてくださいます。 おかし、今日はおばあちゃんとか？等、私まで見守られているようで、孫を預かる緊張感に勇気をいただきました。 孫にとって地元の方とのなごいかわりは、素晴らしい道徳教育だと感じています。 このよな日々はこの地に大津幼稚園があるからです。 どうか大津幼稚園をなくさないでください。</p>	ご意見として承ります。	地域との関わり
203		<p>前回の差別及び基本的な方針・考え方についてこれまでの幼稚園教育について丁寧に記述されており、子どもたちにとって一定規模の集団を確保することが、様々な育ちにおいて重要なことと理解できます。検討を重ねる中で3年保育が実現したことは、大きな成果であると評価します。一方で、社会の変化は非常に速く、より低年齢からの長時間保育を求めるニーズは急速に増加しています。このような状況と比較すると、市の対応はやや緩やかであり、さらなる対応の加速を求めます。そこで、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 給食の実施について 【働いても幼稚園】を推進する上で、給食の実施は不可欠であると考えます。ニーズ調査においても高い要望が示されていることから、すべての園において給食を実施することを要望します。 2. 再編に伴う通園支援について 再編により、遠方への送迎を承擔せざるを得ない保護者も増えたと考えられます。徒歩圏を前提としてきたこれまでの環境から大きく変化するため、駐車場整備や通園バス等の導入等は「配慮」ではなく「前提条件」として位置づけ、公立としての公平性確保の観点からも、具体策を明示する必要があるとします。 3. 地域性を踏まえた再編について これまで各園が地域の特色を生かしながら築いてきた教育実践は、園と地域の双方に活力をもたらし、子どもたちにとっても貴重な体験となっています。再編にあたっては、単なる数値の効率性を優先するのではなく、丁寧な説明と対話を重ねながら進めていきたいと思います。 4. 地域性の具現例と提案 晴風学区では、2010年から5歳児交流の取り組みを継続し、18年目を迎えています。地域を基盤とし、公民館問わずすべての就学前施設が参加する交流事業であり、年間複数回の交流や作品展を通して、子ども・保護者・地域住民にとって貴重な機会となっています。また、教職員にとっても重要な学びの場となっており、公立園が中心的役割を担ってきました。施設や教材が充実した幼稚園が会場となるなど、公立園の存在意義も大きく感じています。こうした実績を踏まえ、再編にあたっては「就学前教育・保育の学びの拠点（センター機能）」としての役割を担う園の設置についても検討していただきたいと考えます。 5. 保育園との一体的な検討について 再編方針において、「別途、市立保育園のあり方を検討する必要がある」と記載されていますが、就学前施設として一体的に検討すべきではないでしょうか。段階的に分けるのではなく、認定こども園への移行を含めた包括的な再編についてよりスピード感を持った総合的な議論が必要であると考えます。特に隣接する園同士においては、幼保連携型認定こども園への移行を進めることで、多様化する保護者ニーズへの対応や待機児童対策にも寄与できると考えます。 6. 専門性の相互尊重について これまでの経緯から幼稚園教諭は特に教育の分野、保育士は養護と発達支援の分野においてそれぞれが高い専門性を有していることを前提に、互いの知見を借しめ共創し、幼保共通カリキュラムを刷新しながら学び合い、質の高い教育・保育の実現につながることを強く願います。 	<p>給食</p> <p>1つ目について、給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。</p>	
204			<p>通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。</p>	通園支援
205			<p>3つ目について、地域との繋がりが円滑におさまると、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。</p>	地域との関わり
206			<p>4つ目について、ご意見として承ります。</p>	地域との関わり 子育て支援全般 その他
207			<p>5つ目の認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。</p>	認定こども園
208			<p>6つ目について、ご意見として承ります。</p>	その他

ページ	家談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
209		7. 質の高い幼児教育を支える研修について これまで「質の高い幼児教育」が実現されてきた背景には、市立幼稚園教諭が教育公務員特例法に基づく研修を通じて専門性を高めてきたことが大きいと考えます。今後は、就学前教育・保育に携わる職員の教育・養育に固わる研修体制のさらなる充実と学びの機会の確保が重要になると考えます。これからの就学前教育・保育の充実に向けて期待しています。	7月目について、29ページに記載のとおり、教師の資質・能力の向上を図ることを求めています。 その他		
210	47	教育環境	上田上幼稚園の先生の園庭は市内の他園ではみられない環境で、裸足で外遊びをすることで子どもたちの身体的な成長につながっている。また菜の花畑、たけのこ畑、大戸川あそび、新内川あそび、里山あそび等、他学区にはないこの地域ならではの特色を活かした保育がなされており、豊かな自然に囲まれた環境と地域の方々のおかげで子どもたちと自然が深く関わって成長している。これらの体験は大変貴重で、子どもたちの創作や表現などにも存分に発揮されており、また小学校以降の子どもの育ちにも多大な影響を与えている。そして幼稚園があることで地域に活性化がみられ、また地域の方々との交流が子どもたちにとっても貴重な機会となっている。幼稚園が地域からなくなれば当然学区の小中学校にも影響が及び、地域の衰退を招くこととなる。	園の特徴については、こどもの育ちの観点から、各園の良い環境を継承できないかなどの意見が出ていることから、「第3章基本的な再編等の計画」に追記を行います。 地域との繋がりの面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した地域との関わり園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	
211	37	エリアの考え方	上田上幼稚園や青山幼稚園が田上幼稚園に統合されると、単での送迎が必須となる上に通園時間が延びることによる親子の負担が増大する。特に保育中に体調を崩した際の送迎や災害時における緊急時の対応などに困難が生じる。青山学区に至っては中学校区でもない田上幼稚園を選択する利点がなく、地域の交流も盛んでないため、学区内の1号認定の子どもの現実的な幼稚園の選択肢がなくなり、この事態は公立幼稚園として機能を果たしているとは言えない。また、現在は多くの公立幼稚園が未就園児活動を実施しているが、遠方まで未就園児を連れていくのは困難であることから未就園児親子の孤立につながる可能性がある。未就園児活動が就園に繋がっていくことを考えると、これは悪循環であるといえる。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。 通園支援	
212	33	適正規模について	1学級の園児数は4歳児で20人以上、2学級数以上が望ましいとあるが、一律の基準がないとも記述されている。1人の教師が子ども達一人一人に十分に関わり、信頼関係が築ける規模として20人は多すぎないか。上田上幼稚園での経験から、十数人の規模は先生と子どもたちとの関わりにおいて適正だと実感している。また、複級級にすることで子どもたちの関係性を変えることができ、人と関わる力が高まる点があるが、幼児期の子どもたちにとってクラス替えが必要であるという根拠が乏しい。特に新学期はクラス替えによる心的ストレスを抱える子どもたちも多いため、その経験は小学校上からでも遅くはないか。逆に半級であるメリットとして、複級年かけて子どもたちがクラスメイトとより深い関係性を築くことができるという点が挙げられる。また、同級生とのかわりが大切なのは言うまでもないが、縦割りの関係性も大変重要である。各学年が半級であることで、5歳児は下の子どもたちの面倒をみてあげる、3歳児は上の子どもたちの行動に導くなど、身近な異年齢の子どもたちと互いに与える影響は計り知れないものがある。このような関わり合いは少人数の園だからこそ実現可能だと実感している。	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を「1学級の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は学年級以上」としたこれまでの大津市における検討結果を採用したものであります。 適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらい規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものであり、同案のとおりとします。 また、異年齢との交流による教育的効果はご意見のとおりですが、29ページに記載のとおり、「同年齢の集団」と「異年齢の集団」とでは得られるものが異なる点が考慮した教育を展開することを求めています。	適正規模
213	30	特別な配慮を必要とする子への指導	再編により公立幼稚園数が大幅に減ること、特別な配慮を必要とする子どもの受け皿が減少することを懸念する。新廃合の動きは、「一人一人の発達の特徴に応じた幼稚園教育」や「個々の子どもたちの実態に応じ、指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うもの」という大津市の教育理念とは乖離した政策であるといえる。実際に上田上幼稚園の約半数が学区外の園児であり、精田・瀬田東学区などの保育施設が飽和状態にある近隣地域から選択制制度を利用して通っている現状がある。その大半がこの少人数保育や自然環境に魅力を感じ、この園でしかできない保育を求めている。	特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しつかり検討する必要があると考えます。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるとあるという意見も出されています。 なお、学校選択制で通園されていることは把握しておりますが、他学区の市立幼稚園も定員に満たない園児数であることから、保育施設が飽和状態にあることとの関係性はなど考えさせていただきます。	特別な配慮
214	23	幼稚園の就労している家庭に対する支援拡大	就労世帯への預かり保育時間の延長制度はまだ開始して間もなく、効果検証がこれから行われる事項である。また、周知も不十分であるため、「働いていても幼稚園」の概念が浸透しているとはいえない。待機児童解消に向けて、4か月検診や10か月検診などで未満児の保護者にも働いていても幼稚園という選択肢があることを市からもっとアピールすることで幼稚園を選択する家庭が増えるのではないかと。	23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見があります。 一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っていることとあり、原案のとおりとします。 これまで実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。 なお、待機児童については、95%以上は0～2歳児となっており、幼稚園に通われている3歳児以上の待機児童は、ほとんど発生しておりません。	預かり保育の拡大

連番	乗談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類	
	頁	詳細箇所				
215			<p>現在長男が遠坂幼稚園に在園しています。長女も遠坂幼稚園出身です。遠坂幼稚園は園児数は少ないですが、3学年合同保育をしていて、他の学年のお友だちからも沢山刺激を受けながら園生活を送っています。</p> <p>地域の方との交流もあり、広い園庭や畑で野菜を育てたり、裏山（ひみつの森）園では町人（でいず）へたけのこ取りへ出かけたり、自然とふれあっていたりしてのびのびと子どもたちが遊んでいます。</p> <p>小学校と隣接しているので、小学生との交流や、昨年は校長先生が書き初めを教えに来ていただいたり、自然の現象で疑問に思ったことを理科の先生に質問するお手紙を書くと幼稚園に来てくださって解説してもらえたりしている。小学校との連携も出ています。小学校の参観後も登園後すぐに行けるので、とても助かっています。園児数が少なくても、近隣の園とよく交流会をして一緒に遊んだりもしています。私は普段の園生活では少人数の良さをすごく感じていて、先生方が一人一人に丁寧に関わってくれて、とても安心して子どもを預けられています。</p> <p>用事がある時などは預かり保育も利用させていただいて、親もフレキシブルな時間を頂けてとても助かっています。統合する事で園児数が増えたら、先生に関わってもらえる時間も減らさずだし、今まで気楽に利用できていた預かり保育が定員オーバーなどで利用したい時に利用できなくなるかもしれないと思うと、そういう面でも不安です。</p>	<p>34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を肯定するものではありません。</p> <p>一方で、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨・適正規模・適正規模」</p>		
216			<p>送り迎えの面でも、未就園児を連れてくるので天候が悪い時は車で行くことも多く、駐車場があるのでとても助かっています。統合したら、通園/バスのお話もありませんが、ニューズでバス内に取り残される事故などを見聞きして心配です。幼稚園の送り迎えは大変な事もありますが、個人的に自分で送り迎えする方が安心感もあります。保護者同士の会話も送り迎えの時に出来て、個人的には好きな時間でもあります。それから、遠坂幼稚園は未就園児活動も毎日行っていて、よく次男と一緒に利用しています。降園後に園庭開放もあります。駅周辺は小さい子どもが安全に遊ぶ公園がありませんので、広い園庭や室内でも自由にのびのびと遊ばせる事ができ、とてもありがたいです。長女もたまに迎えに連れてくるのですが、大好きだった幼稚園で先生たちと会えて、心のエネルギーを充電できています。</p> <p>次男も遠坂幼稚園に通えたら嬉しいなと思うので、園が存続する事を願います。</p> <p>保護者です。</p> <p>2026年度現在、4歳児男児が遠坂幼稚園に在園しており、かつ、2030年度に双子の男児、女児が入園する予定です。我が子が通っている大好きな園が無くなることに強く反対します。以下の3点が理由です。（順不同。）</p> <p>①交通の利便性</p> <p>通わせている理由の一つに、利便性があります。車送迎を前提とした距離の近い園になると、平野幼稚園のように駐車場もないところに通わせることは不可能です。下の子どもたちについて、利便性を鑑みると、保育園も選択肢に入れなければならなりません。しかし主人の仕事が自営業かつ私が専業主婦ですが三児の子育てがあり、働きに出るべく、長期にわたって待機児童にならざるを得ません。（現在、専業主婦ですが三児の子育てがあり、働きに出ることは難しいです。）</p> <p>②地域教育</p> <p>自分たちが住んでいる遠坂の地域ならではの良さがあって通わせています。幼稚園も、地域の子どもとして育っていくことを願って教育して下さっています。我が子は遠坂幼稚園が大好きです。父親である主人も遠坂幼稚園出身です。同じクラス保護者の方も同郷の方が多く、みんな生まれ育った地域を愛しています。長期の居住やリターンも多し、魅力ある遠坂の地域。そこで育ってきた人たちが、さらに親になり、その子どもたちがさらに未来を拓いていく…。そんな誇りある地域教育を、目先の予算を理由に断念する理由は見当りません。今まで、たくさんの人たちがこの地域で、大切に育んできたものは、何に代わるのでしょうか。</p> <p>③遠坂幼稚園の良さ</p> <p>自然が豊かで、園庭が広い遠坂幼稚園の環境は、恵まれています。裏山が近く、我が子は、探検やたけのこ掘りを楽しんでます。日当たりの良い、広い園庭で、泥だらけになりながらお友だちと思いっきり身体を動かしながら遊んで楽しんでます。市郡合で統合して、子どもたちを無罪失礼、一箇所に押し込めたい気持ちはありません。園児の全員にとって、のびのびと過ごせる安心感や学習の機会が失われてしまっています。長くなってしまいましたが、当該地域の子どもや保護者の、公教育への信頼を著しく損ねるような統合は、強く反対します。また、日々、子どもたちに向き合い全力で頑張ってきた現場の先生方に、今以上の負担がいくつものないよう願います。</p>	<p>通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の事情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。</p>	通園支援	
217			<p>通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の事情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。</p>	<p>通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の事情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。</p>	通園支援	
218			<p>2点目について、地域との繋がりと関係という面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでにも再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。また、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関わりを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものであり、予算削減を目的としたものではありません。</p>	<p>2点目について、地域との繋がりと関係という面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでにも再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。また、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関わりを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものであり、予算削減を目的としたものではありません。</p>	地域との関わり 予算削減・効率化	
219				<p>3点目について、検討委員会では、このも育ちの観点から、各園の良い環境を継承できず、ないかなどの意見が出ていることから、「第3章基本的な再編等の計画」に追記を行い、追記を行います。</p>	<p>3点目について、検討委員会では、このも育ちの観点から、各園の良い環境を継承できず、ないかなどの意見が出ていることから、「第3章基本的な再編等の計画」に追記を行い、追記を行います。</p>	園の特徴

連番	案該当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
220	5	母親の就労状況	去からむかのように母親の就労ニーズは高まっている。働く親にとって1番ネックとなっているのは、お弁当である。家の近くに幼稚園があっても、給食がないという点で選択肢から除外されてしまうことが多い。週1の宅配給食は試みではスピード感がなく、他市・他府県と比べて見劣りする。給食にすることで、預かり保育を利用しずれば働くことができる母親は多くいると考える。	保育園等への申込数は、0～2歳児で約76%を占め、3歳児での申込は約17%（新規申込に限定すると、約10%）に留まっていることから、就労要件のある保護者は子どもが0～2歳児の時に保育園等に入園希望される傾向にあることを追記します。また、給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。	給食
221	11	図1.1 ニーズ調査、アンケート調査結果	第3位に給食があるという結果が出て、年々ニーズが増していることが図からわかる。それなのに、なぜか注目して検討を進めないのか。給食がないことにより、幼稚園より速く保育園に通っているケースもある。幼稚園で給食化することで、そういった世帯を幼稚園へ誘致することが可能であると考え。	保育園等への申込数は、0～2歳児で約76%を占め、3歳児での申込は約17%（新規申込に限定すると、約10%）に留まっていることから、就労要件のある保護者は子どもが0～2歳児の時に保育園等に入園希望される傾向にあることを追記します。また、給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。	給食
222	23	(8) 市立幼稚園における就労している保護者に対する支援拡大の取組について	令和7年度から、8時30分から9時00分、保育終了後から17時30分まで利用できるよう、預かり保育の時間が延長されたことは一定評価できる。しかし、時間を延長してもお弁当がネックになっていることには、変わりはない。他市・他府県では毎日宅配給食、自園調理していない園もある。再編をするよりも先に、給食化を実現し、働く世帯を幼稚園にきてもらうように促すこのほうが重要と考え、「働いていても幼稚園！」のメッセージのすのすのであれば、給食が必須である。これが実現できると、待機児童の問題も解消につながると思料する。	保育園等への申込数は、0～2歳児で約76%を占め、3歳児での申込は約17%（新規申込に限定すると、約10%）に留まっていることから、就労要件のある保護者は子どもが0～2歳児の時に保育園等に入園希望される傾向にあることを追記します。また、給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。なお、待機児童については、95%以上は0～2歳児となっており、幼稚園に通われている3歳児以上の待機児童は、ほとんど発生しておりません。ご意見として承ります。	給食 待機児童
223	30	特別な配慮を必要とする子ども達への指導	市の勤めで上田上幼稚園へ通うことになった方もいる。特別な配慮が必要となり子供が増える中、自然の中でのびのびと生活できる、上田上幼稚園を統合することは理解に苦しむ。	特別な配慮を必要とする子どもにも関しては、検討委員会でも、しっかり検討する必要があると考えます。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。	特別な配慮
224	36	(3) 再編基準に即した検討の進め方について	「再編等を進める際には、時代に応じた市立幼稚園のあり方の検討が常に求められることであるが、働いている親としては、時代に応じた市立幼稚園のあり方が考えられていないと思う。本当に再編が1番の得策でしょうか。もっと幼稚園に来てもらえるように、まずはお弁当当が給食に変えてみて、効果を検証するべきではないでしょうか。	保育園等への申込数は、0～2歳児で約76%を占め、3歳児での申込は約17%（新規申込に限定すると、約10%）に留まっていることから、就労要件のある保護者は子どもが0～2歳児の時に保育園等に入園希望される傾向にあることを追記します。また、給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。	給食
225	53	(3) 検討経過と概要について ケ田上中学校区・青山中学校区	上田上幼稚園に統合されることは反対である。田上・上田上・青山を1つにするのであれば、地理的には中間の上田上に統合するべきではないだろうか。青山から田上は通ずるため、単津の私立幼稚園に流れしてしまうことも懸念される。働いている親としては、通園時間を短縮するため、近くの園を選んで通っているのに統合されて遠くになった意味がない。上田上は小学校と隣接しており、近隣駐車場を借用して、車で送迎が可能である。現在も、田上・青山学区から上田上を選択して、通園されている方が多く、上田上幼稚園の特色にニーズがあることがわかる。園庭は芝生であり、地域民の協力で成り立っている。自然の中で遊ぶことができる。例えば、大戸川遊び、菊祭り、菜の花植え、里山体験、他に、これが実現できる幼稚園はあるだろうか。【めざす子ども像】わくわくのびのびいきいき健康やかたくましい子ども心豊かに人と関わる子ども夢中になって遊び、よく考える子どもにびびりの幼稚園だと実感している。この地域密着型の上田上幼稚園が田上幼稚園に統合されると、地域のかかわりはほとんどなくなってしまうようになると思料する。なぜ田上幼稚園に統合されるのか、田上幼稚園が選ばれた理由を詳細に知りたい。	検討委員会においては、地理的に中心に位置する上田上幼稚園を再優先とする案も議論されましたが、園舎や園庭の規模や特徴、幼稚園の敷地内の駐車場の有無などを考慮して田上幼稚園に再編する要となったものであり、原案のとおりとします。なお、地域との繋がりがこの面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	検討経過 園の特徴 地域との関わり
226	54	4 全体スケジュールについて	幼稚園に入園した初日に再編のお手紙をもらい、上田上幼稚園に通わせたいと思入園させた親としては、複雑な心境である。入園初日から不安な思いが募っている。今後5年以内に統合、子供が在園中に統合されたら、環境が変わりまた一からになる。子供にとって環境の変化がどれほど大きいかが理解しているのか、同じいスケジュールが拙著まで、在園時の親としては混乱するし、幼稚園を選択したことを後悔する人も思う。少子高齢化で子供の人数が減っていることは理解しているが、市として少子高齢化を食い止めるため、子供を産んで育てやすい、子供を預けて働けやすい環境を整えるべきではないか。	なるべく早く情報を提供できるようにするため、市全体について検討を行っているものでもあり、個々の園のスケジュールについては、54ページには、当事者である保護者への説明会などの機会を通じて、丁寧に進めていくことを求めています。	進め方
227	54	4 全体スケジュールについて	何度も申し上げるが、今の子育て世代のニーズをくみ取り、「働いていても幼稚園！」を実現するため、再編よりも給食化を強く要望する。これが実現できれば、パートや短時間の親は、幼稚園に預けることのハードルがかなり低くなる。大津私立幼稚園の再編等については、反対であり再検討を要望する。	給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。	給食
228		第1章はじめに2行目	良好な環境の整備とあるが、石山幼稚園への統合で園庭が狭い場所を集中させるとの点が良い環境なのか	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を習得し教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであることから、原案のとおりとします。	適正規模

連番	案談当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
229		第1章1はじめに194行目	園児数の減少を記載しているが、園児数の増の見込みは考慮しているのか？ 石山駅前のBIWARYHILLSプロジェクト完成後の流入による園児数の増加は考慮されているのか？	44ページに記載のとおり園児数の推計となっております。 なお、人口推計については、マンション建設の予定も勘案した上で、小学校区ごとに実施しており、市立幼稚園の園児数の推計も、該当の小学校区ごとに算出しているため、「将来的な児童数増加の可能性」については考慮されているものと考えております。	人口推計・園児数推計
230		第1章2本市の現状124行目	マンション開発のこともふれられているが、幼稚園の併設であげているのは、聖田や日吉中学であり石山幼稚園への統合に関しては関係性が薄い（BIWARYHILLSプロジェクトを考慮すべき）	44ページに記載のとおり園児数の推計となっております。 なお、人口推計については、マンション建設の予定も勘案した上で、小学校区ごとに実施しており、市立幼稚園の園児数の推計も、該当の小学校区ごとに算出しているため、「将来的な児童数増加の可能性」については考慮されているものと考えております。	人口推計・園児数推計
231		第1章2本市の現状(4)表5	●石山・南郷・大石を仮に統合した場合約100人の園児数が想定される。その場合他学年との密な交流はなくなるのでは？ ●人数に見合う教員数の確保ができるのか？ ●人数増に伴い園児同士のトラブルやケガなどが起こりやすくなるのでは？ ●多様性で様々な園児が通った場合教育の質は担保されるのか？	1点目について、検討委員会において、同年齢で集団規模を確保できることが望ましくされています。 2点目について、当然適切な人員配置が必要であり、市担当所属とも共有します。 3点目について、子ども同士の関わりの中で発生することはあり得ると思います。 4点目について、多様な個性が集まることで、遊びの幅が広がることが望ましく考えております。	道正規模 その他
232		第1章3これまでの取組(2)【めざす子ども像】	【わくわくのびのびいきいき】とあるが集約された園児数を考えた園庭の広さはあるかなど各園の視察はおこなったのか？	検討委員会として視察は行っていませんが、現場を回っている委員も参画して検討を行っています。	検討経過
233		第1章(6)にこれまでにも再編を実施した園とその学区の状況について	1つでも市立幼稚園を減らしその跡地に民間こども園の開設を目指そうとしているだけではないか？	33ページの道正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られるような、子ども同士の関わりを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましい」と考え検討を行ったものであり、民間こども園の開設を目指す検討は行っていません。	検討の目的 予算削減・効率化
234		第1章(6)にこれまでにも再編を実施した園とその学区の状況について	市立幼稚園の魅力を市と各園とが連携して入園希望者を募るべきではないのか？	33ページに記載のとおり、各幼稚園の現場を中心に、魅力向上に向けた取組を行う必要があることを求めています。	その他
235	32	第2章3基本的な方針について3地域の実績に応じた通園支援の方法を検討していく	自転車による通園であっても交通量の多い場所に園を集約して安全性の確保はうなるのか？ 自転車置き場の数の確保だけでは事故を未然に防ぐことはできないと考え、現時点で自転車に対する法整備が変わる中、園内の整備だけでなく近隣の通園路となるところまで市として安全を保障できる整備改修を責任をもっておこなってもらえるのか疑問である。通園方法の見直しだけでは納得がいかない。またバスの通園と仮になってもバス代はどのくらい？ 家庭の負担が増えるだけでは物価高が今後も見込まれる中負担をさせる＝ことにも何か我慢させる必要があるとは考えられないか？ 園での教育が教育の質で全てではないと考え、家庭での教育もあってこそではないか？	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合は想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
236	32	第2章(2)再編基準ア～ウ	3年連続で18人を下回った場合について、石山幼稚園への第1段階で全て統合ではなく、大石幼稚園を南郷幼稚園に第1段階で統合する形で進められないのか？ その間に石山幼稚園の近隣土地からの園庭拡大敷地の確保や駐車場・駐輪場・施設老朽の改修・近隣道路の安全確保のための整備などを行えないのか？ また第2段階に向けて第1段階時点での園児数の増減を考慮し存続も含めた統廃合の期間を再検討していないのか？	再編の方向性については、ご意見として承ります。 一方で、今回の検討は、15人を上回る規模にすることを目的としているのではなく、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育を実現できるようにすることを目的としています。 併せて、近年、規模の縮小が急速に進んでいる現状を鑑み、ある程度の規模の確保が必要という意見があったことから、原案のとおりとします。 なお、36ページには中間見直しについても記載しております。	検討経過
237		第3章表12石山/南郷幼稚園/大石幼稚園	R8～R12の南郷幼稚園・大石幼稚園の園児数を合算した人数とほぼ同数となるため園庭の広さや築年数などを考慮すれば大石幼稚園を南郷幼稚園へ第1位段階で統合する案は出ないのか？ 中学校区が南郷幼稚園と大石幼稚園が一緒であることを上記理由である。	再編の方向性については、ご意見として承ります。 一方で、今回の検討は、15人を上回る規模にすることを目的としているのではなく、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育を実現できるようにすることを目的としています。 併せて、近年、規模の縮小が急速に進んでいる現状を鑑み、ある程度の規模の確保が必要という意見があったことから、原案のとおりとします。	検討経過

連番	家談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
238			<p>今回の大津市立幼稚園の再編等の案を見直し、元大津市立幼稚園の園長として、そして大津幼稚園に勤務していたものとして、意見を書かせていただきます。</p> <p>大津幼稚園を平野幼稚園へ編成する方向は、いかがなものかと考えます。</p> <p>大津幼稚園は、ご存知の通り大津市立幼稚園では初めての幼稚園で138年の歴史と伝統があります。地域の方も大津幼稚園を守り、誇りに思っておられることは、その地域で勤務していたので、身に染みるほど感じています。今まで行ってきた幼稚園教育の質をそのままいかしつつ、大津幼稚園は認定こども園へ転換していく方向を望みます。こども園になることで、給食、時間の延長、何よりも対象年齢の拡大が可能になります。</p> <p>近年中央学区はマンションも増え、小さい子どもをもった保護者が増えています。こども園になることで、今までの就業率が期待されると感じています。</p> <p>一人の意見として、受け入れていただければ幸いです。</p> <p>今後ともよろしくお願ひ申し上げます。</p>	認定こども園	認定こども園
239			<p>少子化の進行、共働き世帯の増加などによる保育ニーズの高まりで、大津市立幼稚園園児数は毎年減少を続けていますが、大津市は【大津市幼児教育・保育の基本理念】の下、小学校の接続期までも見通した、等しく質の高い教育・保育を一体的に提供されてきたことに敬意を表します。</p> <p>とくに市立幼稚園では1園あたり約10人の特別な配慮を必要とする子どもを受け入れておられ、これは民間園の2倍以上で公立幼稚園が果たすべき大きな役割でした。その成果として、小学校へ入学後に様々な不適応を起こす子どもたちに対して幼稚園、小学校がうまく連携して適切な対応が行なわれてきたと思います。これは1小学校区1幼稚園が近接している環境を生かし、子ども同士の直接的な交流活動や、教師同士の意見交換が平日頃からできていたからではないでしょうか。締合せが進むことで小学校と幼稚園の連携が後進しないよう、きめ細やかな仕組みづくりの追求求めます。</p> <p>また、幼稚園と小学校は地域に開かれた教育活動の展開や、交流行事、園外保育等の機会を通して地域の子どもで支えや地域の活性化やまちづくりにも貢献してきました。幼稚園統廃合は教育行政の枠を越えて広範囲に影響を与えたいと思います。その辺りを十分に評価し単に数字合わせではなく、地域の特性や利用する保護者、そこに暮らす住人の影響を十分に考慮し、総合的に判断していただきたいと思っています。</p>	<p>ご意見として承ります。</p> <p>特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討する必要があるかと考えます。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。</p> <p>小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではないことから、市立幼稚園が中心となって取り組んでいる架け橋プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子どもも通いやすい高い教育・保育が提供できるような努めが必要であると求めています。</p>	特別な配慮 幼小連携
240			<p>本題と少しずれながらも知れませんが、関連して申し上げます。</p> <p>現在、大津市は保育所待機児童数が全国ワーストと聞きます。様々な要因が重なっていることと思います。大津市は保育士確保を始め、新規園の設置など対策を急がれておられますが、個人的には今の一つの貴方の中でいつまでも続くとは思いません。</p> <p>市立幼稚園においては預かり保育が年々増加され、入園後に就労を始める利用者等の需要に対応されてきました。保育所利用には保護者の就労要件が必要ですが、地域の保育需要を考慮し、要件に満たない利用者希望者（待機児童）の受け皿として市立保育園との統合により認定こども園へ移行すれば、2・3号認定の園児数を受入れることが可能です。これらは現状に即した幼稚園の姿であり、待機児童解消の一環と考えます。</p>	ご意見として承ります。	地域との関わり
241			<p>大津市には1小学校区に1公立幼稚園があり、地域で子どもを育てる拠点になる素晴らしい役割だと思っております。</p> <p>P14に給食提供のニーズが高いとあります。公立幼稚園で給食実施ができれば、延長保育の利用と合わせて働く家庭でも幼稚園を選択することができるはずです。給食があるならという声が多くあるのに、その点が重要視されていないのは残念でなりません。</p>	<p>認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。</p>	待機児童 認定こども園
242	14 37		<p>P37エリアの考え方について</p> <p>最初に述べたように大津市では小学校の近くに公立園があり交流もでき、その通園路で通学もできるのは安心です。少子化の今こそ地域全体で取り組んでいく問題だと思います。</p> <p>適正規模という点での再編は違うのではないかと感じます。</p>	ご意見として承ります。	給食
243	14 37		<p>就業している保護者に対する支援の拡充について、さらなる取り組みが必要であると考えられます。</p> <p>保護者のニーズを踏まえつつ、園の現状とのバランスを考慮しながら可能なことから段階的に対応していくことが求められる。</p> <p>(例)車送迎の実施、給食の提供など</p>	ご意見として承ります。	地域との関わり
244	14		<p>平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。</p> <p>その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。</p> <p>これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。</p> <p>また、給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>	預かり保育の拡大 給食 その他

連番	案談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
245	23	「一方で、預かり保育の拡大を実施し、これから1年を経過しております。効果検証が十分にできないことから、引き続き周知活動に努めるとともに、効果検証を行いながら、より良い制度となるように取り組んでいくことが必要と考えます。」	大津市立幼稚園の入園児数の確保に向けた取り組みについて、子どもを確保するという点における十分な意識や積極性が、現時点では保護者や地域住民に十分に伝わっていないように感じられる。預かり保育時間の延長が実施され、引き続き周知活動を行うとあるが、どのような方法で周知され、その周知方法が適切であったのか伺いたい。	23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。	預かり保育の拡大
246	25	4. 市立幼稚園が果たしてきた役割	大津市立幼稚園の強みや特色については、より積極的に発信していく必要があると考え。現状では、保護者がそれらの情報を知る機会が十分とは言えず、結果として民間施設にはない強みが十分に伝わっていない可能性がある。 →今後は、大津市立幼稚園ならではの魅力を明確にし、それを保護者に対して分かりやすく発信していく取組みが求められる。	広報についての課題は、検討委員会でも意見が出されているところです。	その他
247	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	【意見】 私は、大津幼稚園と平野幼稚園の統合案に反対致します。 ①JP44各市立幼稚園の園児数推移(表12)を見て分かるように、大津幼稚園は一時的に10人を下回る年数があるものの、R12までの推計値は10人を超え見込みとなっています。継続して10人を下回っているわけにも関わらず再編対象となることに疑問を感じます。	1点目について、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けています。ご意見にあるとおり、1度でも10人を下回る場合は第1段階として判断を行いました。明確に記載されていないため、「1度でも下回る場合」と明記します。また、令和8年度以降の推移については、51ページ以降に記載の「検討経過と観念について」の部分で検討を行っておりますので、その旨を追記します。	再編基準
248	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	②一人の教師が一人一人の子どもと十分に関わることができる規模として、今の大津幼稚園は最速規模であると感じています。大津幼稚園は、担任だけでなく全ての教職員が園児を見守ってくれています。実際、担任以外の先生から子供の様子を教えてもらうことも多くあり、子供ひとりひとり園全体でしっかり見てあげていることも安心しています。再編を行う園の規模が大きくなることで、子供たち一人一人へのケアが十分に行き届かなくなるのではないかと懸念します。	2点目について、今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を「1学級の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上」としたこれまでの大津市における検討結果を適用したものです。 適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらいの規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものです。	適正規模
249	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	③大津幼稚園では、近隣の平野幼稚園や遠坂幼稚園、レイモンド幼稚園と定期的な交流を行うことで、普段とは違うお友達と関わらなから様々な経験が得られるような取り組みも行われています。 このことを踏まえてみても、園児数が少ないからといって子どもにとって望ましい教育や保育環境を得られないということにはならないと思っています。	3点目について、市立幼稚園では、「幼児期の生活にあふれる環境」の観点から、適正な集団規模や教育の質を確保し、小規模な環境では得られない経験などが得られることや、普段の集団とは別の集団と接する機会を確保することを目的として交流保育を実施しております。 検討委員会には、交流保育の成果と課題等として、出会いの機会をもつことが目的の中心とならず、日常的な交流ではないことから、多様な個性に触れながらの自分づくりや、集団として互いに育ち合うことを求めるためには、更なる工夫が必要であるという資料が提供されております。 この内容について、「これまでの取組」として追記を行います。	園の特徴
250	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	④通園距離が延びることによる子どもと保護者への負担増加が懸念しています。幼稚園は毎日通園場所です。災害時の迅速なお迎えや雨天時を考慮しても、安全な通園を行うために幼稚園が徒歩圏内に位置していることはとても重要だと考えます。園バスに関しては、近年様々な事故が起きてきていることもあり利用することに不安もあります。	4点目の通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
251	250の続き	250の続き	⑤一時預かり事業の拡大に伴い、働いている家庭でも幼稚園を利用しやすくなるかと考えています。近隣のマンション間でも活用化している中で、今後園児が増えたいことも想定できます。待機児童も多量の中で、いま園をなくすことが最悪とは思えません。 大津幼稚園では、未就園児の親子通園事業も行われています。近隣に住む親子の遊び場でもあり、中央学区で子育てをしている保護者さんたちがフレッシュジュリ、気軽に子育てを相談できる場所でもあります。私自身もそうですが、核家族の増加、移住等の理由で孤独に子育てをしている親もたくさんいます。そんな中で、このような場所が学区内に存在していることはとても大切であると思っています。	5点目について、44ページに記載のとおり園児数の推計となっております。 なお、人口推計については、マンション建設の予定も勘案した上で、小学校区ごとに実施している。市立幼稚園の園児数の推計も、該当の小学校区ごとに算出しているため、「将来的な児童数増加の可能性」については考慮されているものと考えております。 また、待機児童については、95%以上180～2歳児となっており、幼稚園に通われている3歳児以上の待機児童は、ほとんど発生していません。	人口推計・園児数推計 待機児童

家談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁			
252	52	251の続き ⑥大津幼稚園は小学校と同じ敷地内にあることから「合同通園訓練」や「5.5交流」など日常的に幼小の交流が行われています。幼稚園時代から小学校の雰囲気を感じたり、小学生たちと出会い、交流をすることで安心して進学することができます。現在小学生の娘は、5.5交流で一緒に遊んでくれたお兄さんお姉さんが次の年6年生になって小学校で待っていてくれたおかげで、不安を感じることなく小学校へ進むことが出来ました。このことから、小学校の学区内に幼稚園が存在することは子どもたちにとって、とても大切であると感じると同時に小学校区を無視して中学校区で統合を行うことに疑問を感じます。 【要望】 以上の点から再編案に反対しますが、今後園児数減少の進行により再編が避けられなくなる可能性があることも理解できます。 その場合、以下二点の配慮を求めます。 1.学区外での統合ではなく、学区内でこの園化の検討 2.統廃合を行う場合、園バスの導入や定期の負担などもしっかりと検討した上で統廃合を決定する。	6点目について、集団規模の確保を目的としており、小学校区のみでは検討が出来ませ ん。 また、小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではおおいことから、市立幼稚園 が中心となって取り組んでいる架け橋プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子 ども達に質の高い教育・保育が提供できるような努めが必要があると求めています。	幼小連携
253	52	252の続き 1.学区外での統合ではなく、学区内でこの園化の検討	展望に記載の1点目の認定ことも園化については、貴重なご意見として承ります。	認定ことも園
254	52	253の続き 2.統廃合を行う場合、園バスの導入や定期の負担などもしっかりと検討した上で統廃合を決定する。	展望に記載の2点目の通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合 が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を 検討することを求めています。	通園支援
255	52	254の続き 【おわりに】 大津幼稚園は大津市初の幼稚園であり、長い歴史のある大切な場所です。 大津幼稚園に通う園児たちは「曳山歴史館」に行ったり、大津祭の際に「曳山乗山体験」をさせてもらったり、地 域の方々から多くの歴史と伝統を学びます。 大津で育つ子どもたちが、自分の住んでいる町を知り、歴史と伝統を受け継ぎ後世に繋げていくためにも、この園 を大切に残していってほしいと思います。	ご意見として承ります。	地域との関わり

案当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
番号	頁			
		詳細箇所		
256	23	保護者に対する支援拡大	給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承りま 給食	
257	27	2 幼稚園教育の効力	54ページには、当事者である保護者への説明会などの機会を通じて、丁寧に進めてい 進め方 ご意見を求めています。	
258	32	3 通園方法の支援	54ページには、当事者である保護者への説明会などの機会を通じて、丁寧に進めてい 通園支援 ご意見を求めています。	
259	32	4 より良い教育・保育環境	ご意見として承り、担当所課に共有させていただきます。	その他
260	37	5 方向性検討	36ページに記載のとおり、再編等を進める際には、時代に合った市立幼稚園のあり方の 進め方 検討が常に求められることから、就学前施設を取り巻く社会情勢等の変化を十分に考慮 して検討を行うよう求めています。	
261	39	検討フローについて	認定ことも園 認定ことも園化については、貴重なご意見として承ります。	
262	42	(3) 地域性等の考慮	施設の情報等については、48ページに記載のとおりです。	検討経過
263	42	(3) 地域性等の考慮	保育所についても、給食費は実費負担をいたしております。	給食
264			33ページに記載のとおり、各幼稚園の現場を中心に、能力向上に向けた取組を行う必要 があることを求めています。 市外の施設に関するこ な、通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されること から、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求 めています。	通園支援 その他

連番	案談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
265			中央学区民として意見を述べさせていただきます。 子どもがまだ3才のころ、幼児園教育の後援会に参加し、中央学区に住んでいることを話したら、当時高部の大 学の先生があの有名な由緒ある中央小学校、大津幼稚園の近くにお住まいなんですねと云われ、歴史ある 地域で全国的に有名な学校なんだと知らされました。ところが、年々子どもの数が減りマンションが建ちだして人口 が増えかけたかと思ったら、京都の幼稚園のお迎え車が続々、マンションの入口で止まり、次々子どもを乗せてい く姿が、市立幼稚園の人数は減っていくのは当然です。京都の幼稚園を遊ぶメットは①送り迎えしてくれる②給 食がある③園独自の特色があるプログラム④保育時間が長い、が受けられると思います。 大津幼稚園が平野と合併されるとありますが、少人数のメットを有効に活用してほしいです。大人数より少 数が預かってほしい家庭のためや縦割り方式で保育活動をすすめるなど、今の現状で生き残る方法を園で考え ていただき、大津幼稚園を残してほしいです。市立幼稚園が統一したやり方でなく、園独自のカリキュラムを考 え、市民に公開していけば、市立幼稚園を選ばれるのではないのでしょうか。 この住所の住民はこの幼稚園という決め方でなく、仕事場に近い幼稚園が選べたり、このカリキュラムが気に入っ たから少々遠くてもこの幼稚園という選択の幅を広げてもらえたらと思います。認定こども園にするという意見もあ るようです。 以上とりとめのない意見を繰り返して申し訳ありません。一つの意見として読んでいただけたら幸いです。	市立幼稚園が現状する幼稚園教育としては、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」で あり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現 できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであります。	適正規模 認定こども園
266			適正規模は「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり様々な感情体験の機会が得られることに加え、遊 びの量小単位が憲法構成できることが望ましい」とされていますが、「多くの」や「切磋琢磨」が特につかかりが 特に3歳児にとってそれほど重要とは思えないからです。	検討委員会で、3歳児であつても仲の良いお友達としての集団ができてくると意見が出てい ます。加えて、3歳児から4歳児、4歳児から5歳児にかけてはあまり園児数が増えない現 状も報告されたことから、3歳児から一定の集団規模の確保が必要となったものです。	適正規模
267			園児数の推移により再現は必要かもしれませんが、地域の園に誘うことが、園児だけでなく保護者にとつても大切 なことだと思います。働く人が多いので一概には言えませんが、親子で手をつないで地域の人とよめあいながらの 通園は貴重な時間です。 徒歩では通えない幼稚園へは、現実的どのような手段で通園するのでしょうか。車のない方、バスに乗ることが 嫌な子ども、経費問題など、問題は山積みです。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、 32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
268	35	再編基準に附った検討の進め方につ いて	大津市立の幼稚園に2人の子どもが計6年間通っておりまして。 原子は発達遅延疑いで特別支援対象児として通っておりまして。 入園前より自分の思いを言葉で表現できず、感情のコントロールも難しく、通園中の3年間、幼稚園の先生方による「 状況が分からなくなるなど、息子にとっての生きづらさ」がありました。幼稚園の先生方による「 声な対応にて、息子は楽しく成長していきました。幼稚園終了時には「生きづらさ」は格段と減り、現在は特別 支援対象から外れ、楽しく小学校へ通っております。就学前教育、幼児教育の大切さを感じている子ども達のため、子ど も達一人ひとりをしっかりと見守るためにも、幼稚園は必要だと思います。	特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会で、しっかり検討する必要があ ると考えます。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要が あるという意見も出されています。	特別な配慮
269	35	再編基準に附った検討の進め方につ いて	今回の発案の根本的な原因は大津市の待機児童の多さ、保育士の人員不足だと思いますが、そもそもどうして 保育士は不足しているのでしょうか？不足しているから幼稚園から補うのではなく、保育士が大津市で働きた いと思うような保育園の改革は果たして大津市で行っているのでしょうか？幼稚園も就労などの要件を満た せば8：30～17：30まで入れること大津市として(保育園に入れないか？幼稚園も就労などの要件を満た す)アビリティが低い保育士が少なくなるとは、大津市で働きたい保育士の方が増えるなど (駐車場の確保や給食、こども園への考慮など)に対応して、改善してからはいけないでしょうか？結構な数の幼 稚園が統合される計画が今後の大津市の幼児教育にして、とても不安に感じます。	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子 ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね 検討したものであり、待機児童対策や保育士不足を起因としたものではありません。 なお、23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周 知が不足しているという意見があります。 一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預か り保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているこ とであり、原案のとおりとします。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行いま す。	待機児童 預かり保育の拡大
270	35	再編基準に附った検討の進め方につ いて	今回の発案の根本的な原因は大津市の待機児童の多さ、保育士の人員不足だと思いますが、そもそもどうして 保育士は不足しているのでしょうか？不足しているから幼稚園から補うのではなく、保育士が大津市で働きた いと思うような保育園の改革は果たして大津市で行っているのでしょうか？	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子 ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね 検討したものであり、待機児童対策や保育士不足を起因としたものではありません。	待機児童

案談当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁			
271	35	<p>再編基準に附った検討の進め方について</p> <p>幼稚園も就労などの要件を満たせば8:30～17:30まで入れること大津市として(保育園)に入れなかった方に入所担当の方が伝えるなどアピールしてありますが幼稚園入園希望者が少ないからすぐに統合するのはなく、入園希望者が少ない理由(駐車場確保や給食、こども園への考慮など)に對成して、改善してからではないでしようか?結構な数の幼稚園が統合される計画が今後の大津市の幼児教育にして、とても不安に感じます。</p>	<p>23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見があります。</p> <p>一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。</p> <p>その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。</p> <p>これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。</p>	預かり保育の拡大
272	25 52	<p>全線 再編基準 大津市政の問題点</p> <p>再編の考え方の根本問題 大津幼稚園は地域住民にとって「心のふるさと、地域のランドマーク」です。再編（＝廃園）はこれを消し去ろうとする懸念です。</p> <p>事は、幼稚園再編問題に限らず、大津市政が地域の歴史、社会、住民をどの様に見ているかを示すものです。そこには、江戸時代から続く住民自治への理解が不足しており、幼児教育については、奇子屋から続く大津町人の心意気への共感もありません。中央の子どもは、住民から常に温かいまなざしのもとで育ち、その親も地域からの支援や励みで安心して暮らすことができている。忘れていけないことは、住民も子どもの動き回る姿を見て、地域に暮らす喜びを感じ、元気をもらっているのです。これがわが大津幼稚園。これが100年以上続く中央の伝統なのです。</p> <p>したがって再編は、上記の地域の歴史文化伝統を覆す恐れのある重大な変動であるとして、慎重のうえにも慎重に検討を加えるべきです。</p> <p>ところが再編（案）をみると、「大津幼稚園」北地域の伝統、文化、地域と園との交流にふれた記述が少しあるものの、それは再編基準の前にはお飾りの位置付けです。ひたすら園児数の減少を分析予測して、幼稚園運営が成り立たなくなるとを恐れているだけです。これは「幼稚園統廃合原理主義、再編基準至上主義」に他なりません。</p> <p>大津市政は、いつの間にか地域住民の心情、町の成り立ちを見て見ぬふりをする行政に変わったのでしょうか。いつの間にか、かつての暴走市長の手法に戻ってしまったのでしょうか。まだ、引き返せます。再編（案）のマスコミへの情報リークにより、すでに風評被害が出ていますが、これからの幼児教育のあるべき姿を住民と共に構築する作業を始めれば、必ずやそれは達成できます。幼稚園数のカウントばかりを取る行政から、地域の中で幼児も大人も輝やかに暮らし、学び、育つまちを目指す行政への転換こそが今求められているのです。</p>	<p>地域との繋がりがという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。</p> <p>地域との関わり</p>	地域との関わり
273	272の続き	<p>Eピソード1 園長が近所の住民に叱られた 運動会の練習が始まるにあたり、新任の園長が近所の住民に「園児の声でご迷惑をおかけします」とあいさつを行ったところ「子どもは元気な声を出すのは当たり前。こちらは子どもの声で元気をもらっている」と叱られたとか。</p> <p>「大津幼稚園」はものすごくいいところですねとその園長は感謝したそうです。</p> <p>Eピソード2 園舎前の歩道 落ち葉のシーズンには、園舎や隣接の小学校の歩道の落ち葉を黙ってそうする住民がいます。住民はさげなく、職員は深い感謝の気持ちを抱いて。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>	地域との関わり

家談当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
ページ	詳細箇所			
274	43 手順 55 再建等の実行計画	再編の進め方に重大な欠陥ありと上記で指摘しましたが、ここでは再編の進め方について、重大な問題のあることを指摘します。 なぜ、関係者（検討委員）は地元に来ないのでしょうか、なぜ、地元民のあすかり知らないところで事が進められようとしているのでしょうか。 再編（案）は、「該当園の関係者（保護者や地域の方など）に対して、説明を行っていく必要ががあります」として、町を変えてきた住民をお客さん扱いです。 地域密着施設のある幼稚園、それも130年間にわたり、地元民が手塩にかけて守りしてきた幼稚園の存続を検討協議する際にその地元民を無視して何をしようとしているのか、真っ先に幼稚園にやってくる、住民を含む関係者が車座になって議論する、明日の幼児教育、明日の中央の町のあり方を議論する。取るべき対応を地元民と共に研究し、検討し、討論する、このことがなぜできないのか、そのことをすっ飛ばして何をしようとしているのでしょうか。これが進め方の重大な問題点、欠陥なのです。今、中央学区民は大津市政に対する憤りを開くことができます。	ご意見として承ります。	地域との関わり
275	274の続き	エピソード3 店の前が通園路の御旅所 マンションに程近いある店の前は、固く守られてきた園児と保護者の姿が見えませんが、子どもは店の中を興味深くのぞいています。保護者は明るくおしゃべりをしています。子ども好きの店主も話題の中に入っています。 エピソード4 みんな知っている 近所のスーパーに買い物に出かけた家族の話。幼稚園児と小学生の姉妹が親より先に家を出ました。あとを追いかけて朝に果物屋の店員さんが「今、○○ちゃんとお姉ちゃんが通らなくなったよ」と、親は「ああ、この子らは守られているんだな」と思ったそうです。	ご意見として承ります。	地域との関わり
276	再編等の方向性検討の結果について	旧志賀町の北部4学区では、5年後10年後には、全廃の可能性もあると示しているとは理解される。入園者が減少すれば運営上統廃合はやむを得ないことは理解するが、自毛から遠方に通園することは保護者にとっては負担である。 私事ではあるが、志賀町時代に、長男は、小野幼稚園に通園させ、家庭事情で次男は保育園に通園させた。この時は、和道保育園は待機児童が多くやむを得ず比良保育園に通園となった。送迎のため、毎日、職場とは逆方向へ送迎したが、通勤時間にプラスして毎日2時間必要であり結構な負担となった。近くには私立幼稚園もあったが、金銭的負担も多くその選択はなかった。 近くの保育園、民間の施設に通園すればよいとの考えかもしれないが、経験上統廃合により選択肢がなくなることは保護者にとって大きな負担である。 小野学区では、小野幼稚園は志賀向幼稚園へ統合されたことで、就学前児童への環境が悪化した。つまり、子育て世帯にとって、子どもの通園通学距離が自毛から近く、園地的にも健全にかつ安全な地域であることが、居住対象地域となっている。加えて行政的な支援があれば更に良い環境と言える。子育て世代が増えなければ、地域としても大津市としても、過疎化高齢化による将来のない地域になっていくのではない。	51ページに記載のとおり、第2段階での再編を行わないと示しているため、全廃の可能性は示しておりません。	検討経過
277	276の続き	このため、1幼稚園教育と保育園教育が違ってくるのか。 幼稚園は、教育中心、保育園は保育中心と理解されていると思うが、幼稚園と保育園を一緒にした運営ができないのか。住民にとって、地域から幼稚園、保育園の選択肢をなくさないための努力と、意見聴取と説明を丁寧にするべきである。	1点目について、認定ことも園化についての慎重なご意見として承ります。	認定ことも園

連番	家談当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
278		277の続き	<p>2保育園についてはどうしていくのか（待機児童問題）。</p> <p>幼稚園同様保育園についてもどうしていくのか。併せた検討が必要であり、幼稚園問題と同時に意見聴取と説明をすべきである。小野学区では、以前小学校の問題と同様の対応をされ、その時、住民から猛烈な反応があった。今回もその時と同様の対応である。地域における教育環境がなくなることは、たちまち地域の過疎化を招くこととなる重要な問題である。今回の件については、行政として住民に対する説明の積極と（報道から先に火がついた）住民に対する時間をかけた丁寧な説明の欠如であったと思われる。住民からは決定事項と捉えらるる内容である。「国民の三大義務」教育・勤労・納税と「三大権利」生存権・教育を受ける権利・参政権である民主国家の基礎となる責任と権利に関わることで認識し、慎重かつ丁寧な議論と説明が必要であったものであり、このことを踏まえて少なくとも該当学区に対しては順序を追った再度の説明が必要と考える。</p>	<p>2点目について、本検討委員会では、保育園のあり方や待機児童対策については議論し待機児童</p>	
279	19	(4) 計画の見直しと市立幼稚園のあり方の再検討	<p>再編の結果、幼稚園を残すのか、こども園として整備して行くのかははっきりしないと感じます。</p> <p>私は大阪府高槻市で公立の保育士、滋賀県草津市で公立の保育士として今は大津市で民間の保育士としております。動いていた頃は高槻市は幼稚園の子どもの人数が減ってきたことから幼稚園と保育所を一つとした施設としてこども園化するなど再編しており、働く側も不安がありました。人事異動で幼保の交流もしていました。草津市でも動いたこども園が最後まで幼稚園として残ってこども園としてスタートした年でした。公立の幼稚園はなく、そもそも幼稚園自体少なくなっていました。幼稚園、保育所、それぞれ守ってきた文化がありそれを残したいと思う市民の声ももちろんあるだろうし、反対意見もあるかと思いますが、子どもにとって一番良い方法をぜひ進めてほしいです。一番影響を受けるのは大人ではなく子どもたちです。先行している他の市町村のやり方や背景も参考に進めてほしいです。拙い意見で申し訳ありません。</p> <p>私は77年前に大津幼稚園を卒園しました。</p> <p>それ以来ずっと近くの玉屋町に住まいしております。</p> <p>玉屋町には大津寮の薄立山があり、30年前から園児には曳山に乗ってもらい、大津寮に親しんでもらうことがよくあります。</p> <p>また、地域の文化祭や敬老会等その際が最も大きなものがあります。</p> <p>周辺地域はマンションも増え幼児も増えていますが、京都からバスが迎えるにきたりしております。</p> <p>これほどいろいろな状態なので、それに指を食えていて良いのでしょうか。</p> <p>魅力いっぱいの大津幼稚園に何が不足しているのでしょうか。</p> <p>例えば給食の問題などでしょうか。時間問題などでしょうか。</p> <p>これらの解決方法はどのようなか、大津市と地域とで充分協議をする必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>取り敢えず大津幼稚園が再編（廃園）されることには絶対反対します。</p>	<p>地域との繋がりがという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。</p> <p>京都の就学前施設に変わっている現状については、大津市立幼稚園を否定するものではなく、保護者ニーズが多様化している中において、ご家庭のニーズに合った選択をされた結果であると承知しております。</p> <p>既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されております。</p> <p>その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。</p> <p>これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行いますが、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。</p>	<p>認定こども園</p> <p>地域との間わり 給食 預かり保育の拡大</p>
281			<p>幼稚園の制度自体がダブルインカムを前提としておらず、情勢に則していない事実はあると考えます。</p> <p>一方、幼稚園の形態を維持することを前提としており、ニーズに則した変更を前提としていない点も疑問である。</p> <p>幼稚園の形態自体がダブルインカムを前提としておらず、情勢に則していない事実はあると考えます。</p> <p>一方、幼稚園の形態を維持することを前提としており、ニーズに則した変更を前提としていない点も疑問である。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>	<p>認定こども園</p> <p>検討経過</p>
282			<p>幼稚園の制度自体がダブルインカムを前提としておらず、情勢に則していない事実はあると考えます。</p> <p>一方、幼稚園の形態を維持することを前提としており、ニーズに則した変更を前提としていない点も疑問である。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>	<p>認定こども園</p>
283			<p>具体的には、認定こども園方式とした場合の想定児童数、実現可否などを加味し、市民のニーズに即する形で実現してほしい。</p> <p>幼稚園の価値は多くの市民が理解しており、薪わくば通わせたいと考えていると想定する。単純な統廃合以外の打ち手を求む。</p>	<p>認定こども園に化については、貴重なご意見として承ります。</p>	<p>認定こども園</p>
284			<p>近年の社会情勢により、保育ニーズが多様化していること、また財政効率性の観点から小規模園の統廃合が避けられない状況にあることは承知しております。しかし、大津幼稚園は明治時代から続く稀有な歴史を持つ園であり、大津という街の歩みそのものです。ここで育った多くの市民が今この街を支えており、この場所は地域の心の拠り所になっております。安易な廃止は、市民の歴史や思い出の根幹を奪うことになりかねません。</p> <p>大津市は滋賀県の県庁所在地であり、現在、文化や歴史を活かした街づくりが注力されていると拝察します。その中で、大津の名を冠する象徴的な幼稚園を失うことは、街の魅力を自ら損なう行為ではないでしょうか。時代の流れに合わせて「形」を変えなくては必要ですが、大津幼稚園という名称やその精神を、次世代に繋がる形で残す工夫を強く求めます。古きものを大切にしながら現代のニーズ（長時間保育等）を満たす、柔軟な再編案を再考していただければ幸いです。</p>	<p>既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されております。</p> <p>その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。</p> <p>これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行いますが、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。</p>	<p>園の特徴 預かり保育の拡大</p>

連番	案談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
285			<p>大津市が掲げる「のびのびと遊び、一人ひとりを大切に」という幼児教育の理念を長年体現してきた大津幼稚園を廃止することなく、多様な家庭環境に対応可能な「認定こども園（または認定保育園）」へと移行し、存続させることを強く要望いたします。</p> <p>【理由】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 独自の教育実践と理念の継承 大津幼稚園は、一人ひとりの個性を尊重し、豊かな遊びを通して人間性を育む教育を長年実践してきました。この園の高い教育環境は本市の誇りであり、園児数が増えているからといって安易に失うべきではない、地域の貴重な教育資産です。 2. 地域コミュニティの活性化と見守り体制 当園は地域住民との交流が盛んであり、高齢者から近隣住民まで、地域全体で子供たちを見守る文化が根付いています。子供たちの元気な声は地域の活力そのものであり、園の存続は多世代交流の拠点として、安全・安心な地域づくりに貢献しています。 3. 多様なニーズへの対応による存続の可能性 現在、共働き世帯の増加などにより、従来の幼稚園形態では入園が難しい家庭が増えています。これを必要がないと判断するのではなく、保育ニーズにも柔軟に対応できる「認定こども園」へ転換することで、入園希望者を確保し、園の歴史と教育方針を次世代へ繋ぐことが可能であると考えます。 <p>【結びに代えて】</p> <p>大津幼稚園を無くすことは、単に一つの施設を閉じるだけでなく、これまで築き上げてきた地域との絆や教育のノウハウを断絶させることを意味します。子供たちの未来と地域の活力を守るため、持続可能な形で存続について前向きなご検討をいただきますよう、心よりお願い申し上げます。</p> <p>本文「以上」のことから、質の高い教育・保育環境の提供と保護者支援を目標として、…と記載されているが、今回の大津幼稚園の平野幼稚園との再編は、自宅から園までの歩行距離を配慮してバスの運行をするなど、園児と保護者の安全な登降園を支える行政での具体的な支援の方策が示されていないので、在園児や今後大津幼稚園の入園を希望する未就園児親子の不安を増大させている。</p>	認定こども園 認定こども園 認定こども園	
286	2	下から3行目～末尾		通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
287	6	上から3～7行目		認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
288	10	(4)		市の施策に対するご意見として承ります。	預かり保育の拡大
289	12	(5)		20～21ページに記載のとおり、これまでから部分的に規模の適正化を行ってきたところですが、10ページに記載のとおり、近年、市立幼稚園の規模の縮小が急激に進んでいることを受け、改めて、改めて全体最適の観点で検討を行うつもりです。	進め方
290	13	(6)		給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。 なお、待機児童の95%以上は0～2歳児となっており、幼稚園に通われている3歳児以上の待機児童は、ほとんど発生しておりません。	給食 待機児童

連番	案談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
291	13	(6)	p16の16行目「園児数の少ない地域を中心として認定こども園への移行などの取組みの促進」に記載されているので、現在の施設を維持しながら、給食を実施してこども園への移行できる方法を園や保護者、地域と話し合っ	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
292	20	(6)	これまでの再編で順境学区、日吉台学区は民間による幼稚園園舎を活用したこども園の設置で、学区内の園児の行き先が確保されている。仰木学区、雄琴学区はバス運行で安全な登降園が確保されている。ただ、仰木幼稚園、雄琴幼稚園の園舎は壊滅化し、放棄されている。今後、あまでは治安面で問題が生まれないか危惧される。再編計画は園児の数のみを注目し、園の数を減らすだけの人件費節約を図るとして市政の方針だけで、夢があふれる大津の未来園が乱立する街な来と思うと市民として市政の在り方の再考を強く求めたい。市役所の庁舎改装も大事だが、人を育てることが未来につながることに大事にすることを行政の姿勢として大事な視点だと考える。説明会で参加者の質問に真摯に向き合い、よりよい方法を市民と一緒に考える姿勢が、職員の方々からも感じられるように地域住民の立場にそった対応を切に願う。	33ページの適正規模に記載のとおり、子ども達の育ちの環境として多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られるよう、子ども同士の関わりを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものであり、人件費の節約を図ることを目的としたものではございません。	予算削減・効率化
293	39 42		「公立園同士の再編から市立認定こども園の設置を検討する」とされているが、P.42に記載された地域性の考慮として、大津幼稚園を選んだ保護者の思い、例えば1貫の高い教育・保育の維持、2小学校との滑らかな接続、3特別な配慮を要する園児をはじめひとりどりを大事にする保育の維持、4地域の文化、伝統や伝統（ユネスコに登録された大津祭など）の保育の位置づけなどが継承されることを願う。大津市が長く培ったスタンダードな公立幼稚園の教育が保護者やこどものニーズに応じて継承し、進化発展するため、まず「大津市立認定こども園大津幼稚園」として生まれ変われることを強く希望します。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
294	52		■大津幼稚園の認定こども園化について 大津市の保育所等待機児童数は令和7年4月1日時点で132人であり、2年連続で全国最多となっています。P.19では、令和6年4月に比叡平こども園が公立園として初めての幼児連携型認定こども園として開設されたと明記されていますが、市内に公立認定こども園は現在この1園のみであり、大津幼稚園が位置する打出中学校区には存在しません。P.39では、「公立の認定こども園化」が明記されており、本計画で子ども園化の可能性が明記されています。またP.32の基本方針2では「1号認定子どもの選択肢が不足している地域が発生しないよう、地域ごとに需要と供給のバランスを考慮する」となっています。 大津幼稚園を認定こども園化することにより、以下の効果が期待できます。 ・待機児童問題の解消に直接貢献できる。 ・就労している保護者が仕事を辞めた場合でも、子どもを同じ園に継続して通わせることができ、保護者・子ども双方の安定につながる。 ・専業主婦・主夫家庭が就労を開始した場合も、保育の継続利用が可能となる。 ・公立施設としての教育の質・専門性・施設環境を維持しながら、子育て世帯の保育ニーズにも対応できる。 大津幼稚園の再編にあたっては、平野幼稚園との単純な統合ではなく、認定こども園化を最優先の選択肢として検討してください。 私は、子どもを大津幼稚園に通わせている就労中の保護者として、大津幼稚園の認定こども園化を切に望みます。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
295	54		■保護者への説明・合意形成について 「再編実施の2年前に実行計画を作成し、関係者に説明を行う」とされていますが、説明のタイミングが実行計画策定後に限定されています。P.54では「当事者である保護者や地域の方などへの説明会などの機会を通じて、丁寧に進めていくことが必要」とされていますが、説明会の回数や形式、意見収集の方法、収集した意見の計画への反映方法など、「丁寧に」の具体的な内容が示されていません。 実行計画の策定前段階から、保護者・地域住民が意見を述べられる協議の場を設けてください。また、高せられた意見がどのように計画に反映されるか示してください。	54ページには、当事者である保護者への説明会などの機会を通じて、丁寧に進めていくことを求めています。	進め方
296	12		■特別な配慮を必要とする子どもの受け入れ機能について P12・図10では、市立幼稚園が1園あたり約110人の特別な配慮を必要とする子どもを受け入れており、民間園の2倍以上であることが示されています。この機能はP.26(5)においても市立幼稚園が果たしてきた役割の一つとして明記されています。市立幼稚園が減少することにより、特別な配慮を必要とする子どもの受け入れ先が減少し、子育て世帯の選択肢が失われます。障害の有無や家庭の状況にかかわらず、すべての子どもが質の高い教育を受けられる環境を守ることは、公立幼稚園が担うべき役割ではないでしょうか。	特別な配慮を必要とする子どもにも関しては、検討委員会でも、しつかり検討する必要があり、と考えます。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要が特別な配慮あるという意見も出されています。	特別な配慮

連番	家談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
297	52		<p>■ 大津幼稚園固有の状況について P.52では、大津幼稚園が「大津市立幼稚園の発祥の地」であることを認めながら、再編基準への合致のみを根拠として第1段階での平野幼稚園との再編としています。P.31の基本方針では「園児数や施設の老朽化だけを判断材料として画一的に統廃合を進めると、教育の質をどのように担保していくのかという問題が生じると明記されています。大津幼稚園については、表14(P.47)において、「創立137年、小学校との一体化施設による連携、地域の歴史的な文化(大津煮)を生かした保育」という固有の特徴が列挙されています。大津幼稚園に子どもを通わせる保護者としても、まさしくこの地域固有の幼児教育を受けてほしいという思いで大津幼稚園を選択していただきます。なぜ大津幼稚園の固有の特徴、保育を無視して、人数のみを根拠に再編を結論づけたのか検討プロセスを具体的に示してください。</p> <p>■ 公教育の役割について 公立と民間の間には、施設設計・環境・職員・専門性において現状として大きな差があります。保護者として、子どもが民間保育施設に2年間通園し、その後大津幼稚園を利用してきた実体験から、この差を強く実感しています。大津幼稚園では、幼児目標の安心安全な施設環境のもとで専門性の高い先生方による幼児教育を受けられており、保護者として大変感謝しています。 P.5では未就学児の母親の就労率が上昇していることが示されていますが、就労家庭が増えるほど保護者が施設を選ぶ余地は狭まり、希望する施設に入れなくなります。公立幼稚園の縮小はこの問題をさらに深刻化させています。P26(5)では市立幼稚園が果たしてきた役割として、「平等に教育の機会を提供し、誰もが学び成長できる環境の保障」と明記されています。 公立幼稚園を縮小することは、家庭の就労状況や経済状況にかかわらず質の高い教育を受けられるという公教育の根幹を揺るがすのではないのでしょうか。</p>	<p>35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。 大津幼稚園が、最初の市立幼稚園であるという歴史については検討委員会でも意見が出されたところですが、その上で、子どもとの育ちの場、集団規模を確保することを第一として検討しております。</p>	<p>検討経過</p>
298	39		<p>大津幼稚園の存続を希望します。 伝統ある幼稚園があるのは嬉しく思います。 幼稚園と保育園は内容の保育と違う反面、幼稚園は就学前教育の場で少し意味合いが違いますが、幼稚園のよいところを残しつつ、柔軟な対応のできる子ども園になると思います。 京都市へバスで通園している園児を多く見かけます。園児数が減っていることも事実ですが、京都市幼稚園等に通園する子ども達の推移や割合は学区ごとに出ないのでしょうか。保育料無償化で大津市民の税金から出ている保育費用が京都市の幼稚園等に多く使われることも残念に思います。 子どもが遠坂幼稚園に通っています。3歳児クラスで1クラスあたり1.8人以上と基準を設けられていますが、少人数だからこそその利点もあることをご理解いただきたいです。クラスのお友達が少ないからこそ、先生の間も良くなりますし、お友達のことをよく理解して関係づくりができていくと感じています。縦のつながりも多く、3・4歳児はお手本を身近に見ることができ、5歳児は年長クラスとしての意識を強く持っています。また、子供たちが何か思いついたときに、幼稚園全体でその発想をサポートすることができるとは少人数ならではの特長があるところだと思っています。</p>	<p>家庭の就労状況や経済状況にかかわらず質の高い教育を受けられるためには、民間保育園等を含めた全ての就学前施設が大切な施設であるとされており、どこかの施設を減らすだけでは、より良い教育環境が得られるようにする必要が有ると考えております。</p>	<p>認定こども園</p>
299			<p>大津幼稚園の存続を希望します。 伝統ある幼稚園があるのは嬉しく思います。 幼稚園と保育園は内容の保育と違う反面、幼稚園は就学前教育の場で少し意味合いが違いますが、幼稚園のよいところを残しつつ、柔軟な対応のできる子ども園になると思います。 京都市へバスで通園している園児を多く見かけます。園児数が減っていることも事実ですが、京都市幼稚園等に通園する子ども達の推移や割合は学区ごとに出ないのでしょうか。保育料無償化で大津市民の税金から出ている保育費用が京都市の幼稚園等に多く使われることも残念に思います。 子どもが遠坂幼稚園に通っています。3歳児クラスで1クラスあたり1.8人以上と基準を設けられていますが、少人数だからこそその利点もあることをご理解いただきたいです。クラスのお友達が少ないからこそ、先生の間も良くなりますし、お友達のことをよく理解して関係づくりができていくと感じています。縦のつながりも多く、3・4歳児はお手本を身近に見ることができ、5歳児は年長クラスとしての意識を強く持っています。また、子供たちが何か思いついたときに、幼稚園全体でその発想をサポートすることができるとは少人数ならではの特長があるところだと思っています。</p>	<p>認定こども園については、貴重なご意見として承ります。 小学校区ごとの数値は把握しております。 なお、保育料は個人に給付されるものであり、給付を受ける保護者が、ご家庭のニーズに合った選択をされた結果であるとと考えています。</p>	<p>認定こども園</p>
300			<p>大津幼稚園の存続を希望します。 伝統ある幼稚園があるのは嬉しく思います。 幼稚園と保育園は内容の保育と違う反面、幼稚園は就学前教育の場で少し意味合いが違いますが、幼稚園のよいところを残しつつ、柔軟な対応のできる子ども園になると思います。 京都市へバスで通園している園児を多く見かけます。園児数が減っていることも事実ですが、京都市幼稚園等に通園する子ども達の推移や割合は学区ごとに出ないのでしょうか。保育料無償化で大津市民の税金から出ている保育費用が京都市の幼稚園等に多く使われることも残念に思います。 子どもが遠坂幼稚園に通っています。3歳児クラスで1クラスあたり1.8人以上と基準を設けられていますが、少人数だからこそその利点もあることをご理解いただきたいです。クラスのお友達が少ないからこそ、先生の間も良くなりますし、お友達のことをよく理解して関係づくりができていくと感じています。縦のつながりも多く、3・4歳児はお手本を身近に見ることができ、5歳児は年長クラスとしての意識を強く持っています。また、子供たちが何か思いついたときに、幼稚園全体でその発想をサポートすることができるとは少人数ならではの特長があるところだと思っています。</p>	<p>小学校区ごとの数値は把握しております。 なお、保育料は個人に給付されるものであり、給付を受ける保護者が、ご家庭のニーズに合った選択をされた結果であるとと考えています。</p>	<p>市外の施設に関すること</p>
301			<p>大津幼稚園の存続を希望します。 伝統ある幼稚園があるのは嬉しく思います。 幼稚園と保育園は内容の保育と違う反面、幼稚園は就学前教育の場で少し意味合いが違いますが、幼稚園のよいところを残しつつ、柔軟な対応のできる子ども園になると思います。 京都市へバスで通園している園児を多く見かけます。園児数が減っていることも事実ですが、京都市幼稚園等に通園する子ども達の推移や割合は学区ごとに出ないのでしょうか。保育料無償化で大津市民の税金から出ている保育費用が京都市の幼稚園等に多く使われることも残念に思います。 子どもが遠坂幼稚園に通っています。3歳児クラスで1クラスあたり1.8人以上と基準を設けられていますが、少人数だからこそその利点もあることをご理解いただきたいです。クラスのお友達が少ないからこそ、先生の間も良くなりますし、お友達のことをよく理解して関係づくりができていくと感じています。縦のつながりも多く、3・4歳児はお手本を身近に見ることができ、5歳児は年長クラスとしての意識を強く持っています。また、子供たちが何か思いついたときに、幼稚園全体でその発想をサポートすることができるとは少人数ならではの特長があるところだと思っています。</p>	<p>34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供できており、小規模の施設を否定するものではありません。 一方で、本検討の内容は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の間での関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであります。</p>	<p>適正規模</p>
302			<p>大津幼稚園の存続を希望します。 伝統ある幼稚園があるのは嬉しく思います。 幼稚園と保育園は内容の保育と違う反面、幼稚園は就学前教育の場で少し意味合いが違いますが、幼稚園のよいところを残しつつ、柔軟な対応のできる子ども園になると思います。 京都市へバスで通園している園児を多く見かけます。園児数が減っていることも事実ですが、京都市幼稚園等に通園する子ども達の推移や割合は学区ごとに出ないのでしょうか。保育料無償化で大津市民の税金から出ている保育費用が京都市の幼稚園等に多く使われることも残念に思います。 子どもが遠坂幼稚園に通っています。3歳児クラスで1クラスあたり1.8人以上と基準を設けられていますが、少人数だからこそその利点もあることをご理解いただきたいです。クラスのお友達が少ないからこそ、先生の間も良くなりますし、お友達のことをよく理解して関係づくりができていくと感じています。縦のつながりも多く、3・4歳児はお手本を身近に見ることができ、5歳児は年長クラスとしての意識を強く持っています。また、子供たちが何か思いついたときに、幼稚園全体でその発想をサポートすることができるとは少人数ならではの特長があるところだと思っています。</p>	<p>ご意見として承ります。 小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではなくことから、市立幼稚園が中心となって取り組んでいる栗ヶ橋プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるような努めが必要であると求めています。</p>	<p>幼小連携</p>
303			<p>大津幼稚園の存続を希望します。 伝統ある幼稚園があるのは嬉しく思います。 幼稚園と保育園は内容の保育と違う反面、幼稚園は就学前教育の場で少し意味合いが違いますが、幼稚園のよいところを残しつつ、柔軟な対応のできる子ども園になると思います。 京都市へバスで通園している園児を多く見かけます。園児数が減っていることも事実ですが、京都市幼稚園等に通園する子ども達の推移や割合は学区ごとに出ないのでしょうか。保育料無償化で大津市民の税金から出ている保育費用が京都市の幼稚園等に多く使われることも残念に思います。 子どもが遠坂幼稚園に通っています。3歳児クラスで1クラスあたり1.8人以上と基準を設けられていますが、少人数だからこそその利点もあることをご理解いただきたいです。クラスのお友達が少ないからこそ、先生の間も良くなりますし、お友達のことをよく理解して関係づくりができていくと感じています。縦のつながりも多く、3・4歳児はお手本を身近に見ることができ、5歳児は年長クラスとしての意識を強く持っています。また、子供たちが何か思いついたときに、幼稚園全体でその発想をサポートすることができるとは少人数ならではの特長があるところだと思っています。</p>	<p>通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。</p>	<p>通園支援</p>

連番	家談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
304			遠坂幼稚園が平野幼稚園に合併されると、通園方法の不安もあります。八久通園ではバスに乗っている間の往復時間分の園児活動ができなくなります。園庭開放もなくなる可能性があります。思い切りの遊べる公園が少ない地域の園児活動が子どもたちの体力がつかないことにもつながります。平野幼稚園に駐車場もないため自家用車での通園も難しく聞きました。徒歩や自転車では距離があまりし悪天候の時の負担も大きいです。電車での往復は時間的にも金銭的にも負担になります。図1.1のニーズでもあるように保護者の一番のニーズは自宅に近いことです。合併してしまえば遠坂学区から市立幼稚園を選択できなくなる上、平野幼稚園の園児数も大きくは増えないのではないかと思います。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
305			市立幼稚園の園児数確保を目的に再編を考えるなら、図1.1のような保護者ニーズを幼稚園に入園を検討している家庭に絞って方法で調査してみようかと思えます。そこで出てくるネガティブな要素に対処することが今後の園児数確保につながると思います。	今後の施策の参考として承ります。	その他
306			今回の再編の方針には令和5年からの園児数から対象にされていたり、3歳児入園数が3年連続5人を下回れば翌年度4月1日に再編と書かれていたり、再編先や通園方法が分かっていないなど、保護者からすれば不安な要素が大きいです。また新聞も出てしまえば、市立幼稚園を検討されたご家庭も市立幼稚園を選びにくく感じられたのではないかと思います。入園時点で何の説明もなく在園中に合併になることは子どもにも家庭にも負担が大きいです。入園前に説明の無かった再編成を行い、子どもや家庭に負担がかかるような政策はやめていただきたいです。全国的なニーズにもなった幼稚園教諭の給料を下げる政策に加え、今回の再編案にある市立幼稚園の先行き不透明な状態では、これから担当子どもたちへの教育を等閑にしているように感じます。	当市立幼稚園再編案は検討段階のものであり、決定しているものではありません。その上で、突然の再編等にならないよう、市全体として検討を行っているものです。	進め方
307		1.地域コミュニティにおける大津幼稚園の重要性について	私は大津幼稚園に接する緊要町の自治会長として、日々、園児や保護者の姿を見守っております。道路に面した園庭に花が咲き、子供たちの歓声が響く光景は、地域住民にとって単なる教育施設以上の「心の灯火」であり、地域の活気のある場所です。降雪時には地域で雪かきを行うこともありますが、地域一丸となって子供たちの安全を守ってきた歴史もあり、当園は地域コミュニティの核として不可欠な存在です。	地域との繋がりが強い園におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き継ぎ、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との関わり
308		2.保護者の就労状況に即した運営改善の必要性	現在、当園には自治会員の子弟だけでなく、私の孫も通園しております。孫の両親（私の娘夫婦）は共働きであり、平日の送迎は祖父である私が担当しております。現在の入園者数減少の背景には、共働き世帯が増加しているにもかかわらず、給食の提供がない、あるいは保育時間が短いといった「親げにくい環境」があると考えます。市が入園児を増やすための根本的な対策（給食実施や預かり保育の延長など）を講じぬまま、単に「入園者減少」を理由に閉園を決める方針は、市民として到底納得できるものではありません。	平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が図られています。また、緊急に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行いますが、給食の拡大、また、給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。	給食 預かり保育の拡大
309		3.再編計画の判断基準と迅速な進め方への疑義	今回の再編計画が「3歳児の入園者数」のみを基準に進められている点には、強い危機感を抱いております。これは一面的な指標に偏った判断であり、地域の実情を無視した迅速な計画と言わざるを得ません。	再編基準	再編基準
310		3.再編計画の判断基準と迅速な進め方への疑義	また、平野幼稚園への統合による登園距離の増加に対し、親子への具体的な支援策も提示されておらず、これは「幼稚園離れ」を助長するばかりです。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
311		4.大津幼稚園独自の価値と保護者のニーズ	大津幼稚園が選ばれている大きな理由は、以下の点にあります。 *通園の利便性：*自宅から近く、安全に通園できること。 *小中一貫教育の基盤：*就学先である中央小学校との密接な連携、および打出ブロック内での3校連携が図られており、就学への安心感があること。 こうした特有の良さや、それに基づく保護者のニーズが、今回の再編計画では十分に配慮されていません。	35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけでなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。	検討経過

連番	家談当園所		意見内容	検討委員会の考え方(各課回答)	中分類
	頁	詳細箇所			
312		5.市への提言と結び	<p>自治連合会から計画中止の覚悟書が提出されている重みを、市は真摯に受け止めるべきです。もし財政上の課題があるならば、まずは市として蓄後算を提示し、自治連との対話を通じて「市民の生活のための政策」へと再構築することを強く求めます。</p> <p>大津市には、地域の核となる人間を育てるといふ重要な使命があります。大津幼稚園の閉園を検討するのではなく、むしろ「給食の実施」「保育時間の延長」など、現代の保護者ニーズに応える施設整備のモデルケースとして、大津幼稚園から公教育の充実を図っていただきたい。市長および市議員の皆様には、子供たちの生活を守る視点で、本計画を今一度白紙から考え直していただくようお願いいたします。</p>	<p>本検討に当たっては、財政面の課題ではなく、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であること、子どもの育ちの観点から集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育を実現できるようにすることが重要なこととして検討を行ったものです。なお、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「隔り保育の充実」が提案され、順次実施されています。</p> <p>その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものです。これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行いいます。また、給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。</p>	給食 隔り保育の拡大
313	33	4適正規模・再編基準について	<p>ここに書かれている「適正規模」とは何か、よくわかりませんでした。確かに子どもたちは集団のなかで育っていきませんが、「4歳児20人以上」「5歳児25人以上」の根拠がわかりません。実際に子どもたちが互いに意識し、共同の関係やあそびをつくりながら、自分づくりを進めていける規模は、もったいなく思っています。また、異年齢集団のすぐれた実践は全国各地にあります。</p> <p>少子化、親の就労等が進んでいることは理解しますが、だからこそ、より丁寧な子どもたちの保育を行なっている好例とも言え、ここに示された「適正規模」を根拠に再編を進めるというのは説得力に欠けると考えます。</p>	<p>今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を「1学年の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上」としたこれまでの大津市における検討結果を採用したものです。</p> <p>適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらい規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものです。</p>	適正規模
314	33	4適正規模・再編基準について	<p>さらに、1・2員にあるように、特別な配慮を必要とする子どもたちは増加してきており、公立幼稚園は、そうした子どもたちへの保育に大切な役割を果たしてきています。そうした特別な支援を必要とする子どもたちとの場合、より小さな集団の方が、しづみと力をつけていきやすいのではないのでしょうか。</p> <p>反対です。</p> <p>私は、難病があり配慮が必要な子供の親です。</p> <p>このように子供のセーフティネットになりうる公立幼稚園を安易に再編させることは、子供と親の命に関わることであり、強い憤りを感じています。</p> <p>公立幼稚園の役割と運営について</p> <p>特別な配慮への対応：市立幼稚園では民間園の2倍以上の「特別な配慮を必要とする子ども」を受け入れ、公立としてのセーフティネット機能を持つ（園児数の18.5%）</p> <p>まず一般的に、配慮が必要な子供の親が幼稚園を選ぶ理由をご理解ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待機児童が多い通院、急変対応のため働けないことが多く、保育園を選べない ・安が残る ・難病児は感染が命取り。保育園は人が多く長時間保育のため、感染しやすく、躊躇する ・我が家のケースと意見 <p>我が家のケースと意見</p> <p>入園前見学の際には、私立3ヶ所、公立1ヶ所の幼稚園の園長と個別面談し、「圧倒的に公立が良い」と感じ、大津幼稚園に入園させることを決めました。以下の理由です。以下が、大津幼稚園を残すべき理由であると考えます。</p>	<p>特別な配慮を必要とする子どもにも関しては、検討委員会でも、しっかりと検討する必要があり、検討する必要があります。支障については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。</p> <p>地域との繋がりが強い面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。</p> <p>園の特徴については、子どもの育ちの観点から、各園の良い環境を継承できないかなどの意見が出ていることから、[第3章]基本的な再編等の計画に追記を行います。</p> <p>認定ことも園別として承ります。</p>	特別な配慮 地域との関わり 認定ことも園別
315	52	が打出中学校区大津幼稚園の再編について	<p>①歴史ある幼稚園は土地が広く、校舎や園庭が広々としていること</p> <p>②少人数かつ学級規模があるため、難病児にとって危険な感染リスクが低減すること</p> <p>③研修制度がしっかりしており、教諭の質が高いこと</p> <p>④未就園児期の親子登園事業(こりクラブ)など、母親のセーフティネットとしての役割が充実していたこと</p> <p>⑤地域の人たちのつながりが深いこと</p>		

家談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁			
316	315の続き	<p>①歴史ある幼稚園は土地が広く、校舎や園庭が広々としていること 大津駅付近に新しく建てた私立の幼稚園やこども園は、狭い土地に建てているので、校舎が狭い傾向にあります。難病児は感染で悪化するリスクがあるため、「人数に対しての狭さではとても預けられたい」と感じました。また、私立は園庭も狭く、走り回って遊ぶにも制限があります。大津駅前付近はマンションが多く、大津中央地区の幼稚園児は、家のマンション率が90%を超えていると聞きます。そのためコグが多く、足踏を踏えるためにものびのびと遊ぶ広い空間や園庭が必要と感じています。</p> <p>②少人数かつ学級編制があるため、感染リスクが減る点、大津幼稚園は、園庭が広く、毎日駆け回っており、子供の発達にも大いに寄与していると考えます。</p> <p>前述の通り、難病児は、感染リスクに敏感に生活しなければなりません。そのため私は「園児の少ない園」をメインに探していました。1クラスの人数を増やすことばかりお考えのようですが、このような考えをさせざるを得ない園があることを忘れていただきたいです。</p>	<p>特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しつかり検討するよう提案を しています。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要がある。特別な配慮 という意見も出されています。</p>	特別な配慮
317	316の続き	<p>③研修制度がしっかりしており、教諭の質が高いと感じたこと 公立幼稚園は自治体主導の研修が豊富で、最新の教育要領に基づく実践研究会などが充実しています。 入園前見学の際には、私立3ヶ所、公立1ヶ所の幼稚園の園長と個別面談しましたが、私のような「配慮の必 要な子供のケアまでしっかりとてくださったのは、公立幼稚園だけでした。</p> <p>見学の電話をする際、難病児と言うと、空気が凍り「上に確認してから折り返します」と言われることばかりでし た。ただ大津幼稚園に電話した時は「お母さん、大変でしたね」とまず最初に言ってくれました。その時どんなに嬉 しかったか、ステロイドでお相様さんのような体になつた娘を見て、たさんの人に「干物」北されるようになってからは、 人と関わることが怖くなり、誰にも話さず孤立して、ひとりぼっちでしたから、 保育園に通う普通の親子を見ると気が狂いそうだったので、すれ違わないようにするために9時以前と16時以降 は、外に出ない生活が一年以上続いています。</p> <p>「自宅保育で何もしてやれていない。テレビで見る虐待をしている親と、私は何が違うんだろう？」 キッチンに包丁が出ていると、動悸がするようになり、保健師に助けを求めたこともありました。</p> <p>見学の時、「うちの子は入園できますか？」と聞かなければならぬ親の気持ちを想像したことはありますか？心 配をギュッと握りつぶされるような気持ちです。</p> <p>大津幼稚園の園長だけが「うちの園はどんな子どもを受け入れますよ」と、問壁入れずにキツキツ言ってくれました。その 場で、ワーッと泣いてしまいました。願くで、やっと誰かに自分たちが受け入れられたような気がして…。</p> <p>我が子は、私から離れて興味のある方へすぐ向かいます。それを見て「愛着形成がしっかりされていなくて、子供は 親から離れられない。お母さんは、大切にお子さんへと向き合ってください。ひとりぼっちじゃなかったのだと。 嬉しかったです。やっ、私のことを評価してくれる人ができたのだと。ひとりぼっちじゃなかったのだと。 子供だけでなく、私のケアまでぬかりなくして頂きました。心から感謝しています。</p> <p>これらの各先生によるきめ細やかな対応は、公立の教諭の充実した研修制度があったからこそだと考えます。</p> <p>中央学区の幼稚園は、もしなくなれば民間に任せればよいと思われるかもしれませんが、このような、きめ細やかな対応や、教育をしてくれる公立幼稚園が家から徒歩で通える範囲内にあることは、大きな価値であると考えま す。</p>	<p>特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しつかり検討するよう提案を しています。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要がある。特別な配慮 という意見も出されています。</p>	特別な配慮
318	317の続き	<p>④未就園児期の親子登園事業(こりクラブ)など、母親のサーフェネットとしての役割が充実していたこと 少人数で構成されているこりクラブには、安心して通うことができました。 こりクラブでは、他の子供と関わり合いたい我が子の成長を見ることができて嬉しかったです。 先生の指導のもと、同じ教室で楽しく活動する子の姿を見ていると、「私がやってきたことは間違いはなかった」 と、感気味だった私が前向きになるきっかけになりました。</p> <p>また、難病の感染対策のため、一年以上お友達と関わり合いを持てなかった我が子のコミュニケーション面でのハ ンデを解消するきっかけにもなりました。</p> <p>こりクラブがなければ、私は死んでいたかもしれません。それくらい、ギリギリの状態でした。</p> <p>未就園児、とりわけ配慮が必要な子供の親は、孤立しやすい傾向にあります。精神的に衰弱している親が、平 野学区の方まで足を運ぶことは不可能です。</p> <p>地域に幼稚園があることは、未就園児の母親のサーフェネットにもなります。数字ばかりではなく、「幼者の立 場」を考え、幼稚園を残して頂きたい。</p>	<p>特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しつかり検討するよう提案を しています。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要がある。特別な配慮 という意見も出されています。</p>	特別な配慮

家談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
番号	頁			
319	318の続き	<p>⑤地域の人のつながりが深いこと 私は、前述の通りママ友がいまいませんでしたが、代わりに地域の方々に支えられて生きてきました。 「おはよう！」「いってらっしゃい！」 保育園前、商店街の品出しをしながら、いろんなおっちゃん、おばちゃんたちが娘に挨拶してくれます。 この風景に、入園前からずっと支えられてきました。地域の人の「おはよう！」が聞きたくて、垂き込んでいた私 が外に出るようになりました。 我が子の事情を知る地域の人は、みんな可愛がってくれます。私にとって、いつもの生活と大津幼稚園の生活は、ずーっと延長線上にあります。これがもし、平野になってしまったら？ スクールバスが出たら、地域の人のための挨拶もできなくなってしまう。 これらは園児だけでなく、地域の人がたっても楽しみがなくなってしまうことだと思います。 園が再編し、集約されてしまえば、地域の人のたとの繋がりが100%希薄になります。 大津市の率上げるさまざまな数字はわかりやすいですが、このような人との結びつきは、数字では表せない貴重な価値があります。私は、地域の人のたの中で、たくさんの経験をし、心を成長させてほしいと思います。なくならないように考えられます。</p>	<p>地域との繋がりが深いこと、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。 地域との関わり 園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。</p>	
320	319の続き	<p>地域の人の声 今回の件について、地域の方(30〜85歳くらい)15名ほど話をしたことを、まとめます。 そもそも幼稚園教諭の費下げをすすめるような市政はどうかしている。 待機児童問題を解決し、保育士を働かせたいのなら、賃上げをすべきだった。大津幼稚園だって、待機児童を解消するために本来コストも園にも増えるのに、今回の無理な平野への再編も、保育士が足りないからやりたいたいんだらう。 だが、費下げして保育士がさらに大津市から離れる理由作りをしてしまったのは大津市。 明らかにこれは大津市の失策であり、その被害を被るのは未来あることである。 大津市には、子供を大切に育てる気がない、がっかりしている。 このように、幼稚園教諭の賃下げの件をはじめ、保護者だけでなく地域の方々も非常に怒っています。しかも、保育士・インフルエンサー「てい先生」がSNSで取り上げ、9万いいね、1,229.8万ものインプレッションがつき、大きく話題になったこともあり、全国的に「大津は子育てに消極的」というイメージが広がりました。 話題になった今回の件も、親としては「子育てをしたことのない人の案」にしか見えません。数字でない部分に価値があることを、現場を見て考慮すべきです。 今後の方針について大津幼稚園のことも園化を望みます。 待機児童の多い保育園のニーズと、幼稚園のニーズ両方の維持を検討していただきたい。</p>	<p>認定ことも園化については、貴重なご意見として承ります。 認定ことも園</p>	
321	25 幼稚園が果たしてきた役割	<p>幼稚園が果たしてきた役割を讃美する一方、ニーズに対応しきれない課題について、記載がない。 どうして、園児が減少したのか、保護者ニーズP1-3の幼稚園に関する項目から見ると、保育時間が希望通りでないこと、給食を提供していないことが主な原因であるのは、明らか、このことについての一切の記載がない。P2-4には、「保育の拡大を実施してから1年を経過知っておらず検証が十分できていない」とある。検証ができていない段階で、再編に走るのは、幼稚園制度の今後に展望がないが、再編案であり、ニーズに対応できていないまま、自然消滅を待つかの如くである。</p>	<p>23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見があります。 一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22〜23ページに追記を行います。 また、給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。</p>	<p>預かり保育の拡大 給食</p>
322	25 幼稚園が果たしてきた役割	<p>幼保一元化は40年来的課題で、少なくとも2006年の認定子ども園制度が出来て以来20年が経過している。改善なく、ここに来て、検証がないまま、再編に進むのは、本来転倒である。</p>	<p>認定ことも園化については、貴重なご意見として承ります。</p>	<p>認定ことも園</p>
323	27 幼稚園教育のあり方	<p>再編ありきの理屈であり、平成28年の「大津市立幼稚園における〜規模適正化に向けた実施計画」これを踏襲し、根拠も薄い。 この実施計画は、どのように、進められ、また、その結果どのように評価されているのか、根拠とするからには、明確にすべきである。</p>	<p>園児数を増やす取組として、既に平成28年度には、最も大きな要望として、「3年保育の実施」、次いで大きな要望として「預かり保育の充実」が提案され、順次実施してきたところですが、 再編の検討は、3年保育実施後の園児数により検討を行うとされ、加えて令和3年3月には令和3年度から令和5年度までは再編を実施しないこととされました。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、令和6年度から改めて再編に係る検討を行っているものです。 この経緯について記載します。</p>	<p>検討経過</p>

ページ	案当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	番号	詳細箇所			
324	37	再編等の方向性検討	広域エリアを「中学校ブロック」としたとあるが、市街化調整区域が大半の中学校区では、P45の図1・9市域図の①②③等は「一帯」となる片側10キロ以上の通園距離となる箇所が相当出る、把握しているか。P4、1・4の二ス調査で「自宅の近くにある」が第一である保護者の思いとは、相矛盾する。中学校ブロックの語り、再編するにしても、地域の事情において、自ずと対応があるべきだ。ブロックでの再編に地域の意見交換会を実施すべきだ。	大津市では、20～21ページに記載のとおり、これまでから部分的に規模の適正化を行ってきたところですが、10ページに記載のとおり、近年、市立幼稚園の規模の縮小が急激に進んでいることを受けて、改めて全体最適な観点で検討を行ったものです。	検討の目的
325	29	架け橋の教育の推進	「再編実施後は、再編後の園が複数の地域における連携を担っていく」また、「机上の空論」というような連携、このような取組とか具体的に示すこと。	20ページに記載のとおりです。	地域との関わり
326	44 53	園児数推移 検討経過と概要	令和8年度は実数が出ています。更新されないで状況で考察されることは、回避すべきである。第一段階としている田上、青山の令和8年度の三歳児は、田上7人、上田10人、青山6人（いずれも第一階段）は誤り	令和7年度に検討を行ったものであり、令和8年度の実績は反映されていません。なお、再編基準としては、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による基準を設けており、ご意見にあるとおり、1度でも10人を下回る場合は第1段階として暫断を行いましたが、明確に記載されていないため、「1度でも下回る場合」と明記します。	人口推計・園児数推計
327	42	地域性等の考慮	「駐車場の有無や台数」再編先の条件としているが、幼稚園は徒歩通園が基本で、駐車場の確保はむしろ基本に反するとされてきた事実も、確認されているか、では駐車場が教育財産として確保されている園は、何かゆえに税金を使って確保したのか。それなのに確保のない幼稚園は、再編先には該当しないとすると、理解できない。地域の支援で確保が可能な園は、条件を満たすとして取り扱われるべきである。	駐車場の数については、48ページ下部に記載しているとおり幼稚園敷地内にある駐車場ののみ計上しております。	検討経過
328	45	田上・青山中学校校区	再編先に位置関係が反映されていない。青山から上田上を通って、約10キロの田上までの通園を希望される方は皆無では、また、どの園も再編後の園児数を受け入れるに十分であり、規模の問題なく、増設の環境と、どこに違いがあるのか。	43ページに記載のとおり、園庭の特徴など、教育環境や子どもの育ちの環境という観点から検討を行ったものです。	検討経過
329	8	図8と本文	本文中「保育所・認定こども園の施設数についても、～幅広いで推移」とあるが、それが図ではとばかりに、図の2・3号施設が対応するということが、初見時の見え方を窺いしめてほしい。	ご意見として承ります。	その他
330	20	(6)	「これまで実施した再編によって、集団規模が大きくなったことで～子どもたちの遊びや生活も豊かに展開されています」とあるが、これは、どこかの根拠に基づくものか。	市立幼稚園の現場の意見によるものです。	検討経過
331	21	表7	パーセンテージだけではなく実際の数字も入れているのか、かなり分母が少ない学区もあるのでは。	ご意見として承ります。	その他
332	23 24	(8)、表9	新入園児数の減少幅が7は小さい、ということだが、表1を見ていると、これまでの3歳児全体の減少の仕方より、ゆるやかになっているのが、当たり前の結果ではないか。取組の効果のように見えている。また、その後効果検証を十分にできていない、ということだが、支援拡大の取組の検証を待たずに、再編を進めるという想に見える。データの蓄積と分析が足りない中での判断ではないか。	表1は就学前児童の人口であり、既に保育所等を利用している子ども達も含んでいることから、表9の結果との直接的な関連は示していません。23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。	預かり保育の拡大
333	39	図17	神楽にローが見づらい。立体的にしていることや、文字の色が白になっていることが原因な気がする。また、文字も小さい。	図の修正を行います。	その他
334	39 40	本文	このローが検討の「肝」となるはずなので、もっと易やくわがやくわがやく・伝わりやすいフローにしてほしい。また、本文中には公立園（市立幼稚園及び市立保育園）とあるがその注釈は、図中にも必要ではないか。	ご意見として承ります。本検討は、近年、市立幼稚園の園児数が急激に減少している状況を受けて行っているものです。	検討経過
335	44	表12の上の説明	中黒が3点あり、それぞれに（3・5ページ（4）アに該当・・・）などという記載があるが、このページも重要なページなので、このページだけで内容がわかるようにしてほしい。	表現方法の工夫をします。	その他
336	50	(2)	検討委員会議事録を拝見し、1地区ごとの方向性について、事務局が示した3パターンで委員会がこれで、という方式で決めていったと認識しているが、検討委員会に責任を与えすぎではないか。市としてはこのパターンを最優先としたい、というような思いがあってもよかったですか。	ご意見として承ります。	その他
337	51	※	別途保育園のあり方も検討する必要があります。というような記載が複数出てきているが、どういったタイミングで、どのような手法で実施するのか。	答申後に市として検討されるものと考えます。	進め方

連番	家談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
338		基本的な方針について	<p>市立幼稚園に通う保護者です。</p> <p>現在、給食は週1回の宅配弁当のみで、その他は手作り弁当となっており、保護者の負担が大変な状況です。週1回の給食の日には、子どもがみんな同じものを食べられた。『普段は食べないものにもチャレンジできた』ととても楽しそうに帰ってきます。給食は単なる食事ではなく、教育的効果を感じています。一方で、毎日の弁当持参が必要なのが、入園をためらう一因になっていると感じています。実際に、弁当負担を理由に市立幼稚園を選ばないという声も聞かれ、園児数減少の一因にもなっているのではないのでしょうか。市立幼稚園の再編等を検討されている中で、園児数確保や園の魅力向上という観点からも、給食体制の充実が重要であると考えます。</p> <p>共働き世帯が増えている現状も踏まえ、保護者の負担軽減および子どもの健やかな成長の観点から、給食回数の拡充（将来的には毎日給食の実現）についてご検討いただきたいと思います。これにより、園児数確保や再編の必要性の緩和にもつながることを期待しております。</p> <p>幼稚園合併を行うにあたり、遠方にある方や自動車をお持ちでない方、送迎不可な方が自宅近隣の保育施設への入園出来る保証は確保されるのか？市立保育園が周辺にない場合はどうするのか。または送迎バスを導入するのか。</p> <p>遠方になったことにより通園時間が長くなることにより保護者の負担が大きくなるため、給食を導入して欲しい。給食がないからこども園や保育園を選んでいる方もいるので、給食導入すれば幼稚園を選ぶ方も増え待機児童も減り、幼稚園の利用率もかなり上がると思います。</p> <p>少人数だからこそ一人ひとりを大事にした風通しのよい保育が今回合併が検討されている園のとてもいいところだと思うので、ただ人数を集約するだけの合併では、保育の質が下がってしまうのではないかと、非認知能力を求める今の世の中、大勢でみんな一緒という雰囲気は運ぶ気がします。</p> <p>以下を要求します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.2025年4月付け文書「大津市立幼稚園の再編等について～より良い教育環境の提供に向けて～」の白紙撤回 上記に関連する関連議案の取り下げ <p>就学前の子どものための施設（以下、就学前施設）の検討として、冒頭では保育所・認定こども園等の状況やそれへのニーズとも合わせて論じられていますが、再編計画となると、それらと切り離して市立幼稚園に限って行く未を見通すように感じます。</p> <p>女性労働の増加、それを支える長時間保育へのニーズの高まり、待機児童問題、幼児の自宅周辺での同世代とのかわりの困難、こうした社会状況において、幼稚園のあり方そのもの（教育／保育時間、長閑な園期間、給食提供等）が再検討されるべきではないでしょうか。それがなければ、再編計画というよりは、廃止計画に過ぎないことは目に見えていることでしょう。</p> <p>しかし、市立幼稚園には、ハード面一つとっても貴重な財産である余裕のある園舎と恵まれた園庭があります。先生方も勤続年数が長い方も多く、子どもの発達に見通しを持って子どもたちに接しておられます。教育職であり、保育士と比べて、子どもと関わる研修時間や教材準備の時間も一応保障されています。障害児の育ちの場にもなっています。何よりも地域と結びついた長い歴史があります。</p> <p>必要なのは、「保育」「教育」を切り離して計画を立てるのではなく、両方を保障する営みと施設ではないでしょうか。市立幼稚園の充足率が低下してきているのは、市立幼稚園だからではなく、「教育」という建前のもと、提供する機能が時代のニーズや必要性に合わなくなっているからではないでしょうか（親のニーズという点からだけではなく、子どもの育ちの環境の保障という客観的・社会的ニーズという点です）。その点、すでに、両者の統合を語った認定こども園も20年の歴史があり、また公立園でも認定こども園が取り入れられ、幼稚園の実質的統合化は進んでいます。</p> <p>諸外国の動向からみても、日本でもいずれは短時間保育／保育を利用する家庭は少数派になっていくことでしょう。一方、あえて幼稚園を希望する家庭も一定数は続くことでしょう。上に述べた社会動向と社会の必要性を前提にしつつも、当面は、長時間・短時間、その両方のニーズにもこたえながら、大津市の就学前施設全体の計画の中で、現行幼稚園の恵まれている点（上記）を生かしつつ今後の「保育」（educationandcare）のありかたを検討していただくようお願いいたします。</p>	給食	
339				通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
340				給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。なお、待機児童については、95%以上は0～2歳児となっており、幼稚園に通われている3歳児以上の待機児童は、ほとんど発生しておりません。	給食 待機児童
341				本検討の内容は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものです。	適正規模
342				ご意見として承ります。	その他
343				認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園

連番	案談当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
344	50	(2) 再編等の方向性検討の結果について	この計画は、地域住民の方と深く話し合われて出されたものなのでどうか。たとえ、どんなに中央部に生活されている人から見れば、辺鄙な土地であれ、そこで生れ、育ち、生活をしている人にとっては、どんなに大切な場所か。自然豊かな中で人間が育つ大切なかけがえのないものです。町中にあった田畑は、ほとんど住宅地に変わり、田植えや稲の刈り等、日常的に見る事もなくなりました。夫婦共働きが常識になってきた今日、大津市の何処に住もうと子育てや通学、通勤に不便を感じなくてもいい、そんな市にして頂きたい、住民の方々と共に発展させていく大津市のあり方、一番良い方法を探して頂きたいとお願います。	住民の方々と共に発展させていく大津市のあり方について、ご意見として承ります。	子育て支援全般
345	34 35 42	(2) 再編基準（基準とする年齢及び人数）について (3) 再編基準に則った検討の進め方について (4) 再編基準について (ア) 園庭の広さ 南郷幼稚園→1962㎡ 石山幼稚園→700㎡ 上記のように園庭の広さは南郷幼稚園の園庭は石山幼稚園の園庭より倍以上の広さがあるのに、何故石山幼稚園へ再編されるのか疑問。 また南郷幼稚園には各クラス1個ずつ砂場が設けられており、のびのびと遊べる恵まれた環境が整っている。その環境が失われるのは、子供たちの成長にとって明確な後退だと考える。 (イ) 要年数 南郷幼稚園→41年 石山幼稚園→49年 上記のように要年数も南郷幼稚園の方が新しいのに、何故石山幼稚園へ再編されるのか疑問。 (ウ) 駐車場の有無や台数、周辺道路の状況 南郷幼稚園→駐車台数7台 石山幼稚園→駐車台数3台 上記のように駐車台数も明らかに南郷幼稚園の方が多い。 また周辺の道路状況についても、石山幼稚園は直接道路に面しており送迎時の事故のリスク、普段の園生活でも不安が残りやす。 再編によって子供たちの安全性が低下する可能性があるのは容認できません。 自分自身の経験として、子供の通学時の校の規模の問題により、いわゆるマンモス校の分割が行われ、途中で転校を余儀なくされた経験があります。その際、慣れ親しんだ環境が断ち切られることへの不安や喪失感是非常に大きく、今でも強く記憶に残っています。 今回の再編も大人の事情や効率性を優先したものであり、子供たちにとって日々通う園やそこで築く人間関係は非常に重要であり、それを簡単に変えてははいけません。 再編によって生じる環境の変化は子供たちにとって大きな負担になり得ます。特に、幼少期においてはその影響は深刻。過去に同様の経験をした立場から同じような思いを今の子供たちにも伝えてほしくないと強く思います。 効率や運営上の都合だけでなく、子供の視点に立った慎重な検討を求めます。よって現在予定されている石山幼稚園への再編を強く反対致します。	再編の方向性については、ご意見として承ります。 一方で、今回の検討は、15人を上回る規模にすることを目的としているのではなく、集団規模の確保による子ども同士の間柄の中で社会的な態度を育む教育を実現できるようにすることを目的としています。 併せて、近年、規模の縮小が急速に進んでいる現状を鑑み、ある程度の規模の確保が必要という意見があったことから、原案のとおりとします。 なお、再編基準以外の要素については、51ページ以降に記載のとおり、別途検討を行っています。	再編基準 検討経過	
346	2~4	総則・本市の現状	大津市の子どもの特殊出生率の経緯および小学校就学前児童の人口推移については、理解させていただきました。こうした少子化が進む中、基本的には認定子ども園への入園を勧めていくべきだと思います。理由は、子どもが地域で育つための環境が数多く必要だと思います。加えて、子どもにとっての集団生活の中での学びが大きいこと、それは社会性の育ちに大きく影響するのではないかと考えます。また、乳児期の子どもや障害を持つ子どもがふれ合いながら育つことの意義は大きいと考えますので、家庭でも一人っ子、保育施設でも少人数は構成できません。とはいえ、保育施設では丁寧な関わりが求められると思いますので、国の基準や滋賀県の基準に加えて大津市として乳児保育、障害児保育、長時間保育への配慮がなされる中で、統合や廃園が求められると思います。総則をきっちり読み使わせていただく限りでは、ご苦労されつつ配慮をされた案だと拝見しました。	認定子ども園化については、貴園はご意見として承ります。	認定子ども園
347	5	母報の現状状況	この点も、数年前から全般的な増加があり、大津市においても同様であると確認できました。	ご指摘のとおり大津市でも同様の状況であると5ページに記載しております。	アンケート

連番	案当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
348	6	表3 家庭類型別就学前教育施設利用希望	前記のこと併せて述べたいと思います。 幼稚園に通わせたい専業主婦、フルタイム×パート(短)には、認定こども園の良さや活動について理解できず、大津市が積極的に作り、子どもの発達保障・社会性の育ちに寄与できる施設であることや幼稚園と同様に保護者支援にも繋がる点について専門的な知識を供与し、理解していただくようにするのは如何でしょうか？ 難しいですか？	認定こども園	認定こども園
349	12	運営費について	理解できました。ただ、何よりも大切なのは子どもの発達であると思います。統合することによって、子どもを受け入れられる施設には、統合によって算出された資産？ お金？ は、全てでなくとも良いので、統合された施設への施設改善への投資や保育者（幼稚園・保育所）も園全体を保育者と表記します）の給与向上へと繋げていただきたいです。保育者個々人の給与の上昇が勿論のことですが、近年、保育者不足が社会的問題になっていますが、ゆとりある保育関連の人材確保への資金投入も大切な課題だと思います（保育者の研修なども人材不足だから無理という声も聞かれています）も知れませんが、条件が整って、保育や子どもの成長の面白さを伝えていくこと、給与や予算の向上によって保育者志望者は増えるのではないかと思います。 一方で、幼稚園が認定こども園へ移行する場合は、3歳未満児の発達に寄与できるようにしたいと思っています。者の乳児の専門的な保育への知的供与は必要であると考えます。そこにも予算をつけていただきたいと思えます。	認定こども園 子育て支援全般	認定こども園 子育て支援全般
350	17	(2)「大津市幼児教育・保育共働かりキッズ」の策定	17ページには、「大津市乳幼児教育・保育共働かりキッズ」は、幼稚園教育要領と保育所保育指針を基本として、就学前の子ども達が過ごす場所が異なっていることも、子どもにとっての質の高い教育と保育を保障することを目的に、市立幼稚園・保育園の保育者を中心メンバーとした策定会議により、平成28年度に策定されました。この共働かりキッズには、0歳児から小学校校終期までのカリキュラムが定められているほか、本市の乳幼児教育・保育の基本理念と、めざます子ども像が以下のように掲げられました。此であります。が、テーマのところで何か「大津市乳幼児教育・保育共働かりキッズ」となっていないのでしょうか？ 幼稚園を対象とされたためでしょうか？ しかし、本文の中に「0歳から」があります。大津市の子育てを巡る現状から今後の課題として「乳児」についても意識していただければ良いように思います。	その他	その他
351		全体	再度の再編計画に反対です。 大津市は子育て世代から見放されると思います。子育て世代には、選択肢として幼稚園も保育所も必要です。人数に関係なく、身近に、支所、小学校、幼稚園、保育所があることが大津市の1番のサービス、基本です。子育て世代が増えないと街は衰退します。減るから減らす策み思考ではなく、住民を増やす思考で行政をお願しいたい。 2026年は、志賀町・大津市合併20周年になります。しかし残念ながら合併のメリットを活かせず、支所や小学校、幼稚園の縮小の計画ばかり、大津市は提案しています。 今回もかという思いです。 志賀町では、大津市になって幼稚園再編で既に2園になり、また再編で、ついにほむほむも残らない。このままでは志賀町から行政サービスがなくなると心配しています。	適正規模	適正規模
352		その他	全57ページの資料を読んで、4月28日までに意見を出すは、期間が短すぎます。 5年前から検討がされているようですが、結果を急ぎすぎです。 60ヶ月検討して、市民には1ヶ月では認知期間が短く、9月から6月に延長すべきです。 大津幼稚園統合について反対します。 平野幼稚園と統合するとその弊を見ました。 通くなるというのが一番気になりました。 園バスを導入してほしい！ と思いましたが、ニュースでも度々報道されていましたが園バスでの取り置き事故が不安になります。 しっかりと対応していただけたら心配ないことだと分かっていますが、こういった問題も出てくると言うことを願っています。 いただきたいです。 だからといって徒歩や自転車や自転車で毎日送迎しんどい厳しいです。 大津幼稚園だと家から近く徒歩で送り届けることができるので安心できます。	その他	その他
353			通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の事情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	その他	通園支援

乗談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁			
354	354	<p>また待機児童の問題もある中で、これも園にするまたは幼児園にするのはどうでしょうか。幼児園に3歳児から対象年齢で預かりの時間が伸びるといふかたちなので今の大津幼稚園の規模でも行えるかと思っています。</p> <p>そして待機児童問題も緩和してどちらにしたいしてもプラスになるのではないかと考えられます。</p> <p>・夫婦ともに働きたい、という家庭が増えているので、実際は「保育時間が希望通りであること」の項目が、もっと重視されているように思う。預かってもらえる時間が短いと、フルタイムで働くことは不可能なので、現状では、保育園を運営はできるが、幼児園の方が保育園の方に利用希望が多いのは、そういうことだと思う。</p> <p>・長男入園時、保育園も考え、市に入園条件など聞いた際「フルタイムで働いていても入園できるかわかりません！」と一服され、幼児園で探した。(働くつもりでした。)待機児童問題が改善されてほしい。</p> <p>・幼児園に子どもを通わせなかったため、そのためには仕事を辞めなければならなかった。(どうしても朝間に合わないの。) </p> <p>・幼児園は教育、保育園は保育をすることであったところといった違いがあることや、その他園の特色など理解したうえで、園を選択できるようなるのが理想では。</p>	<p>認定こども園</p>	
355	14	<p>二一ス調査</p>	<p>今後の施策の参考とさせていただきます。</p>	<p>待機児童</p>
356	27-30	<p>幼稚園教育の在り方について</p>	<p>架け橋プログラムは、市立幼稚園が中心となって取り組んでおります。今後、子ども達が、小学校での学びや新しい環境に適応する力を養い、前向きな気持ちで次のステージへ進む準備を整えることができるよう、市立幼稚園が中心的役割を担いながら、地域の就学前施設と小学校との連携を図り、架け橋期の教育の推進に取り組んでいくことを求めています。</p>	<p>幼小連携</p>
357	49-53	<p>検討経過とその概要について</p>	<p>園の特色については、これまでの育ちの観点から、各園の良い環境を継承できないかなどの意見が出ていることから、「第3章基本的な再編等の計画」に追記を行います。また、跡地利用についてはご意見として承ります。</p> <p>蒲した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。</p>	<p>園の特色 地域との関わり</p>

連番	案談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細園所			
358	49-53	検討経過とその概要について	<ul style="list-style-type: none"> -もしも統合され、学区外(離所幼稚園)まで通うとなれば、送迎や朝の時間の負担が増えて困る。 -運転免許もなく、3人以上の未就学児がいる、幼稚園が遠方の家庭は、どうやって通園するのか、徒歩園内の園がなくなれば、自宅保育をしない。園/バス整理や近隣保育園での受け入れなどの代替措置は必須。 -幼稚園に通うより小さな子どもの負担を考えると、家から園に近いことほけない。 -夫婦共働きなどにより、園児数減少は理解できるが、園が小学校学区外になると通園手段や時間等も変わり、園児数減少を加速させるように思う。実際、学区外にしか幼稚園がなくともすれば、近くの保育園を探すと、思うという声もある。 -統合とする前に、市としては幼稚園の園児数が増えるよう何が対策をしてくださっているのか？ 	<p>通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。なお、転園を希望される家庭への対応については、市担当所属とも共有します。</p> <p>既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の拡充」が提案され、順次実施されています。</p> <p>その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。</p> <p>これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。</p>	通園支援 預かり保育の拡大
359		358の続き	<ul style="list-style-type: none"> -働く保護者も増えているため、給食が導入されると負担が増えると思う。また、車送迎が可能となれば、仕事に行く人にとっても送迎がスムーズになったり、少し離れたところからでも登園しやすくなるのではと感じる。 -就労に関わらず、預かり保育が無償化になると助かる。 -統合すれば一時的には、同年代の子どもの集団生活を営む場が大切にされる幼稚園教育になるのかもしれないが、持続的に園児数を保ち、幼稚園教育の在り方について(27ページ～)にあるような、その他の項目も実現し続けることはできるのか。 -小学校教育にもつながる。今まで積み重ねられてきた幼稚園教育をもっと大切に考えてほしい。教育保育一本化するつもりで考えておられるのなら、ぜひ幼稚園のような教育環境を残す方法を考えていただきたい。 	給食 預かり保育の拡大	
360	47	市立幼稚園の特徴 綱目	<ul style="list-style-type: none"> -この表は、いつのよう調査されたものなのか。 -四季を感じる樹木・アケボノ、ピロ、モミジもある。 -砂場も2カ所あり。 ①少人数保育の良さ -3学年合同保育をしいて、他の学年からも沢山刺激を受けています。 -先生が子ども一人一人に丁寧に関わってくれる少人数の良さを感じています。 -園児数が少なくても、近隣の園とよく交流を志して同学年の階段より大きい集団を体験できています。 -園児数が少ないからこそ子供たちが主体性をもち行事を進めることができている。 -子どもの思いつきを重視できるフットワークの軽さは行事の良さのひとつです。 -小規模園では、教員が園児一人ひとりの特性や家庭環境を深く把握しており、非常に手厚い教育が行われています。 -小規模園は、大規模な集団が苦手な子や発達に特性のある子にとって必要な場所です。 ②遠坂幼稚園の恵まれた環境 -広い園庭や畑、裏山があり、子どもたちは自然と触れ合いのびのびと遊んでいます。 -送り迎えの面で、未就学児連れや悪天候の時には駐車場があるので助かっています。 -駅の周辺で小さい子どもが安全に遊べる公園が少ないため、降園後に広い園庭で遊べるのは助かっています。 -大津駅が近く、電車通勤でも通勤と送迎を合わせられるため夫婦で育児協力しやすいです。 ③幼保連携の効果や小学校の備にあることの利便性 -小学生との交流が定期的であり、小学校へもよく行っているため、入学前から小学校に慣れています。 -書道や科学などいろいろな分野で先生とも交流をもちます。 -行事にも小学校の校長先生や教頭先生が来られてくれるため、子どもも保護者も入学に向けて安心感があります。 -幼稚園の隣が小学校のため、小学校の参観へも登園後すぐに行けるのでとても助かっています。 -道園がそのまま通学の練習になり、入学後の事故防止や防犯になります。 ④地域との交流 -地域の方やお店も遠坂幼稚園の子どもたちにも愛着を持って接してくれています。 -子どもたちもいろいろな施設やお店に何回か行っており、自分たちの住む町なのを感じています。 -幼稚園が交流しているお店は幼稚園の近くで自宅からも徒歩で行けるので、子どもと行くことも親子の楽しみになっています。 -小学校区と連携した幼稚園は、地域住民とのつながりを育む場でもあり、地域のつながりがあることで育児の孤立感を減らせます。 	園の特徴	
361			<ul style="list-style-type: none"> 34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。 一方で、本来幼稚園は「集団生活を営む場所」であることから、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られるような、子ども同士の関わりを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましい」と考え検討を行ったものです。 	適正規模	
362			園の特徴については、こどもの育ちの観点から、各園の良い環境を継承できないかなどの意見が出ていることから、「第3章基本的な再編等の計画」に追記を行います。	園の特徴	
363			<p>架け橋プログラムは、市立幼稚園が中心となっており取り組んでおります。</p> <p>今後も、子ども達が、小学校での学びや新しい環境に適応する力を養い、前向きな気持ちで次のステップへ進む準備を整えることができるよう、市立幼稚園が中心役割を担いながら、地域の就学前施設と小学校との連携を図り、架け橋期の教育の推進に取り組みしていくことを求めています。</p>	幼小連携	
364		遠坂幼稚園PTAとしては、今回の再編案には賛成できません。遠坂幼稚園が無くなることには反対です。	<p>地域との繋がりがという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。</p>	地域との関わり	

連番	案談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類	
	頁	詳細箇所				
371	19	令和16年4月比叡平こども園開設幼保連携型認定こども園の設立	私は大石地区で主任児童委員をしています。説明会に参加して、これはもう決定事項であって、周知する為の説明会だったのか…と、感じました。それは思いたくないので意見させていただきました。 大石幼稚園を存続、或いは、大石にも幼保連携型認定こども園を開設してほしい。 大石には保育園がなく、幼稚園も1施設しかありません。よって、働きたい親は働けたところにある保育園に預けに行かざるを得ません。 幼保連携型認定こども園が開設されれば、速くの保育園に預けに行っていたご家庭も利用しやすい地元の施設に預けることができます。 もし、大石に幼稚園が無くなれば、子育てに不安を持つ家庭が増え、これから大石に住みたいと希望する人たちも減り、過疎化に拍車をかける事に繋がるとは、思います。	認定こども園		
372	19	令和16年4月比叡平こども園開設幼保連携型認定こども園の設立	大石は、「富永川・富永川小田原川・富永川」など、今でも幼稚園まで通園するに時間がかかっています。仮に、さらに遠方までの送迎が必要となると、日に2回の往復、今以上に保護者の負担が増えてしまいます。 送迎にかかる時間的負担は言うまでもなく、車で行くとなるとガソリン代・バス代など経済的負担が増えます。それも車の免許を持っていない保護者も現れます。 大石には、3人以上の子どもの育てている家庭も多く(これほどでも素晴らしい事です)、その家庭には小学生のいることが多々あります。遠方までの送迎時間が増えれば、低学年の下の時間間に合わないなど、親にとっても、子どもにとっても、不安なことが増えてしまいます。決して、子どもたちや保護者に寄り添っているとは言えません。幼稚園、小学校が近くにあり、常に連携・交流できてこそ安心できると思います。 大石幼稚園に通園していた人・している子どもたち・そのご家庭の方々は、大石が自然豊かで、地域との連携もしっかりとあり、環境の良さを生かした質の良い教育がなされていることをよく知っています。	通園支援	今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	
373		372の続き	今の季節には、コシアカツバメが巣を作り、子育てを始めます。オタマジャクシ・カエルの・がたつむり・メダカ・てんとう虫・鈴虫にバッタ・自然の生き物には事欠きません。 5月頃には田植え(地域の方が田んぼを提供して下さっています。)をし、その生育を見守り、秋には収穫をします。収穫したコメは、地域の方々が機械を準備してポン・菓子作り(美濃・試食・配布)をして下さり、恒例になりました。 その他、サツマイモの苗付け・手取り、焼いも大会…大石ならではの生きた教育がたさんできます。 節分には、幼稚園に隣接する介護老人福祉施設のペラシタから何人も鬼さんが姿を現し園児たちを驚かせて下さっています。教育的にも、こうしたお年寄りの交流はとても大切です。 何と言っても、目と鼻の先には大石遊公園があり、四季を通して草花を通して、子どもたちの散歩・遊びには最高の場所です。 程よい距離に駐車場(何十台も駐車可能)もあり(10台程度なら園の斜め向かいにもあります。但し、地域と要相談)、大石小学校はもとより、病院(南大津クニツク)、交番・郵便局・コンビニエンスストア(バス停など徒歩2～3分)にあります。	地域との関わり	地域との繋がりがという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した地域との関わりの中で取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	
374		373の続き	園児の人数で、バス切り捨ててはならず、しっかりと周りの環境を見に来ていただきたいと思えます。 今後、新名神高速道路の「園門サービスエリア」が新名神大津スマートインターチェンジ(仮称)に併設されます。これは予想ではありますが、かなり大規模なサービスエリアだと聞いているので、従業員の募集も大規模に行われると思います。大石地区からだけでは無く、遠方からの通勤もあると思います。となれば、通勤途中に子どもを預けられる園があれば安心して働くことが出来ます。さらには、これは期待でもありますが人口増加に繋がるとは思えないかと思っています。仮に今、園が無くなってしまう場合は今後、新たに園ができることも考え難いです。 決して、1月の議事録で述べられているような「大石という土地柄、そこに住んでいる方はいろいろ覚悟されていると思う。…早く再編をして、子どもがある程度人数の多いところに行つて、豊かに育っている方がすつといいのかなと思う。」とは、なりません。何きもって豊かさを育むと云うのでしようか、ちゃんと、幼稚園・小学校はあると思つて住んでいきます。 いろいろ決まってくる前に、再編についても当該地域に来て説明してほしいと思えます。関心がなかったり、そもそも、「幼稚園が無くなるなんてあり得ない。」と思つているご家庭もあると思えます。	再編基準	再編等の検討にあたっては、園児数の推移だけでなく施設の状態や園の特徴、地域の状況等総合的に判断して検討しています。	
375		374の続き	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の間わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ねて検討したものです。	適正規模		
376	33	(1)適正規模について	適正とは思えません。 幼児が1クラス20人、25人は多いと思います。1クラス10～15人程度であれば、手厚い保育・教育と言えます。ですが、それ以上だと、この時点で取り残される子どもが出てきそうに思います。その状態で小学校に進んでしまつた小学校も厳しいと思います。	適正規模	適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらいの規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものです。今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を1学級の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上としたこれまでの大津市における検討結果を採用したものです。	

家談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
番号	園所			
377	許慎園所	<p>1. 市立幼稚園は、大津市の就学前教育・保育の理念を具体化する公立の現場である。本計画案では、市立幼稚園がこれまで、園の高い幼稚園教育、小学校との円滑な接続、地域の特徴を生かした教育、地域の子育て支援、特別な配慮を必要とする子どもを含む教育機会の保障など、重要な役割を果たしてきたことが示されています。これは、市立幼稚園が単なる教育施設ではなく、大津市の就学前教育・保育の理念を地域の中で具体化する公立の現場であることを意味します。</p> <p>また、大津市は「大津市幼児教育・保育共通カリキュラム」を策定し、乳幼児期から学齢期までの学びの連続性を重視した幼児教育・保育の推進を回ってきました。市立幼稚園は、その理念を現場で実践し、地域の子どもの育ちを支える役割を担ってきたものと考えます。</p> <p>2. 公立幼稚園は、特別な配慮を必要とする子どもを含め、平等な教育機会を保障する「最後の砦」である市立幼稚園、保育所、認定こども園などの公立就学前施設は、単に子どもが通う教育・保育施設であるだけでなくあります。地域において、子どもの発達、健康、生活、家庭状況の変化を早期に把握し、必要に応じて関係機関につながる公的支援拠点としての役割を担っています。とりわけ、市立幼稚園がこれまで果たしてきた役割のうち、「地域の子育て支援の推進」および「平等に教育の機会を提供し、誰もが学び成長できる環境の保障」は、地域の公的施設であるからこそ担ってきた重要な役割です。計画案においても、市立幼稚園は、未就園児親子通園事業や一時預かり保育等を通じて地域の子育て家庭を支援してきたこと、また、年度途中で園児入園、特別な配慮を必要とする子ども、保育の必要な子ども、児童養護施設で生活する子どもに対して、平等に教育の機会を提供してきたことが示されています。民間園も地域の教育・保育を支える重要な存在ですが、入園の可否や受け入れ体制には各施設の実況が反映されます。民間園については、公立・民間を問わず、定員や保育士配置の状況によって、子どもが希望しても入所できない場合があります。そのように、保育所に入れない子ども、特別な配慮を必要とする子ども、家庭的な支援を手厚く必要とする子どもを、地域の公立幼稚園が受け止めてきた役割は大きいものです。つまり、公立幼稚園は、単に幼稚園教育を提供する施設にとどまらず、他の施設にながりにくい子どもや家庭を受け止め、平等な教育機会を保障する「最後の砦」として機能してきたと考えます。したがって、公立園の配置を検討する際には、単に園児数や施設効率だけでなく、その地域において、公的責任に基づく教育・保育、発達支援、子育て支援、相談機能、そして特別な配慮を必要とする子どもの確実な受け皿がどのように保障されるのかを、具体的に検討する必要があります。</p> <p>とくに、公立幼稚園と公立保育所を合わせて、特別な配慮を必要とする子どもを相当数受け止めている現状を踏まえれば、再編によってその受け皿が地域的に偏ったり、一部の園に集中したりすることがないよう、公的に保障する必要があります。市立保育所が設置されていない地域の市立幼稚園を統廃合することは、単に幼稚園が一つなくなるという問題にとどまりません。その地域から、特別な配慮を必要とする子どもや家庭的支援を必要とする子どもが、確実に相談し、受け入れられる公的な就学前支援の拠点が失われることを意味しかねません。また、自家用車を持たない家庭にとって、通園距離の拡大は深刻な問題です。送迎バス等の通園支援が確実な保障される見通しがない中で、歩いて通える範囲に公立園がないことは、特別な配慮を必要とする子どもとその保護者にとって、選択肢を狭めるだけでなく、就学前教育・保育へのアクセスそのものを困難にするおそれがあります。</p>	<p>1点目について、ご意見として承ります。</p>	その他
378			<p>2点目について、特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討する必要があると考えます。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。</p> <p>また、通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に即じた通園支援の方法を検討することを求めています。</p>	<p>特別な配慮 通園支援</p>

進捗	頁	家談当箇所	意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
379	詳細箇所	<p>3. 「11中学校区1幼稚園」への再編では、公立園へのアクセスと選択可能性が担保されている。今回の再編案では、「11中学校区1幼稚園」から「11中学校区1幼稚園」へと考え方を転換する方向性が示されています。少子化や保育ニーズの変化を踏まえ、一定の再編検討が必要であることは理解します。しかし、再編の判断にあたっては、園児数や施設効率だけでなく、その地域に公立の就学前教育・保育施設が存在するかどうかを重要な判断要素とすべきです。</p> <p>また、仮に中学校区を単位として地域を広げて考えるのであれば、その中学校区内には、公立の幼稚園、保育所、認定こども園等が確保されることを望みます。なぜなら、利用者が公立園を退かなくてはならないという状況に置かれるのではなく、「ここ、あそこ」に、家庭の状況、子どもの特性、通園距離、保護者の就労状況等に応じて選択できる余地を残すことが重要だからです。</p> <p>とわけて、特別な配慮を必要とする子どもについては、再編により一つの公立園に受け入れが集中しないよう配慮する必要があります。公立園が中学校区内に一つしかない場合、支援を必要とする子どもが園以外の園に集中する可能性があります。園の人的・物的体制に過度な負担が生じるとだけでなく、子ども一人ひとりの個性にも影響を及ぼす可能性があります。また、通園距離が長くなることは、発達や健康に課題のある子どもや、その保護者にとって大きな負担となります。したがって、中学校区を単位として再編を検討する場合であっても、幼稚園、保育所、認定こども園等を含む複数の公立施設を配置し、子どもの特性や家庭の状況に応じて、公立園を選択できる余地を確保することが必要です。</p> <p>公立園は、単に施設数として存在すればよいものではありません。地域の子どもと家庭にとって、実際に通うことができ、相談することができ、必要に応じて選り取ることで利用できる身近な公的施設である必要が求められます。したがって、「11中学校区1幼稚園」という考え方を機動的に適用するのではなく、中学校区内における公立幼稚園・公立保育所・公立認定こども園の配置状況を総合的に見とらえて、公立園へのアクセスと選択可能性が確保されるよう再検討すべきです。</p> <p>特に、市立保育所が設置されていない地域において市立幼稚園が統合される場合、その地域から公立の就学前教育・保育の拠点が失われる可能性があります。これは、地域の子育て支援、発達や健康に課題のある子どもの早期把握と支援、保護者の孤立防止、小学校への入学準備支援から、大きな影響を及ぼすと考えられます。</p> <p>4. 幼児教育を中心とする再編案については、教育・保育の質と地域の子育て支援の確保も必要である</p> <p>本計画案では、再編基準については、基準とする年齢を「3歳児」基準とする人数を15人とし、3年連続して15人を下回る場合には、原則として再編等の検討対象とすることが示されています。また、10人を下回るかどうかによって第1段階・第2段階の検討に区分し、3年連続して5人を下回った場合には、翌年度4月1日に再編等を行うこととされています。しかしながら、再編の判断が依然として園児数を中心に行われてしまっている点については、慎重な検討が必要とされます。</p> <p>近年のOECDの幼児教育・保育に関する議論では、教育・保育の質は、単に一定以上の集団規模を確保することによって保障されるのではなく、職員配置、子どもと職員の比率、集団規模、職員資格などの構造的な条件と、子どもと保育者の相互作用、子ども一人ひとりの成長的な関わり、遊びや生活を通した学びの質などのプロセスの質をあわせて捉える必要があります。OECDのTALISStartingStrong2024でも、子どもと大人の比率、集団規模、職員資格などがあります。</p> <p>したがって、幼児教育・保育の質を担保するうえで重要な構造的要素として捉えています。</p> <p>また、幼児教育・保育の質は、単に集団規模の大小だけで判断できるものではありません。子ども一人ひとりの成長的な関わり、保育者の安定した関係、少人数だからこそ可能な丁寧な支援、家庭や地域との近さ、特別な配慮を必要とする子どもを含む包摂的な環境なども、重要な質の要素です。</p> <p>再編基準を適用するにあたっては、園児数だけを主要な判断材料とするのではなく、当該地域における公立園の配置状況、通園距離、特別な配慮を必要とする子どもの受け入れ状況、保護者支援、発達相談、子育て相談の機能、小学校との関係、地域における公的支援拠点としての役割を総合的に評価する必要があります。</p> <p>とくに、市立保育所が設置されていない地域では、市立幼稚園が地域における唯一の公立就学前施設として機能している場合が考えられます。そのような地域において、園児数のみを中心に再編を判断することは、公立の就学前教育・保育および子育て支援の拠点を地域から失わせる結果に及びかねません。</p> <p>以上ことから、現在の再編基準を機動的に適用するのではなく、OECD等の国際的幼児教育・保育の質に関する議論も踏まえ、教育・保育の質、地域の実情、子どもと家庭への支援機能を総合的に評価した柔軟な運用と再検討を求めます。</p>	<p>検討委員会の考え方（各課回答）</p> <p>3点目について、再編等の検討については、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特性などについても慎重に検討しております。</p>	<p>特別な配慮 通園支援 再編基準</p>	
380		<p>4. 園児数を中心とする再編案については、基準とする年齢を「3歳児」基準とする人数を15人とし、3年連続して15人を下回る場合には、原則として再編等の検討対象とすることが示されています。また、10人を下回るかどうかによって第1段階・第2段階の検討に区分し、3年連続して5人を下回った場合には、翌年度4月1日に再編等を行うこととされています。しかしながら、再編の判断が依然として園児数を中心に行われてしまっている点については、慎重な検討が必要とされます。</p> <p>近年のOECDの幼児教育・保育に関する議論では、教育・保育の質は、単に一定以上の集団規模を確保することによって保障されるのではなく、職員配置、子どもと職員の比率、集団規模、職員資格などの構造的な条件と、子どもと保育者の相互作用、子ども一人ひとりの成長的な関わり、遊びや生活を通した学びの質などのプロセスの質をあわせて捉える必要があります。OECDのTALISStartingStrong2024でも、子どもと大人の比率、集団規模、職員資格などがあります。</p> <p>したがって、幼児教育・保育の質を担保するうえで重要な構造的要素として捉えています。</p> <p>また、幼児教育・保育の質は、単に集団規模の大小だけで判断できるものではありません。子ども一人ひとりの成長的な関わり、保育者の安定した関係、少人数だからこそ可能な丁寧な支援、家庭や地域との近さ、特別な配慮を必要とする子どもを含む包摂的な環境なども、重要な質の要素です。</p> <p>再編基準を適用するにあたっては、園児数だけを主要な判断材料とするのではなく、当該地域における公立園の配置状況、通園距離、特別な配慮を必要とする子どもの受け入れ状況、保護者支援、発達相談、子育て相談の機能、小学校との関係、地域における公的支援拠点としての役割を総合的に評価する必要があります。</p> <p>とくに、市立保育所が設置されていない地域では、市立幼稚園が地域における唯一の公立就学前施設として機能している場合が考えられます。そのような地域において、園児数のみを中心に再編を判断することは、公立の就学前教育・保育および子育て支援の拠点を地域から失わせる結果に及びかねません。</p> <p>以上ことから、現在の再編基準を機動的に適用するのではなく、OECD等の国際的幼児教育・保育の質に関する議論も踏まえ、教育・保育の質、地域の実情、子どもと家庭への支援機能を総合的に評価した柔軟な運用と再検討を求めます。</p>	<p>4点目について、再編等の検討については、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特性などについても慎重に検討しております。</p>	<p>再編基準</p>	
381		<p>5. 市の計画案自身も、市立幼稚園について「特別な配慮を必要とする子どもを多く受け入れられていることから、コスト面の面で評価することはできない」としています。また、再編等の方向性検討においても、園児数だけでなく、園舎・園庭などの物理的状況に加えて、教育環境や子どもの育ちの環境という観点から検討が必要であるとされています。</p> <p>この点からも、市立幼稚園の再編は、単なる園児数の減少や施設運営の効率化の問題としてではなく、地域における公的就学前支援の保障、特別な配慮を必要とする子どもの受け入れ、保護者支援、子どもの育ちの環境という観点から総合的に検討されるべきです。</p>	<p>5点目について、今回の検討は、本来幼稚園が集団生活を営む場所であり、集団規模の確保による子ども同士の間わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであり、施設運営の効率化の問題として検討したものでありません。また、再編等の検討については、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特性などについても慎重に検討しております。</p>	<p>特別な配慮 再編基準</p>	

連番	家談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
382			<p>6. 市立保育所がない地域では、幼稚園の存続または公立認定こども園化等を再検討すべきである。以上の点を踏まえ、南郷・田上など、市立保育所が設置されていない地域については、単純に近隣幼稚園との統合を進めるのではなく、地域に公立園を存続させる方向で再検討することを求めます。</p> <p>具体的には、市立幼稚園の存続、市立保育所の設置、または幼稚園機能と保育所機能の双方を備えた公立認定こども園化を含め、地域の実情に応じた検討を行うべきです。</p> <p>計画案では、公立認定こども園について、令和6年4月に比較平成こども園が開設されたことが示されており、公立園の再編の選択肢として認定こども園化を検討してきた経緯も確認できます。この経緯を踏まえるならば、市立保育所が存在しない地域こそ、幼稚園の単純な統合ではなく、公立認定こども園化を含む地域実情に応じた再検討が必要です。</p> <p>7. 行政は、最も幼い子どもの最善の利益を中心に据えるべきである</p> <p>行政は、財政効率や施設規模の適正化だけでなく、最も弱い立場に置かれやすい人々、とりわけ最も幼い子どもたちの利益を最優先に考える責任があります。就学前の子どもは、自ら声を上げることができません。だからこそ、行政計画においては、子どもの育ちの連続性、地域で育つ権利、支援を必要とする子どもと家庭への公的責任を中心に据える必要があります。とくに、発達面・健康面において個別の支援や配慮を必要とする子ども、家庭の状況により支援を必要とする子どもにとって、地域に身近な公立園が存在することは、単なる利便性ではなく、育ちと生活を支える重要な条件です。再編にあたっては、そうした子どもたちと家庭が不利益を受けないよう、慎重な検討が求められます。</p> <p>8. 意見のまとめ</p> <p>以上の理由から、今回の再編計画においては、園児数を中心とする再編基準を機械的に適用するのではなく、教育・保育の質、地域における公立園の役割、特別な配慮を必要とする子どもの受け入れ、通園距離、保護者支援、子育て支援機能などを総合的に踏まえた柔軟な運用と再検討を求めます。</p> <p>あわせて、市立保育所がない地域において市立幼稚園を統合することにより、公立の就学前教育・保育の拠点が失われることのないよう、幼稚園の存続、市立保育所の設置、公立認定こども園化等を含めた再検討を強く求めます。さらに、中学校区を単位として再編を検討する場合であっても、特別な配慮を必要とする子どもが一つの公立園に集中することのないよう、また自家用車の有無や通園距離によって子どもと家庭が不利益を受けることのないよう、中学校区内に複数の公立施設、すなわち公立幼稚園、公立保育所、公立認定こども園等が配置されることを求めます。公立幼稚園が公平な教育機会を提供する最後の砦として果たしてきた役割が、再編後も地域的な権りなく保障されるよう、具体的な方策を示すことを求めます。</p>	<p>認定こども園</p> <p>再編基準 予算削減・効率化</p>	
383			<p>7点目について、33ページの適正規模に記述のとおり、子ども達の育ちの環境として「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られるような、子ども同士の関わりを十分に持たためには、一定の集団規模が確保できることが望ましい」と考え検討を行ったものであり、財政効率を目的としたものではありません。</p>	<p>再編基準 特別な配慮 子育て支援全般</p>	
384			<p>8点目について、再編等の検討については、35～36ページに記事のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。</p> <p>また、特別な配慮を必要とする子どもに限っては、検討委員会でも、しっかり検討する必要があると考えます。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。</p>	<p>通園支援 再編基準 特別な配慮 子育て支援全般</p>	
385	14	<p>図11 ニーズ調査 ①自宅の近くにある ②園長・スタッフの対応や印象がよい ③給食を提供している ④教育・保育の内容がよい</p>	<p>ご意見として承ります。</p>	<p>給食 通園支援</p>	
386	12	<p>図10 市立幼稚園は園あたり約10人を受け入れており、民間園の2倍以上になっている。</p>	<p>特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討するよう提案をしています。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があり、特別な配慮という意見も出されています。</p>	<p>特別な配慮</p>	

連番	案談当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
387			<p>○大津市における未就園児の教育のビジョン</p> <p>保護者の就労がすすんでいる現状はありながら、幼稚園は幼稚園教育内容の継承、地域の人々、環境の中で大津の子どもを育てる中心の塔であって欲しいと思います。「大津市幼児教育・保育共通カリキュラム」が策定されており、モデルや道標は公教育が担い、実現して検証していくものです。地域の子どもが地域で育つ保証として、幼稚園型、あるいは幼保連携型こども園の設置も視野に入れるべきだと考えます。</p> <p>今回は、幼稚園を適正規模にすることで保育の質を確保する幼稚園教育にスポットがあつていますが、大津市が就学前教育をどのようにすすべていくべきか、特に人間の土台となる性格や望ましい行動習慣が形成されるといわれ、また、非認知能力が育つとその後の前向きに生きる態度、人との関わり方、困難を乗り越える力につながるというのれいわれている大事な幼児期に、公教育の果たす役割、位置づけを大きく示すべきだと思います。</p>	<p>認定こども園については、貴重なお意見として承ります。</p>	認定こども園
388	47	表14市立幼稚園の特徴 大石 小学校区内唯一の就学前施設	<p>学区に他の就学前施設がないので、保護者の就労のニーズ、就学前保育を確保するために、公立による子ども園がふさわしいと考える。</p> <p>隣の学区とも兼ねさせているので、拠点園までの通園時間が長くすぎるのではないかと。</p> <p>再編をすすると、大石幼稚園が子育て支援を担っていたので、園がなくなると親子支援の場もなくなる。就学前の施設がなくなると、子育て世代から遠はれない地域となり、大石学区の街づくりにも影響を及ぼすと考えられる。</p>	<p>認定こども園化については、貴重なお意見として承ります。</p>	認定こども園
389			<p>預かり保育時間の延長で、「働いていても幼稚園」のローガンを掲げられていますが、浸透しているとはなかなかいえない現状です。母親の就労状況(p5,6ページ)では、フルタイムの方は40%で、認可保育所利用の割合が高いです。幼稚園は専業主婦・主夫から保育時間が短い幼稚園を選んでいるとわかりますが、フルタイム、パートの預かり保育利用割合が低いのは、幼稚園の中でそもそも働いている人の割合が低いからなのか、周知ができておらず対象者を確保できていないのかと思います。</p> <p>「預かり保育」という言葉から受ける印象も、「お預けしますね」「はい、お預かりしました」と、イベントの託児所よりもよくなる軽さが感じられました。保育後の遊びや生活の充実を回り、広く周知していく事で、幼稚園教育も選択できるように認識が定着して欲しいと思います。</p>	<p>23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという懸念があります。</p> <p>一方で、園に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。</p> <p>その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。</p> <p>これまで実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。</p>	預かり保育の拡大
390	52	が打出中学区大津幼稚園の再編について	<p>今回の再編について、3つの視点で反対します。</p> <p>①適正な集団規模の根拠について</p> <p>②公共サービスの観点から</p> <p>③住民感情の観点から</p> <p>①適正な集団規模とは、何に基づいているのか疑問。</p> <p>適正という言葉の意味は、その根拠の曖昧さ、その根拠の曖昧さ、その根拠の不明確さです。小規模の集団生活をした場合、個々人の主体性や社会性が失われる根拠などないと考えます。それこそ、何十年に渡り、小集団と大集団で育った人間の統計的高齢をしてきたのか、大変疑問であります。今まで、教育現場で常識的に考えられていた事が、多くが訳りませんでした。</p> <p>歴史的事実があります。歴史的に見て、確実な実証実験(論理性ではなく、数十年の実証成果)がないと真実とは言えません。</p> <p>仮にも市が言われることが、そうであったとしても、教育を幼稚園という枠に何故、限定して考えるのか?幼稚園は市民社会の中の1つであります。昔では、子ども達は、町内組織の中で集団生活を学んできました。行政のあるべき姿は、幼稚園の統廃合ではなく、市民社会の中に、どうやって幼稚園を参加させていくかであると思います。少なくとも、現在の大津幼稚園は、毎年我々が実施している七夕まつりに積極的にご協力を頂いており、又、昨年は、大津幼稚園の園児さん達の合唱を第四回大津百町まつりに参加も頂いております。小集団ならではの地域コミュニケーションが醸成されています。このことは、幼稚園の統廃合がなれば、地域イベント、地域交流の減少を意味します。従って、総務会は、市が言う集団生活の社会性の育成に逆行することです。</p>	<p>1点目について、適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらい規模が望ましいか、という教育の観点から検討されたものです。</p> <p>今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を1学級の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上としたこれまでの大津市における検討結果を採用したものです。</p> <p>また、34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。しかし、幼稚園教育においては、33ページに記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨し、一定の集団規模の機会が得られる」ような、子ども同士の関わりを十分に持つための必要は、地域との繋がりがより強くなるべきと考えられます。20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。</p>	適正規模 地域との関わり

連番	案談当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
391	390の続き		②公共サービスの観点から 今回の統廃合の根拠には、市は言われていませんが、財政の問題があるかと考えています。教年前、市民センターの統廃合の問題もそうであつたと思います。 根本的な視点として、行政サービス、教育に収支の観点を入れるべきではありません。何のために取るのか？民間企業と行政との根本的違いを市は理解すべきです。小乗園の教育に問題があるかと考えると、教育へれを改善する為、税を使えます。そこに収支の観点を入れてはいけない。市が財政上の観点から、教育への投資ができないのであれば、市の全てのお金の支出を減らし出し、精算すべきです。 私が言っていること、先ず、全ての補助金を精算すること、財源は生れる筈です。無駄な補助金をやめればその額の資金が生まれる筈です。また、議員、市長の給与の見直し、定員削減も実施すべきではないかと思えます。市の中で解らない無駄は山ほどあります。それこそ、民間のコスト意識を入れるべきです。市が自ら痛みのある努力をしない、安易に統廃合をすべきではないと思えます。教育にお金を投入することは、大津の未来に投資する事でありです。	2点目について、再編等案は、2ページに記載のとおり、質の高い教育・保育の提供を目標として検討を行っているもので、予算削減案ではありません。 なお、財源に関しては、市の施策に対するご意見として承ります。	予算削減・効率化
392	391の続き		③住民感情の観点から 自分の故郷が無くなって悲しくない人はいません。自分の母校が無くなって悲しくない人もいません。大津幼稚園は創園何年でしょう。恐らく、80年近くにはなるのではないのでしょうか？卒園者の中には、もうお亡くなりになっておられる方も多くおられるでしょう。少なくとも、年20名の卒園者としても、70年間計算で1400人以上の人が声を立てて反対しているでしょう。大津幼稚園は、中央幼稚園ではなく、大津幼稚園であることの歴史の意味合いがあります。そこに、大津幼稚園の歴史の意味、これは大津の幼稚園の歴史でもあります。このことは、大津の教育の歴史の遺産としての意味合いを含みます。パブリックコメントには出てこない地域住民の声を市は聞くべきです。行政からのアクションがない限り住民の真の声はわかりません。一度や二度の説明会で意見集約などできませんし、まして、パブリックコメントで市民の意見を聞いたとは言えません。中央学区、遠坂学区の子供も遠くまで行く。その距離は当然徒歩で行かれます。スクールバスを使うつもりでしょうか？急用が来た時、早退したい時は保護者が向かえに行くのですか？車で行くのですか？車がない人はどうするのですか？おれいちゃん、おれいちゃんを送り迎えしている家庭では、急な場合どうするのでしょうか？ スクールバスになると、行きかえりに地域の人も乗るようになります。益々、地域住民と疎遠になり、地域で子どもを育てる意識が無くなり、地域力が低下していきます。民は悪しは別にして、地域には、地域の意識、風土があります。その風土を無視した形の行政は決してうまくいきません。中央から、遠坂から、平野に行くにせよ、平野に行くのと同じお感情を市は考えたいこととあります。市民の環境、感覚をもっと見るべきでしょう。 声を聞くには、市が地域に入り、住民と直接話し、その回数を何10回も重ねないといけないと思ってください。現状では、市民納得のし難い状態です。	3点目について、20～21ページに記載のとおり、これまでから部分的に規模の適正化を推し進めていることを受けて、改めて全体最適の観点で検討を行ったものです。 また、通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	適正規模 通園支援
393	52	打出中学区大津幼稚園の再編について	反対。鬼山に乗ってほしい。子どもたちを鬼山に乗せるボランティアをしています。	ご意見として承ります。	地域との関わり
394	52	打出中学区大津幼稚園の再編について	反対です。地域とのコミュニケーションがなくなる。大津祭で曳山に登れる貴重な体験を大事にしてほしい。	ご意見として承ります。	地域との関わり
395	52	打出中学区大津幼稚園の再編について	地域との繋がりが途切れ、大津まつりでのふれあい（歴史）もない。地域での子ども教育が必要です。	ご意見として承ります。	地域との関わり
396	52	打出中学区大津幼稚園の再編について	地元で大津祭りのボランティアをしている者です。大津祭りで地元の園児の皆と関わるのを楽しみにしています。地元と子ども達の関わりをずっとなくさないでほしいです。	ご意見として承ります。	地域との関わり
397	52	打出中学区大津幼稚園の再編について	子どもの成長に見合った施設が必要で、保・幼の合併は理に合わない。公の観点、発想は無理が有り。	ご意見として承ります。	認定ことも園
398	52	打出中学区大津幼稚園の再編について	反対します。	ご意見として承ります。	その他
399	52	打出中学区大津幼稚園の再編について	私の知人は中央学区に住居をたまえれば、大津駅にも近く、夫婦共働で大津幼稚園、中央小学校、環境もよく、と引越してきた若い夫婦の夢を壊さないで、お願いです。 2才児のママ、保育園に入れなかった今年、大津幼稚園で週2回遊ばせてもらえ感謝しております。私は79年前大津幼稚園に楽しく過ごしました。	ご意見として承ります。	その他
400	52	打出中学区大津幼稚園の再編について	反対致します。私の娘と息子で通園してありましたが大津幼稚園は当時創立100周年を迎えて記念事業を皆様御協力のおかげで行われました。今から40年程前のご詳細は覚えておりませんがタイムカプセルを地中に埋め何年か後に掘り出し子供達の幼き頃の夢を再確認しました。子供達の大事な時期に大津幼稚園で楽しく育んで頂いた事感謝しております。現在創立139年に向かっているところですね。幾多の苦難を乗り越え現在に至る貴重な伝統を次の世代へと繋いでいけます様応援しております。	ご意見として承ります。	園の特徴

連番	乗談当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
401	52	が打出中学校区大津幼稚園の再編について	大津幼稚園で子供がお世話になりました。小人教でせめて細やかにお世話いただきありがとうございました。だから、再編の意味が本当に今を生きていく方まで、その人達の事を考えているとは思えないです。子供達は少人数だからこも通える子供もいます。隣接する小学校があり、交流があり、成長には大切な事です。小学校に通う時には親しみがあり、安心感があります。	34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。 一方で、本校の内容は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の間わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重な審議を重ね検討したものであります。	適正規模 幼小連携
402	52	が打出中学校区大津幼稚園の再編について	両親共働きが多い今時、朝の夕方の一分一秒を無駄にできない時間を、どうして速くまで送り迎えをすればいいのですか？若い方は一生懸命です。子育て、仕事、両立できるように考えていただきたいです。どうか、もう一度考えていただき、大津幼稚園をのこしてください。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
403	52	が打出中学校区大津幼稚園の再編について	私は大津幼稚園の再編計画に反対します。（息子2人卒園しました）住み慣れた地域や馴染みの先生・友達からはなれることが、子どもの不安やストレスにつながると思う。大津幼稚園は、隣接する中央小学校との交流があり、幼稚園を卒園して中央小に入学者の時に、普段から仲良くしてもらっているお兄ちゃんお姉ちゃんがいっぱい。レスなく、入学できています。また、園が遠くなることで、子育ての環境が悪化、地域全体が子育て世代に選ばれない状況になり、さらなる人口減少を招く可能性があります。保育時間の延長など、これからはもっと浸透してはいけな	ご意見として承ります。 小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではないことから、市立幼稚園が中心となり、卒園した子どもも通園している関係プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子どもにも通園の機会を確保し、保育が提供できるよう努める必要があると求めています。	幼小連携 隔り保育の拡大
404	52	が打出中学校区大津幼稚園の再編について	反対です。息子は結果的には大津幼稚園には入園しませんでした。が、もし、この園であれば入園していたと思います。まずクラブには毎週通っていましたし、先生との関係もできていた中で、入園にはとても悩まれました。なぜ、別の園を選んだのかと聞くと、就業する上で条件、毎日のお弁当といったことがネックになったからです。もし、この点がクリアされたらいいけれど、大津幼稚園は、次に進学する中央小学校と隣接していること、小学校や近所との交流があることが魅力的でしたので選択していたと思います。地元の幼稚園として、再編ではなく、残す道はないのか考えていただきたいです。	ご意見として承ります。	認定こども園 給食
405	52	が打出中学校区大津幼稚園の再編について	大津市が進めている再編について、子どもたちのためにより良い環境を整えていく必要があることは理解しております。その中で、大津幼稚園が再編の対象として検討されていると知り、保護者や地域住民が不安を感じています。大津幼稚園は、子どもたちが安心して過ごせる大切な場所で、地域とのつながりも非常に大切に思っています。	人口推計については、マンション建設の予定も勘案した上で、小学校区ごとに実施しており、市立幼稚園の園児数の推計も、該当の小学校区ごとに算出しているため、「将来的な児童数増加の可能性」については考慮されているものと考えております。	人口推計・園児数推計
406	52	が打出中学校区大津幼稚園の再編について	再編については、一時的な人数だけで判断せず、今後の見通し（近辺のマンション増加など）や地域の事情を考慮していただき慎重に進めたいと願っています。小学校区をまたぐ場合は、子どもたち、保護者にとって大きな影響があると感じます。現場の声に耳を傾け慎重にご検討いただきますようお願い申し上げます。	ご意見として承ります。	給食 隔り保育の拡大
407	52	が打出中学校区大津幼稚園の再編について	「市立幼稚園の再編等について(案)」において、「保育ニーズの変化」について、アンケート調査などをもとに検討されていますが、少し表面的ではないかと違和感を覚えます。 当連坂学区社協では、乳幼児支援事業として、未就園児の子育てママのネットワーク作り(孤立防止)等を目的とする子育てサロンを開催しており、毎年夏前後からの話題として、保育園、幼稚園等の選択が話題となり、検討する上でのママさんたちのニーズを聞かせても分かってはいますが、圧倒的に多くの声は「できれば幼稚園に通わせたい」というものです。その理由は、「幼児教育」という視点からです。その一方で、指摘にあるように、母親の就業希望の増加により、それを実現するためには、今の幼稚園の在り方(運営制度)では、ママ達は「無理、無理」という結論に直ぐに陥りついでしまうということです。無理と考える意見のトップは、「毎朝のお弁当はとても続けられない」です。2番目が、「お迎えの時間が早い」です。もしも、この2点が解消されればどうですかと尋ねると、9割が「幼稚園」という答えが返ってきます。これはまさに、第1に望んでいる「幼児教育」が、現行制度では、受けさせたいけど現実的な制約を受けさせられないということだと思います。つまり、幼稚園が選ばれなくなってしまうのは、今の幼稚園では、「選べなくなった」ということではないでしょうか。	ご意見として承ります。	
408	52	が打出中学校区大津幼稚園の再編について	このようにニーズを満たすためには、確かにコストアップではありますが、少子高齢化が進む日本社会において、これからの市政に望まれることの一つには、「子育てに優しいまち」であり、現にいろいろな工夫やアイデアで、子育て人口を伸ばしている市町があります。単に園児数が減るから集約する発想ではなく、社会一に合わせた幼稚園制度の改革の視点が無いことが残念です。 子ども達と市の将来のため、初等・中等の義務教育を受けられる権利と子育ての権利と子育てのしやすさが大津市の魅力である、と全国に発信できるような施策を検討して頂けると、切に願います。	地域との繋がりがという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。 地域との繋がりがという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との間わり 地域との間わり

連番	案談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
409	26	(4) (5)	50頁にもわたる検討文書の前半は、とても詳細に現在の公立幼稚園が今まで果たしてきた役割が検討され述べられていました。 「平等な教育の機会の提供」これとても大切なことで、公立幼稚園の大きな責任担っていると思います。しかし、再編の理由や必要性については納得のいきにくい物です。「こどもの人数が増え、適正規模ではない。今までの役割が果たせない」という論理は乱暴に思えます。現在の幼稚園利用者の子どもと保護者の実態からみて、少人数でも「平等な教育機会として提供されている」ことで、少数者の利益を守り、地域の特別な配慮を要することを大切にすることを求めています。 少数になったら非効率的である、という論理は、解ります。後半の子どもの人数予測からの、今後の再編計画については、人数のみの視点で述べられ、効率化するため、ということが読みとれます。少数であるが故に切り捨てられることへの視線が弱い様に感じます。 もう少し丁寧に、大津市の公立幼稚園において、特別な配慮を要する子どもへの平等な教育機会提供をしていることが、再編後も保障されるかどうか、という点での検討をお願いします	今回の検討は、本邦幼稚園が集団生活を営む場所であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ねて審議を重ねてきた。特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかりと検討するよう提案をしていますが、支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。	適正規模 予算削減・効率化 特別な配慮
410	12	図1	特別な配慮を必要とする子どもが10人を超えている、という現状は、説明会で「公立保育園で保育士が足りなくて受け入れられない子どもが公立幼稚園に入っている」と説明されました。令和2年より一貫して、300人以上の子どもの公立保育園幼稚園に入っています。受け入れ比率が、民間の保育園や認定こども園よりも高いのは、公立園が長年積み上げてきた保育教育への信頼です。保護者が見学した上で、保育や教育の公的責任や保育教育内容を見て選ぶ、あるいは地域の公立小学校に一緒に行く子どもと育ちあうことを期待して、選択して公立幼稚園を選ぶことも考えられます。この公立保育園や公立幼稚園への期待、保護者から求められている役割を踏まえて、公立が質の高い保育・教育を提供し続けることで、大津市のすべての保育園や幼稚園での保育・教育が「一人一人を大切に」する保育・教育に差別なく保育・教育をうける機会が保障されていると思います。この300人以上の子どものことについて、再編計画を立てる時に行き場が考慮され、地域の中でこの幼稚園や保育園の数が受け止められる、という検討がされたのでしょうか？これらの特別な教育的な配慮を要する子どもにとっては、大きな集団が良い、とは思いません。少人数でじっくり落ち着いた環境の中で安定するという点も、幼稚園の良い点として選ばれている理由になっていると思います。	特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかりと検討するよう提案をしていますが、支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。	特別な配慮
411	12	図1	また、これらの子どもの通園距離が伸びることや地域から離れることは、健康面でも精神面でも負担が増え、通園バスなどの保護も不確かで駐車場整備の観点だけでは、保護者の負担が増すばかりです。 すべての大津の子ども達が共に育ちあう保育・教育を平等に受ける事が可能となるための再編計画であって欲しいとねがいます。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
412			「大津市立幼稚園再編等検討委員会」が設置され、そこで7回の合合のもと示された「大津市立幼稚園の再編等について（案）」を手元に、いろいろと考えさせられました。しかしながら考えれば考えるほど矛盾ばかりが増えてしまい、今日（4/28）まではっきり結論はだせません。休日の日に美濃いづかの幼稚園を見て回り、どこもその園庭環境の良さはそれぞれ地域の特性があり、そのことにも創業者の良さを感ずることもありました。「ここにはこどもの健やかな育ち、命がある」あると今もいえることは、「いまある幼稚園を維持発展的にさらに、より良い教育環境の提供に向けて再考していただきたいとお願ひしたい気持ちはいいと思います。これは反面的判断です。	園の特徴については、こどもの育ちの観点から、各園の良い環境を継承できぬいかななどの意見が出ています。ことから、1票3票基本的な再編等の計画に追加を行います。より良い教育環境の提供に向けて検討します。	園の特徴
413	3～	(2)母親の就労状況について (3)保育ニーズの高まりについて (6)保護者ニーズの変化について	これらの認識がありながら、第2章及び第3章の各論において十分反映した点取り、議論、提案になっていないのが残念である。それが故に、2年連続で全国ワーストレベルという汚名を払拭しうる有効な施策が打てていないのではないかと憂慮する。	ご意見として承ります。	待機児童
414	16	(1)「大津市立幼稚園・保育園のあり方の方針」の策定	「保幼一元化」の取組のみとして、……が明記されました。としながら、一部削れているものの、第2章及び第3章の各論において十分反映した点取り、議論、提案になっていないのが残念である。	ご意見として承ります。	認定こども園
415		全体として	多くの課題があるが、若い世代が大津市に移り住み、安心し、期待を寄せるような思い切った積極的な姿勢の醸成、提案がほしい、そうでない限りワースト記録を克服できないだろう。（案）としてよく検討されている努力は認める。だが、今必要なのは各論にみる原則的な教育理念の実践論ではない。	市の施策に対するご意見として承ります。	子育て支援全般 その他

連番	案談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
416			この後の幼稚園再編等計画の委員会の答申は、乱断と考へます。幼稚園児の減少が、何故起こってきたのか、子どもたち、保護者のニーズを聞き対策をせす、安易な再編という方向に持っていくのは、間違っていると考へます。子ども未来部の発定から一年、委員、及び関係者の方々は、大津市36学区の地域、幼稚園に足を運ばれ、現場の声を聞き答申されたか疑問です。 上田上学区は、平成21年から、奇危機感をもち、上田上の教育を考へる会議を充足し、幼稚園、学校の子どもたち、保護者、先生方と共に、上田上の自然を生かした教育に取り組み、幼稚園の芝生化、里山幼稚園他により、また、幼稚園前に駐車場を設けるなどにより、多くの園児が学区外から来ていただき、今年度、近隣の幼稚園より、多くの園児が、入園してくれています。それぞれの学区、幼稚園の特色を生かした先に、園児、保護者のニーズに答える事が出来、園児数も増えるのではと考へます。また、最終の決定まで、時間があるならば、各幼稚園、上田上幼稚園に是非、お越し下さい。 いつも、佐藤市長がおっしゃっておられるように、データだけで判断するのでは無く、現場主義の視点で、再編問題に取り組んでいただきますようお願い申し上げます。 なお、中学校区との再編でありましたが、上田中学校は上田上学区にあります。	園の特徴について、こどもの育ちの観点から、各園の良い環境を継承できないかなどの意見が出ています。1第3章基本的な再編等の計画に追記を行います。	園の特徴 地域との関わり
417	52	が打出中学区大津幼稚園の再編について	大津幼稚園の再編については、反対です。 付近の保育施設の中でも、とても居心地がよく、子どもたちがのびのびと過ごしながら、たくさんのお友達と遊べる保育施設だと感じています。 ほとんど市街地でありながら、車道りは緩やかで、日当たりのよい広々とした園内に、遠くに見える山景や園内で四季を感じられる植栽計画など、日々、自然の心地よさを感じられる点にも魅力を感じています。 また、大津祭りや大津港など、地域の歴史や文化に身近に触れられるのも素敵だと思います。 こうした環境や学びの機会から、沢山の想や園児さんが育っているのを感じています。 現在、長男が通っており、次男も同じように、この環境の中で育ってほしいと願っています。 ぜひ当園のまま残していただければと願っています。 何卒よろしくお願いたします。	ご意見として承ります。	
418	19	再編基準の見直し	大石学区は、大石幼稚園が就学前施設がないと聞いたので、人数が少ない、園児が減少している、を理由に、再編を検討されてしまうと、通学施設が無くなってしまいう子どもも遠がります。それはどうなのではないでしょうか？	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
419	32	3	大石学区は、高川や菅原など長距離を車で通っているご家庭もあるようです。バスや駐車場を検討していただくので、あれば具体的にバスの経路、時間などを幼稚園ごとに説明するべきなのではないでしょうか？ 必ずこれらのバブリングコメントを、市民の意見として受け入れるだけでなく、改善に充ててください。 私は、南前区議の公立幼稚園に子供を通わせている保護者です。	52ページに記載のとおり、当事者である保護者への説明会などの機会を通して、丁寧に進めていくことを求めています。	通園支援
420	2	1はじめに	統廃合の対象となっているにも関わらず、園の先生方や保護者に対して一切の説明もなく、地方新聞に再編の事を掲載し、公にしたことに対して強く非難します。 在園児や、入園希望の子ども達、保護者に対して配慮もなく、強引で失礼だとは思いませんか？	行なった上で、結果をホームページにて公開させていただきます。 また、新聞報道につきましては、公開の場合である大津市立幼稚園再編等検討委員会等の議論や報告記事を記事にされたものですが、一部、本市の見解と異なっていた内容があったため、ホームページにて本市の見解を掲載しております。	検討経過
421	2	1はじめに	園児数の現象に伴い体験できる遊びが限られるとありますが 南部地域で申し上げます。仮に石山幼稚園に統合し園児数が倍以上となった場合 手狭な園庭に、120名を超える多くの子供達が集まり、体験できる遊びが増えると言えますか？ 現在、南郷幼稚園では、園庭で田植え、園庭でかん祭り、園庭の隅で沢山の野菜を植えて収穫を行う等、大きな園庭で自然における活動、関わりを大切にされています。豊かな自然環境と、経験豊富な園職員さんや先生方との連携で、充実した遊びが学びへと繋がっています。 少人数ならではの、他学年との関わりや交流も毎日あります。	適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらいの規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものです。各園の特徴については、こどもの育ちの観点から、各園の良い環境を継承できないかなどの意見が出ています。1第3章基本的な再編等の計画に追記を行います。	適正規模 園の特徴
422	16	3これまでの取組	「大津市立幼稚園・保育園の方検討会」というものが存在するのであれば、市立幼稚園の再編を具体的に検討するにあたって、現場の園長や先生の声が直に聞ける上記の検討会にて、まず初めにどのような区域分けをするかどうまで具体的に議論されるべきではありませんか？	現在設置されている委員会は、大津市立幼稚園再編等検討委員会とあります。 検討委員会は、関係機関や保護者、地域の方などの代表者で構成され、市全体の方 向性として検討を行ったものです。	その他
423	18		「中学校区プロット」に、規模の適正化を図っていくのであれば 南郷幼稚園・大石幼稚園の統合は当てはまりますが、石山幼稚園は基本的には学区外であることから、これには当てはまりません。	再編等の方向性は、根拠中学校区ごとに検討を行いました。52ページに記載のとおり、石山幼稚園は、再編基準には合致していませんが、南郷幼稚園及び大石幼稚園は、ともに第1段階に該当し、南郷幼稚園及び大石幼稚園ともに園児数が少ないことから、子ども達の育ちの環境を考慮し、石山幼稚園に再編の検討を行ったものです。	検討経過

連番	案談当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
424	23		市立幼稚園における保護者に対する支援をより良くするとありますが、本当にそのつもりですか？園を集約することで、園児数が増える＝預かり保育を利用する園児数も増える 小学校の児童クラブのように、先生の不足と、園児の溢れかえった環境化になるのは目に見えています。それが本当に教育の質の向上ですか？ 南部地域では、石山幼稚園に130人余りの園児が集まり、そのうち仮に半分の児童が預かり保育を利用したら65人。 先生は何人体制で、保育室は何部屋を確保できますか？安全面の確保も可能ではないです。 現在、南郷幼稚園の預かり保育では、全学年の園児が集まり、アットホームな雰囲気、保育室だけでなく園庭でものびのびと活動しています。石山幼稚園の園庭は700平方メートルに対して、南郷幼稚園の園庭は倍以上の1962平方メートルです。	再編等の検討については、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の適正規模・特徴などについても慎重に検討しております。	適正規模
425	23		預かり保育でお迎えされる保護者はほとんどが単です。石山幼稚園では駐車場の確保ができますか？ ドライアシムラ下校を実施している園もありますが、石山幼稚園前の道路は交通量も多く、道幅も広いことから不安が懸念されます、不可能です。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
426	52		石山幼稚園が再編基準に合致していないのであれば、再編を行う必要はないとみなします。 仮に再編を行うなら南郷幼稚園と大石幼稚園は同じ中学校区であることから、まずはこの2つの園が第一段階として南郷幼稚園に統合を行うべきではありませんか？今一度考え直す必要が湧きます。 南郷地域では、大型新築分譲地等は今はないものの、時代の流れに伴い入居者の入れ替わりが始まっています。今後、園児数が増える見込みもある為、石山幼稚園との3園の再編は行方未定ではありません。	再編の方向性については、ご意見として承ります。	検討経過
427	9～11	表4、表5	保育所、認定こども園、幼稚園の園児数について記載があるが、表5にある幼稚園の地域ごと、市立保育園（14園、比叡平こども園含む）や民間保育園（私立幼稚園、こども園）もあわせて検討が必要とおもわれる。	再編の方向性については、ご意見として承ります。	検討経過
428	52	キ	粟津中学校区・北大路中学校区については、唐所小学校に隣接する唐所幼稚園（大津市中庄二丁目）への再編が予定されているが、現在の富士見幼稚園（大津市富士見45番）、晴嵐幼稚園（大津市扇屋川町15番）からは距離がかなり離れている。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
429	52	キ	晴嵐幼稚園については隣接して私立保育園（社会福祉法人つばさ会）があることやほかにも周辺に民間の保育園施設や晴嵐保育園が小学校の近くにあることから民間保育園への流出や既存の晴嵐保育園の利用が考えられるから、そのような説明分析が必要なのではないか。	49ページに記載のとおり、再編等の検討にあたっては、市内の就学前施設の位置関係も参考になりました。	検討経過
430	52	ク	石山中学校区・南郷中学校区は、石山幼稚園（大津市石山寺三丁目）に再編が予定されているが、特に、大石幼稚園については、スクールバスが必要なほど距離が離れている。近隣に代替する民間のこども園等がなければ、通学することが必要になる。大石からの交通の便でいえば田上幼稚園が通いやすい位置になるかもしれない。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
431	52	ク	ほかの幼稚園も同様であるが、石山幼稚園も南郷幼稚園も小学校が見えるほど近くにあるので、同小学校へ通学する児童にとっては小学校入学準備としては、意味があったものと思う。	小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではないことから、架け橋プログラム等を通して、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるよう努める必要があると求めています。	幼小連携
432	52	ケ	田上中学校区・青山中学校区については、青山については草津方面・上田上については栗田方面への交通の便もよい。中学校区によらず、草津市の施設や瀬田や瀬田北学区とも合わせた検討も考えられるのではないかと。	再編の方向性については、ご意見として承ります。	検討経過
433	2～3	望ましい教育環境の保障	少子化に伴う園児数減少や保育ニーズの変化を理由として、幼稚園の再編が必要とされています。しかし、その前提として「園児数の少なさ＝望ましくない教育環境」とする考え方に疑問を感じます。 少人数であることは、子ども一人ひとりに目を向けやす、丁寧な関わりや豊かな遊びを保障できるという大きな利点があります。人数の多さのみをもって「望ましい集団」とするのは、少人数だからこそ可能となる教育の価値についても、十分に検討されるべきではないでしょうか。	34ページに記載のとおり、園の林野や教師の拒否・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらい適正規模の規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものであり、原案のとおりとします。	適正規模

案談当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁			
		詳細箇所		
434	2～3	望ましい教育環境の保障	また、再編や統廃合により通園距離が長くなることは、子どもにとって大きな負担であると同時に、保護者にとっても送迎の負担増加につながります。幼少期の生活は、地域の中で安心して過ごせることが何より重要であり、地域とのつながりの中で育つ環境が損なわれることを懸念します。 近年、学校の統廃合が進んだ地域において、子どもが長距離通学を強いられるなど、子どもの生活環境に影響が出ている事例も見受けられます。こうした状況を踏まえ、単に効率性や規模の観点から再編を進めるのではなく、子どもの発達や生活の質を最優先に考えた検討が必要です。 つきましては、以下の点について再考を求めます。 ・少人数教育の価値を前提とした運営の可能性の検討 ・通園距離および保護者負担の増加に対する具体的な配慮 ・地域に根ざした幼児教育環境の維持 ・統廃合以外の選択肢（小規模園の存続や機能転換など）の検討	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。通園支援地域との関わり 認定こども園
435	31～36	基本的な方針について 一定の集団規模が望ましいとされている	ここで言えば、「望ましい集団規模の確保」が再編の主要な目的とされていますが、その根拠や、それによって失われる可能性のある要素についての検討が十分とは言えません。 特に、園の大規模化や統廃合により、 ・子ども一人ひとりへの関わりが希薄になる可能性 ・職員の負担増加による保育の質の低下 ・不適切保育や虐待のリスクの見えにくさ といった点が懸念されます。 子どもの育ちにおいて最も重要なのは、規模ではなく「安心できる関係性」と「丁寧に見守られる環境」です。集団規模のみを軸とした再編ではなく、安全性・人権保障の観点を含めた多面的な検討が必要です。 実行計画においては、再編の進め方やスケジュールについては記載されていますが、子どもの安全確保や虐待防止に関する具体的な方策が示されていません。 園の統廃合や環境の変化は、子どもにも保護者にとっても大きなストレスとなる可能性があり、また職員体制の変化は保育の質や安全性に直接影響します。 そのため、以下のような視点を計画に明記することを求めます。 ・虐待防止および不適切保育を防ぐための具体的な仕組み ・第三者による定期的なチェック体制 ・子どもたちの声や保護者の意見を継続的に反映する仕組み ・再編前後における子どもの心理的ケア 再編は単なる効率化ではなく、子どもの命と尊厳に関わる問題です。 安全性と人権保障を計画の中心に据えた内容とすることを強く求めます。	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に着議を重ねて検討したものです。 修正規模 その他
436	55～	[第4章再編等の実行計画]	子どもを取り巻く環境の変化が、保護者の孤立や負担の増大を招き、結果として子どもへの不適切な関わりや虐待のリスクを高める可能性についても、行政は十分に考慮すべきであると考えます。 近年、子どもをめぐる構造的な課題が社会問題となっており、その背景には、家庭内での問題ではなく、地域とのつながりの希薄化や、保護者が孤立しやすい環境があると指摘されています。 幼稚園は単なる教育の場にとどまらず、保護者が悩みを共有し、地域の中で支え合う拠点としての役割も担っています。統廃合や再編によってその機能が弱まることは、結果として家庭の孤立を深め、子どもの育ちに影響を及ぼすおそれがあります。 行政には、こうしたリスクを未然に防ぐ観点からも、単なる効率化ではなく、地域における子育て支援の基盤を維持・強化する責任があると考えます。 大津市子どもたちと子育て中の親たちにとって、少しでも豊かな環境に育みますように、願ってやみません。	ご意見として承ります。 なお、再編等の計画は、本来幼稚園は「集団生活を営む場所」であることから、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育を実現できるようにすることが重要なお点として検討を行ったものであり、効率化から検討を行っているものではないかと存じます。
437		案全体について	再編される地域についても、保護者と教員の密接な関係を構築し、的確な指導・指導ができるように、これまで再編を実施した園での取組を参考に検討するよう求めます。 なお、再編等の計画は、本来幼稚園は「集団生活を営む場所」であることから、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育を実現できるようにすることが重要なお点として検討を行ったものであり、効率化から検討を行っているものではないかと存じます。	子育て支援全般
438			地域との繋がりがという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との関わり

連番	案談当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
439			<p>2.歴史ある「大津幼稚園」の教育の質と独自性を担保する</p> <p>今年度で138年の歴史を誇る当幼稚園は当時のお茶の水女子大学附属幼稚園をモデルに創設された園で、日本の幼児教育では先駆的存在であり、「のびのびと遊び、一人ひとりを大切に」という理念に基づいた長年の実績は、本市が誇る教育資産です。また、当幼稚園では、大津祭などの伝統文化を積極的に取り入れ、同じ敷地内にある小学校とも密接に連携しています。この環境こそが、子どもたちにとって豊かな人格形成の基礎となっていると考えます。今回の幼稚園再編成案は、大津市が誇るべき本幼稚園の歴史や教育的価値を継承することにはなっていないでしょうか。幼年化や合理化を優先して統合すべきではないと考えます。</p> <p>上記2点の観点から、私は大津幼稚園を「幼保連携型認定子ども園」として存続させることを提案します。</p> <p>上記提案の主旨は、大津幼稚園の教育体制を維持しつつ、認定子ども園化することで、バスの運行、給食の提供、預かり保育の拡大など多様化する保護者のニーズに対応え、待機児童対策にも貢献できると考えるからです。学区の人々との話し合いから、新しい形での存続を考えられることを希望します。</p>	園の特徴については、このまの育ちの観点から、各園の良い環境を継承できないかなど、意見が出ています。また、再編成の計画は「集団生活を営む場所」であることから、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育を実現できるようにすることが重要なこととして検討を行ったものであり、効率化から検討を行っているものではないかと見えます。	園の特徴 予算削減・効率化
440			<p>上記2点の観点から、私は大津幼稚園を「幼保連携型認定子ども園」として存続させることを提案します。</p> <p>上記提案の主旨は、大津幼稚園の教育体制を維持しつつ、認定子ども園化することで、バスの運行、給食の提供、預かり保育の拡大など多様化する保護者のニーズに対応え、待機児童対策にも貢献できると考えるからです。学区の人々との話し合いから、新しい形での存続を考えられることを希望します。</p>	認定子ども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定子ども園
441	52	打出中学校区大津幼稚園の再編	<p>小さい頃は大津市立大津幼稚園に通っており、中央小学区で生活している場合大津幼稚園がないと距離も遠く、子どもの急病時などの対応や自宅との距離があることで道中での安全が守れない可能性も出てくるかと思えます。</p> <p>中央小学区にはマンションなども増えており子どもを育てる家庭も増えてきている中で幼稚園合併には上記の懸念も含めて反対させていただきます。</p> <p>ご検討をお願いします。</p> <p>現在ご家族が中央小学区在住で、私自身は大津幼稚園の卒園生です。中央小学校に隣接する大津幼稚園がなくなることは大変残念です。</p> <p>少子化が進む中、数々の子一戸をもちに幼稚園の再編計画をされたことは理解できます。しかし、学区の公立校園がこれまでに果たしてきた地域での役割、将来への期待に向けますと、大津幼稚園の閉園は容認できません。</p> <p>学区内に公立の保育園がなく、フルタイムで働く親の子どもは隣接学区の民間保育園を選択せざるを得ませんでした。</p> <p>待機児童が増加していることは大きな課題です。しかし、市の中心部の活性化を図るために民間が文化施設の建設や教育機関の誘致を進めていることから、今後住みやすい大津市としての展望があります。現に商店街の近くには戸建て住宅やマンション建設が進み、人口の増加が見込まれます。</p> <p>現時点の幼稚園の閉園がらう状況で閉園を考慮するのはなく、今の市立幼稚園の形態が世の中のニーズに対応していないという点に着目して存続させる対策を検討したいと思えます。</p> <p>つまり、共働き世帯が増えているなかで、短時間保育、給食もなしという市立幼稚園の形態の改革をお願いいたします。</p>	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。 <p>また、人口推計については、マンション建設の予定も勘案した上で、小学校区ごとに実施しており、市立幼稚園の園児数の推計も、該当の小学校区ごとに算出しているため、「将来的な児童数増加の可能性」については考慮されているものと考えております。</p>	通園支援 人口推計・園児数推計
442			<p>現在ご家族が中央小学区在住で、私自身は大津幼稚園の卒園生です。中央小学校に隣接する大津幼稚園がなくなることは大変残念です。</p> <p>少子化が進む中、数々の子一戸をもちに幼稚園の再編計画をされたことは理解できます。しかし、学区の公立校園がこれまでに果たしてきた地域での役割、将来への期待に向けますと、大津幼稚園の閉園は容認できません。</p> <p>学区内に公立の保育園がなく、フルタイムで働く親の子どもは隣接学区の民間保育園を選択せざるを得ませんでした。</p> <p>待機児童が増加していることは大きな課題です。しかし、市の中心部の活性化を図るために民間が文化施設の建設や教育機関の誘致を進めていることから、今後住みやすい大津市としての展望があります。現に商店街の近くには戸建て住宅やマンション建設が進み、人口の増加が見込まれます。</p> <p>現時点の幼稚園の閉園がらう状況で閉園を考慮するのはなく、今の市立幼稚園の形態が世の中のニーズに対応していないという点に着目して存続させる対策を検討したいと思えます。</p> <p>つまり、共働き世帯が増えているなかで、短時間保育、給食もなしという市立幼稚園の形態の改革をお願いいたします。</p>	既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「13年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 <p>その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。</p> <p>これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。</p> <p>また、人口推計については、マンション建設の予定も勘案した上で、小学校区ごとに実施しており、市立幼稚園の園児数の推計も、該当の小学校区ごとに算出しているため、「将来的な児童数増加の可能性」については考慮されているものと考えております。</p> <p>給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。</p>	預かり保育の拡大 給食
443			<p>今必要対策は、「公立幼稚園の統合ではなく、各学区内で認定子ども園へ移行すること」だと考えます。保育園との一体運営により共働き世帯のニーズに応えられ、園児の数は増え、運営の合理化も進み、今できていない対応もできるようになると思えます。そして、何より子どもたちが自分の住んでいる地域の文化や歴史に馴染みながら多様な環境で体験を積んでいくことができます。</p> <p>子どもの数だけに着目した安易な統合ではなく、地域に愛着をもって育った子どもたちの姿を見据え、未来の大津市のための改革をお願いします。</p>	認定子ども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定子ども園

家談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁			
444	444の続き	<p>大津幼稚園の再編については、反対の意見です。 《おもな理由1「地域とのかわり」》 我が子（現在小学生2名）は、大津幼稚園に通いました。地域の子が園内で遊べる日があったので、0歳から遊びに行かせてもらっていました。 子の発達など気になることがある時など、気軽に先生や保護者に相談できるあったかい場所でした。 そして、入園してみると、地域ともかわれる場所でした。 地域の方々は、生活発表会や作品展をみにまきてくださったり、園児たちをよもかわいがってくださっていました。 また、昔遊びを教えにきてくださったり、園内行事の際に託児にきてくださったり、徒歩での通園時の挨拶などで、園児宛の地域の方も増えました。 これは中学校区など大きな地区のくくりではできないことかなと思います。 以上の経験から、地域で子どもを育てるとはこういうことなんだな、と感じることができました。 地域の方々はいつも優しく声をかけてくださるので、子ども自身も地域の方に見守ってもらっていると感じ、安心して過ごしていると思います。 特に中央学区は大津祭がある地区でもあります。大津幼稚園は湯立山のかかりが後り、園児も曳山にのせてもらったり、お囃子を体験させていただいたりして、大津祭に興味をもっていました。 そういった伝統が身近にあることも大津幼稚園の魅力です。 再編のために、この素敵な地域とのつながりが今後なくなっていくと思うと、とても残念です。</p>	<p>地域との繋がりがという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した地域との関わり園での取組を参考に、再編後も引き継ぎ、ご協力をお願いしたいと考えています。</p>	地域との関わり
445	444の続き	<p>《おもな理由2「幼小連携」》 大津幼稚園は中央小学校とのつながりがあることで、幼稚園から小学校へスムーズに移行できるという特徴があります。 我が子が、登校しがいもなく笑顔で学校に通えているのは、幼稚園の段階から小学校とつながりがあったことが大きいです。 向敷地区内に小学校があるということで、普段から小学校の様子もみており、授業、休み時間、掃除時間、運動会や音楽会などのイベント等、小学校生活がいろいろなものを肌で感じることができていました。逆に小学生となった我が子は5.5交流での幼稚園児との交流を通して、小さな子を大事にする、大切にするという意識も育っていました。 5.5交流のほかにも、先生方が会議や研修で連携をとってくださっていて、お互いに発達段階や様子を知られることは教育する側にとっても大きなメリットがあると思います。この幼小連携は、他の自治体にも誇れる取り組みだと思います。 このように、中学校区でひとつ幼稚園があればいいという考えには賛成できません。 平野幼稚園に通うのであれば、幼小連携のことを考えると、遠坂学区や中央学区の子や親にとつては全く意味がないこととなります。</p>	<p>小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではないことから、架け橋プログラム等を通して、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるような努力の必要があると求めています。 なお、架け橋プログラム等は、市立幼稚園が中心となって取り組んでおります。</p>	幼小連携
446	445の続き	<p>《さいごに》 大津市が取り組んでいる公立おらでの幼稚園教育のよさ、これがなくなってしまうのは残念です。子どもの興味を引き出したり、また興味があるものを遊びや実体験につなげたり、幼稚園生活での先生方のはたらきかけは見事でした。 幼稚園の先生は、我が子やほかの子と関わる時には、子どもの心に寄り添ってくださっていて、人として尊敬できる方ばかりでした。 やはり、公立ということで研修が充実しており、先生の教育者としてのレベルが高いのであろうと感じました。この幼稚園教育があつてこそ、大津市の未来を生きる人材が育っていくのではないのでしょうか。この教育を公でやることに意味はあると思います。 子どもの教育のための予算が削られることは納得がいきません。 人数が少ないうえに大津幼稚園には残す価値がないのでしょうか。 大津幼稚園には大津幼稚園にしかない価値があると思います。大津幼稚園の存続をぜひご検討いただきたいです。</p>	<p>今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね、予算削減・効率化を検討したものであり、予算の削減案ではありません。</p>	予算削減・効率化

乗談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁			
447		<p>字級の園児数が定員の半数未満となる園の解消、集団生活を通じた質の高い教育環境の確保、子育て支援の強化、</p> <p>とありますが、まず質の高さは、人数の多い少ないだけではなく、感じています。中学校2年生の長女は大人の保育園で1歳から小学校入学まで過ごしました。小学校4年生の長男は1歳から2歳まで保育園で、3歳の時に遠坂幼稚園へ入園し、3年間を過ごしました。現在次女が遠坂幼稚園年少です。長男の幼稚園生活において、まさに階段を登るように年少、年中、年長と成長を上げていきました。それは長女の時には感じることが出来なかつた事です。少人数ならではのきめ細やかな対応が素晴らしいです。</p> <p>子供たちはあるがままの3歳を過ごし、少ずつ自分と自分以外のお友達とのかかわり方を先方の方のサポートのもと、しっかりと学んでいます。そして卒業する頃には、小学校で生活できる力をしっかりと持っています。3歳の次女は、まだ数日しか登園していませんが、自宅から幼稚園まで毎日一生懸命歩いています。きつ、すぐ隣の小学校への通学も何の不安もなく見送ることができるようになります。仮に、平野幼稚園に統合したとしても、娘は遠坂小学校へ入学するんです。平野小学校ではありません。小学校への入学準備が、平野幼稚園へ行くことでできますでしょうか？質が高くなり、小学校への不安も減るのでしょうか？平野幼稚園までは歩くには遠く、登園しにくい方もたくさん出てくるでしょうか。何をもう子育て応援なのか。ある一定の園に対してでしょうか。子供たちの姿を見て質が重いと感じるのでしょうか？園児数が問題なのであれば、どうすれば入園児が増えるか、あれだけ素晴らしい環境の幼稚園に入園してもらえないか。市としてのサポートはさらに向けてもらいたいと思います。</p>		
448		<p>大津市は、子どもたちの就学前における人権を数字で響つたのはおかしいと思います。</p>	<p>35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。</p>	適正規模
449		<p>●対象園南郷幼稚園、大石幼稚園再編先石山幼稚園</p> <p>再編先について、園児の急な発熱や怪我等のお迎えや大石学区からの通園距離などを考えると、地理的に3園の中心に位置する「南郷幼稚園」が良いのではないのでしょうか。</p> <p>施設面においても、園舎、園庭、駐車場共に、石山幼稚園より広いと思います。</p> <p>●対象園上田上幼稚園、青山幼稚園再編先上田上幼稚園</p> <p>再編先について、園舎、園庭、駐車場の広さを考えると上田上幼稚園だが、園児の急な発熱や怪我等のお迎えや青山学区からの通園距離などを考えると、地理的に3園の中心に位置する「上田上幼稚園」が良いのではないのでしょうか。</p> <p>また、再編先が上田上幼稚園に決まった場合、上田上学区の地域性を活かした豊かな自然体験が継続されるのかも心配です。</p> <p>上田上幼稚園の芝生の園庭も魅力的です。</p>	<p>地理的な位置関係だけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しており、原案のとおりとします。</p> <p>また、通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の美情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。</p> <p>なお、地域性に関しては、検討委員会でも意見が出された上で検討を行いました。検討委員会では、この両方の観点から、各園の良い環境を継承するよう意見が出ていることから、「第3章基本的な再編等の計画」に追記を行います。</p>	検討経過 地域との関わり 園の特徴
450	52	<p>今後園児数が増加する傾向となっているなら、再編対象とならないか？なぜ、第2段階での再編となるのか？</p>	<p>再編等については、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、この基準による第1段階に合致しますが、その上で、51ページ以降に記載のとおり、園児数が増加する傾向の推移となっていることから、推移を見るため第2段階としたものであり、原案のとおりとします。</p>	再編基準
451	52	<p>歴史ある園で、園庭も広く、大木も育つ、長等小と連携教育も取組む。この環境を活用し、長等幼稚園をこの園にすばきである。</p>	<p>認定ことも適化については、貴園のご意見として承ります。</p>	認定ことも園

連番	案談当箇所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
452			<p>大津市の幼稚園再編計画は、名称的には幼稚園のことを指していますが、待機児童問題と深く関わっているのでは、と感じています。</p> <p>そこで、大津市での保育ニーズをどのように把握しているのでしょうか。</p> <p>実際に保育園を利用している方のうち、保育園でなければ保育できないご家庭はどのくらいの割合なのでしょう。</p> <p>大津市の公立幼稚園には給食がないことや、未満児でも家で保育がキツイと感じ、保育園利用ができるギリギリの働き方をして保育園に預けているケースもあると聞きます。未満児から預け始めると、そのまま保育園を利用し続けることになり、フルタイムで働きたいご家庭のお子さんの保育が叶わないことに繋がっているのでは、と感じます。</p> <p>大津市では、生後4か月から健診があります。基本的に全国受診するものです。9ヶ月からは集団健診となる場を利用しアンケートを取るなどして保育ニーズを把握することもできるのではないのでしょうか。実際の保育園利用とは相違があっても、その時点での保護者がどのような子どもの預け先を考えているのかを大津市が知る機会に繋がれるのでは、と考えます。</p> <p>（例えば、何歳ごろから幼稚園または保育園を考えているのか、就労の有無や形態、保育園や幼稚園への考え方、給食の有無によって選択肢が広がるのか、など）</p> <p>現在の待機児童数問題は、単純な待機児童数、保育士数だけの問題ではなく、保育ニーズを把握する必要性を感じています。</p> <p>幼稚園再編が案の通り行われると、1小学校区に1園ではなくなることがあります。現在、密な幼小連携が取られていると感じますが、それをどのように保証して行くのでしょうか。この密な幼小連携については、学区外から子どもを集まる保育園の保小連携では敵わない強みだと思っています。学区がまたがることにより、幼稚園の先生方の負担が増えしてしまうのでは、と懸念しています。</p>	<p>保育ニーズの把握については、7ページ以降に記載のとおりです。</p> <p>今回の検討は、本来幼稚園が集団生活を営む場所であり、集団規模の確保による子供機児童・幼小連携を重視し、待機児童問題とは異なる内容となります。</p> <p>また、集団健診の場を利用してのアンケートについては、今後の参考とさせていただきます。</p>	<p>待機児童 幼小連携 その他</p>
453		452の続き	<p>幼稚園で給食の提供が行われないのはなぜでしょうか。近隣の市町村の公立幼稚園でも給食を提供しているところが増えています。この幼稚園再編計画でも、近隣の自治体を参考にして・・・というフレーズをお聞きますので、なぜ給食については参考にならないのでしょうか。パートタイム等、拘束時間の長くない就労形態であれば、給食の提供があれば預かり保育と併せて十分な選択肢となり得ると感じます。大津市が昨年度から掲げている「働いていても幼稚園」という、保護者の選択肢を広げてくれる魅力的なワードが実際のものとなるよう、給食の提供をお願いします。</p> <p>幼稚園では、特別な配慮を要する子を多く受け入れており重要な役割であるとのことでしたが、多様化する個々のニーズに対応できるよう、余裕のある人員配置をお願いします。幼稚園の保護者の満足度が高いのは少数で丁寧に見てもらえるからだ、という市民の声もありましたが、保護者が感じているのは少数の丁寧ではなく、「幼稚園なら丁寧さ」を評価しているのだと思います。これまでの歴史のなかで培ってきた幼稚園教育への評価です。</p> <p>個人的には、今回の案で初めての社会生活となり丁寧な指導が必要な3歳児クラスが15名を超えたときには1名追加で配置される、という点は高く評価しています。</p> <p>幼稚園を再編し幼稚園の未来を先細りさせる政策ではなく、幼稚園という選択肢を広く幼稚園の未来を拓く政策をお願いします。</p> <p>最後に、待機児童数が全国ワースト1、これだけを見ると、大津市はどうかはなっているんだ？と不安に思う市民も多いかと思います。しかし、裏を返せばそれだけ大津市が子育て世代に選ばれている、という証なのだと思います。これから先、選ばれ続ける大津で在れるかは、本当に子どもたちのことを考えた政策がなされていくのかがどうかにかかっています。これからを創っていく子どもたち、そして子どもたちに関わる方々を大切にしてください。待機児童の解消のために、幼稚園再編計画で幼稚園の先生も保育園へ、ということでも乱暴な政策であり、大津市で働いている幼稚園・保育園の先生方と通う子どもたちそして保護者を随分運らしているな、と感じています。未来を創っていくのは、今の子どもたちそしてこれからの子どもたちです。目的の数字に躍起になるのではなく、20年30年後を見据えて政策を行ってほしい。いま大津市で育っている子どもたちが大人になった時、「大津が大好き」「自分も育った大津で子育てしたい」と未来を描けるような政策を期待しています。</p>	<p>給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承りまして、給食</p>	給食
454		453の続き	<p>ご意見として承ります。</p> <p>特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しつが検討するよう提案をしております。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。</p> <p>また、今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の間わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであることから、待機児童問題には異なる内容となります。</p>	<p>ご意見として承ります。</p> <p>特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しつが検討するよう提案をしております。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。</p> <p>また、今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の間わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであることから、待機児童問題には異なる内容となります。</p>	<p>特別な配慮 適正規模 待機児童</p>

案談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
番号	頁			
455		<p>大津市立幼稚園の再編等についての【第2 学基本的な方針と考え方】では、幼稚園教育のあり方について（1）から（7）までと基本的な方針について（1）から（4）まで考慮すべき点として定められています。が、文書を読みますと、「統合するかどうかの判定」については、ほぼ（1）の「園児数（集団規模）」という数値基準のみであり「基準の幅」が見えます。</p> <p>1. 「判定」と「配慮」の分離 計画書では、以下の二段階で話が進んでいます。 第1段階（判定）：園児数が基準（3歳児15人未満など）を下回るか、→ここで「統合対象」が機械的に決まります。 第2段階（検討）：統合が決まった後で、通園距離や地域事情をどうするか（2、3、4の項目）。→これらは「存続させるための基準」ではなく、「統合を進める際の調整事項」として扱われている判断が強いです。 つまり、基本方針（2）～（4）は、統合を回避するための「ハードル」ではなく、統合を前提とした「地ならし」の項目になっているという解釈です。</p> <p>2. 幼稚園教育のあり方の限定的な解釈 「幼稚園教育のあり方」についても、（4）の「集団生活の確保」が最優先の評価軸になっています。 本来の幼稚園教育には「地域に相対した教育」や「少人数ならではのきめ細かな指導」といった側面もあります。が、今回の計画案では「一定数（1学級15～25人程度）がいらないと社会性が育たない」という「集団規模のメソッド」が唯一の絶対的な幼稚園教育のあり方として置かれています。</p> <p>そのため、他のあり方（地域交流や個別のニーズなど）は、集団規模が確保できない以上、二の次として扱われている（あるいは基準が設けられていない）のが現状ではないでしょうか。</p> <p>3. 文書上の矛盾点 基本方針には「総合的に勘案する」と書かれながら、実際に対象園を選んだ根拠表を見ると、ほぼ例外なく「3歳児入園者数が15人を下回っているため」という理由が筆頭に挙げられています。 このことから、実質的には「数値基準のみで選別し、選別された後にその他の項目で手法を微調整している」という見方です。</p> <p>「遠方の園への通園を強いられる」「地域のコミュニティ拠点が失われる」といった、具体的な不利益が数値基準のみで一方的に押し付けられることは、「数値ありきの強引な進め方ではないか」といった不信感を生み、個人の受ける教育の権利や福祉を損なう行為であるとして批判の対象になりうるのではないのでしょうか。</p> <p>他の自治体での権利侵害主張と問題事例 大津市と同様に、数値基準による機械的な統廃合を行った結果、裁判や激しい反対運動に発展している事例が複数あります。 例：東京都小金井市（市立保育園廃止事件） 兵庫県三田市（集団規模の基準をめぐる議論） 兵庫県神戸市（市立幼稚園の4割閉園案） 距離に伴う権利侵害の論点 「徒歩通園」の限界：市例はこれまで徒歩通園を原則としてきましたが、3kmを超える統合（大石～石山、田上～青山）は、保護者の送迎負担や三歳児の子どもの体力的に「実質的な教育機会の制限」に繋がる可能性がります。 代替手段の未整備：距離が大幅に伸びるにもかかわらず、スクールバスの運行や駐輪場・駐車場の整備計画が具体化されていない点は「考慮不周（十分な検討を欠いた判断）」として指摘される可能性も考えられます。 より良い、子供たちの教育環境を保障するため、現在、大津市立幼稚園を利用する園児の保護者向けに再編（案）に関する説明会の実施し、教育環境の現在における課題を確認した上で、再編の必要性について検討することを希望いたします。</p>	<p>今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ねて検討したものであることから、原案のとおりとします。</p>	検討経過 適正規模
456	455の続き	<p>数値基準につきましては、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特性などについても慎重に検討しております。</p> <p>また、通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求められています。</p> <p>なお、54ページに記載のとおり、当事者である保護者への説明会などの機会を通じて、丁寧に進めていくことを求めています。</p>	<p>再編基準 通園支援</p>	

連番	家談当園所		意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
	頁	詳細箇所			
457	456の続き		<p>3.文書上の矛盾点 基本方針には「総合的に勘案する」と書かれたが、実際に対象園を込んだ把握表を見ると、ほぼ例外なく3歳児入園者数が15人を下回っているため」という理由が筆頭に挙げられています。 このことから、実質的には「数値基準のみで選別し、選別された後にその他の項目で手法を微調整している」という見方です。 「遠方の園への通園を強いられる」「地域のコミュニティ拠点が失われる」といった、具体的な不利益が数値基準のみで一方的に押し付けられることは、「数値ありきの強引な進め方ではないか」といった不信感を生み、個人の受ける教育の権利や福祉を損なう行為であると批判の対象になりうるのではないのでしょうか。 他の自治体での権利侵害主張と問題事例 大津市と同様に、数値基準による機械的な統廃合を行った結果、裁判や激しい反対運動に発展している事例が複数あります。 例：東京都小金井市（市立保育園廃止事件） 兵庫県三田市（集団帰郷の是非をめぐる議論） 兵庫県神戸市（市立幼稚園の4割閉園案）</p>	<p>数値基準につきましても、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の再編基準の特徴などについても慎重に検討しております。</p>	再編基準
458	457の続き		<p>距離に伴う権利侵害の論点 「徒歩通園」の限界：市側はこれまで徒歩通園を原則としてきましたが、3kmを超える統合（大石～石山、田上～青山）は、保護者の送迎負担や三歳児の子どもの体力的に「実質的な教育機会の制限」に繋がる可能性が有ります。 代替手段の未整備：距離が大枠に伸びるにもかかわらず、スクールバスの運行や駐輪場・駐車場整備計画が具体化されていない点に「考慮不周（十分な検討を欠いた判断）」として指摘される可能性も考えられます。</p>	<p>通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。 通園支援</p>	通園支援
459	458の続き		<p>より良い、子供たちの教育環境を保障するため、現在、大津市立幼稚園を利用する園児の保護者向けに再編（案）に関する説明会の実施、教育環境の現在における課題を確認した上で、再編の必要性について検討することを希望いたします。</p>	<p>54ページには、当事者である保護者への説明会などの機会を通じて、丁寧に進めていくことを求めています。</p>	進め方
460			<p>今、遠坂幼稚園に園子が通わせてもらっています。姉も遠坂幼稚園に通わせてもらっていました。甥と子供が初めて贈れる場所なので、安心できる場所がよいと思っていました。少人数ならではの密な関わりをして下さり、園子の異変にもすぐに気付いてくださり、先生方は日々一生懸命息子だけだけでなく、保護者とも関わってくださり、本当にありがたいです。小学校のプールを使わせてもらったり、遊びに行かせてもらったりするおかげで、姉は小学校に不安を抱える事なく入学できました。 このような素敵な園が無くなる可能性があるのは寂しいと思います。待機児童も多いので、この様な園が見がたります。預かりもしてもらえれば、働けながら幼稚園を選ぶ人が増えるのではないかと思います。幼稚園の魅力を知り、園児数が増えるのか一番ですが、せめて、今通っている園児が遠坂幼稚園を卒業するまではこのままあってほしいなと思います。</p>	<p>いただいた意見にある特徴については、検討委員会でも意見が出された上で検討を行いました。検討委員会では、こどもの育ちの観点から、各園の良い環境を継承できないかなど、園児が出てくることから、「第3章基本的な再編等の計画」に追記を行います。 なお、地域との繋がりの面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。 また、小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけでなくことから、乗換プログラム、待機児童対策等を通じて、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるように努める必要があると考えています。 なお、今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであることから、待機児童問題とは異なる内容となります。</p>	適正規模 幼小連携 待機児童

(修正案)

大津市立幼稚園の再編等について
～～より良い教育環境の提供に向けて～～

内 容

【第1章 総則】	- 2 -
1 はじめに	- 2 -
2 本市の現状	- 3 -
3 これまでの取組	- 16 -
4 市立幼稚園が果たしてきた役割	- 26 -
【第2章 基本的な方針と考え方】	- 28 -
1 就学前教育・保育のあり方について	- 28 -
2 幼稚園教育のあり方について	- 28 -
3 基本的な方針について	- 32 -
4 適正規模・再編基準について	- 34 -
5 再編等の方向性検討について	- 38 -
【第3章 基本的な再編等の計画】	- 44 -
1 再編等の検討の流れについて	- 44 -
2 再編等の方向性について	- 45 -
3 検討経過とその概要について	- 51 -
4 全体スケジュールについて	- 56 -
【第4章 再編等の実行計画】	- 57 -
1 実行計画の策定について	- 57 -
2 実行計画の様式について	- 57 -

【第1章 総則】

1 はじめに

教育基本法において、幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであるとされ、幼児の健やかな成長に資する良好な環境の整備などが市に求められています。就学前施設における幼児教育は、国において平成29年3月31日に告示された「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(以下、「指針等」という。)に基づいて実施されており、共通して「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されています。

本市においては、就学前の子ども達が過ごす場所が異なっても、子どもにとっての質の高い教育と保育を保障することを目的に、「大津市幼児教育・保育共通カリキュラム」が平成28年度に策定されました。その後、指針等の内容を反映した「新大津市幼児教育・保育共通カリキュラム」が令和5年度に策定され、策定当初から掲げている基本理念やめざす子ども像に基づき、乳児期から小学校の接続期までを見通した、等しく質の高い教育・保育を一体的に提供することを目指しています。

一方で、核家族化や女性の社会進出による共働き世帯の増加などに加えて、近年では急速に少子化が進行しており、幼稚園を始めとする就学前施設を取り巻く社会環境は大きく変化してきています。

文部科学省が毎年発表する学校基本調査の結果からは、幼稚園の施設数と園児数が毎年減少していることが分かり、令和7年度学校基本調査においては、対前年度比較で、施設数が305減少し、園児数は約6万8千人減少しています。これは滋賀県においても同様で、幼稚園の施設数は3減少し、園児数は886人減少しています。

本市も例外ではなく、少子化の進行による就学前児童数の減少に加えて、共働き世帯の増加などによる保育ニーズの高まりを受け、大津市立幼稚園の園児数は毎年減少を続けています。こうした現状から、学校教育法第23条における幼稚園教育の目標を達成するために必要とされている、「幼稚園において、幼児は多数の同年代の幼児と関わり(中略)主体性や社会的態度を身に付けていく」(幼稚園教育要領解説より)ことが難しくなり、子どもの人間関係の固定化や体験できる遊びが限られるなど、集団生活を通して培う社会性の育ちといった、子どもにとって望ましい教育環境の保障が課題となっています。

以上のことから、子どもの育ちの場を確保するとともに、質の高い教育・保育環境の提供と保護者支援を目指して、大津市立幼稚園の再編等についての計画を策定する必要があると考え、意見を取りまとめるものです。

2 本市の現状

(1) 就学前児童の人口推移について

本市の就学前児童の人口は、表 1 及び図 1 に示すとおり、平成26年3月31日の18,971人をピークに毎年減少しており、平成26年3月31日と令和7年3月31日を比較すると、市全体で3,913人(約20.6%)減少しています。

また、本市における合計特殊出生率は令和6年度で1.29となっており、全国の1.15と比較すると0.14ポイント高くなっているものの、平成26年度から中期的には右肩下がり状態となっています。加えて、現在の人口を維持できる水準(概ね2.07)を下回る状況であることから、本市においても少子化の進行が一層懸念されています。

一方で、地域によっては、宅地開発やマンション開発が多く行われていることから、転入人口が多く、就学前児童の人口が横ばいや微増の地域もあります。このことが分かるデータとして、次ページの表 2 及び図 2 に、小学校区別の就学前児童の人口推移の表と、平成26年3月31日の就学前児童の人口を1とした時の人口推移を中学校区別のグラフとして表しています。このグラフからは、堅田中学校区や日吉中学校区では微増傾向にある一方で、全体的には減少傾向にあることが分かります。

表 1 就学前児童数と合計特殊出生率の推移

(人口は、各年3月31日現在 単位:人)												
区分	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
0歳	3,019	2,905	2,922	2,760	2,659	2,636	2,500	2,412	2,420	2,383	2,327	2,172
1歳	3,105	3,101	3,017	3,047	2,868	2,739	2,811	2,644	2,496	2,526	2,493	2,442
2歳	3,147	3,091	3,116	3,042	3,068	2,923	2,812	2,859	2,711	2,546	2,568	2,519
3歳	3,219	3,145	3,110	3,128	3,063	3,116	2,974	2,857	2,901	2,708	2,576	2,582
4歳	3,236	3,199	3,142	3,122	3,147	3,094	3,134	3,012	2,897	2,935	2,720	2,604
5歳	3,245	3,226	3,216	3,162	3,131	3,161	3,099	3,166	3,025	2,923	2,937	2,739
合計	18,971	18,667	18,523	18,261	17,936	17,669	17,330	16,950	16,450	16,021	15,621	15,058
合計特殊出生率	1.49	1.50	1.46	1.49	1.44	1.39	1.38	1.41	1.35	1.4	1.29	

出典: 年齢別・学区別人口統計表(大津市HP)、大津市保健衛生事業年報(大津市HP)

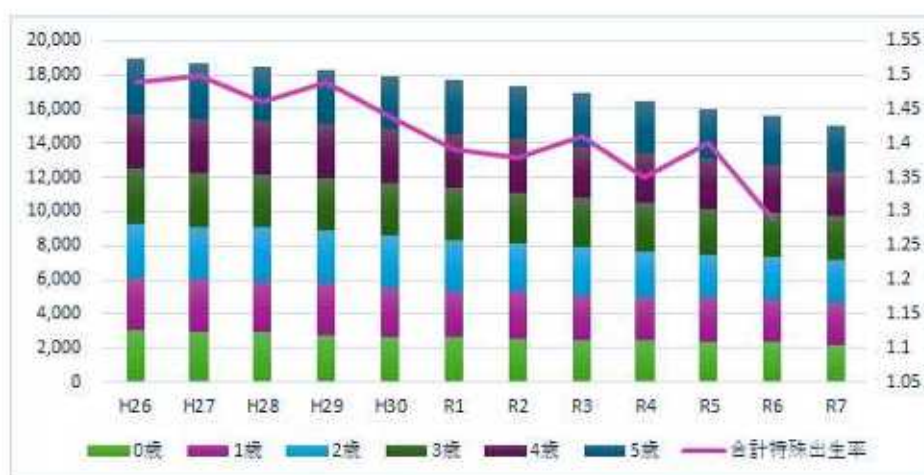


図 1 就学前児童数と合計特殊出生率の推移

表 2 小学校区別の就学前児童の人口推移

平成30年3月31日現在(単位:人)

中学校区	小学校区	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07
志賀	小嶽	179	163	164	155	148	153	133	128	108	107	115	110
	木戸	218	209	206	190	171	175	152	151	150	139	143	129
	取邊	417	425	406	388	356	343	342	321	291	292	263	240
	小野	99	104	95	84	88	91	93	87	85	103	105	108
葛川・伊香立・真野	葛川	7	3	6	5	5	6	5	3	1	3	5	5
	伊香立	83	96	116	154	187	206	222	220	222	209	181	180
	真野	462	456	459	442	416	372	361	346	324	285	256	228
堅田	真野北	181	162	162	160	174	185	198	206	204	205	203	196
	堅田	913	957	996	1,054	1,044	1,022	1,004	994	995	1,002	1,036	1,003
如木	仰木	78	77	69	68	56	46	40	39	31	28	27	24
	仰木の里	146	172	207	227	231	248	251	263	235	212	202	183
	仰木の里東	554	496	449	429	387	381	351	316	298	292	284	270
日吉	瀬野	444	429	397	356	349	319	310	293	305	297	299	280
	日吉台	108	92	100	99	104	97	79	80	90	85	83	80
	坂本	465	483	503	527	556	556	564	619	640	671	707	697
	下坂本	754	724	753	722	749	803	822	792	836	849	842	812
唐崎	唐崎	902	908	849	893	867	865	857	876	854	847	810	841
	深賀	984	954	941	928	947	899	863	861	861	849	865	892
	山中北蔵平	104	101	87	84	89	80	67	75	82	74	67	66
皇子山	藤尾	201	176	160	162	154	145	152	166	159	152	166	157
	長等	689	627	581	542	548	542	531	548	533	508	490	455
	逢坂	444	417	447	452	447	409	465	462	425	407	364	329
打出	中央	308	364	379	390	405	465	456	432	439	439	441	420
	平野	1,099	1,062	1,070	1,054	1,043	1,030	1,016	990	949	924	873	909
	栗津	784	768	768	761	741	727	688	668	608	604	595	550
北大路	富士見	552	536	517	497	524	556	594	575	557	516	454	407
	横尾	990	1,001	979	964	909	878	825	792	760	698	703	706
石山	石山	542	492	471	470	449	433	434	428	422	412	438	433
	南郷	489	474	466	475	434	431	423	425	398	391	383	360
田上	大石	233	214	212	189	184	176	162	150	131	121	116	110
	田上	407	379	375	339	328	330	323	306	296	302	280	257
青山	上田上	53	57	57	57	50	49	40	42	44	39	42	34
	青山	837	812	776	749	722	663	640	549	497	452	395	337
瀬田	瀬田	1,213	1,253	1,278	1,218	1,130	1,069	985	919	857	859	812	794
	瀬田南	817	804	765	740	762	752	723	685	683	653	601	566
瀬田北	瀬田東	879	907	967	980	997	981	936	874	811	752	738	710
	瀬田北	1,336	1,313	1,290	1,257	1,185	1,186	1,223	1,269	1,269	1,243	1,237	1,180
合計		18,971	18,667	18,523	18,261	17,936	17,669	17,330	16,950	16,450	16,021	15,621	15,058

※ただし、小学校区内で複数の中学校区に分かれる場合は、便宜上、どちらかの中学校区で一括計上しています。

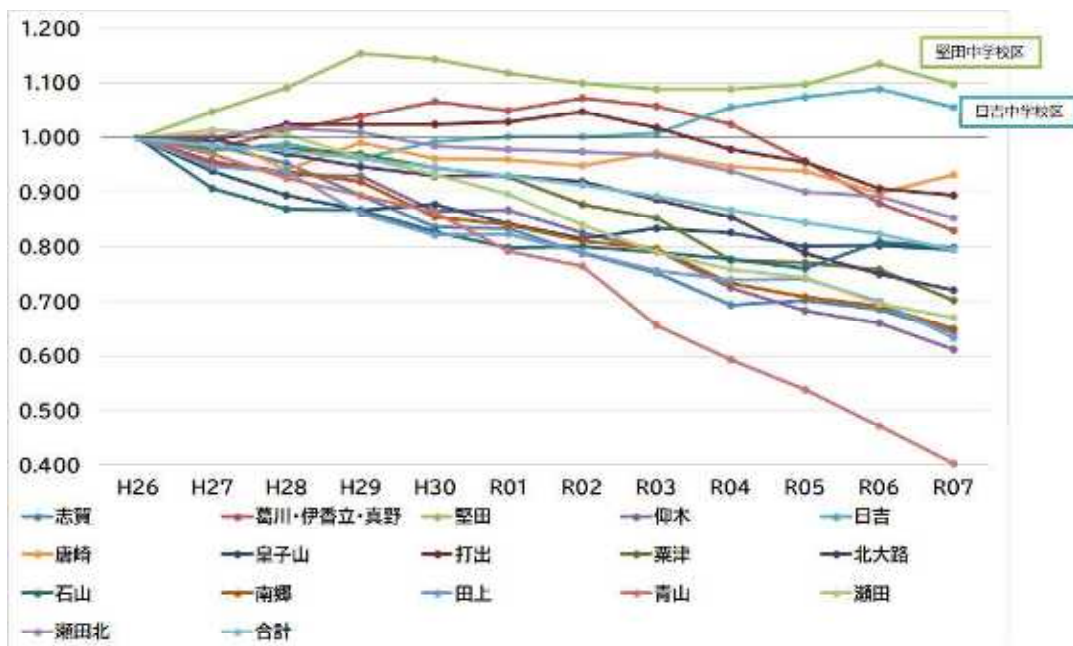


図 2 中学校区別就学前児童の人口の対平成26年度増減比

(2)母親の就労状況について

国における男女共同参画の推進や多様な働き方の創出等により、本市においても、子どものいる女性の就業率の上昇や共働き世帯の割合の増加等、子どもを産み育てる環境に大きな変化が生じています。

このことが分かる一つのデータとして、大津市子ども・若者支援計画策定にあたって令和5年度に実施されたアンケート調査(以下、「アンケート調査」という。)の結果を図 3のとおり示します。調査結果によると、未就学児童の母親の就労状況は、前々回調査、前回調査と比較して今回調査では、「フルタイム」、「パート・アルバイト」ともに割合が増加しており、全体としても就労している母親が増えていることが分かります。

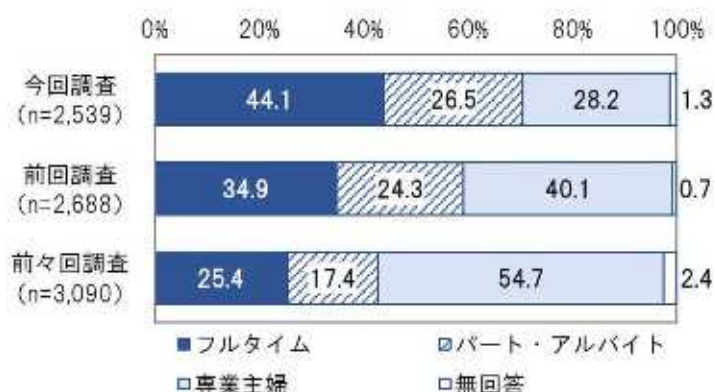


図 3 未就学児童の母親の就労状況の経年変化

注:今回調査は令和5年度、前回調査は平成30年度、前々回調査は平成25年度にそれぞれ実施

また、未就学児童の母親の就労状況の1年後の希望について、図 4のとおり、現在と1年後の希望を比較したものを示します。「専業主婦」を希望する割合が現在より約13ポイント低くなっており、「フルタイム【週5日・1日8時間程度】」や「パート・アルバイト【月64時間以上】」、「パート・アルバイト【月64時間未満】」といった、1年後の就労を希望する母親の割合が高くなっています。



図 4 未就学児童の母親の就労状況の1年後の希望

アンケート調査内では、平日に定期的に利用したい、利用を継続したい教育・保育施設等の希望について、家庭類型別の集計が表 3のとおり示されています。

「フルタイム×フルタイム」、「フルタイム×パート(長)」の家庭では、利用したい就学前施設として「認可保育所」が最も高く、次いで「認定こども園」となっています。一方で、「フルタイム×パート(短)」、「専業主婦・主夫家庭」では、「幼稚園」を希望されている割合が最も高くなっていることから、保護者の就労状況によって、教育・保育施設等の希望に違いが出ていることが分かります。

表 3 家庭類型別就学前施設利用希望

		回答者数(人)	認可保育所	認定こども園	幼稚園	幼稚園の預かり保育	地域型保育施設(小規模保育・家庭的保育)	企業主導型保育施設	認可外保育施設	企業主導型保育施設以外の認可外保育施設	その他の施設	ファミリーサポートセンター	無回答
家庭類型別	ひとり親家庭	101	53.5	33.7	27.7	10.9	3.0	-	1.0	-	1.0	5.9	
	フルタイム×フルタイム	1,047	65.5	41.8	12.3	4.1	3.8	3.3	1.1	0.8	3.2	5.0	
	フルタイム×パート(長)	458	49.3	38.0	28.2	13.8	4.4	2.0	0.7	0.9	2.6	6.1	
	フルタイム×パート(短)	188	39.9	26.1	48.9	19.7	5.3	1.6	2.1	0.5	5.3	6.4	
	専業主婦・主夫家庭	705	25.0	30.5	68.2	30.6	6.5	3.4	2.6	2.1	3.7	4.1	

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

ここで、家庭類型の考え方は、図 5に示すとおりです。

父親	母親		パート・アルバイト		専業主婦
	フルタイム		月64時間以上	月64時間未満	
フルタイム	フルタイム × フルタイム		フルタイム × パート(長)	フルタイム × パート(短)	
パート・アルバイト	月64時間以上	フルタイム × パート(長)	パート×パート		専業主婦・ 主夫家庭
	月64時間未満	フルタイム × パート(短)			
専業主夫	専業主婦・主夫家庭			無業×無業	

図 5 家庭類型区分の考え方

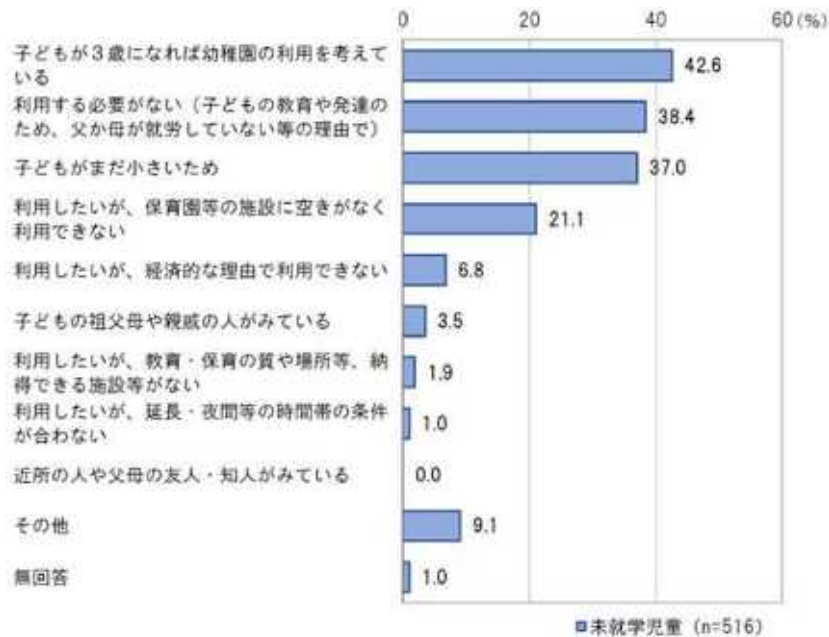


図 7 平日に定期的に教育・保育事業を利用していない理由

本市における、満3歳以上の教育を希望する子ども(1号認定子ども)と、保育を希望する子ども(3歳以上は2号認定子ども、0歳から2歳までは3号認定子ども)の経年変化は図 8のとおりです。1号認定子どもは平成21年度以降緩やかに減少しており、市立幼稚園で段階的に3年保育を開始した平成29年度以降は増加に転じたものの、3年保育に全園移行完了した令和2年度以降は再び減少しています。一方で、2、3号認定子どもはこれまで増加し続けてきましたが、令和2年度以降は横ばいで推移しています。また、保育所・認定こども園の施設数についても、平成27年度以降増加し続けていましたが、令和2年度以降は横ばいで推移しています。

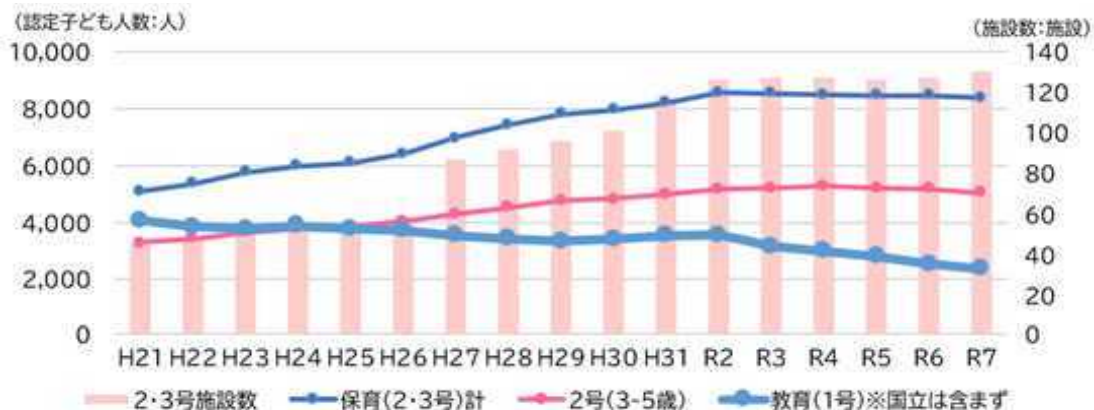


図 8 認定児童数の推移

次に、保育所・認定こども園・幼稚園別の園児数の推移及び定員充足率を表 4のとおり示します。

幼稚園に通う園児数は、市立、私立・国立問わず減少傾向にあります。令和2年度と令和7年度を比較すると、幼稚園の施設数が減少している影響も考えられますが、市内の就学前児童数の減少傾向と同様に、幼稚園に通う園児数も右肩下がりで推移しています。

また、保育所の園児数も同様で、市立、私立問わず減少傾向にあります。一方で、認定こども園の2・3号認定の園児数は、令和2年度の2,134人から令和7年度の3,518人と年々増加しています。これは、私立保育所の施設数が令和2年4月時点の53園から令和7年4月時点の40園まで、13園減少している一方で、私立認定こども園の施設数が令和2年4月時点の20園から令和7年4月時点の37園まで、17園増加していることも影響していると考えられます。加えて、保育所及び認定こども園が非常に高い定員充足率となっていることから、保育ニーズの高まりを受けた傾向と想定されます。

表 4 就学前施設別の園児数の推移と定員充足率

		R2	R3	R4	R5	R6	R7
保育所	市立	1,285	1,193	1,084	1,024	921	912
	私立	4,760	4,515	4,005	3,840	3,606	3,546
	合計	6,045	5,708	5,089	4,864	4,527	4,458
認定こども園	1号認定	554	606	619	632	652	653
	2・3号認定	2,134	2,478	3,056	3,198	3,537	3,518
	合計	2,688	3,084	3,675	3,830	4,189	4,171
幼稚園	市立	2,374	2,181	2,004	1,858	1,670	1,518
	私立・国立	735	481	435	403	327	290
	合計	3,109	2,662	2,439	2,261	1,997	1,808

※毎年4月1日現在、幼稚園のR2～R6は5月1日現在、管外施設は含まない
出典：児童福祉の概要、保育入所課提供データ

		定員	利用児童数	充足率
保育所	市立	1,390人	912人	65.6%
	私立	3,571人	3,546人	99.3%
	合計	4,961人	4,458人	89.9%
認定こども園	公立	100人	40人	40.0%
	私立	4,343人	4,131人	95.1%
	合計	4,443人	4,171人	93.9%
幼稚園	市立	3,325人	1,518人	45.7%
	私立・国立	503人	290人	57.7%
	合計	3,828人	1,808人	47.2%

※令和7年4月1日現在
出典：保育入所課提供データ

(4)市立幼稚園の園児数の推移について

各市立幼稚園における平成30年度から令和7年度までの園児数の推移は表 5のとおりです。市立幼稚園の園児数は、全ての市立幼稚園での3年保育実施が完了した年である令和2年度の2,358人がピークとなっており、その後は減少を続け、令和7年4月1日現在で1,523人(比叡平こども園の1号認定児を含む)と、令和2年度の約65%程度にまで減少しています。また、令和7年4月1日現在で、複数学級が設置できている園は3園のみとなり、加えて、1クラスあたりの園児数が定員の半分に満たない園や、各年齢の園児数が一桁となっている園もあるなど、全体として規模の縮小が進んでいます。

表 5 各市立幼稚園の園児数推移

※毎年4月1日現在

幼稚園名	年齢	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
志賀北	3歳	26	26	19	14	19	11	16	12
	4歳	35	26	23	20	16	22	14	19
	5歳	31	37	25	25	20	15	21	14
	計	92	89	67	59	55	48	51	45
志賀南	3歳	33	30	22	29	27	16	14	18
	4歳	36	37	29	21	32	29	18	15
	5歳	35	39	38	30	23	35	30	19
	計	104	106	89	80	82	80	62	52
伊西立 R2.3 伊西立・東野上	3歳	17	9	11					
	4歳	15	15	9					
	5歳	7	15	14					
	計	39	39	34					
真野	3歳	23	18	27	16	7	7	6	9
	4歳	31	23	18	27	17	7	8	6
	5歳	27	33	23	18	28	18	7	8
	計	81	74	68	61	52	32	21	23
真野北 R2.3 伊西立・東野上	3歳	9	10	13	28	20	20	14	20
	4歳	6	9	10	25	31	24	20	15
	5歳	13	6	8	22	25	30	23	20
	計	28	25	31	75	76	74	57	55
聖田	3歳		28	28	15	20	20	23	17
	4歳	31	28	35	33	17	21	20	25
	5歳	31	32	27	36	29	18	24	21
	計	62	88	90	84	66	59	67	63
下阪本	3歳			32	30	34	27	24	27
	4歳	41	37	36	36	34	39	30	30
	5歳	36	42	40	36	40	36	40	31
	計	77	79	108	102	108	102	94	88
鹿嶋	3歳		31	30	23	21	17	20	12
	4歳	35	22	33	31	22	20	19	26
	5歳	46	35	20	34	33	23	22	18
	計	81	88	83	88	76	60	61	56
志賀	3歳			27	25	27	30	19	21
	4歳	43	27	28	34	31	29	35	25
	5歳	37	40	28	29	33	32	31	36
	計	80	67	83	88	91	91	85	82
比叡平 R2.3 伊西立・東野上	3歳	0	2	3	4	4	3	1	2
	4歳	7	0	1	2	8	3	2	1
	5歳	3	6	0	2	2	7	4	2
	計	10	8	4	8	14	13	7	5
長等	3歳		21	20	20	19	22	13	8
	4歳	23	12	19	20	23	20	23	13
	5歳	34	25	13	19	21	24	21	23
	計	57	58	52	59	63	66	57	44
津坂	3歳	16	16	13	8	7	8	6	7
	4歳	26	14	14	13	8	7	10	7
	5歳	12	22	16	13	12	8	7	8
	計	54	52	43	34	27	23	23	22
大津	3歳	17	25	18	8	14	17	8	12
	4歳	18	23	25	19	8	16	18	9
	5歳	11	21	23	25	21	9	18	19
	計	46	69	66	52	43	42	44	40
平野	3歳			35	32	21	26	21	24
	4歳	41	32	17	37	34	23	28	23
	5歳	31	40	35	19	39	36	23	30
	計	72	72	87	88	94	85	72	77
新所	3歳			26	17	17	20	16	10
	4歳	20	26	19	27	18	19	21	18
	5歳	32	18	28	19	28	21	18	22
	計	52	44	73	63	63	60	55	50
富士丘	3歳			17	30	11	21	10	9
	4歳	13	17	20	16	32	10	19	10
	5歳	18	16	19	19	17	33	11	19
	計	31	33	56	65	60	64	40	38
明成	3歳		36	36	15	16	14	14	10
	4歳	40	23	36	39	17	19	15	18
	5歳	36	41	25	39	38	19	18	16
	計	76	100	97	93	71	52	47	44
石山	3歳		30	22	15	11	19	14	20
	4歳	28	18	31	17	16	11	18	13
	5歳	30	30	18	32	18	19	12	20
	計	58	78	71	64	45	49	44	53
南郷	3歳			19	10	18	21	14	8
	4歳	25	19	15	17	13	20	23	14
	5歳	23	24	21	17	18	13	21	24
	計	48	43	55	44	49	54	58	46
大石	3歳		22	9	11	8	6	11	8
	4歳	17	22	21	10	12	8	6	10
	5歳	15	17	23	22	9	12	8	6
	計	32	61	53	43	29	26	25	24
田上	3歳	24	16	15	15	12	9	8	8
	4歳	18	26	18	16	17	12	9	7
	5歳	18	19	24	19	15	16	13	9
	計	60	61	57	50	44	37	30	24
上田上	3歳	18	16	13	10	12	14	14	7
	4歳	14	21	19	12	11	11	14	12
	5歳	18	13	22	18	11	11	10	13
	計	50	50	54	40	34	36	38	32
青山	3歳	49	37	26	19	23	19	9	9
	4歳	40	48	36	27	21	23	19	10
	5歳	58	40	52	40	26	21	26	19
	計	147	125	114	86	70	63	54	38
瀬田	3歳			31	34	23	24	18	25
	4歳	67	53	44	32	34	22	22	19
	5歳	50	66	52	49	34	40	23	23
	計	117	119	127	115	91	86	63	67
日本 R2.3 日本・東野上	3歳	5	7						
	4歳	4	5						
	5歳	8	4						
	計	17	16						
朝木の里	3歳	27	23	19	10	22	11	13	7
	4歳	16	26	27	20	10	23	11	13
	5歳	20	17	31	26	21	11	24	12
	計	63	66	77	56	53	45	48	32
朝木の里南	3歳		17	17	13	18	12	15	14
	4歳	25	22	19	17	14	21	12	17
	5歳	13	25	22	18	18	13	22	14
	計	38	64	58	48	50	46	49	45
津野 R2.3 津野・東野上	3歳	12	11						
	4歳	14	13						
	5歳	17	15						
	計	43	39						
日吉台 R2.3 津野・東野上	3歳	2							
	4歳	5							
	5歳	2							
	計	9							
坂本	3歳	15	28	38	36	31	28	26	30
	4歳	15	19	41	43	36	31	33	27
	5歳	25	22	30	40	44	40	34	36
	計	55	69	109	119	111	99	93	93
大津	3歳	17	25	18	8	14	17	8	12
	4歳	18	23	25	19	8	16	18	9
	5歳	11	21	23	25	21	9	18	19
	計	46	69	66	52	43	42	44	40
平野	3歳			35	32	21	26	21	24
	4歳	41	32	17	37	34	23	28	23
	5歳	31	40	35	19	39	36	23	30
	計	72	72	87	88	94	85	72	77
新所	3歳			26	17	17	20	16	10
	4歳	20	26	19	27	18	19	21	18
	5歳	32	18	28	19	28	21	18	22
	計	52	44	73	63	63	60	55	50
富士丘	3歳			17	30	11	21	10	9
	4歳	13	17	20	16	32	10	19	10
	5歳	18	16	19	19	17	33	11	19
	計	31	33	56	65	60	64	40	38
明成	3歳		36	36	15	16	14	14	10
	4歳	40	23	36	39	17	19	15	18
	5歳	36	41	25	39	38	19	18	16
	計	76	100	97	93	71	52	47	44
石山	3歳		30	22	15	11	19	14	20
	4歳	28	18	31	17	16	11	18	13
	5歳	30	30	18	32	18	19	12	20
	計	58	78	71	64	45	49	44	53
瀬田河	3歳	50	41	33	28	31	23	17	22
	4歳	54	53	43	31	29	34	22	19
	5歳	29	57	54	47	30	30	34	21
	計	133	151	130	106	90	87	73	62
瀬田南	3歳		60	36	37	25	28	24	28
	4歳	46	48	61	37	36	26	35	27
	5歳	62	53	49	58	38	38	27	33
	計	108	161	146	132	99	92	86	88
瀬田北	3歳			44	63	68	44	47	43
	4歳	69	62	63	48				

(5)市立幼稚園の運営費等の状況について

本市には、令和7年4月1日現在で市立幼稚園が28園設置されており、大まかな位置は、図 9に示す赤い星マークの部分になります。

また、表 6は、市立幼稚園28園と市立認定こども園1園の合計29園の1年間の運営に要する経費について、令和6年度の実績を表したものです。運営費には、職員の人件費のほか、光熱水費や通信運搬費、施設保守に係る経費などが含まれています。

表 6 市立幼稚園の運営費

項目	経費	1園あたり平均額
人件費等	1,744,568,928円	60,157,549円
維持管理費	181,646,740円	6,263,681円
合計	1,926,215,668円	66,421,230円



図 9 市立幼稚園の位置関係

一方で、図 10の棒グラフのとおり、特別な配慮を必要とする子どもの数は年々増加傾向にあります。また、図 10の折れ線グラフのとおり、市立幼稚園では1園あたり約10人の特別な配慮を必要とする子どもを受け入れており、これは、民間園の2倍以上となっていることから、公立幼稚園が果たすべき役割の一つになっていると考えられます。

このことから、幼稚園教育をコスト面のみで評価することはできないものの、コスト意識をもって適正な幼稚園の運営を行いながら、幼稚園教育の質の向上を図ることが重要です。

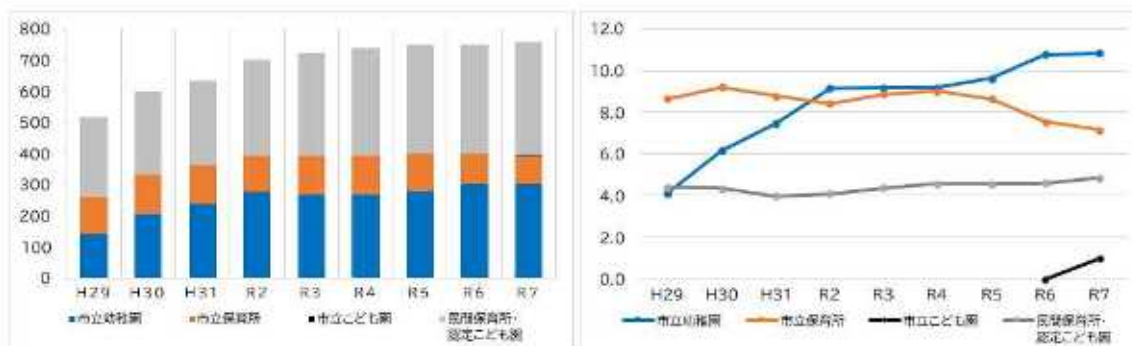


図 10 特別な配慮を必要とする子どもの数の推移(左)と1施設あたりの受け入れ平均人数の推移(右)

(6)保護者ニーズの変化について

本市においては、前述のアンケート調査を始め、これまで主に下記の3つのニーズ調査及びアンケート調査が実施されています。それぞれのニーズ調査及びアンケート調査における、「利用する施設等を選択する際に重視すること(複数回答可)」に対する回答の集計結果を図 11のとおり示します。

ただし、それぞれの調査対象者は、各調査年度において住民基本台帳から未就学児童(0歳～5歳)を無作為抽出したものであることから、市立幼稚園の利用者や希望者に対象を限定した調査ではありません。

なお、「駅の近くにある」は平成31年3月までの調査項目であり、令和6年3月からは新たに「安全・危機管理が徹底されている」の項目が追加されています。

- ア 「大津市子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査報告書」(平成26年3月)
- イ 「次期大津市子ども・子育て支援事業計画 第2次大津市次世代育成支援行動計画 大津市子ども・若者プラン策定のためのアンケート調査結果報告書」(平成31年3月)
- ウ 「次期大津市子ども・若者支援計画策定のためのアンケート調査結果報告書」(令和6年3月)

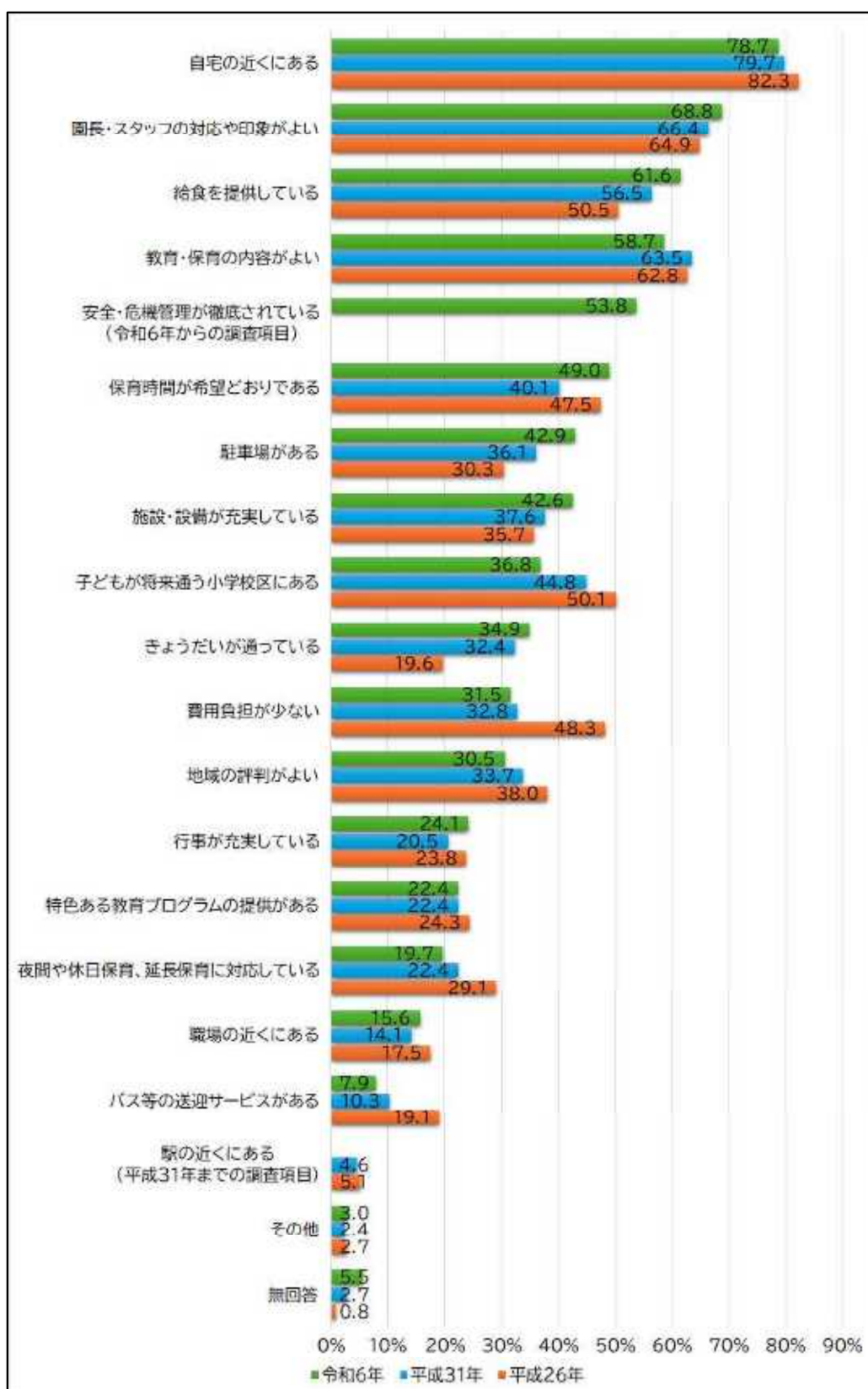


図 11 ニーズ調査、アンケート調査結果
(利用する施設等を選択する際に重視すること)

図 12に示す折れ線グラフは、令和6年3月のアンケート調査の結果において、重視する割合の上位8項目について、経年変化を示したものです。

「自宅の近くにある」は、順位は1位のままですが、重視すると回答された割合は低下傾向にあります。同様に、低下傾向にある項目は、「教育・保育の内容がよい」、「子どもが将来通う小学校区にある」となっています。

一方で、「園長・スタッフの対応や印象がよい」は、順位は2位のままですが、重視すると回答された割合は増加傾向にあります。同様に、増加傾向にある項目は、「給食を提供している」、「保育時間が希望どおりである」、「施設・設備が充実している」、「駐車場がある」となっています。

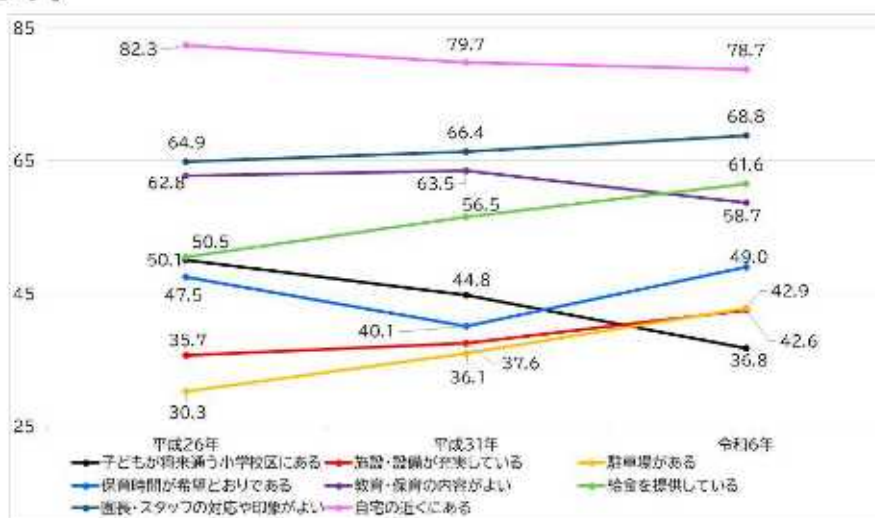


図 12 重視する割合の上位8項目(令和6年3月)の経年変化

また、図 13に示す折れ線グラフは、令和6年3月のアンケート調査の結果において、重視する割合の低位8項目について、経年変化を示したものです。

重視すると回答された割合は全体的に横ばい、又は、低下傾向にある中、「きょうだいがいる」という項目は大きく増加しています。

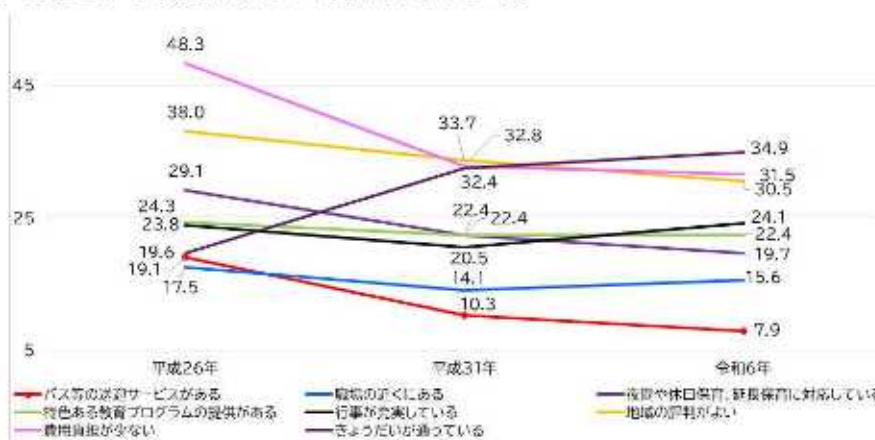


図 13 重視する割合の低位8項目(令和6年3月)の経年変化

3 これまでの取組

本市においては、次のとおり、これまでから市立幼稚園の規模的成果やあり方についての検討が行われてきました。平成28年度には、園児数の確保に向けた取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されてきました。

また、規模適正化の取組としては、3年保育実施後の園児数により検討を行うとされ、その後、令和3年度から令和5年度までは再編を実施しないとされました。

(1)「大津市立幼稚園・保育園のあり方の方針」の策定

本市では、今後の市立幼稚園・保育園のあり方について協議し、広く意見を聞くために、学識経験者に加えて幼稚園及び保育園の代表者などで組織される「大津市立幼稚園・保育園のあり方検討会」を平成26年度に設置し、従来の枠組みを超えて全市的な観点から幼稚園・保育園のあり方の検討を行い、平成27年5月に「大津市立幼稚園・保育園のあり方の方針」が策定されました。

「大津市立幼稚園・保育園のあり方の方針」では、市立幼稚園の今後のあり方として、1小学校区1市立幼稚園の考え方を見直して、

- 広域エリアを基本に再編し、適正規模を確保
- 地域の実情に応じた3年保育の実施

が定められました。また、市立幼稚園の再編については、「市立幼稚園の適正配置」として、

- 1学級の人数を「4歳児は20人以上」、「5歳児は25人以上」
- 複数級園(各学年)の編成を基本とした配置

とされ、「幼保一元化の取組」として、

- 保育園との一体的な運営
- 園児数が少ない地域を中心として、認定こども園への移行などの取組の促進

が明記されました。

また、本市のすべての乳幼児たちに質の高い教育・保育を提供するために、「基本理念」、「めざす子ども像」を定め、0歳児から小学校接続期までのカリキュラムの策定を進めることとされました。

(2)「大津市幼児教育・保育共通カリキュラム」の策定

「大津市幼児教育・保育共通カリキュラム」は、幼稚園教育要領と保育所保育指針を基本として、就学前の子ども達が過ごす場所が異なっても、子どもにとっての質の高い教育と保育を保障することを目的に、市立幼稚園・保育園の保育者を中心メンバーとした策定会議により、平成28年度に策定されました。

この共通カリキュラムには、0歳児から小学校接続期までのカリキュラムが定められているほか、本市の幼児教育・保育の基本理念と、めざす子ども像が以下のように掲げられました。

【大津市幼児教育・保育の基本理念】

すべての子どもたちが愛されることを基盤に、「心豊かにたくましく生きる力」を育む

【めざす子ども像】

わくわく のびのび いきいき
健やかでたくましい子ども
心豊かに人と関わる子ども
夢中になって遊び、よく考える子ども

なお、この共通カリキュラムは、令和5年度に指針等の改訂の要素を検討の視点に加えながら、新カリキュラムとして改訂が行われました。新カリキュラムは、策定当初に掲げられた基本理念やめざす子ども像に基づき、乳児期から小学校の接続期までを見通した、等しく質の高い教育・保育を一体的に提供するために、「教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画」として明確に位置付け、どの教育・保育施設においても、共通に質の高い教育・保育を実施するための指針となっています。

(3)「3年保育実施の年次計画・規模適正化に向けた実施計画」の策定

本市では、16ページに記載のとおり、平成27年5月に「大津市立幼稚園・保育園のあり方の方針」が策定されましたが、この方針を踏まえ、平成28年9月には、今後の市立幼稚園のあり方について、3年保育の実施及び個別の地域での再編等の方向性を具体的に示すため、「大津市立幼稚園における3年保育実施の年次計画・大津市立幼稚園規模適正化に向けた実施計画」が策定されました。なお、この計画の策定にあたっては、教育的観点からの視点を最優先に、財政的観点も考慮することとされました。

- 教育的観点

一人一人の発達の保障や集団形成は、一定の規模を有する適正な集団が確保されることによって、幼稚園教育要領に示している主体性と社会的態度を身に付けていくと考えられます。

- 財政的観点

人口減少が予想される中、持続可能な公共施設のあり方を検討していく必要があります。大津市公共施設適正化計画(令和4年7月改訂、現「大津市公共施設総合管理計画」)では、公共施設全体を財政・サービス・運営面から最適かつ安全に持続可能な規模・量・運営形態に見直し、適正化を図っていくことが求められています。

この計画の中で3年保育実施の年次計画が定められ、平成29年度から4年間をかけて3年保育を順次実施し、令和2年度には全ての市立幼稚園で3年保育が実施されることとなりました。

また、市立幼稚園の規模適正化に向けて、再編基準として、

「再編に先駆けて実施する3年保育の実施後、

4歳児の園児数が3年連続して、適正規模である20人を下回った場合は、
近隣の幼稚園との再編を行います」

と定められました(地理的要因により、比叡平幼稚園と大石幼稚園は対象外)。併せて、「大津市立幼稚園・保育園のあり方の方針」で定められた「広域エリア」の考え方である、「中学校区ブロック」ごとに、規模の適正化を図っていくとされました。

(4)計画の見直しと市立幼稚園のあり方の再検討

令和2年3月に、それまで検討されていた市立保育園の民営化を一旦白紙に戻す中で、保育園や幼稚園などの就学前児童の施設全体について、公の役割や地域の特性、人口推計などを踏まえ今後のあるべき姿等を検討することとされました。

令和2年8月からは、「保育・幼児教育有識者からの意見を参考とするための会議」を開催し、公立園のあり方、幼稚園の再編基準及び大津市立認定こども園への移行について協議が行われました。

なお、令和2年9月には、市立幼稚園のあり方を検討中のため、「令和3年度入園の園児が卒園するまでは原則再編を行わない」ことが決定されました。

この協議の結果、令和3年3月に、下記のとおり検討結果が示されました。

- 再編基準の見直し

4歳児の園児数が、

- ① 3年連続して18人を下回った場合、かつ、現実的に園児数の増加が見込めない場合、近隣の幼稚園等との再編を視野に入れて、検討を行います。
- ② 10人を下回ることが、今後、見込まれる場合、その時点から再編の検討を進めていきます。
- ③ 3年連続して5人を下回った場合、幼保一体施設を除き、原則、近隣の幼稚園等との再編を行います。

- 認定こども園への移行の検討

市立幼稚園の園児数が少ない一部の地域については、園や地域の状況に応じて市立保育園との統合により認定こども園へ移行するなど、認定こども園の導入を行うこととし、具体的な園における可能性の検討を進めていきます。

(5)市立幼稚園の規模適正化に向けた現状分析(中間報告)と認定こども園化について

令和4年12月には、市立幼稚園の現状分析について、市議会教育厚生常任委員会において報告するとともに、平成24年度から実施していた幼保一体化施設である「やまのこひろば」を「比叡平こども園」として開設する方針を決定し、令和5年度中に条例制定等を行い、令和6年4月に公立で初めてとなる幼保連携型認定こども園が開設されました。

その結果、令和6年4月1日現在で、市立幼稚園が28か所、市立認定こども園が1か所、市立保育所が14か所(葛川保育園を含む)となりました。

(6)これまでに再編を実施した園とその学区の状況について

これまでに実施した再編によって、集団規模が大きくなったことで、複数の集団を形成することが可能となり、それぞれが自分の遊びを大事にしながらも、友達遊びに刺激を受けたり、友達に刺激を与えたりという姿が見られるようになりました。

また、地域との繋がりという面においては、それまで園が位置する地域や学区だけの「1対1」の繋がりであったものが、再編後は、関係する**地域全体と繋がり**、それに合わせて子ども達の遊びや生活も豊かに展開されています。

再編後、市立幼稚園と地域との関わりが2倍、3倍と大きくなっていることは、1小学校区1幼稚園という取組の中で培ってきた、地域の人や物、事との関係性を、変わらず大切にしている結果であると考えています。

なお、再編から5～8年近くが経過した園が位置する学区の、令和7年4月時点での状況は表 7のとおりです。

・藤尾学区

藤尾学区において就学前施設を利用している子どものうち、1号認定子どもは約17%となっており、そのうち約58%が藤尾幼稚園跡地に開設された民間こども園を利用しています。残り約42%が京都市の私立幼稚園を利用しており、再編後の長等幼稚園は利用されていません。

・日吉台学区

日吉台学区において就学前施設を利用している子どものうち、1号認定子どもは約23%となっており、そのうち約27%が日吉台幼稚園跡地に開設された民間こども園を利用しています。再編後の坂本幼稚園は約60%の子どもが、残りの子どもは市内の民間こども園を利用しています。

・仰木学区

仰木学区において就学前施設を利用している子どものうち、1号認定子どもは約15%となっており、その全員が再編後の仰木の里幼稚園を利用しています。

・雄琴学区

雄琴学区において就学前施設を利用している子どものうち、1号認定子どもは19%となっており、そのうち約30%が再編後の坂本幼稚園を利用しています。残り約26%が仰木の里東幼稚園を、約34%がその他の民間こども園をそれぞれ利用しています。

表 7 これまでに再編を実施した園の状況

居住学区	再編した 年度	2号・3号認定 子どもの割合	1号認定子ども の割合	1号認定子どもが 利用している施設	1号認定子ども に占める割合
藤 尾	H29	82.6%	17.4%	跡地に開設された園	57.9%
				京都市の幼稚園	42.1%
日吉台	H30	76.9%	23.1%	坂本幼稚園	60.0%
				跡地に開設された園	26.7%
				その他、民間こども園	13.3%
仰 木	R01	84.6%	15.4%	仰木の里幼稚園	100%
				坂本幼稚園	29.8%
雄 琴	R01	80.9%	19.1%	仰木の里東幼稚園	25.5%
				その他、市立幼稚園	10.6%
				その他、民間こども園等	34.1%

出典：保育入所課提供データ(令和7年4月時点)

(7)市立幼稚園の園児数を増加に向けた取組について

18ページに記載の「3年保育実施の年次計画・規模適正化に向けた実施計画」の策定において、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が保護者の大きな要望であることから、園児数を増やす取組として、市立幼稚園で「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が順次実施されています。

3年保育については、遊び相手を求める発達側面と、学校教育全体の学習基盤を培う教育的側面、保護者の子育てを支援する面でも重要と考え、全園での実施となったものです。

しかし、11ページに記載の表 5のとおり、全ての市立幼稚園で3年保育が実施された令和2年度をピークとして、近年、急激に園児数が減少している状況です。

ア 市立幼稚園における3年保育実施の成果について

市立幼稚園において、平成29年度から順次実施した3年保育の影響により、8ページの「認定児童数の推移」のとおり(下記に図 8を再掲)、平成29年度から令和2年度にかけて、1号認定子どもの園児数が増加しましたが、令和2年度をピークにその後は減少しています。一方で、2号認定子ども及び3号認定子どもは、令和2年度以降も横ばいで推移しています。

このことから、市立幼稚園の3年保育を開始したことにより、これまで就学前施設を利用していなかった3歳児の子ども達が幼稚園を利用できるようになったという効果がある一方で、依然として保育ニーズの高まりが続いていると考えられます。

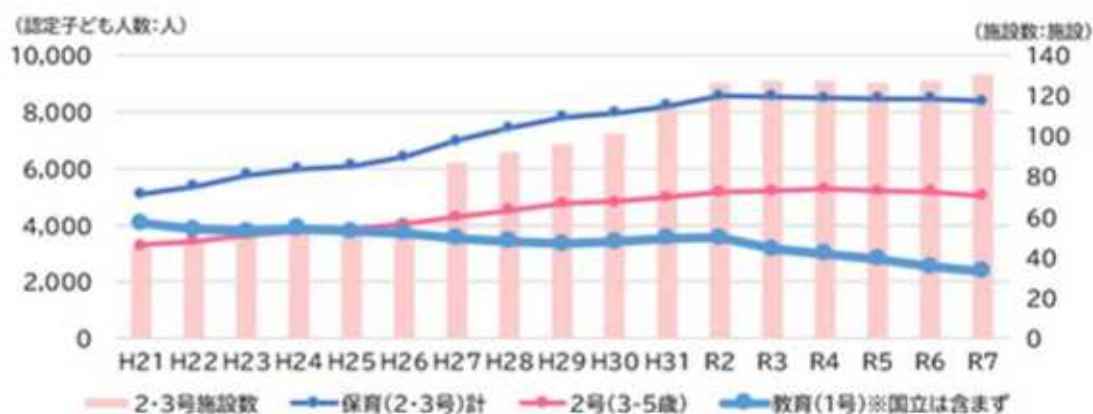


図 14 認定児童数の推移(図 8を再掲)

イ 市立幼稚園における就労している保護者に対する支援拡大の取組について

本市における保護者の就労状況としては、これまでに記載のあったとおり、就労している母親の割合や1年後の就労を希望する母親の割合が増加しています。

このことから、在園児の保護者の就労支援を目的として、市立幼稚園における預かり保育が平成25年度から本格的に実施されてきました。

平成29年度からは、国の子ども・子育て支援新制度における一時預かり事業（幼稚園型）に移行し、表 8のとおり、「預かり保育の充実」のため、実施時間や実施日数、実施場所を拡大していきました。

その結果を受けた市立幼稚園における就労等の要件がある預かり保育の利用状況の推移を、図 15及び表 9に示します。近年の利用状況から、市立幼稚園で預かり保育を利用する割合が年々増加傾向にあり、また、入園後に就労を始めるなど、新たに預かり保育を利用される家庭も多くあることから、就労等の要件があらながら幼稚園を利用したいという保護者の需要があることが分かります。

表 8 預かり保育の経緯

預かり内容	一時預かり	特別一時預かり		
		9時から17時まで		8時30分から9時まで 17時から17時30分まで
実施日	週2～5日	春・冬休み	夏休み	長期休暇以外
H29年度	週2日：7園 週3日：3園 週5日：21園			
H30年度	週2日：7園 週3日：1園 週4日：2園 週5日：21園			
R元年度	週5日：全園	全園	8園	
R2年度	週5日：全園	全園	全園	
R3年度	週5日：全園	全園	全園	
R7年度	週5日：全園	全園	全園	全園

こうした背景を受けて、就労している保護者に対する支援を更に拡大することで園児数の増加に繋げるために、令和7年度から、8時30分から9時00分、保育終了後から17時30分まで利用できるよう、預かり保育の時間が延長されました。このことは、「働いていても幼稚園！」というキャッチフレーズの下で広く周知が行われました。

表 10に、4月1日時点の市立幼稚園の新入園児数の推移を示します。令和7年度の新入園児数は488人で、対前年度比13人減となったものの、前年の81人減と比較すると減少幅は小さくなっています。

一方で、**預かり保育の拡大については、実施してから1年を経過しておらず、効果検証が十分にできないことから、引き続き周知活動に努めるとともに、効果検証を行いながら、より良い制度となるように取り組んでいくことが必要と考えます。**

なお、本市における保育所等への申込状況ですが、0～2歳児で約76%を占め、3歳児での新規申込は約10%に留まっています。このことから、市立幼稚園に入園が可能となる3歳児の時点で、就労要件のある保護者の多くは、既に保育園等に入園希望されている傾向にあります。

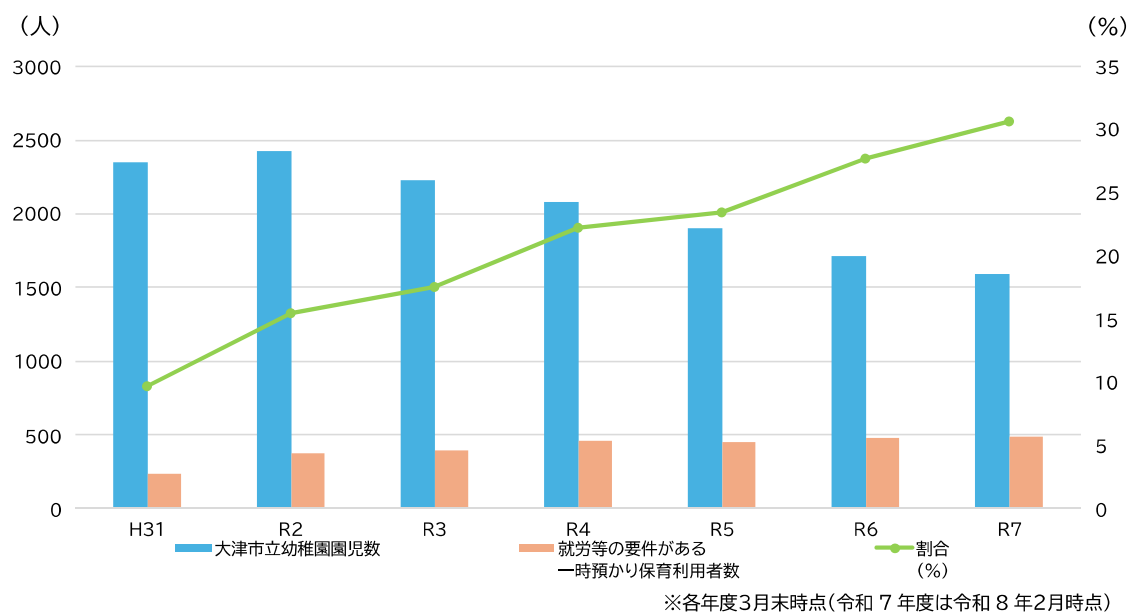


図 15 園児数と、就労等の要件がある一時預かり保育の利用者数について

表 9 就労等の要件がある一時預かり保育利用者の年度中増加数

	利用者数(4月1日付)	利用者数(3月末)	年度中の増加数
令和5年度	383人	446人	63人
令和6年度	406人	476人	70人
令和7年度	381人	487人	106人

表 10 4月1日時点の市立幼稚園の新入園児数の推移

	3歳	4歳	5歳	合計	対前年度
令和5年度	537人	26人	19人	582人	▲59人
令和6年度	455人	34人	12人	501人	▲81人
令和7年度	447人	29人	12人	488人	▲13人

4 市立幼稚園が果たしてきた役割

市立幼稚園がこれまで果たしてきた役割として、主に次の5点が挙げられます。

(1) 幼稚園教育要領に基づく質の高い教育の提供

明治21年に最初の市立幼稚園が誕生して以来、幼稚園教諭として、計画的に研修・研究を実施し専門性の向上に努めるとともに、先進的な研究に貢献しながら、遊びを通しての学びを確立し、環境を通して行う教育の充実を図ってきました。

また、17ページに記載のとおり、平成28年度には「大津市幼児教育・保育共通カリキュラム」を策定し、乳幼児期から学齢期(架け橋期)までの学びの連続性を重視した幼児教育・保育を推進してきました。

(2) 幼稚園と小学校の滑らかな接続

市立幼稚園は、学校教育機関として、1小学校区1幼稚園という充実した整備環境により、学区の特色や園の状況に応じ、小学校と密に連携しながら教育活動を行ってきました。幼稚園と小学校が近接している環境を生かし、子ども同士の直接的な交流活動や、教師同士の意見交換、合同研究を始め、「学びをつなぐ」視点での授業・保育改善に取り組み、共に子どもの育ちを支える体制を構築してきました。

また、地域に開かれた教育活動の展開や、交流行事、園外保育等の機会を通じて、地域を愛する人を育て、地域の活性化やまちづくりにも貢献してきました。

加えて、校種間交流や合同研修の実施等、隣接する小学校や中学校ブロックでの滑らかな接続、連携の強化を進めるなど、架け橋プログラム推進における要の役割を果たしてきました。

(3) 地域の特色を生かした幼稚園教育の推進

地域ごとの自然環境や文化、人との触れ合いなど、特色を生かした教育活動を通じて、子どもが地域への愛着や感謝の気持ち、誇り、憧れを持つ教育を推進してきました。

また、保護者への地域の魅力啓発、地域関係団体との連携事業などを園の教育課程へ位置づけることで、地域コミュニティの活性化への貢献など、子どもが地域社会の一員としての感覚を育み、共に社会を形成していく意識の醸成に努めてきました。

(4)地域の子育て支援の推進

地域の子育て不安や子どもの育つ環境へのニーズの多様化に合わせ、乳幼児の健全な成長を支援するため、子育て家庭をサポートする環境(未就園児親子通園事業、一時預かり保育)を整備してきました。在園児家庭においては、一時預かり保育を利用しながら引き続き幼稚園教育を望む家庭が増加しています。

(5)平等に教育の機会を提供し、誰もが学び成長できる環境の保障

年度途中での転入園児、特別な配慮を必要とする子ども、保育の必要な子ども、また、児童養護施設で生活する子どもに対して、平等に教育の機会を提供し、誰もが学び成長できる環境を保障してきました。

【第2章 基本的な方針と考え方】

1 就学前教育・保育のあり方について

「こども・若者の幸せな未来を築くまち おおつ」を基本理念とする「大津市こども・若者支援計画(計画期間:令和7年度から令和11年度)」においては、本市の子ども・若者が、安心して自分の力を存分に発揮し、主体的に自らの夢や希望に向かって進むことができる環境を整えるために、4つの基本方針ごとに、各種施策・取組が設定・推進されています。このうち、「こどもの教育・保育の充実」の施策においては、本答申に係る取組(市立幼稚園の規模適正化の推進)のほか、教育・保育の提供体制の確保や教育・保育施設に従事する職員に対する研修など、本市の就学前の子ども達により良い教育・保育を提供できるように様々な取組が推進されているところです。これらの取組は、市として、今後も引き続き注力していく必要があることから、本市のこれからの就学前教育・保育のあり方のビジョンは、大津市こども・若者支援計画と整合を図り、次のとおりとします。

健やかに育つ環境と質の高い幼児教育・保育環境の充実

～就学前の子どもの育ちの場を確保するとともに、
質の高い幼児教育・保育の提供を図り、一人一人の子どもの健やかな成長を支えます～

2 幼稚園教育のあり方について

これまでも記載のとおり、本市においては、平成28年度に策定された「大津市幼児教育・保育共通カリキュラム」に基づき、幼稚園や保育園、認定こども園など、子どもが過ごす場所が異なっても、子どもにとっての質の高い教育と保育が保障されるよう取り組まれてきました。また、令和5年度には共通カリキュラムを再改訂するとともに、令和6年4月には、本市の公立園で初めての大津市立認定こども園が設置されることとなりました。再改訂された共通カリキュラムでは、策定当初に掲げられた「幼児教育・保育の基本理念」と「めざす子ども像」に基づき、乳児期から小学校の接続期までを見通した、等しく質の高い教育・保育を一体的に提供するために、「大津市幼児教育・保育共通カリキュラム」を「教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画」として明確に位置付け、施設種別間の教育及び保育内容の整合性が図られました。

この共通カリキュラムに掲げられている基本理念、めざす子ども像は、「未来の市民を育む幼児教育・保育をめざして」定められたものであり、保護者や市民、保育者の共通の願いです。社会情勢が変化していく中でも、本市の幼児教育・保育の理念を、時代を超えて提

供し、めざす子どもの育ちを保障することが大切であることから、これらの考えを本答申では引き継いでいくものとします。

これまで常に国の方針に示される新しいものを求めながら、その時々課題に向かって積極的に取り組んでいくことで市立幼稚園が培ってきた幼稚園教育を、今後も継続して、本市の全ての子ども達に提供できるように、大切にしたいことは主に次の5点と考えています。

(1) 一人一人の発達の特性に合った幼稚園教育

子ども達は、その子らしい興味や関心をもって環境に関わり、いろいろな体験を積み重ねていきます。一人一人の見方や考え方、感じ方、関わり方などの発達の特性や、その要求や行動の背景にある心情など内面の動きを理解し、その子の発達にとってどのような経験が必要であるかを考え、個々に応じた支援や指導を行います。子ども達が、自分の存在が周囲の大人に認められ、守られているという安定した情緒を基盤として、自分の世界を広げ、自立した生活に向かっていくことができるように支援していきます。

(2) 遊びを通じた学びを大切にする幼稚園教育

幼児期の生活のほとんどは遊びで占められています。子どもの遊びは、成長や発達にとって重要な経験が多く含まれ、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習、学びの場です。心と体を動かし夢中になって遊ぶことを通して得られた満足感や達成感、時には疑問や葛藤が、更に自発的に身の回りの環境に関わろうとする意欲や態度を育みます。

また、幼児期の「遊び込む経験」により、忍耐力や自己抑制、自尊心といった社会情動的スキルや、興味、自信、協働性や思いやりといった非認知能力など、心の力を身に付ける学びを大切にします。

(3) 環境を通して行う幼稚園教育

子ども達が、生活を通して身近なあらゆる環境と出会い、自分から興味をもって主体的に環境と関わりながら、様々な活動を展開し、充実感や満足感を味わう体験を重ねていく経験を大切にします。そのために、教育内容に基づいた計画的な環境をつくり出し、望ましい方向に向かって発達を促していきます。

本市では、清潔で安全な施設、年齢に応じた遊具や教材、豊かな園庭の植栽や砂場など、子どもが自由に探索し、環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして試行錯誤し、考え、安心して学ぶことができる環境を、各園の特色を踏まえ整えるとともに

保全に努めます。

(4) 同年代の子どもとの集団生活を営む場が大切にされる幼稚園教育

子どもが多数の同年代の子どもと関わり、気持ちを伝え合い、時には協力して活動に取り組むなどの、子ども同士が相互に影響し合う過程を通して、支え合って生活する楽しさを味わい、主体性や社会的態度を身に付けていくことを大切にします。

幼稚園教育要領解説には、「同年齢や異年齢の幼児同士が相互に関わり合い、生活をすることの意義は大きい」とも記されています。対等の関係でお互いに切磋琢磨し合える「同年齢の集団」と、年少者への優しさや思いやりと年長者への憧れなどが育まれる「異年齢の集団」とは、それぞれ得られるものが異なります。それぞれの経験が子どもの育ちにどのような影響を与えるかということを意識した教育を展開します。

(5) 継続的な評価と改善による教師の資質・能力の向上を図る幼稚園教育

教師の専門性や情熱、子どもへの愛情と尊重が、子ども達の成長の質に大きく影響することから、子どもの発達や学びについて深く理解する「教師の質」が、幼児教育の「保育の質」となります。そのため本市では、大津市立幼稚園人材育成指標に基づき、法定研修や担当課・教育センターによる系統的・継続的な研修、また各園での園内研修や園内カンファレンスなどを実施し、専門性を高めるとともに、自らの保育を振り返り、改善と資質・能力の向上に努めます。

加えて、近年の市立幼稚園を取り巻く環境から、次の2点についても、市立幼稚園が今後担っていくべき大きな役割になっていると考えられます。

(6) 架け橋期の教育の推進

近年、国においても、5歳児から小学校1年生までの2年間の「架け橋期」は、幼稚園・保育園・認定こども園・小学校が意識的に協働して子どもの発達や学びをつなぐことにより、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくることが重要であるとされており、架け橋期の教育・保育の充実に向けた取組が注目されています。本市においても、子ども達が幼稚園生活で培った力を土台に、小学校での学びや新しい環境に適應する力を養い、前向きな気持ちで次のステージへ進む準備を整えることができるよう、市立幼稚園が中心的役割を担いながら、地域の就学前施設や小中学校との連携を図り、架け橋期の教育の推進に取り組んでいきます。

なお、再編等を実施した後は、再編後の園が、複数の地域における連携を担っていきま

す。

(7) 特別な配慮を必要とする子ども達への指導

前述のとおり、現在、市立幼稚園では、障害のある子ども、教育上特別の支援を必要とする子ども、外国にルーツを持つ子ども(外国籍の子どもや幼少期を外国で過ごした子ども等)など、多くの特別な配慮を必要とする子ども達を受け入れています。

幼稚園教育要領解説に、障害のある子どもなどへの指導については、「集団の中で生活することを通して全体的な発達を促していくことに配慮し、特別支援学校などの助言又は援助を活用しつつ、個々の幼児の障害の状態などに応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする」と記されています。

また、外国にルーツを持つ子どもなどへの指導については、安心して自己を発揮できるよう配慮するなど、個々の子どもの実態に応じ、指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする」と記されています。

市立幼稚園では、これまでから、同解説に記載のとおり、個々に応じた手立てや環境の工夫を行いながら、特別な配慮を必要とする子ども達への対応について力を入れて取り組んできました。今後も引き続き、個々の特性に応じ、集団生活を通して発達を促していくことができるよう、常に教師の資質・能力の向上を図りながら取り組んでいきます。

3 基本的な方針について

これまでの本市における検討結果や幼稚園教育のあり方を踏まえると、就学前の子ども達の健やかな成長のためには一定の集団規模が望ましいとされる一方で、9～11ページに記載のとおり、本市の市立幼稚園の園児数は年々減少を続けており、1クラスあたりの定員の半分に満たない幼稚園も複数存在していることから、市立幼稚園の再編等の検討は避けられない状況となっています。また、建築後相当の年数が経過している施設もあり、老朽化などの問題から、大規模修繕を含めた施設の維持管理についても課題となっています。

単独の幼稚園で一定の集団規模を確保したり、効率的な公共施設マネジメントを行うためには、複数の施設を統廃合することで一つの施設規模を大きくしたり、維持管理を行う施設数を減らしていくことが必要と考えられます。これまで、20～21ページに記載のとおり、いくつかの幼稚園において部分的に再編の取組が行われてきましたが、近年の少子化の更なる進行と保育ニーズの高まりの影響で、市立幼稚園の園児数が減少を続けている現状を踏まえ、全体最適の視点から市立幼稚園のあり方を検討していく必要があります。

市立幼稚園の再編等の検討にあたって、園児数や施設の老朽化だけを判断材料として画一的に統廃合を進めていくと、教育の質をどのように担保していくのかということや、通園が不便になったり、地域によっては就学前施設がなくなったりするなどの教育の機会が確保できなくなるといった問題が生じることが想定されます。

さらに、再編というイメージは、あまり好意的に受け取られにくい部分もあることから、これまでに再編を実施した園における取組も参考としながら、将来の本市の全ての子ども達に、より良い教育・保育環境を提供できるようにという視点で再編等の検討を行っていくことが必要です。

以上のことを踏まえ、本市の市立幼稚園再編等の基本的な方針として、次の4点のとおり、再編にあたって考慮すべき点を定める必要があると考えます。

1

子どもにとって望ましい教育・保育環境を提供するため、適正な集団規模を確保していく

これまでの本市における検討内容から、子どもにとって望ましい教育・保育環境とは、一定の集団の中で子ども同士が相互に影響し合い、いろいろな友達と思いを伝え合う経験や協同する経験が得られる環境であると考えます。

このことから、再編等を実施することにより、一定の集団規模を確保した幼稚園教育の環境づくりを目指していきます。

2

大津市子ども・若者支援計画との整合性を図っていく

本市では、7つの地域(志賀、北部、中北部、中部、中南部、南部、東部)ごとに、教育・保育の提供体制の確保を図っています。今後、市立幼稚園の再編等を行うことで、1号認定子どもの選択肢が不足してくる地域が発生しないよう、地域ごとに需要と供給のバランスを考慮して再編等の検討を進めていきます。

3

地域の実情に応じた通園支援の方法を検討していく

現在、市立幼稚園は、原則「徒歩による通園」としていますが、今後、再編等を実施することによって通園距離が長くなる場合が想定されます。通園保障は、再編に当たって必要な要件の一つであり、地域の実情に応じて、駐輪場や駐車場の整備、通園バスの検討など、通園方法の検討を行う必要があります。

4

より良い教育・保育環境を大津市の全ての子ども達に提供できるよう検討していく

子ども達がより良い環境で過ごすことができるよう、施設の老朽化への対応など、大規模修繕を含めた施設整備の計画的な推進について検討していきます。一方で、施設整備のためには莫大な経費が必要となってくることから、再編等の検討と併せて、設備投資先の選定についても検討を行います。

また、市立幼稚園がこれまで培ってきた幼稚園教育に係る知識や技術を官民幼保問わず継承し、本市の全ての子ども達に質の高い幼稚園教育が提供できるよう、人材の育成を行っていきます。

加えて、将来にわたって、市立幼稚園が子ども達や保護者にとってより魅力的な園となるような取組について、調査・検討していきます。

なお、28ページから記載している「幼稚園教育のあり方」と、32ページから記載している「基本的な方針」に加えて、保護者や子ども達にとって、より良い就学前教育の場となるよう、各幼稚園の現場を中心に、魅力向上に向けた取組を行っていく必要があります。

4 適正規模・再編基準について

(1) 適正規模について

幼稚園の園児数の適正な規模については、一律な基準が設けられていないものの、本市においてこれまでの市立幼稚園のあり方検討を通じて、適正規模は、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られることに加え、遊びの最小単位が複数構成できることが望ましい」とされました。具体的には以下のとおりです。

- 1学級の園児数 4歳児 20人以上 5歳児 25人以上
- 各学年の学級数 2学級以上

この園児数については、以下の考えにより決定されています。

- ア 1人の教師が子ども達一人一人に十分にに関わり、信頼関係が築ける規模
- イ 4歳児であれば、互いの存在を受け入れ、一緒に遊ぶことが楽しいと感じられる関わりの方が複数築ける規模
5歳児であれば、仲間の繋がりを感じたり、共通の課題に力を合わせて取り組む経験ができる規模
- ウ 子ども達の人間関係が多様になり、様々な感情体験や葛藤体験の機会が得られ、社会性や協同性の芽生えが培われるために、遊びの最小単位が3～5つ程度構成できる規模

また、学級数については、以下の考えにより決定されています。

- ア 子ども達の関係性を変えることができ、人と関わる力が高まる規模
- イ 教師間で子どもを多面的に見て理解を深め、指導力を高めることができる規模

上記の園児数と学級数を決めるにあたっての考え方は、「公立幼稚園のあり方基本方針（平成25年3月）」において、教育的な観点から検討された内容です。具体的には、大津市

立幼稚園長会が実施した「幼児期における協同的な学びを支える教育環境(適正規模)」の研究報告や、他市の状況調査、小規模園の園長の実態報告などを参考に議論するとともに、全国幼児教育研究協会の「幼児集団の形成過程と協同性の育ちに関する研究」や、他市の適正規模の基準などを手掛かりに、「幼児期の教育にふさわしい環境」の観点に立ち、個に応じた援助と集団の形成の両面から検討されました。

一方で、市立幼稚園の園児数は、前述のとおり、年々減少を続けており、上記の適正規模を大きく下回る小規模な園も見られるようになっていきます。本市においては、これまでから園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきましたが、子どもの育ちの観点からは、遊びの最小単位が複数構成できる一定の集団規模が確保できることが望ましいと考えられます。

加えて、この適正規模については、大津市総合計画第3期実行計画にも「子どもの学びや成長を促すために複数クラスを確保できるようにする」とあることから、本答申においても、上記の考え方を引き継ぐこととします。

ただし、令和3年3月の「市立幼稚園・保育園の今後の方針について」において、望ましい適正規模として上記の考え方が引き継がれた一方で、再編基準については、それまで採用されていた4歳児の適正規模20人での画一的な基準を改め、再編基準の見直しが行われました。このことから、本答申においても、再編等を検討するにあたっては適正規模を用いることはせず、後述する再編基準によって検討を行うものとします。

(2)再編基準(基準とする年齢及び人数)について

これまでの本市における再編基準は、前述のとおり、令和3年3月に以下のとおり見直しがされています。

4歳児の園児数の適正規模は20人であるが、1クラスの国の人数の基準を勘案し、

ア 3年連続して18人を下回った場合、かつ、現実的に園児数の増加が見込めない場合には、近隣の幼稚園等との再編を視野に入れて、検討を行います。

イ 10人を下回ることが、今後、見込まれる場合は、その時点から再編の検討を進めていきます。

ウ 3年連続して、5人を下回った場合は、幼保一体施設を除き、原則、近隣の幼稚園等との再編を行います。

本答申において再編等を検討するにあたっては、全市立幼稚園で3年保育が実施されてから、既に5年以上が経過していることなどを鑑み、これまで4歳児を基準としていたと

ころを、3歳児を基準として考えていきます。

また、人数の基準については、子ども達の過ごす環境として、遊びの集団が複数構成されることが望ましいことや、3歳児の集団規模は4歳児よりやや小さいと考えられること、1クラスの人数の国の基準が今後見直される動きがあることなどを勘案し、これまで18人としていたところを15人へ見直し、再編等の検討を行っていきます。なお、10人と5人という基準は見直しを行わず、継続して基準として使用します。ここで用いる園児数の基準日は、毎年、「4月1日現在(入園予定者を含む)」とします。

(3)再編基準に則った検討の進め方について

再編基準に則った再編等の検討の進め方については、これまでは毎年園児数の実績を把握し、再編基準と照らし合わせることで再編等の検討を行ってきましたが、この方法では将来を見通した形での検討が難しくなります。そこで、毎年の実績値を用いるのではなく、「令和5年度から令和7年度までの実績値と、令和8年度から令和12年度までの推計値の、合計8年間の園児数」を用いて、再編等に係る計画を策定した時点で再編基準に合致するかどうかの判断を行い、再編等の検討対象となる園を決定します。なお、再編等の検討を行う時間軸を令和8年度から令和17年度までの10年間とした上で、令和8年度から令和12年度までの5年を第1段階、令和13年度から令和17年度までの5年を第2段階としてそれぞれ定めます。

3歳児の園児数が、

ア 3年連続して15人を下回る場合、原則として、再編等の検討対象とします。

イ 10人を下回るか、下回らないかで、第1段階で検討するか、第2段階で検討するかに分けします。

ウ 実績値が3年連続して5人を下回った場合、翌年度4月1日に再編等を行います。

(4)再編基準について

(2)及び(3)に記載の内容から、本答申における再編基準は次のとおりとします。

ア 再編等を検討する園の決定

3歳児の園児数について、令和5年度から令和7年度までの実績値と令和8年度から令和12年度までの推計値で、「3年連続15人を下回る」場合は、原則として、再編等を検討する対象園とします。

イ 第1段階で再編等を行う園

令和5年度から令和12年度までの間で、3歳児の園児数が1度でも「10人を下回る」場合は第1段階で再編等を行います。

ただし、その後、園児数が増加に転じる推計の場合は、第2段階とすることも検討します。

ウ 第2段階で再編等を行う園

令和5年度から令和12年度までの間で、3歳児の園児数が1度も「10人を下回らない」場合は、第2段階で再編等を行います。また、第1段階のただし書きに該当する場合についても、第2段階での再編等を検討します。

エ 令和8年度以降の実績値による判断

3歳児の園児数が5人を下回った場合は、交流保育等を積極的に実施した上で、3年連続5人を下回った場合は、翌年度4月1日に再編等を行います。

なお、令和8年度から令和12年度までの園児数の推計値を用いていることから、実績値を勘案するために、「教育・保育施設の利用状況および規模適正化に向けた現状分析」を基に、再編等に係る計画の中間年である令和12年度に中間見直しを行う必要があります。その際には、質的にも量的にも柔軟性を持たせるために、以下の内容で検討を行うことが必要です。

ただし、再編等を進める際には、時代に応じた市立幼稚園のあり方の検討が常に求められることから、少子化や社会情勢等の変化など、就学前施設を取り巻く環境を十分に考慮して柔軟に検討を行うことが必要です。

オ 見直し時に用いる園児数

令和12年4月1日現在において、令和8年度から令和12年度までの園児数の実績値を用います。

カ 見直し内容

見直し時の園児数が、再編基準で定める「3歳児が3年連続15人を下回る場合」の条件に適合するかどうかに加えて、就学前施設を取り巻く社会情勢等の変化を十分に考慮して、第2段階で再編等の検討対象とするか再度検討を行います。具体的には、

- ・ 再編等に係る計画の策定時点において、第2段階での再編等を予定していた園について、令和8年度から令和12年度までの間で、「3歳児が3年連続15人を下回る場合に適合しない」、かつ、「園児数が増加傾向にある」場合は、令和17

年度までは再編等を行いません。

- ・ 再編等を進める際には、社会情勢等の変化を鑑み、時代に応じた市立幼稚園のあり方を検討する必要があることから、中間見直し時においても、再度、十分に検討を行います。

5 再編等の方向性検討について

(1) エリアの考え方について

これまでの本市における再編等を検討するエリアについては、平成28年9月に策定した「大津市立幼稚園における3年保育実施の年次計画・大津市立幼稚園規模適正化に向けた実施計画」において、以下の理由から、広域エリアを「中学校区ブロック」とし、ブロックごとに市立幼稚園の規模適正化を図っていくとされました。

- ア 幼・小・中の学びが連続することで、子ども同士の繋がりや育ち合いなど社会性が培われる。
- イ 保護者が地域との関わりを生かし、気軽に身近な所で幼稚園での子育て支援を受けることができる。
- ウ 小学校区エリアに近いブロックとなり、身近な地域に根ざした教育や地域交流で培ってきた関係性を保持できる。
- エ 中学校区を中心として保幼小中連携の研究会等が開催されており、教職員間の学び合いや交流の場となっている。

そこで、再編等を検討するエリアを検討するにあたっては、次ページの表 11及び図 16に示すとおり、本市で主に用いられている地域の考え方を参考に議論を行いました。現在の市立幼稚園の状況は、上記のア～エに記載のとおり、小中学校や地域との繋がりが大きく、また、今後の地域内の就学前施設同士の繋がりも考慮して、引き続き中学校区を基本に検討していくこととします。

表 11 主な地域の考え方

種類	区域数	備考
支所学区	36	支所が設置されている地域 支所は各種行政サービスを提供すると共に、所管する地域の実情把握や自治会等との連絡調整を担っている
小学校区	37	小学校が設置されている地域 仰木の里支所学区に2小学校が位置している
中学校区	18	中学校が設置されている地域
保健福祉ブロック	7	保健福祉施策を推進するためのブロック
教育・保育提供区域	7	保護者や子どもが自宅から容易に移動することが可能な区域(子ども・子育て支援法に基づく区域)、保健福祉ブロックと同じ、都市計画マスタープランの地域区分とほぼ一致

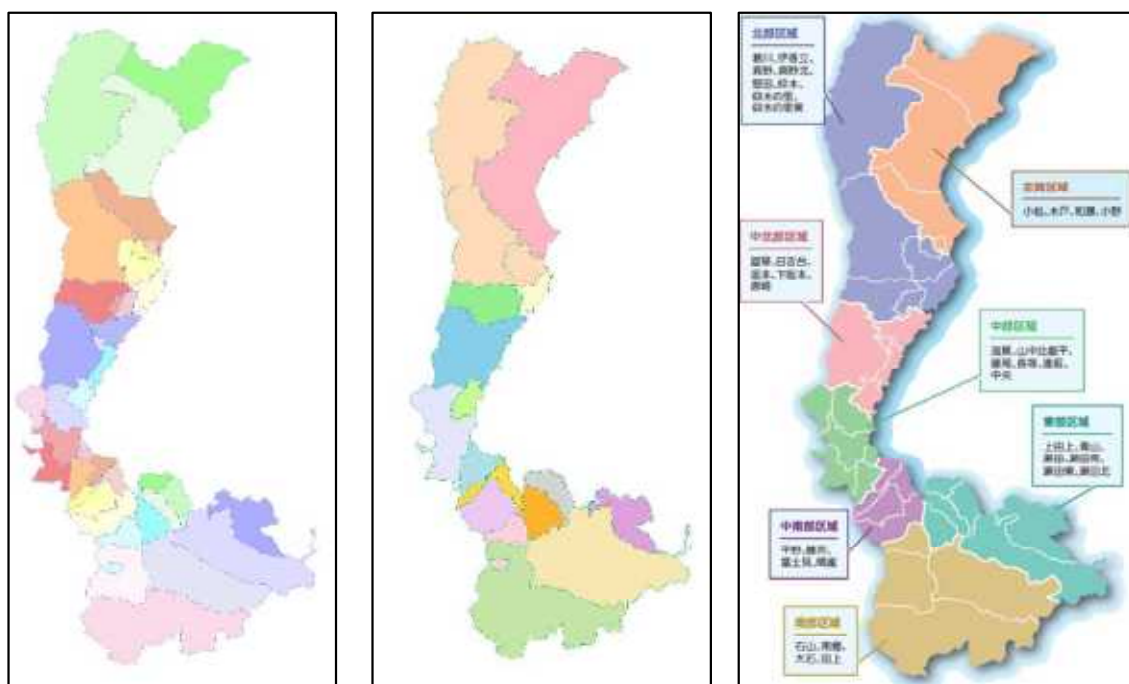
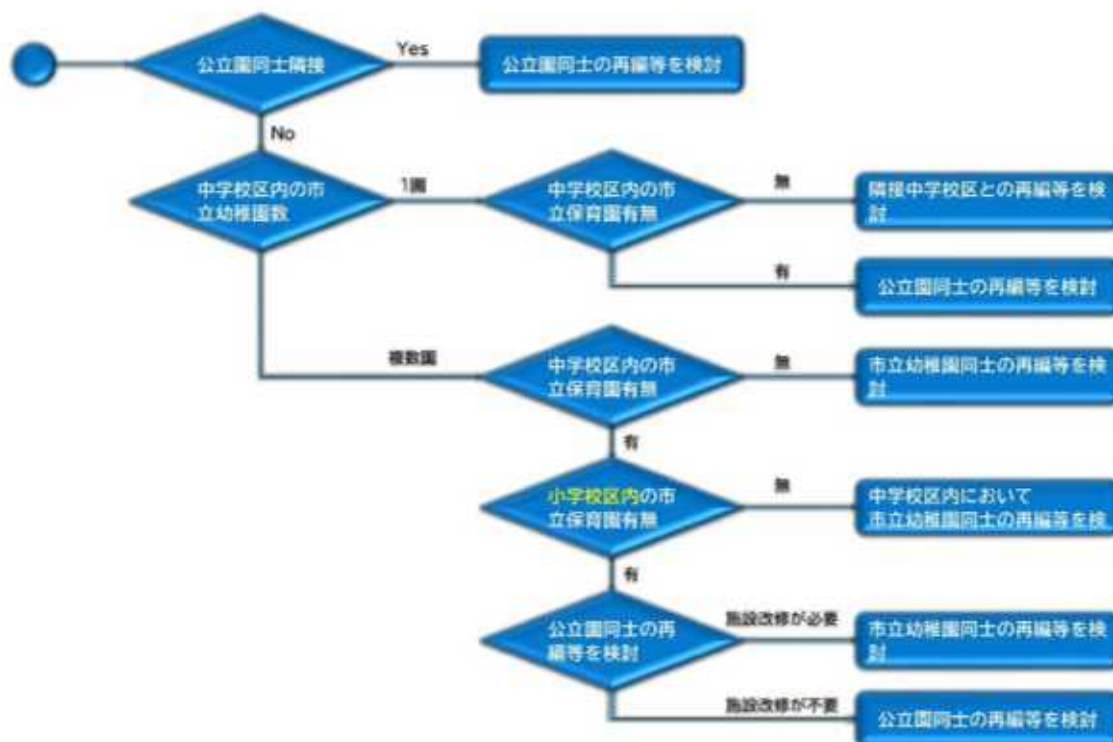


図 16 各学区市域図(左から小学校区、中学校区、教育・保育提供区域)

(2)再編等に係る検討フローについて

再編基準に合致した場合に、どのような再編等の手法を検討していくのかについて、いくつかパターン分けをしたフロー図を図 17のとおり示します。このフロー図は、該当園の所在地を基に、公立園(市立幼稚園及び市立保育園)の位置関係から再編等の方向性を検討し、最後に、周辺の他の就学前施設の状況を勘案していくというものになります。



※上記フロー図による検討に加えて、地域性や中学校区内における就学前施設(公民問わず)の状況を十分に加味して検討を行う必要がある。

図 17 再編等に係る検討フロー

ここで、「公立園同士の再編等を検討する」となった場合について、本答申は市立幼稚園の再編等を検討するものであり、市立保育園についての検討は行っていないことから、別途、市立保育園のあり方を検討する必要があります。公立園同士の再編等にあっては、選択肢の一つとして公立の認定こども園化が挙げられ、フロー図にあるとおり、公立園同士が近接する場合に検討を行うことも考えられます。

なお、公立園同士の再編等として、市立認定こども園の設置を検討することになった場合であっても、大津市こども・若者支援計画との整合性を図っていく必要があります。

次の表 12は、大津市こども・若者支援計画の量の見込み(需要)と確保方策(供給)を示したものです。令和11年度までで、1号認定子どもについては、全ての地域において需

要が満たされており、2号認定子どもについては、一部供給が不足している地域があります。市立認定こども園の設置を検討する場合、需要が満たされている地域に更に認定こども園を設置することは供給過多となり、計画との整合性がとれないことから、再編等を検討するにあたっては、地域ごとの需要と供給のバランスを図っていくことが重要です。

表 12 教育・保育の量の見込みと確保方策

≪1号認定子ども≫		単位:人				
		令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
大津市全域	量の見込み(A)	2,771	2,695	2,606	2,505	2,338
	確保方策(B)	4,556	4,591	4,591	4,606	4,606
	差引(B)-(A)	1,785	1,896	1,985	2,101	2,268
志賀	量の見込み(A)	91	91	94	92	80
	確保方策(B)	216	216	216	216	216
	差引(B)-(A)	125	125	122	124	136
北部	量の見込み(A)	332	325	306	292	264
	確保方策(B)	690	690	690	705	705
	差引(B)-(A)	358	365	384	413	441
中北部	量の見込み(A)	569	558	554	544	526
	確保方策(B)	712	687	687	687	687
	差引(B)-(A)	143	129	133	143	161
中部	量の見込み(A)	448	430	417	403	389
	確保方策(B)	621	636	636	636	636
	差引(B)-(A)	173	206	219	233	247
中南部	量の見込み(A)	460	461	447	440	401
	確保方策(B)	929	929	929	929	929
	差引(B)-(A)	469	468	482	489	528
南部	量の見込み(A)	192	183	174	168	150
	確保方策(B)	465	465	465	465	465
	差引(B)-(A)	273	282	291	297	315
東部	量の見込み(A)	679	647	614	566	528
	確保方策(B)	923	968	968	968	968
	差引(B)-(A)	244	321	354	402	440

≪2号認定子ども≫		単位:人				
		令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
大津市全域	量の見込み(A)	5,031	5,107	5,171	5,189	5,092
	確保方策(B)	5,213	5,330	5,430	5,434	5,438
	差引(B)-(A)	182	223	259	245	346
志賀	量の見込み(A)	190	200	218	221	207
	確保方策(B)	187	187	187	187	187
	差引(B)-(A)	-3	-13	-31	-34	-20
北部	量の見込み(A)	763	780	777	776	746
	確保方策(B)	876	876	876	876	876
	差引(B)-(A)	113	96	99	100	130
中北部	量の見込み(A)	811	828	858	876	886
	確保方策(B)	782	881	881	881	881
	差引(B)-(A)	-29	53	23	5	-5
中部	量の見込み(A)	787	786	797	801	809
	確保方策(B)	749	749	809	809	809
	差引(B)-(A)	-38	-37	12	8	0
中南部	量の見込み(A)	910	948	962	986	946
	確保方策(B)	932	947	977	977	977
	差引(B)-(A)	22	-1	15	-9	31
南部	量の見込み(A)	414	410	413	417	397
	確保方策(B)	347	347	347	347	347
	差引(B)-(A)	-67	-63	-66	-70	-50
東部	量の見込み(A)	1,156	1,155	1,146	1,112	1,101
	確保方策(B)	1,340	1,343	1,353	1,357	1,361
	差引(B)-(A)	184	188	207	245	260

出典:大津市こども・若者支援計画

(3)地域性等の考慮について

図 17に示すフロー図の※印に記載がある、地域性や中学校区内における就学前施設（公民問わず）の状況に加えて、次のような視点も含めて、総合的に判断していく必要があります。

- ア 園舎の規模や築年数、園庭の広さ
- イ 駐車場の有無や台数、周辺道路の状況
- ウ 地理的な状況（都市計画や防災に係る情報）
- エ 教育環境や子どもの育ちの環境という観点から見た園庭などの特徴
- オ 各園が持つ歴史的な背景



【第3章 基本的な再編等の計画】

1 再編等の検討の流れについて

第2章 基本的な方針と考え方で記載のとおり、再編等の検討にあたっては、園児数の推移だけで判断していくのではなく、教育的観点や地域性などを総合的に判断していく必要があることから、図 18に示す流れで検討を行っていきます。

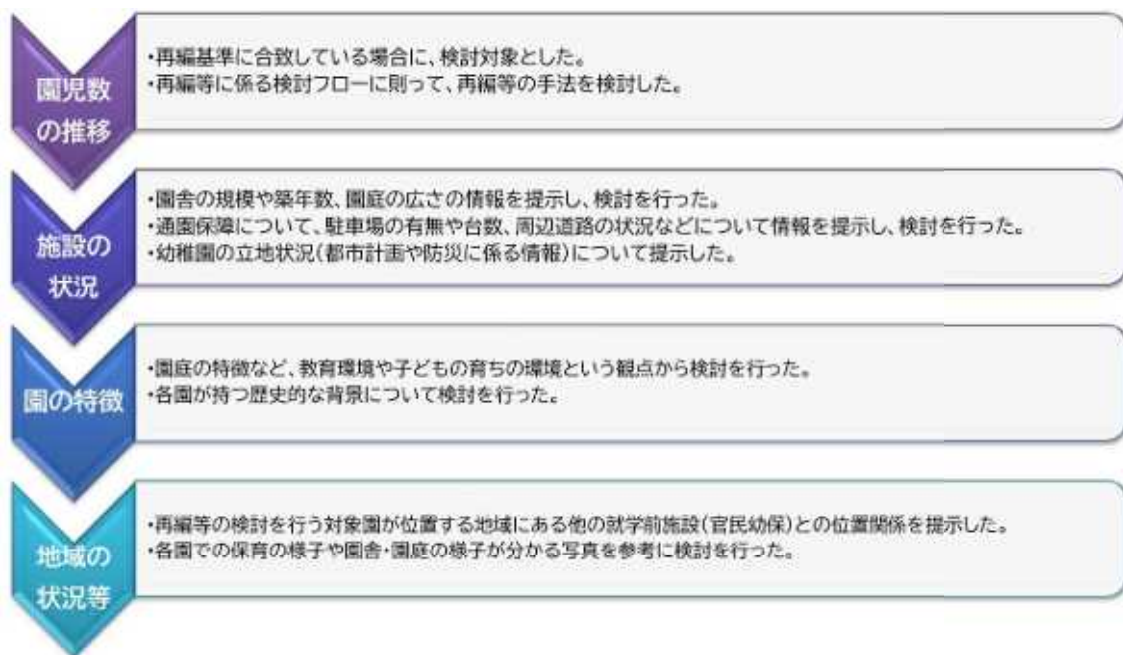


図 18 再編等の検討の流れ

2 再編等の方向性について

(1) 園児数の推移について

園児数については、36～37ページに記載の再編基準において、令和5年度から令和7年度までの実績と令和8年度から令和12年度までの推計値の合計8年間の園児数を用いていることから、当該期間における各市立幼稚園の園児数の推移を表13のとおり示します。表13では、再編基準に当てはめた結果に基づき施設名を色分けしています。

修正箇所

ア 再編等を検討する園の決定(施設名を緑字又は赤字としています。)

3歳児の園児数について、令和5年度から令和7年度までの実績値と令和8年度から令和12年度までの推計値で、「3年連続15人を下回る」場合は、原則として、再編等を検討する対象園とします。

イ 第1段階で再編等を行う園(施設名を赤字にしています。)

令和5年度から令和12年度までの間で、3歳児の園児数が1度でも「10人を下回る」場合は第1段階で再編等を行います。

ただし、その後、園児数が増加に転じる推計の場合は、第2段階とすることも検討します。

ウ 第2段階で再編等を行う園(施設名を緑字にしています。)

令和5年度から令和12年度までの間で、3歳児の園児数が1度も「10人を下回らない」場合は、第2段階で再編等を行います。また、第1段階のただし書きに該当する場合についても、第2段階での再編等を検討します。

表 13 各市立幼稚園の園児数推移

中学校区	施設名	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
志賀	志賀北幼稚園	11	16	12	14	17	13	13	13
	志賀南幼稚園	16	14	18	15	15	12	13	13
真野	伊香立・真野北幼稚園	20	14	20	16	15	14	14	14
	真野幼稚園	7	6	9	7	5	4	5	5
堅田	堅田幼稚園	20	23	17	21	19	17	19	18
仰木	仰木の里幼稚園	11	13	7	11	7	10	9	9
	仰木の里東幼稚園	12	15	14	13	15	9	12	11
日吉	坂本幼稚園	28	26	30	30	31	28	30	30
	下坂本幼稚園	27	24	27	22	25	24	24	24
唐崎	唐崎幼稚園	17	20	12	16	15	15	15	14
	志賀幼稚園	30	20	21	26	28	28	27	26
皇子山	長等幼稚園	22	13	8	13	12	10	15	15
打出	遠坂幼稚園	8	6	7	5	6	3	4	4
	大津幼稚園	17	8	12	12	12	10	12	11
	平野幼稚園	26	23	24	24	22	25	24	23
粟津	膳所幼稚園	20	16	10	15	17	14	15	14
	晴風幼稚園	14	14	10	13	14	12	16	16
北大路	富士見幼稚園	21	10	9	9	8	6	7	7
石山	石山幼稚園	19	14	20	18	22	18	18	17
南郷	南郷幼稚園	21	14	8	12	12	9	10	10
	大石幼稚園	6	11	8	5	7	6	6	5
田上	田上幼稚園	9	8	8	7	5	6	6	5
	上田上幼稚園	14	14	7	10	6	8	8	7
青山	青山幼稚園	19	10	9	12	8	7	8	7
瀬田	瀬田幼稚園	24	18	25	21	18	20	20	20
	瀬田南幼稚園	23	17	22	16	17	16	15	15
瀬田北	瀬田東幼稚園	28	25	28	23	27	27	24	24
	瀬田北幼稚園	44	47	43	41	42	43	42	39
3歳児の園児数合計		534	459	445	447	447	414	431	416

※施設名の色分けについて、「赤字:第1段階、緑字:第2段階、黒字:対象外」の施設を示している。

※各年4月1日現在の、3歳児の園児数を表している。

(2) 再編等を検討するエリアの設定について

38ページに記載のとおり、本答申においては、中学校区を基本として再編等の検討を行っていきます。そこで、46ページで使用した中学校区については、図 19に示すとおりです。

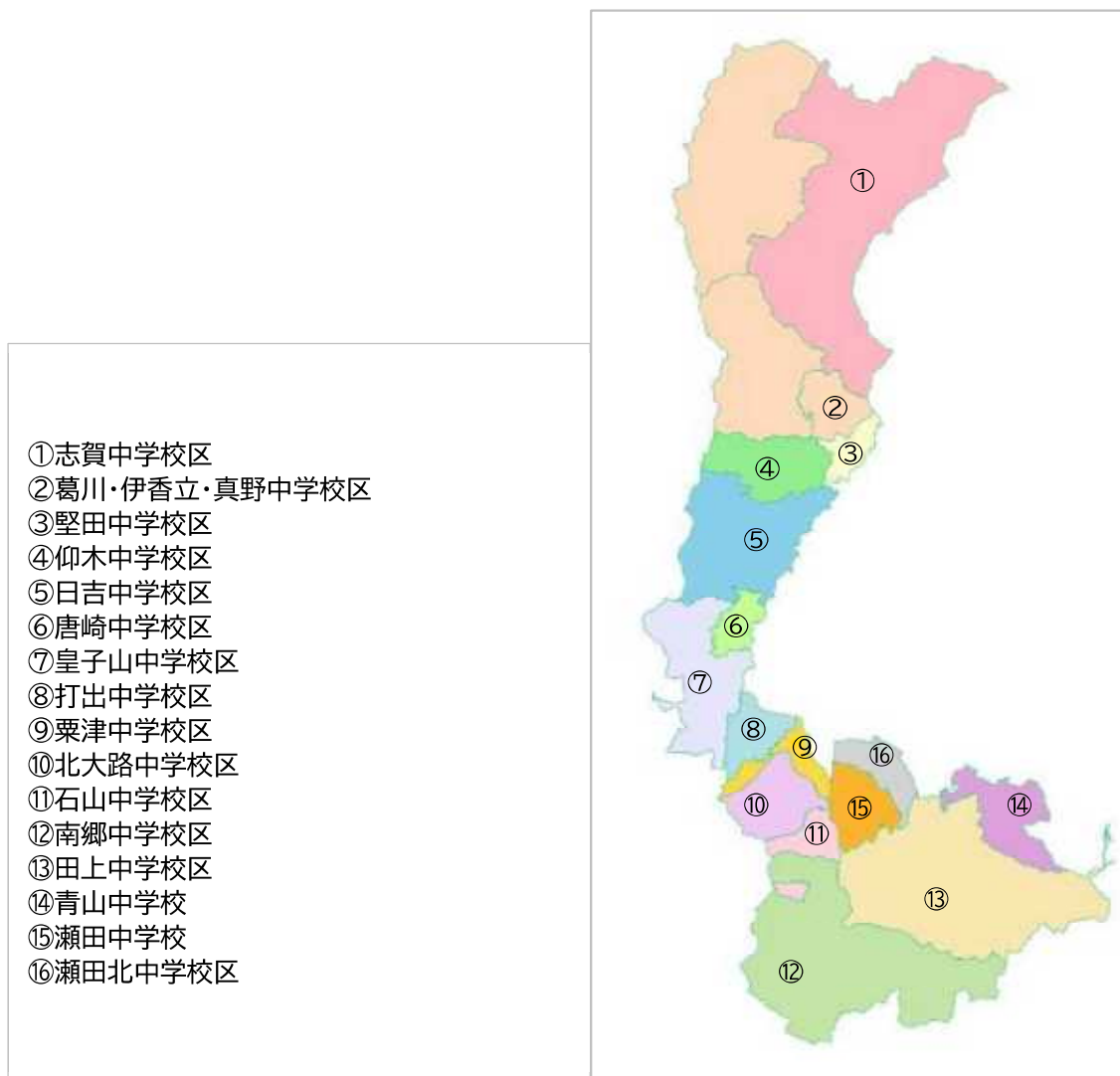


図 19 市域図(中学校区ブロック)

(3) 検討フローによる検討について

40ページに記載の図 17 再編等に係る検討フローに当てはめて、再編等の方向性の検討を行った結果を、表 14のとおり示します。ここで中学校区については、各市立幼稚園が所在している中学校区とし、図 19に示すとおりです。

表 14 検討フローに当てはめた再編等の方向性

中学校区	施設名	再編等の方向性
志賀	志賀北幼稚園	市立幼稚園同士の再編等を検討
	志賀南幼稚園	公立園同士の再編等を検討
真野	伊香立・真野北幼稚園	市立幼稚園同士の再編等を検討
	真野幼稚園	市立幼稚園同士の再編等を検討
堅田	堅田幼稚園	公立園同士の再編等を検討
仰木	仰木の里幼稚園	市立幼稚園同士の再編等を検討
	仰木の里東幼稚園	市立幼稚園同士の再編等を検討
日吉	坂本幼稚園	市立幼稚園同士の再編等を検討
	下阪本幼稚園	市立幼稚園同士の再編等を検討
唐崎	唐崎幼稚園	公立園同士の再編等を検討
	志賀幼稚園	市立幼稚園同士の再編等を検討
皇子山	長等幼稚園	公立園同士の再編等を検討
打出	逢坂幼稚園	公立園同士の再編等を検討
	大津幼稚園	中学校区内において市立幼稚園同士の再編等を検討
	平野幼稚園	中学校区内において市立幼稚園同士の再編等を検討
粟津	膳所幼稚園	市立幼稚園同士の再編等を検討
	晴嵐幼稚園	公立園同士の再編等を検討
北大路	富士見幼稚園	公立園同士の再編等を検討
石山	石山幼稚園	公立園同士の再編等を検討
南郷	南郷幼稚園	市立幼稚園同士の再編等を検討
	大石幼稚園	市立幼稚園同士の再編等を検討
田上	田上幼稚園	市立幼稚園同士の再編等を検討
	上田上幼稚園	市立幼稚園同士の再編等を検討
青山	青山幼稚園	隣接中学校区との再編等を検討
瀬田	瀬田幼稚園	中学校区内において市立幼稚園同士の再編等を検討
	瀬田南幼稚園	公立園同士の再編等を検討
瀬田北	瀬田東幼稚園	市立幼稚園同士の再編等を検討
	瀬田北幼稚園	市立幼稚園同士の再編等を検討

(4) 施設の状況及び園の特徴について

教育環境や子どもの育ちの環境、各園が持つ歴史的な背景などの園の特徴については、表 15に示す市立幼稚園の特徴のとおりです。

また、園舎の規模や築年数、園庭の広さ、駐車場の有無など、各市立幼稚園の物理的な環境は、次ページの表 16に示す施設の状況のとおりです。

表 15 市立幼稚園の特徴

中学校区	幼稚園名	園庭の特徴	園の特徴
市貝	市貝北	人工芝のサッカーコート、築山あり、藪きり園庭あり	園庭自カリキュラムのふさと木陰により自然を生かした保育を展開(浜遊び等)
	市貝南	築山トンスル、大木の築山あり 四季を感じる樹木(ヤマモモ、サクラ、カシ、ウメ、イチヨウ)	利根川など近隣の自然環境を生かした保育を展開
真野	伊藤立・真野北	築山あり 四季を感じる樹木(ナンキンハゼ、カキ、コナラ、サクラ、カリン、イチヨウ)	伊藤立・真野北学区の地域に密着した保育を展開
	真野	四季を感じる樹木(イチヨウ、カシ)	小学校と隣接し容易に連携可能
聖田	聖田	砂場2か所あり 四季を感じる樹木(ドングリ、イチヨウ、カリン、サクラ、ヤマモモ)	小学校と隣接し容易に連携可能 公立初小中高等学校があり、公教育における教育の一貫性・学びの連続性推進が可能
御木	御木の里	四季を感じる樹木(サクラ、イチヨウ、カリン)、築山あり	御木・御木の学区の地域に密着した保育を展開(御木の伝統文化・米菰地体験)
	御木の里東	30周年記念に桜を植樹、四季を感じる老木(フウ)	小学校と隣接し容易に連携可能 園周辺の公園を利用した保育を展開
日吉	坂本	樹齢80年のシンボルツリー(ヒマラヤスズ、メタセコイヤ、)、四季を感じる樹木(ウメ、巨古大社の川から水を引き込んだビオトープ)	地域、学校のつながりによる「石橋あの子ども」の育成推進 地域の自然・文化を生かした保育を展開
	下坂本	四季を感じる樹木(クスギ、ヒフ、イチヨウ、フウ) 築山あり	小規模多機能施設連携 市立児童クラブとの施設共有により連携した預かり保育を展開
岩崎	岩崎	保育園隣接と行き来可能 四季を感じる樹木(ドングリ、イチヨウ、サクラ)	市立保育園・小学校(児童クラブ)と隣接し容易に連携可能
	志保	「むらさき」という人工の川あり 四季を感じる樹木(ドングリ、サクラ)	地域の歴史的な場所を活用した保育を展開
皇子山	長野	四季を感じる樹木(ドングリ、イチヨウ、リンドウ、ユズ、キンカン) 築山あり(大きな傾斜)、パティオ(中庭)あり	地域の伝統・文化を生かした保育を展開
	大津	四季を感じる樹木(サクラ、サクラソバ) 園舎裏にもわだあり	大津市初の幼稚園(137年) 小学校との一体化施設で容易に連携可能、小規模保育施設の連携 地域の歴史的な文化(入道)を生かした保育を展開
打出	池田	砂場2か所あり、広い取っばあり、築山あり	園周辺の自然を生かした保育を展開 小学校と隣接し容易に連携可能
	甲斐	四季を感じる樹木(クスギ、ヒフ、キンカン、クスギ、ウメ、キンモクセイ、イチモウ、サクラ、ハツリク)、築山あり	小規模多機能施設連携 市立児童クラブとの施設共有により連携した預かり保育を展開
奥津	藤原	園庭2か所あり(大園庭・小園庭) 四季を感じる樹木(イチヨウ、カキ、ナツメ、ヒメリンゴ、ザクロ、サクラソバ、ウツギ、ウメ、アツアツ、カリン)	地域の自然・文化を生かした保育を展開 小学校と隣接し容易に連携可能 市立児童クラブとの施設共有により連携した預かり保育を展開
	横山	大木や緑たらしめのある築山あり 四季を感じる樹木(キンモクセイ、サクラ、キンカン)	園周辺の文化・自然・施設を活用した保育を展開
北大路	富士丸	裏山あり 四季を感じる樹木(カリン、サクラ、ヒフ、イチヨウ、ウメ、キンモクセイ)	小学校と隣接し容易に連携可能(連絡橋あり)
石山	石山	四季を感じる樹木(サクラ、イチヨウ、サクラソバ)	中学校区に1園1小あり、敷地と共につながり合う保育を展開(1ism)
南郷	南郷	築山あり、砂場3か所あり 四季を感じる樹木(キンモクセイ、キウイ、サクラ、ヤマボウシ、ミカン、クミ)	地域の自然を生かした保育を展開
	大石	四季を感じる樹木(ヤマボウシ、カリン、ウメ、サクラ、クミ、クリ)	小学校区内唯一の複学施設 地域の地域環境を生かした保育を展開
田上	田上	四季を感じる樹木(ヤマモモ、ナンキンハゼ、サクラ、コナラ、カリン、ナツミカン、ウメ、カキ、コナラ) 土手あり、築山あり	地域の自然環境・食文化を生かした保育を展開
	上田上	全面芝生 四季を感じる樹木(キウイ、ナシ、イチヨウ、キンモクセイ、カキ、サクラソバ、コナラ、クスギ)	小学校と隣接し容易に連携可能地域の自然環境を生かした保育を展開
青山	青山	四季を感じる樹木(ドングリ、サクラ、ナンキンハゼ、キウイ、ザクロ) 築山あり	保一中・地域との交流が盛ん
瀬田	瀬田	園庭2か所あり(大園庭・小園庭)、階段・土手あり 四季を感じる樹木(カエデ、ヒフ、カリン、イチヨウ、ドングリ、キウイ)	小学校と隣接し容易に連携可能(毎週5年生と交流)
	瀬田南	砂場3か所あり、芝生スペースあり、園舎裏に小園庭あり 小学校校庭と行き来可能、四季を感じる樹木(イチヨウ)	市立保育園との一体化施設 地域の歴史的な文化を生かした保育を展開、小学校と隣接し容易に連携可能
瀬田北	瀬田東	築山あり 四季を感じる樹木(イチシク、サクラ、クリ)	グローバル教育推進(習いの1割が外国産) 小学校と隣接し容易に連携可能
	瀬田北	四季を感じる樹木(クスギ、ハナモモ、ナンキンハゼ、ヤマモモ、イチヨウ、サクラ、ビロ、トチ、コナラ、クミ、カリン、ザクロ)	中学校と隣接し容易に連携可能

表 16 市立幼稚園の施設の状況

中学校区	幼稚園名	園数	延床面積 (㎡)	園舎の広さ (㎡)	遊具型 (状況別)	通園バス	周辺道路の広さ	建築年 (初設)	築年数	大規模改修実施状況	屋根・壁・土	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	総点検、更新費ポイント	防災対策	都市計画関係	
市岡	志賀北	2	1,604	1,795	22台	○	市辺(1車線)	平成9年	28	-	-	B	B	B	B	150		市街化調整区域	
	志賀南	2	2,350	5,181	33台	○	片側1車線	平成11年	26	-	-	B	C	A	B	151		市街化調整区域	
真野	伊香立・高野北	2	1,256	1,380	4台程度	○	片側1車線(幅6m)	平成9年	36	-	-	C	B	B	B	139	土砂		
	真野	2	1,271	1,450	なし		片側1車線4.6m	昭和57年	43	-	-	C	B	B	B	132		市街化調整区域	
栗田	栗田	2	1,051	1,075	なし		道路の道路は片側1車線	昭和57年	43	平成24年	大規模改修	A	A	A	B	B	184	洪水	
	仰木の里	2	1,034	1,373	15台(園から少し離れたところに駐車スペース)	○	園り4茶のうち、道路バス通りは幅10m、残り3箇所は6~7m。	平成元年	36	-	-	C	B	B	B	139			
仰木	仰木の里	2	997	1,140	なし		-道路に面した道路は6m、車は通れる広さで、歩道あり -遊具型の遊具は且地帯に面しているため、1台が張りあって差が余裕はあらず、4m	平成7年	30	-	-	C	B	B	B	145			
	坂本	2	982	1,100	なし	○	なし	昭和49年	51	平成25年	大規模改修	B	A	A	A	189			
日吉	下飯本	2	854	1,646	敷地内に駐車可能スペースあり(2台程度)		5m	昭和60年	40	-	-	C	B	B	B	135			
	藤城	2	1,113	1,898	なし		前の道路は自家用車の乗り降り用の幅	昭和49年	51	令和3年	一部改修	B	C	B	C	155			
藤城	志賀	2	1,136	2,815	なし		5m幅	平成6年	31	-	-	C	B	B	B	144			
	獅子山	1	1,009	1,314	4台		車道一方通行	平成9年	28	-	-	B	B	B	B	150			
行出	大津	1	724	800	なし		道路は3m道路(一方通行)周辺は市街地で設備が整い、	昭和43年	57	平成23年	大規模改修	A	A	B	B	173			
	辻原	1	618	2,921	20台		1台程度で片側1車線	平成22年	15	-	-	A	A	A	A	188			
	平野	2	1,208	1,092	なし		歩道あり片側1車線	昭和53年	47	-	-	B	C	B	B	121			
栗津	栗所	2	1,609	2,107	3台		地下道)であるため狭い道路有	昭和50年	50	平成元年	設備等に改修	C	B	B	C	130			
	栗原	1	935	1,487	3台		3m	昭和44年	56	平成26年	大規模改修	C	C	C	C	167			
北大路	高十尾	2	1,107	1,064	3台		5m幅	昭和48年	52	平成26年	大規模改修	A	B	B	B	169			
石山	石山	2	1,465	700	3台		正門前3m2車線道路・歩道あり 園舎前(2時間用)の幅狭い片側歩道あり	昭和51年	49	-	-	C	B	B	B	126			
高橋	高橋	2	965	1,962	7台		幅7m	昭和59年	41	-	-	B	B	B	B	137	土砂	市街化調整区域	
	大石	2	858	1,954	敷地内に駐車可能スペースあり(3台程度)		本園の道路から少し入ったところにある道路は比較的狭く小型バスが通れる程度の広さになる。	昭和63年	37	-	-	C	C	B	B	128		市街化調整区域	
田上	田上	2	1,234	2,668	30台		8m幅もある。車2台がすれ違える。	昭和62年	38	-	-	C	C	B	B	122			
	上田上	1	469	1,164	なし		4m	昭和57年	43	-	-	B	B	B	B	135	洪水	市街化調整区域	
青山	青山	2	1,045	1,826	なし		6m道路	平成3年	34	-	-	B	B	B	B	144			
瀬田	瀬田	2	1,046	1,684	なし		主要道路は狭く、7時から9時までは一方通行となっている。小学校休日の場合は関係車両のみ通行している。	平成元年	36	-	-	B	C	B	B	132			
	旗田南	2	822	1,900	17台		幅6m	平成25年	12	-	-	A	A	A	A	191			
瀬田北	瀬田南	2	911	1,909	2台程度		園舎前の道路は、ギリギリ都合できるくらいで狭い。	昭和54年	46	平成25年	大規模改修	B	B	B	B	166			
	瀬田北	3	1,200	2,117	なし		正門前5m幅の道路がある。小学校も待合で登校児童を、時間により控える。	昭和63年	37	-	-	B	B	B	B	141			

※新築については幼稚園の敷地内のものに限る。近接している公立系統や地域からお借りできる可能性あり。

※総点検、更新費ポイントとは、部位ごと(屋根・壁・土、外壁、内部仕上、電気設備、機械設備)に劣化状況を判定し、総点検(100点満点)を算出する。総点検に、「100-築年数(又は、改修から経過年数)」の値を加算したものが「総点検、更新費ポイント」となり、値が大きいほど建物の状態が良いことを示す。

3 検討経過とその概要について

(1) 市内の教育・保育施設の配置について

45ページから記載の「再編等の方向性について」の内容を基に、全市立幼稚園の再編等の方向性を具体的に検討しました。加えて、検討にあたっては、図 20に示す市内の就

学前施設(公立園、幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園、私立幼稚園)の位置関係も参考にしました。

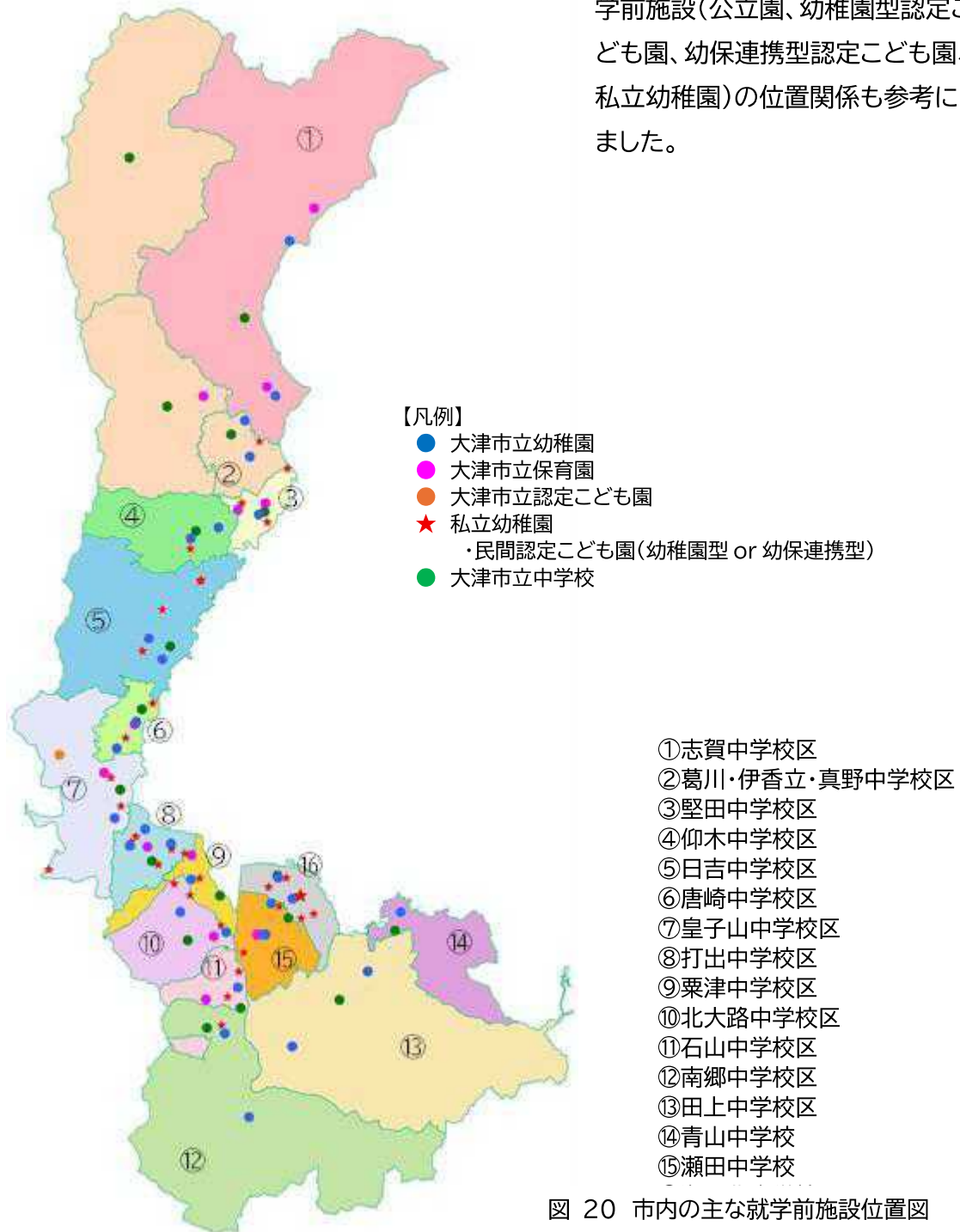


図 20 市内の主な就学前施設位置図

(2) 再編等の方向性検討の結果について

44ページからの記載内容について、園児数の推移だけでなく、各園の特徴や地域性などを総合的に勘案した結果を表 17のとおり示します。

なお、各園の検討経過と概要は53ページ以降に記載しますので、表中の最左列の記号に該当する箇所を参照してください。

ここで、表中の「5年後イメージ」及び「10年後イメージ」の列に記載している施設名は仮称であり、実際に再編等を検討する際には、各園の歴史や地域性、保護者の意見等を十分に考慮して決定していく必要があります。

表 17 再編等の方向性一覧

検討経過 と概要	中学校区	施設名	【第1段階】 5年後イメージ	【第2段階】 10年後イメージ
ア	志賀	志賀北幼稚園	志賀北幼稚園	志賀北幼稚園 ※1
		志賀南幼稚園	志賀南幼稚園	志賀南幼稚園 ※1
イ	真野	伊香立・真野北幼稚園	伊香立・真野北幼稚園	伊香立・真野北幼稚園 ※1
		真野幼稚園		
	堅田	堅田幼稚園	堅田幼稚園	堅田幼稚園
ウ	仰木	仰木の里幼稚園	仰木の里幼稚園	仰木の里幼稚園
		仰木の里東幼稚園		
エ	日吉	坂本幼稚園	坂本幼稚園	坂本幼稚園
		下坂本幼稚園	下坂本幼稚園	下坂本幼稚園
オ	唐崎	唐崎幼稚園	唐崎幼稚園※2	唐崎幼稚園※2
		志賀幼稚園	志賀幼稚園	志賀幼稚園
		皇子山	長等幼稚園	長等幼稚園
カ	打出	逢坂幼稚園		
		大津幼稚園	平野幼稚園※3	平野幼稚園※3
キ	粟津	平野幼稚園		
		膳所幼稚園	膳所幼稚園	膳所幼稚園
ク	石山	晴嵐幼稚園	晴嵐幼稚園	膳所幼稚園
		北大路	富士見幼稚園	富士見幼稚園
ケ	南郷	石山幼稚園	石山幼稚園	石山幼稚園
		南郷幼稚園		
コ	田上	大石幼稚園		
		田上幼稚園	田上幼稚園	田上幼稚園
コ	瀬田	上田上幼稚園		
		青山	青山幼稚園	
		瀬田	瀬田幼稚園	瀬田幼稚園
		瀬田南幼稚園	瀬田南幼稚園※2	瀬田南幼稚園※2
コ	瀬田北	瀬田東幼稚園	瀬田東幼稚園	瀬田東幼稚園
		瀬田北幼稚園	瀬田北幼稚園	瀬田北幼稚園

- ※1 再編基準に合致するものの、学区内に市立保育園が位置することから、市立保育園とのあり方を並行して検討していくことも考えられる。
- ※2 再編基準には合致していないものの、市立保育園との位置関係を考慮して、公立園同士の再編等を検討していくことも考えられる(ただし、別途、大津市立保育園のあり方も検討する必要がある)。
- ※3 市立幼稚園同士の再編等を検討するものの、逢坂幼稚園は近隣に市立保育園が位置するという環境であることから、公立園同士の再編等を検討していくことも考えられる(ただし、別途、大津市立保育園のあり方も検討する必要がある)。

(3) 検討経過と概要について

再編等の方向性は、概ね中学校区ごとに、45ページ以降に記載の(1)園児数の推移についてから(4)施設の状況および園の特徴についてまでの内容、及び51ページの図 20 に示す就学前施設の位置関係を基に検討を行いました。その経過と概要は次のア～コに記載のとおりとなります。市立幼稚園には、それぞれに積み上げてきた歴史や地域との密接な関わり、表 15に示すような特徴があり、それぞれが与えられた環境の中で、質の高い教育・保育を提供してきています。この前提の下、検討経過と概要については、校区ごとの更に特筆すべき点や特徴についてを中心に記載しています。

なお、再編を実施していく際には、園同士の話し合いの中で、子どもの育ちの観点から、それぞれの園の良い特徴や環境をどういった形で継承していくのかについて、再編により新しい環境を作り上げていくという観点も含めて検討する必要があります。

ア 志賀中学校区

志賀北幼稚園及び志賀南幼稚園は、ともに第2段階に該当する。

一方で、地域が広大であることに加えて、両市立幼稚園ともに同学区内に市立保育園があるという地域性を考慮し、第2段階では再編を行わないこととする。

イ 真野中学校区・堅田中学校区

真野幼稚園は第1段階、伊香立・真野北幼稚園は第2段階にそれぞれ該当するため、堅田幼稚園との再編を検討した。

しかし、同学区内に市立保育園があるという伊香立・真野北幼稚園の地域性と、堅田幼稚園の周辺状況等を考慮し、再編等の方向性として、真野幼稚園と伊香立・真野北幼稚園との再編を行うこととする。

ウ 仰木中学校区

仰木の里幼稚園及び仰木の里東幼稚園は、ともに第1段階に該当する。

園舎や園庭、駐車場の有無、園の周辺の特徴や環境を考慮し、仰木の里幼稚園に再編を行うこととする。

エ 日吉中学校区

坂本幼稚園及び下阪本幼稚園が位置するが、ともに再編基準に合致していないことから、再編は行わないこととする。

オ 唐崎中学校区・皇子山中学校区

唐崎幼稚園及び志賀幼稚園は、ともに再編基準に合致していないが、長等幼稚園は第1段階に該当する。

唐崎幼稚園は、市立保育園と隣接しているという特徴があることから、再編基準には合致していないものの、市立保育園とのあり方を検討することも考えられる。

長等幼稚園は、今後園児数が増加する傾向の推計となっていることを考慮して、第1段階ではなく、第2段階で志賀幼稚園への再編を検討することとする。

カ 打出中学校区

逢坂幼稚園及び大津幼稚園は、ともに第1段階に該当し、平野幼稚園は再編基準に合致していない。

逢坂幼稚園は、近隣に市立保育園が位置することから、市立保育園とのあり方を検討することも考えられる。

大津幼稚園は、大津市立幼稚園の発祥の地であるものの、再編基準に合致していることから、平野幼稚園と再編を行うこととする。

キ 粟津中学校区・北大路中学校区

膳所幼稚園は、再編基準に合致していないが、晴嵐幼稚園は第2段階、富士見幼稚園は第1段階にそれぞれ該当する。

膳所幼稚園の園庭や周辺環境を考慮して、膳所幼稚園に再編を行うが、再編の時期を合わせるために第2段階で検討することとする。

ク 石山中学校区・南郷中学校区

石山幼稚園は、再編基準に合致していないが、南郷幼稚園及び大石幼稚園は、

ともに第1段階に該当する。

特に大石幼稚園の地理的環境が議論となったが、南郷幼稚園及び大石幼稚園ともに園児数が少ないことから、子ども達の育ちの環境を考慮し、石山幼稚園に再編を行うこととする。

ケ 田上中学校区・青山中学校区

田上幼稚園、上田上幼稚園、青山幼稚園は、いずれも第1段階に該当する。

園舎の規模や園庭の環境、駐車場の有無などを考慮して、田上幼稚園に再編を行うこととする。

コ 瀬田中学校区・瀬田北中学校区

瀬田幼稚園、瀬田南幼稚園、瀬田東幼稚園、瀬田北幼稚園は、いずれも再編基準に合致していない。

一方で、瀬田南幼稚園は、現状も、市立保育園と幼保一体化施設として運営していることから、市立保育園とのあり方を検討することも考えられる。

4 全体スケジュールについて

再編等を検討する全体スケジュールは次のとおりです。

前述のとおり、全体を5年間ずつの第1段階と第2段階に分けて再編等を検討することで、検討期間を10年間とします。

その上で、各段階における再編等の優先順位については一律に定めることはせず、当事者である保護者や地域の方などへの説明会などの機会を通じて、丁寧に進めていくことが必要です。

なお、前述のとおり、中間年である令和12年度には中間見直しが必要です。

R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18~
【第1段階】の基準に合致する施設について再編等を実施										
再編にあたって必要な修繕・改修等の対応										
				中間見直し						
					【第2段階】の基準に合致する施設について再編等を実施					
					再編にあたって必要な修繕・改修等の対応					

図 21 全体スケジュール

【第4章 再編等の実行計画】

1 実行計画の策定について

前章までの検討を経て、実際に再編等を検討していくにあたっては、それぞれの園ごとに、より具体的な実行計画を作成する必要があります。

実行計画に記載すべき主な内容としては、

- 園児数の推移と見込み
- 再編等を実施する時期
- 再編等を実施する方法
- 再編等を実施する旨の周知時期

となります。

これらの内容を記載した実行計画を、再編等を実施する2年前には作成し、該当園の関係者(保護者や地域の方など)に対して、説明を行っていく必要があります。

2 実行計画の様式について

実行計画の様式を次ページのとおり定めます。

大津市立幼稚園再編等
実 行 計 画

【様式】

施設名	
-----	--

(1)施設情報

名 称									
施設規模	延床面積	㎡			園庭の広さ	㎡		階 数	
建物概要	建 築 年	年	築 年 数	年	改 修 年	年			
定 員	人	駐 車 場		台	※幼稚園の敷地内かつ保護者送迎用				
	園児数(4月1日現在)				園児数の推移(見込み)				
クラス	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
3歳児									
4歳児									
5歳児									
合 計									

※各年4月1日現在(入園予定者を含む)

名 称									
施設規模	延床面積	㎡			園庭の広さ	㎡		階 数	
建物概要	建 築 年	年	築 年 数	年	改 修 年	年			
定 員	人	駐 車 場		台	※幼稚園の敷地内かつ保護者送迎用				
	園児数(4月1日現在)				園児数の推移(見込み)				
クラス	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
3歳児									
4歳児									
5歳児									
合 計									

(2)再編等の周知時期 (3)再編等を実施する時期

(4)再編等を実施する方法

(5)その他

図 22 実行計画様式

大津市立幼稚園再編等
実行計画

【記載例】

施設名	●●幼稚園、▲▲幼稚園
-----	-------------

(1)施設情報

名称	●●幼稚園								
施設規模	延床面積	㎡			園庭の広さ	㎡		階数	2階建
建物概要	建築年	昭和●年		築年数	年		改修年	-	
定員	人	駐車場	無	0台	※幼稚園の敷地内かつ保護者送迎用				
	園児数				園児数の推移(見込み)				
クラス	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
3歳児									
4歳児									
5歳児									
合計									

※各年4月1日現在(入園予定者を含む)

名称	▲▲幼稚園								
施設規模	延床面積	㎡			園庭の広さ	㎡		階数	2階建
建物概要	建築年	昭和●年		築年数	年		改修年	-	
定員	人	駐車場	有	●台	※幼稚園の敷地内かつ保護者送迎用				
	園児数(4月1日現在)				園児数の推移				
クラス	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
3歳児									
4歳児									
5歳児									
合計									

(2)再編等の周知時期

令和9年8月頃から

(3)再編等を実施する時期

令和11年3月

(4)再編等を実施する方法

令和10年4月から、●●幼稚園と▲▲幼稚園の間での交流保育を実施する。
令和11年3月に再編等を実施し、令和11年4月からは●●幼稚園に統合する。

(5)その他

・●●幼稚園には、現在、駐車場がない。再編にあたって、通園保証を行う観点から、駐車場の確保が必要であるため、敷地西側のスペースを活用できるようフェンスの撤去等を行う。
・▲▲幼稚園の園庭にある～～な環境は、子ども達の・・・を育むという観点から、●●幼稚園には無い魅力であるため、再編後、●●幼稚園に継承できないかの検討を行う。

図 23 実行計画記載例

(案)

令和8年6月 日

大津市長 佐藤 健司 様
大津市教育委員会 様

大津市立幼稚園再編等検討委員会
委員長 山縣 文治

大津市立幼稚園の再編等について（答申）

令和7年5月23日付け、大ここ若第38号において当検討委員会に諮問されました大津市立幼稚園再編等の検討について、調査・審議を重ね、別添のとおり「大津市立幼稚園の再編等について ～～より良い教育環境の提供に向けて～～」を取りまとめたので、答申いたします。

貴市におかれましては、子ども達にとって望ましい教育・保育環境の提供のため、大津市立幼稚園再編等計画の策定に向け、本答申内容を十分に踏まえ、議論・検討されることを望みます。